

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第165集

石曽根遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

石曾根遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道関連遺跡発掘調査

序

本県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、7,300箇所及ぶ遺跡が確認されております。これら先人の残した文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発ともなう社会資本の充実も重要な施策であります。特にも幹線道路網の整備は、産業経済開発の大動脈として、多方面から期待されるところであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和は今日的課題であり、当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告の和賀町石曾根遺跡は、和賀川右岸の河岸段丘に立地し、平成元年と2年の発掘調査によって縄文時代の集落跡であることが明らかになりました。中でも、縄文時代中期の住居跡の配置は、当時の生活を考えるうえで貴重な資料になるものであります。

この報告書が広く活用され、新学の研究のみならず埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご協力、ご援助を賜りました日本道路公団仙台建設局北上工事事務所、和賀町教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より謝意を表します。

平成3年12月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 工藤 巖

例 言

1. 本報告書は和賀郡和賀町煤採第2地割56-6ほかに所在する石曾機遺跡の発掘調査結果を収録したものである。

2. 本遺跡の岩手県遺跡登録台帳の遺跡番号と調査略号は、次のとおりである。

遺跡番号 ME63-1174 調査略号 IS-89・90

3. 本遺跡の調査は、東北横断自動車道秋田線建設に伴う緊急調査である。調査は日本道路公団仙台建設局と岩手県教育委員会事務局文化課との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

4. 発掘調査は、平成元年8月7日～11月17日、平成2年4月16日～5月22日の2ヵ年にわたって実施した。室内整理は平成元年11月18日～平成2年3月31日、平成2年11月23日～3月31日まで行なった。

5. 発掘調査面積は平成元年度2,450㎡、平成2年度700㎡、計3,150㎡である。

6. 発掘調査は、平成元年度は、酒井宗孝・及川 渉・菊地達哉・及川靖世、平成2年度は、酒井宗孝・千葉 悟が担当した。また、本書の執筆は、Iを佐々木嘉直、II-2を小田野哲憲、その他を酒井が担当した。

7. 出土品の鑑定及び分析は、次の方々に依頼した。

石器・石製品の材質鑑定 佐藤二郎（佐藤地質工學研究所）。火山灰の分析・鑑定 三辻利一（奈良教育大学）。放射性炭素（¹⁴C）による年代測定 木越邦彦（学習院大学）。

8. 発掘調査において、次の機関の協力を得た。

和賀町・和賀町教育委員会、北上市教育委員会、花巻市教育委員会

9. 発掘調査及び整理・報告書の作成には次の方々の協力・指導をいただいた。（敬称略）

斉藤尚巳・沼山源喜治・本堂寿一・鈴木明美・稲野裕介・稲野彰子・小田島恭二・高橋文明・浅田知世・山本典幸（北上市教育委員会・市立博物館・市立埋蔵文化財センター）、中村良幸（大迫町教育委員会）、武田将男・高橋憲太郎・鎌田祐二（宮古市教育委員会）関 豊（二戸市教育委員会）、高田和徳（一戸町教育委員会）、桐生正一・高橋亜貴子・井上雅孝（滝沢村教育委員会）、佐々木勝・佐々木清文・佐藤嘉広（岩手県文化振興事業団博物館）、小林 克・大野憲司（秋田県埋蔵文化財センター）、成田滋彦・島山 昇・岡田康博（青森県埋蔵文化財調査センター）、岡本孝之（慶應義塾大学）

10. 野外作業では、道下兼弥氏をはじめとする地元作業員の方々の協力をいただいた。また、室内整理においては、当センターの臨時職員の皆様をいただいた。

11. 本遺跡で出土した遺物及び調査資料は、岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

本文目次

序	(4) 石製品	140
例言	3. 接合剥片	178
I 調査に至る経過	V まとめ	219
II 遺跡の立地と環境	1. 遺構	219
1. 地形と地質	(1) 竪穴住居跡	219
2. 周辺の遺跡	(2) 掘立柱建物跡	221
III 調査の方法と整理	(3) 土坑	221
1. 調査の方法	(4) 陥し穴状遺構	222
2. 整理	2. 遺物	223
IV 検出された遺構と遺物	(1) 土器	223
1. 縄文時代の遺構と遺構内出土遺物	(2) 石器	226
(1) 竪穴住居跡	VI 分析・鑑定	229
(2) 掘立柱建物跡	1. 学習院大学放射性炭素	
(3) 炉跡・焼土遺構	年代測定結果報告書	229
(4) 埋設土器	2. 石管根遺跡出土火山灰の	
(5) 土坑	蛍光X線分析	230
(6) 陥し穴状遺構	表	
2. 遺構外出土遺物	接合剥片観察表	181
(1) 土器	土器観察表	201
(2) 土製品	石器観察表	211
(3) 石器		

図版目次

第1図 遺跡位置図	1	第8図 7D・7E-1住居跡	12
第2図 地形分類図	3	第9図 7D・7E-1	
第3図 土層断面柱状図	4	住居跡出土遺物(1)	14
第4図 遺跡分布図	7	第10図 7D・7E-1	
第5図 グリッド配置図	8	住居跡出土遺物(2)	15
第6図 5D-1住居跡	10	第11図 7D・7E-1	
第7図 5D-1住居跡出土遺物	11	住居跡出土遺物(3)	16

第12图	7 D · 7 E - 1 住居跡出土遺物(4)	17	第43图	6 N - 1 住居跡	49
第13图	2 F - 1 住居跡	17	第44图	6 N - 1 住居跡出土遺物(1)	50
第14图	2 F - 1 住居跡出土遺物	18	第45图	6 N - 1 住居跡出土遺物(2)	51
第15图	4 G - 1 住居跡 · 出土遺物	19	第46图	2 Q - 1 住居跡(1)	53
第16图	4 G - 2 住居跡	20	第47图	2 Q - 1 住居跡(2)	54
第17图	4 G - 2 住居跡出土遺物	21	第48图	2 Q - 1 住居跡出土遺物(1)	55
第18图	2 I - 1 住居跡	22	第49图	2 Q - 1 住居跡出土遺物(2)	56
第19图	2 I - 1 住居跡出土遺物(1)	23	第50图	2 Q - 1 住居跡出土遺物(3)	57
第20图	2 I - 1 住居跡出土遺物(2)	24	第51图	2 Q - 1 住居跡出土遺物(4)	58
第21图	2 L - 1 住居跡	26	第52图	2 Q - 1 住居跡出土遺物(5)	59
第22图	2 L - 1 住居跡出土遺物(1)	27	第53图	2 Q - 1 住居跡出土遺物(6)	60
第23图	2 L - 1 住居跡出土遺物(2)	28	第54图	2 Q - 1 住居跡出土遺物(7)	61
第24图	6 L - 1 住居跡	29	第55图	2 Q - 1 住居跡出土遺物(8)	62
第25图	6 L - 1 住居跡出土遺物(1)	30	第56图	2 Q - 1 住居跡出土遺物(9)	63
第26图	6 L - 1 住居跡出土遺物(2)	31	第57图	2 Q - 1 住居跡出土遺物(10)	64
第27图	2 M - 1 住居跡(1)	33	第58图	2 Q - 1 住居跡出土遺物(11)	65
第28图	2 M - 1 住居跡(2)	34	第59图	3 Q - 1 住居跡	66
第29图	2 M - 1 住居跡出土遺物(1)	35	第60图	3 Q - 1 住居跡出土遺物	67
第30图	2 M - 1 住居跡出土遺物(2)	36	第61图	1 S - 1 住居跡	68
第31图	2 M - 1 住居跡出土遺物(3)	37	第62图	1 S - 1 住居跡出土遺物	69
第32图	2 M - 1 住居跡出土遺物(4)	38	第63图	2 H - 1 建物跡	70
第33图	2 M - 1 住居跡出土遺物(5)	39	第64图	2 H - 1 建物跡出土遺物	71
第34图	2 M - 1 住居跡出土遺物(6)	40	第65图	5 I - 1 石囲炉	72
第35图	2 M - 1 住居跡出土遺物(7)	41	第66图	5 C - 1 焼土遺構	72
第36图	2 N - 1 住居跡(1)	43	第67图	5 D - 1 焼土遺構	72
第37图	2 N - 1 住居跡(2)	44	第68图	5 E - 1 焼土遺構	73
第38图	2 N - 1 住居跡出土遺物(1)	45	第69图	7 E - 1 焼土遺構	73
第39图	2 N - 1 住居跡出土遺物(2)	46	第70图	9 E - 1 焼土遺構	73
第40图	2 N - 1 住居跡出土遺物(3)	47	第71图	4 F - 1 焼土遺構	73
第41图	6 M - 1 住居跡	48	第72图	3 H - 1 焼土遺構	74
第42图	6 M - 1 住居跡出土遺物	49	第73图	10 H - 1 焼土遺構	74
			第74图	5 N - 1 埋設土器 · 出土遺物	75

第75図	5 D-1 土坑	76	第107図	6 E-1 陥し穴状遺構	92
第76図	5 D-2 土坑	76	第108図	7 E-1 陥し穴状遺構・ 出土遺物	93
第77図	3 E-1 土坑	76	第109図	9 E-1 陥し穴状遺構	93
第78図	6 F-1 土坑・出土遺物	77	第110図	2 H-1 陥し穴状遺構	94
第79図	2 H-1 土坑	78	第111図	3 H-1 陥し穴状遺構・ 出土遺物	95
第80図	2 H-1 土坑出土遺物	78	第112図	9 H-1 陥し穴状遺構	96
第81図	9 H-1 土坑出土遺物	79	第113図	1 J-1 陥し穴状遺構	96
第82図	9 H-1 土坑	79	第114図	3 M-1 陥し穴状遺構	97
第83図	6 I-1 土坑	80	第115図	4 N-1 陥し穴状遺構	97
第84図	7 I-1 土坑	80	第116図	6 O-1 陥し穴状遺構	98
第85図	3 L-1 土坑・出土遺物	81	第117図	4 P-1 陥し穴状遺構	99
第86図	4 L-1 土坑・出土遺物	81	第118図	6 P-1・2 陥し穴状遺構	99
第87図	6 L-1 土坑	82	第119図	6 P-3 陥し穴状遺構	100
第88図	3 N-1 土坑	82	第120図	6 P-4 陥し穴状遺構	100
第89図	4 N-1 土坑	82	第121図	6 P-5 陥し穴状遺構	101
第90図	6 N-1 土坑	83	第122図	6 P-6 陥し穴状遺構	101
第91図	1 O-1 土坑	83	第123図	7 P-1 陥し穴状遺構	102
第92図	4 O-1 土坑	83	第124図	7 P-2 陥し穴状遺構	102
第93図	5 O-1 土坑・出土遺物	84	第125図	2 R-1 陥し穴状遺構	103
第94図	6 O-1 土坑	85	第126図	遺構外出土遺物(土器) 1	109
第95図	7 O-1 土坑	85	第127図	遺構外出土遺物(土器) 2	110
第96図	7 O-2 土坑	86	第128図	遺構外出土遺物(土器) 3	111
第97図	1 P-1 土坑	86	第129図	遺構外出土遺物(土器) 4	112
第98図	1 P-2 土坑	87	第130図	遺構外出土遺物(土器) 5	113
第99図	2 P-1 土坑・出土遺物	88	第131図	遺構外出土遺物(土器) 6	114
第100図	2 P-2 土坑	88	第132図	遺構外出土遺物(土器) 7	115
第101図	2 P-3 土坑	89	第133図	遺構外出土遺物(土器) 8	116
第102図	3 Q-1 土坑	89	第134図	遺構外出土遺物(土器) 9	117
第103図	4 Q-1 土坑	90	第135図	遺構外出土遺物(土器) 10	118
第104図	3 C-陥し穴状遺構	90	第136図	遺構外出土遺物(土器) 11	119
第105図	4 E-1 陥し穴状遺構	91			
第106図	5 E-1 陥し穴状遺構	91			

第137图 遗構外出土遺物(土器)12	120	第169图 遺構外出土遺物(石器)16	156
第138图 遺構外出土遺物(土器)13	121	第170图 遺構外出土遺物(石器)17	157
第139图 遺構外出土遺物(土器)14	122	第171图 遺構外出土遺物(石器)18	158
第140图 遺構外出土遺物(土器)15	123	第172图 遺構外出土遺物(石器)19	159
第141图 遺構外出土遺物(土器)16	124	第173图 遺構外出土遺物(石器)20	160
第142图 遺構外出土遺物(土器)17	125	第174图 遺構外出土遺物(石器)21	161
第143图 遺構外出土遺物(土器)18	126	第175图 遺構外出土遺物(石器)22	162
第144图 遺構外出土遺物(土器)19	127	第176图 遺構外出土遺物(石器)23	163
第145图 遺構外出土遺物(土器)20	128	第177图 遺構外出土遺物(石器)24	164
第146图 遺構外出土遺物(土器)21	129	第178图 遺構外出土遺物(石器)25	165
第147图 遺構外出土遺物(土器)22	130	第179图 遺構外出土遺物(石器)26	166
第148图 遺構外出土遺物(土器)23	131	第180图 遺構外出土遺物(石器)27	167
第149图 遺構外出土遺物(土器)24	132	第181图 遺構外出土遺物(石器)28	168
第150图 遺構外出土遺物(土器)25	133	第182图 遺構外出土遺物(石器)29	169
第151图 遺構外出土遺物(土器)26	134	第183图 遺構外出土遺物(石器)30	170
第152图 遺構外出土遺物(土器)27	135	第184图 遺構外出土遺物(石器)31	171
第153图 遺構外出土遺物(土製品)	136	第185图 遺構外出土遺物(石器)32	172
第154图 遺構外出土遺物(石器)1	141	第186图 遺構外出土遺物(石器)33	173
第155图 遺構外出土遺物(石器)2	142	第187图 遺構外出土遺物(石器)34	174
第156图 遺構外出土遺物(石器)3	143	第188图 遺構外出土遺物(石器)35	175
第157图 遺構外出土遺物(石器)4	144	第189图 遺構外出土遺物(石製品)1	176
第158图 遺構外出土遺物(石器)5	145	第190图 遺構外出土遺物(石製品)2	177
第159图 遺構外出土遺物(石器)6	146	第191图 接合剥片1	183
第160图 遺構外出土遺物(石器)7	147	第192图 接合剥片2	184
第161图 遺構外出土遺物(石器)8	148	第193图 接合剥片3	185
第162图 遺構外出土遺物(石器)9	149	第194图 接合剥片4	186
第163图 遺構外出土遺物(石器)10	150	第195图 接合剥片5	187
第164图 遺構外出土遺物(石器)11	151	第196图 接合剥片6	189
第165图 遺構外出土遺物(石器)12	152	第197图 接合剥片7	191
第166图 遺構外出土遺物(石器)13	153	第198图 接合剥片8	193
第167图 遺構外出土遺物(石器)14	154	第199图 接合剥片9	195
第168图 遺構外出土遺物(石器)15	155	第200图 接合剥片10	197

第201図 接合剥片11	199
第202図 土器集成図	225

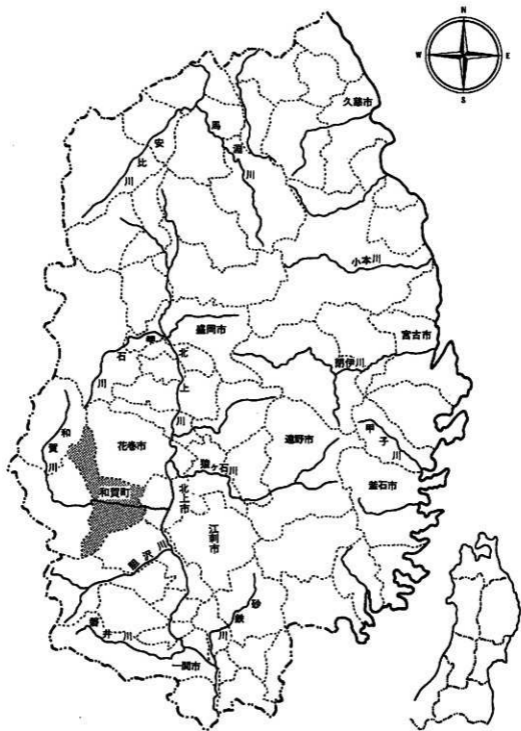
第203図 遺構配置図	231
-------------------	-----

写真図版目次

1 空中写真	235	28 3N・4N・6N-1土坑	262
2 空中写真・調査風景	236	29 1O・4O・5O-1土坑	263
3 深掘土層断面	237	30 6O-1・7O-1・2土坑	264
4 5D-1住居跡	238	31 1P-1・2・2P-1土坑	265
5 7D・7E-1住居跡	239	32 2P-1・2・3Q-1土坑	266
6 7D-1住居跡	240	33 4Q-1土坑・3C・4E-1 陥し穴状遺構	267
7 2F-1住居跡	241	34 5E・6E・7E-1 陥し穴状遺構	268
8 4G-1住居跡	242	35 9E・2H・3H-1 陥し穴状遺構	269
9 4G-2住居跡	243	36 9H・1J・3M-1 陥し穴状遺構	270
10 2I-1住居跡	244	37 4N・6O・4P-1 陥し穴状遺構	271
11 2L-1住居跡	245	38 6P-1・2・3陥し穴状遺構	272
12 6L-1住居跡	246	39 6P-4・5・6陥し穴状遺構	273
13 2M-1住居跡	247	40 7P-1・2・2R-1 陥し穴状遺構	274
14 2N-1住居跡	248	41 出土遺物(5D・7D・7E-1住)	275
15 6M-1住居跡	249	42 出土遺物(7D・7E-1住)	276
16 6N-1住居跡	250	43 出土遺物(7D・7E-1住)	277
17 2Q-1住居跡	251	44 出土遺物(2F・4G-1・2住)	278
18 3Q-1住居跡	252	45 出土遺物(4G・2I-1住)	279
19 1S-1住居跡	253	46 出土遺物(2I・2L-1住)	280
20 2H-1建物跡・5I-1石囲炉	254	47 出土遺物(2L-1住)	281
21 5C・5D・5E-1焼土	255	48 出土遺物(6L-1住)	282
22 7E・9E・4F-1焼土	256	49 出土遺物(6L・2M-1住)	283
23 3H・10H-1焼土・5N-1 埋設土器	257		
24 5D-1・2・3E-1土坑	258		
25 6F・2H-1土坑	259		
26 9H・6I・7I-1土坑	260		
27 3L・4L・6L-1土坑	261		

50	出土遺物(2 M-1住)	284	79	遺構外出土遺物(土器) 7	313
51	出土遺物(2 M-1住)	285	80	遺構外出土遺物(土器) 8	314
52	出土遺物(2 M-1住)	286	81	遺構外出土遺物(土器) 9	315
53	出土遺物(2 M-1住)	287	82	遺構外出土遺物(土器) 10	316
54	出土遺物(2 M-1住)	288	83	遺構外出土遺物(土器) 11	317
55	出土遺物(2 N-1住)	289	84	遺構外出土遺物(土器) 12	318
56	出土遺物(2 N-1住)	290	85	遺構外出土遺物(土器) 13	319
57	出土遺物(2 N·6 M-1住)	291	86	遺構外出土遺物(土器) 14	320
58	出土遺物(6 N-1住)	292	87	遺構外出土遺物(土器) 15	321
59	出土遺物(2 Q-1住)	293	88	遺構外出土遺物(土器) 16	322
60	出土遺物(2 Q-1住)	294	89	遺構外出土遺物(土器) 17	323
61	出土遺物(2 Q-1住)	295	90	遺構外出土遺物(土器) 18	324
62	出土遺物(2 Q-1住)	296	91	遺構外出土遺物(土器) 19	325
63	出土遺物(2 Q-1住)	297	92	遺構外出土遺物(土器) 20·土製品) ..	326
64	出土遺物(2 Q-1住)	298	93	遺構外出土遺物(石器) 1	327
65	出土遺物(2 Q-1住)	299	94	遺構外出土遺物(石器) 2	328
66	出土遺物(2 Q-1住)	300	95	遺構外出土遺物(石器) 3	329
67	出土遺物(2 Q-1住)	301	96	遺構外出土遺物(石器) 4	330
68	出土遺物(3 Q-1住)	302	97	遺構外出土遺物(石器) 5	331
69	出土遺物(1 S-1住· 2 H-1建物跡)	303	98	遺構外出土遺物(石器) 6	332
70	出土遺物(2 H-1建物跡·5 N-1 埋設石器·6 F-1 P)	304	99	遺構外出土遺物(石器) 7	333
71	出土遺物(2 H·9 H-1 P)	305	100	遺構外出土遺物(石器) 8	334
72	出土遺物(3 L·4 L·5 O·2 P-1 P· 7 E·3 H-1 T P)	306	101	遺構外出土遺物(石器) 9	335
73	遺構外出土遺物(土器) 1	307	102	遺構外出土遺物(石器) 10	336
74	遺構外出土遺物(土器) 2	308	103	遺構外出土遺物(石器) 11	337
75	遺構外出土遺物(土器) 3	309	104	遺構外出土遺物(石器) 12	338
76	遺構外出土遺物(土器) 4	310	105	遺構外出土遺物(石器) 13	339
77	遺構外出土遺物(土器) 5	311	106	遺構外出土遺物(石器) 14	340
78	遺構外出土遺物(土器) 6	312	107	遺構外出土遺物(石器) 15	341
			108	遺構外出土遺物(石器) 16	342
			109	遺構外出土遺物(石器) 17	343
			110	遺構外出土遺物(石器) 18	344

111 遺構外出土遺物(石器)19	345	117 接合剥片 1	351
112 遺構外出土遺物(石器)20	346	118 接合剥片 2	352
113 遺構外出土遺物(石器)21	347	119 接合剥片 3	353
114 遺構外出土遺物(石器)22	348	120 接合剥片 4	354
115 遺構外出土遺物(石器)23	349	121 接合剥片 5	355
116 遺構外出土遺物(石器23・石製品)	350		



第1図 岩手県図に見る遺跡の位置

I 調査に至る経過

東北横断自動車道秋田線は、北上市から和賀町・湯田町を経由して秋田に至る総延長107kmの高速道路である。このうち、第9次・第10次施行命令区間は北上ジャンクションから秋田県境までの延長33.9kmである。

この区間の埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が昭和56年から分布調査を行っており、昭和62年4月13付け「仙建北工第35号」による依頼を受けて分布調査結果を同年5月25日付け「教文第117号」により日本道路公団仙台建設局に回答し、その取り扱いについて協議を重ねられ、止むを得ず消滅する遺跡については事前の発掘調査を実施することとした。発掘調査の実施については、昭和63年度以降、岩手県教育委員会が発掘調査事業を日本道路公団仙台建設局に照会し、回答を受けたのち日本道路公団仙台建設局、岩手県教育委員会、岩手県文化振興事業団の3者の協議を経て、埋蔵文化財センターが担当することとした。事業着手後に調査の変更がある場合もその都度協議しながら進め、岩手県教育委員会文化課の調整を経て事業計画を変更して進めた。

本報告書の石曾根遺跡の調査は、昭和63年12月27日及び平成元年1月21日の3者協議を経て平成元年に実施することとなり、4月1日付け委託契約により着手したものである。調査終了後調査範囲を南側に広げることが必要となり、協議の結果大部分を次年度に継続して調査することとした。2年度の調査は、平成2年3月2日付け「教文第731号」による平成2年度埋蔵文化財調査事業の通知を受け、平成2年4月1日付け委託契約により着手したものである。

II 遺跡の立地と環境

1. 地形と地質

北上山地北部にその源を発し、岩手県を東西に2分する形で南流する北上川は、全長249km、流域面積10,150㎡の東北地方最大の河川である。

この流域は盛岡以北を上流、盛岡～前沢間を中流、前沢以南を下流の3区域に区別されている。川の西岸と東岸では、背後に控える山地構造の違いにより、対称的な地形が見られる。西岸は、新第3系及び火山岩類を主体とする奥羽脊梁山脈から流れ出す支流によって形成された大小の扇状地が発達している。これらの扇状地は本流・支流に解析され、よく発達した河岸段丘となっている。東岸では、隆起準平原である北上山地に続く丘陵部縁辺に、小規模な段丘と沖積地が観察されるにすぎない。

石曾根遺跡の所在する和賀町は、中流域に含まれる。和賀町の中央部には和賀川が、その地名の発祥とされる(アイヌ語ワッカ)「清き流れ」を恵みとしながら東流する。和賀川は、奥羽山脈の和賀岳(1,440m)に源を持ち、南流して沢内盆地を涵蓋した後、湯田町川尻付近で流路を東に変え、仙人溪谷で奥羽東列山脈を横断する。和賀町横川目付近で山地を離れた流れは、支流である夏油川・尻平川が形成した扇状地を浸食し、北上市展開地で北上川と合流する。その長さ75km、北上川水系最大の支流である。

北上川流域における第四系及び地形の研究は、中川他(1963b, 1971, 1981)の業績が大きく、当地域の段丘は上位から西根段丘、村崎野段丘、金ヶ崎段丘に分類されている。

西根段丘は開析が進み山際では丘陵状、扇央・扇端部では残丘状を呈する。上部に約10mの火山灰層を載せ、古期のものから一首坂火山灰、前沢火山灰、黒沢尻火山灰と命名されている。

村崎野段丘は、西根段丘と比べてよく保存されており、周囲を金ヶ崎段丘に取り囲まれている。構成層は飯豊礫層と呼ばれる層厚20~30mの砂礫層で、上部に黒沢尻火山灰を載せる。黒沢尻火山灰は上半の黄~赤褐色火山灰と下半の黄橙色浮石層(村崎野浮石)から成り、浮石層の噴出源としては、南西に位置する焼石岳(1548m)・牛形火山(1340m)が考えられ、堆積時期はウルム水期前半(4~7万年前)と推定されている。

金ヶ崎段丘は北上川中流域沿岸で最も広範囲に分布する段丘で、扇状地形をよく示している。佐藤(1982)は和賀川北岸に分布するものを金ヶ崎II段丘として、当該段丘を2細分している。構成層は礫層(縮木礫層)で、火山灰に蔽われないことを特徴の一つとする。

村崎野段丘の分布については、前述の佐藤(1982)をはじめとする調査によって範囲が拡大することが明らかにされている。また、一連の横断自動車道野発掘調査において、それまで金ヶ崎段丘として分類されていた、林崎館跡・煤孫遺跡からも黒沢尻火山灰が検出され、その範囲は寺沢付近まで広がるものと考えられる。さらに、鬼柳III・IV遺跡でも高位面で同火山灰の堆積が見られ、この地域にも村崎野段丘が部分的に残存するものと考えられる。

石曾根遺跡は、和賀川南岸の河岸段丘上に立地する。西側は荒屋沢、東側も小規模な沢に開析され、全体は氾濫原に向けて北東に張り出す舌状台地を呈する。遺跡は段丘の先端部あたり、標高は127~124m、氾濫原からの比高は約20mである。調査区は緩斜面を挟んで、標高126~127mの高位面と124m前後の低位面にまたがる。高位面は黒沢尻火山灰に蔽われており、前記の段丘分類では村崎野段丘



第2図 地形分類図

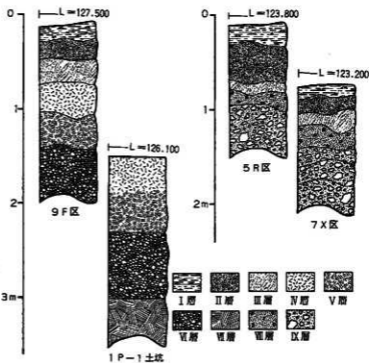
に比定される。

調査区内3ヶ所に深掘を行ない基本層序とした。また、1P-1土坑と6P-5土坑の壁面を参考として、第3図に掲げた。

- 第I層 表土。上部の腐葉土、下部の暗褐色土からなる。層厚20~25cm。
- 第II層 黒褐色土。中央部は黒色が強い。所謂クロボク土で、遺物包含層となる。斜面部分では厚く、これより下位では黒色が強い。層厚20~46cm。
- 第III層 黒褐色~暗褐色土。上位面(a層)では下部のローム層、斜面部及び下位面(b層)ではシルト層との漸移層。層厚10~20cm。
- 第IV層 明褐色土。上位面と斜面の上部に堆積する。よくしまるローム層で、当面での最終検出面である。層厚35~40cm。
- 第V層 赤褐色~明褐色土。上位面と斜面の上部に堆積する。IV層との区別は明確ではないが、当層の上部はやや暗い。よくしまるローム層。下部には、径2~5cmの発泡のよい浮石を含む。層厚25~40cm。
- 第VI層 黄橙色浮石層。上位面と斜面の上部に堆積する。発泡のよい浮石層で、しまりはなく全体にベチャベチャする。上位面での層厚は不明。1P-1土坑壁面における層厚は70cm、

斜面部では急激に厚さを減じ、6P-5土坑付近ではほとんど見られない。

- 第VII層 黄褐色~オリブ黄色土。上位面から斜面部分で確認された。1P-1土坑壁面の観察では、上部の粘土質シルト、中部の砂質シルト、



第3図 土層断面柱状図

下部の砂質土に細分される。層厚不明。

第VIII層 黄褐色～明褐色上。斜面の下部と下位面で確認された。VII層と同類の層である。
層厚10～20cm。

第IX層 径5～15cmの礫、砂から成る葉理層。下位面のみで確認された。層厚不明。

なお、基本層序では確認されなかったが、1S-1住居跡と9E-1陥し穴状遺構の埋土には灰白色の砂状火山灰の堆積が観察された。

2. 周辺の遺跡

和賀町内では、現在までに180ヶ所をこす遺跡が登録されている。それらの概要については、町教育委員会から一部が報告されている(和賀町教育委員会1989～1991)。第4図の遺跡分布図は、和賀町教委と江釣子村教委の刊行物を基に、代表的な遺跡を抽出したものである。

和賀川南岸では、丘陵縁辺や中・低位段丘上及び開析された支谷に沿って縄文時代～平安時代の遺跡が分布し、丘陵の縁辺部には深く入り込んだ沢や急崖を利用した、城館跡が立地している。縄文時代前・中期の遺跡としては、大木7・8式期の竪穴住居跡、埋設土器、土坑を検出した梅ノ木遺跡(田村他1981)がある。横断自動車道関連で、当センターが調査した遺跡としては、大木6・7式期の集落が確認された煤孫遺跡、大木8式期の集落跡である本郷遺跡、林崎館跡等がある。この他に望野、岩崎城、岩沢Ⅲ、人当遺跡等で中期の土器片が採集されている。これらの遺跡はいずれも中・低位段丘の先端部に位置している。

平安時代の集落は、上記の梅ノ木遺跡のほかに、当センターで調査した、岩崎台地遺跡群、梅ノ木台地、兵庫館跡、観音館跡、八幡館跡、八幡野Ⅱ遺跡等で確認されている。また、隣接する北上市にある上鬼柳Ⅰ～Ⅳ遺跡でも竪穴住居跡、独立柱建物跡等が検出されている。これらの遺跡の報告書は近日中に刊行の予定である。

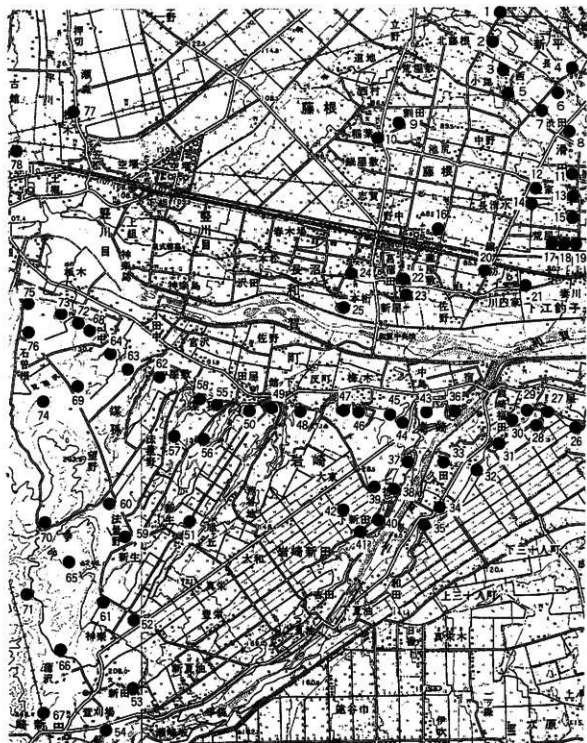
和賀川北岸では、中位段丘やその縁辺部及び開析された小支谷に沿って縄文時代の遺跡が比較的多く分布し、低地にも若干認められる。奈良～平安時代の遺跡の多くは、低位段丘や、縁辺に沿う河岸低地に形成された自然堤防上分布する傾向が認められる。縄文時代前・中期の遺跡は江釣子村に多く、大木6・7式期の大型住居跡を伴う鳩岡崎遺跡(相原他1982)、新平遺跡(車間1971)、高橋遺跡(高橋1981a)、鳩岡崎上ノ台遺跡(高橋1983)等が知られているが、和賀町内では少ない。平安時代の遺跡としては、和賀町内では複数の住居跡が検出された蟹沢館遺跡、江釣子村では八幡遺跡(高橋1984)、本宿羽場遺跡(高橋1981b)等がある。

参考・引用文献

中川久夫他(1963b)：北上川中流沿岸の第四系および地形 北上川流域の第四紀地史(2)地質学雑誌第69巻第

- (1971): 北上線沿線の段丘群 地質古生物学研究室邦文報告第71号別冊 東北大学理学部
- (1981): 第四系 「北上川流域地質図(二十万分の一)」 長谷地質調査事務所
- 佐藤 二郎 (1982): I 地形概観 和賀川流域の地形について 「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書(猫谷地遺跡)」 岩手県教育委員会
- 柳林 実他 (1976): 北上山系開発地域 土地分類基本調査(北上) 岩手県
- 相原康二他 (1982): 東北横断自動車道埋蔵文化財調査報告書 (江釣子村鳩岡崎遺跡) 岩手県教育委員会
- 田村荘一他 (1981): 東北縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告書IX (和賀町梅ノ木遺跡) #
- 菊池啓治郎 (1977): 掘りだされた古代中世 「和賀町史」 和賀町
- 草間 俊一 (1971): 岩手県江釣子村新平遺跡 日本考古学年報19
- 高橋 文明 (1981 a): 高橋遺跡 江釣子村教育委員会
- (1981 b): 江釣子遺跡群(本宿羽場遺跡) #
- (1983): 江釣子遺跡群(鳩岡崎上ノ台) #
- (1984): 江釣子遺跡群(八幡遺跡) #
- 高橋徳他 (1989): 和賀町内遺跡分布調査報告書I 和賀町教育委員会
- (1990): 和賀町内遺跡分布調査報告書II #
- (1991): 和賀町内遺跡分布調査報告書III #

No	遺跡名	主な時期	No	遺跡名	主な時期	No	遺跡名	主な時期
1	新平Ⅰ・Ⅱ	縄文・奈良・平安	27	佐大坂Ⅱ	平安・中世	53	堂刈場	縄文
2	道の下坂長根Ⅲ	奈良・平安	28	佐大坂Ⅰ	縄文・平安	54	立石	縄文
3	道の下長根Ⅰ・Ⅱ	奈良・平安	29	小平	縄文・平安	55	法量野Ⅰ	縄文
4	新平	旧石器・縄文他	30	小寺	平安	56	法量野Ⅱ	縄文・中世
5	道の下長根Ⅳ-VI	奈良・平安	31	高田坂	縄文・平安	57	法量野Ⅲ	縄文
6	長根	平安	32	久田Ⅱ	縄文・弥生・平安	58	中屋敷	縄文
7	洗田	平安	33	寺村	平安・中世	59	望野Ⅰ	旧石器・縄文
8	高畑	平安	34	久田Ⅰ	平安	60	望野Ⅱ	縄文
9	藤根八幡館	中世	35	八天坂	平安	61	神楽Ⅱ	縄文
10	桶蓮(蓬見)	縄文・平安	36	岩崎城	縄文・中世	62	林崎館	縄文
11	中通Ⅱ	平安	37	七折館	縄文・中世	63	本郷(本郷野)	縄文・平安
12	寛谷Ⅰ	平安	38	七折	縄文・平安	64	石管根	縄文(報告遺跡)
13	袴橋	平安	39	花曾根上	縄文・平安	65	大官森Ⅰ	縄文
14	寛谷Ⅱ	平安	40	花曾根	平安	66	蒲沢	縄文
15	清水	平安	41	新田Ⅰ	平安・中世	67	水神	縄文
16	藤根駅北	平安	42	新田Ⅱ	平安・中世	68	月館(櫻館)	縄文・中世
17	寛谷Ⅴ	平安	43	梅ノ木(Ⅰ-Ⅳ)	縄文・平安	69	荒屋沢	縄文
18	寛谷Ⅳ	平安	44	岩崎城西	縄文・平安	70	大官森Ⅲ	縄文
19	寛谷Ⅲ	平安	45	梅ノ木台地Ⅰ	縄文・平安	71	大官森Ⅱ	縄文
20	大防	奈良・平安	46	梅ノ木台地Ⅱ	縄文・平安	72	八幡館	縄文・中世
21	下江釣子羽場	奈良・平安	47	兵陣館	弥生・中世	73	八幡野Ⅱ	平安
22	産屋敷	縄文・弥生	48	上反町	縄文・中世	74	八幡野Ⅲ	縄文
23	念仏車Ⅱ	奈良・平安	49	観音館	縄文・平安・中世	75	田中館	中世
24	長沼古墳群	縄文・奈良	50	桜館	縄文・平安	76	八幡野Ⅰ	縄文・中世
25	高瀬田古墳群	奈良	51	旭ヶ丘	縄文	77	瀬ノ森古墳群	奈良
26	欠の下台地	平安	52	神楽Ⅰ	縄文	78	蛭川館	縄文・中世



第4図 遺跡分布図

1 : 50000

III 調査の方法と整理

1. 調査の方法

(1)グリッドの設定と遺構名

道路公団設定の中心杭を基に、基点O ($X=-79,340 \cdot Y=14,000$) を設け、Oから第十系の北に対して45°東に偏する基軸線を設定した。基軸線を延長し、Oから5×5のメッシュで調査区全体を区割した。このメッシュ北端から南東方向にはA・B・C…のアルファベット、南西方向には1・2・3…の番号を付してA1・B2と呼称した。

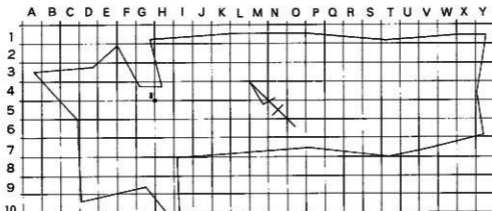
遺構名は、検出された順にグリッド名を付けてA1-1住居跡、B3-2土坑のように命名した。遺構が複数のグリッドにかかる場合は、より若い区画名を取ったが厳密なものではない。

(2)粗掘と検出・遺構の精査と遺物の取り上げ

遺構検出面までの深さ及び層序の確認のため、7ヵ所に小規模なトレンチを入れた。この結果、調査区の北側には30～60cmの厚さで、林道建設時の盛土が存在することや、第II層は弥生時代～縄文時代の遺物を包含し、斜面部分では特にその量が多いことが確認された。このため、盛土と表土(第I層)の除去には重機(パワーショベル)を使用することとした。この後人力によって、遺構の有無を確認しながら第IV層面まで掘り下げた。

検出された遺構は住居跡は4分法、土坑類は2分法を原則として精査を行なったが、必要に応じてその他の方法も併用した。精査の各段階において図面の作成や写真撮影を適宜行なった。

遺構内出土遺物は、埋土では上部・下部に分けて取り上げ、床面出土の遺物は、必要に応じて写真撮影、図面作成の後に取り上げた。遺構外出土遺物については、グリッド毎に出土した層位を記して取り上げるよう努めた。



第5図 グリッド配置図

(3)実測と写真撮影

遺構の平面実測にあたっては、トータル・ステーション及びトランシットを併用し、簡易的な走り方測量を行なった。実測図は1/20の縮尺で平面図と断面図を作成した。また、炉跡や焼土遺構は1/10の縮尺で平・断面図を作成した。

写真撮影は6×7cm判カメラ（モノクロ）を主とし、これに35mm判カメラ2台（モノクロ・カラーリバーサル）を補助カメラとして使用した。撮影にあたっては、整理時の混乱をさけるため、その状況を記録した「撮影カード」を利用した。なお、各遺構の精査が進んだ段階で、飛行機による空中写真の撮影を行なった。

2. 整理

室内での作業は、野外調査で作成した遺構図面の点検と補正及びトレース、遺物の復元と仕分けを優先させて行なった。次に実測・計量・拓本・写真撮影と並行して進めた。この後、実測図の点検とトレースを行ない、図版・写真図版の作成を順に行なった。個々の整理方法及び縮尺は次のとおりである。

(1)遺構

遺構配置図は発掘調査時に作成した図面を基に1/200の縮尺図を作成し、仕上がり1/500で掲載した。各遺構図面は以下の縮尺を原則としたが、一部に変更もあり、図面にはそれぞれスケール・縮尺率を付した。住居跡の平・断面図…1/60、炉の断面図…1/30、土坑・陥し穴状遺構の平・断面図…1/40、炉跡・焼土遺構・埋設土器の平・断面図…1/40。

(2)遺物

土器の実測図は原則として、反転実測が可能なもの（口縁部・底部が1/6分以上残存するもの）に限ったが、器面に凹凸が著しく、拓本では表現できないものについては平面実測して掲載した。縄文・弥生土器のうち、地文のみが施されているものや、文様が単純なものは、中軸線の左側のみを図化した。掲載遺物の縮尺率は次のとおりである。土器の実測図・拓本…1/3、大型の土器…1/4、剝片石器・磨製石斧・石製品…1/2、礫石器…1/3、大型の礫石器…1/6。

IV 検出された遺構と遺物

1. 縄文時代の遺構と遺構内出土遺物

(1) 竪穴住居跡

5D-1 住居跡

遺構 (第6図・写真図版4)

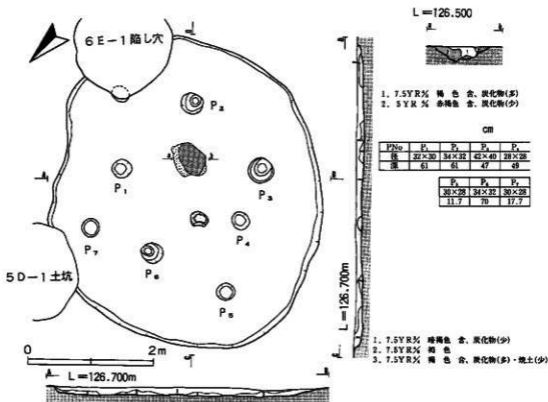
<検出状況・重複関係>IV層面で、暗褐色土の広がりとして検出された。北壁際で5D-1土坑、東壁際で6E-1陥し穴状遺構重複し、これらに切られる。

<規模・平面形>4.6×4.3mの不整な円形(隅丸方形)を呈する。

<埋土>2層に大別され、上部は暗褐色土、下部は褐色土で構成される。

<壁・床面>壁高は7~15cm、各部とも緩く外傾して立ち上がる。床はIV層中で、ほぼ平坦で割合硬い。

<柱穴>柱穴状の小土坑は、7基検出された。配置は明確ではないが、位置と深さから見て、



第6図 5D-1 住居跡

P1・P2・P3・P4・P5が支柱穴を構成するものと考えられる。

<炉>地床炉で、中央やや南よりに位置する。約50×70cmの範囲に最大10cmの厚さで焼土層が形成されている。

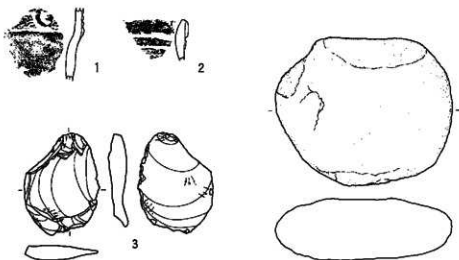
遺物（第7図・写真図版41）

<出土状況>埋土から土器片、床面から石器が出土しているが、量は少ない。

<土器>1・2の2点だけである。1はキャリバー形土器の破片で、隆沈線による文様を持つ。2も口縁部片で、沈線文を持つ。

<石器>3は鯨状の加工を持つ剥片、4は両面に使用痕を持つ粗製の石皿である。

時期 時期を想定できる遺物はなく詳細は不明であるが、重複関係から縄文時代前期初頭以前の遺構の可能性がある。



第7図 5D-1 住居跡出土遺物

S=1/6

7D-1 住居跡

遺構（第8図・写真図版5・6）

<検出状況・重複関係>IV層上面で黒～黒褐色土の不整な広がりとして検出された。精査の結果、南東部分で7E-1住居跡と重複していることが判明した。埋土断面では、新旧関係はつかめなかったが、7E-1住居跡の炉の残存状況から当住居跡が切られるものと考えられる。この他に、7E-1陥し穴状遺構を切っている。

<規模・平面形>残存部からの推定であるが、一辺3.5m前後の隅丸方形を呈するものと考え

られる。

〈埋土〉地山までの掘り込みが浅いため、僅かに残存するだけである。中央部は黒～黒褐色土、壁際は褐色土で構成される。

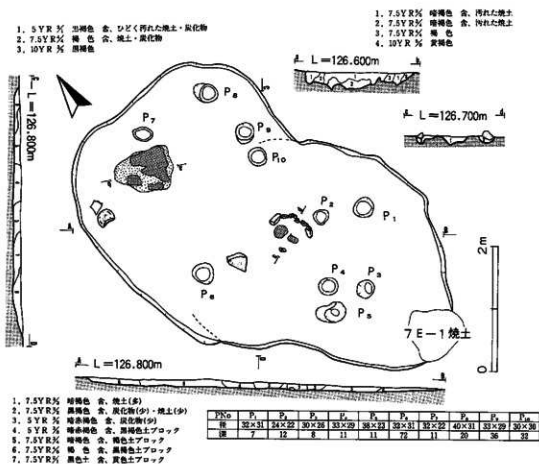
〈壁・床面〉南壁は重複のため不明である。壁高は3～9cmで、ほぼ直立する。床はIV層中で、平坦であるが硬くしまるものではない。

〈柱穴〉推定される範囲内で、柱穴状の小土坑は5基検出されているが、配置は不明である。

〈炉〉北西部に地床炉を有し、95×65cmの範囲に汚れた焼土や炭化物が分布する程度である。

遺物 (第9～12図・写真図版41～43)

〈出土状況〉埋土の下部及び床面から、土器と石器が出土している。当初重複がつかめず、同一遺構として遺物を取り上げたため、数点を除いて所屬が不明である。それらについては7E-1住居の項で述べる。



第8図 7D・7E-1住居跡

＜土器＞5は4単位のは状口縁を呈し、波頭部には渦巻文が配される。8はキャリバー形の口縁部片である。9は2本の波状隆帯が垂下する。

＜石器＞38は両面に使用痕を持つ粗製の石皿である。

時期 出土した遺物から、縄文時代中期中葉の遺構と考えられる。

7E-1住居跡

遺構（第8図・写真図版5）

＜検出状況・重複関係＞7D-1住居と併に、黒褐色土の不整な広がりとして検出された。この他南側で7E-1焼土と重複し、これに切られている。

＜規模・平面形＞精査段階で、重複する他の遺構との新旧関係がつかめず、明確なプランは把握できなかった。残存部からは、3m前後の隅丸方形～楕円形のプランが推定される。

＜埋土＞中央部は黒～黒褐色土、壁際は褐色土で構成される。

＜壁・床面＞明確に把握できたのは東壁だけである。高さは、4～9cmでほぼ垂直に立ち上がる。床はIV層中で、平坦であるが硬くしまるものではない。

＜柱穴＞7D-1住居と重複する部分も含めて6基が検出された。伴同関係は不明で、明確なものではないが、P1-P5-P6-P10は四角形の配置となる。

＜炉＞ほぼ中央にあたる部分に位置する。長径20cm大から拳大の礎7個を弧状に配した石圍炉で、周辺部の90×80cmの範囲に淡い焼土と炭化物が分布している。焼土の厚さは、最大4cmである。

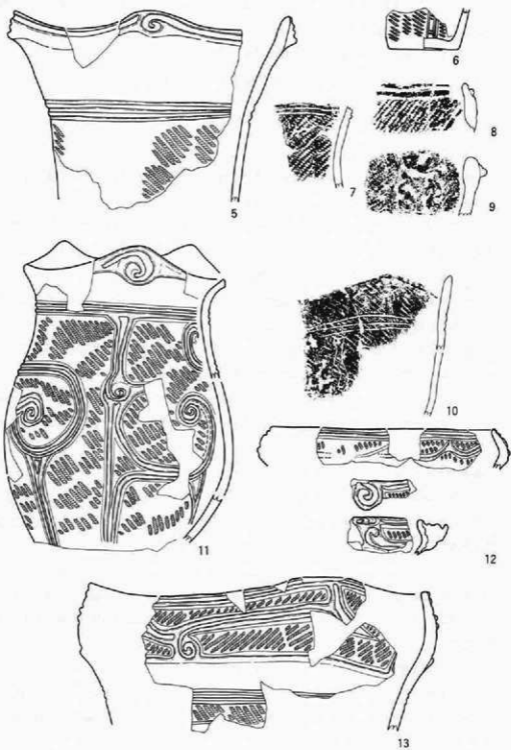
遺物（第9-12図・写真図版41-43）

＜土器＞10は柱穴状の小土坑から出土した深鉢で、3単位の波状口縁を呈する。波頭部には渦巻文が配され、胴部には隆沈線よる渦巻曲線文が展開される。11も波状口縁で、胴部には沈線文を持つ。

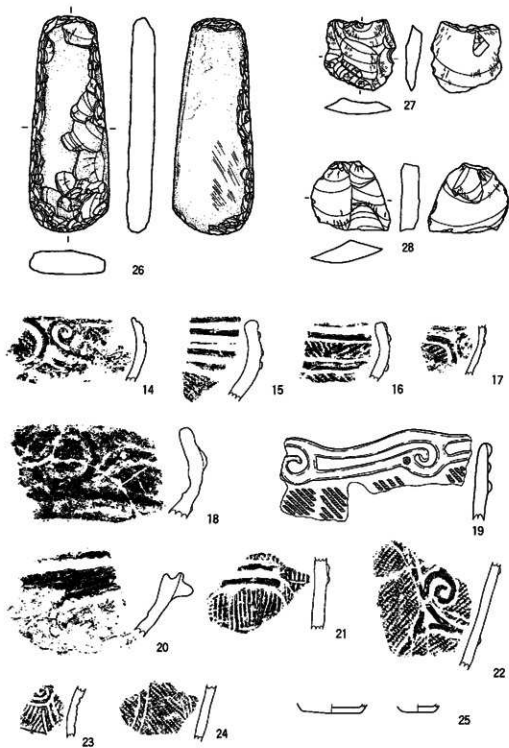
12-18はキャリバー形の口縁部片で、12は渦巻状の突起が付き、13は緩い波状となる。18は隆帯、他は隆沈線よる文様を持つ。19は緩い波状口縁で、上端に太い隆帯よる渦巻文を持つ。20は鉢の口縁部片と考えられる。21は24胴部破片である。25は底部が楕円形を呈するミニチュア土器である。

＜石器＞26は磨製石斧の未製品と考えられ、周囲には剥離加工が施される。27・28は一部に刃部加工が施された剥片、29-31は鋭利な縁部部に使用痕を持つ剥片である。32-36は磨石類で、36は片面に凹を有し、凹石としても使用されている。37・38は両面に使用痕を持つ粗製の石皿である。

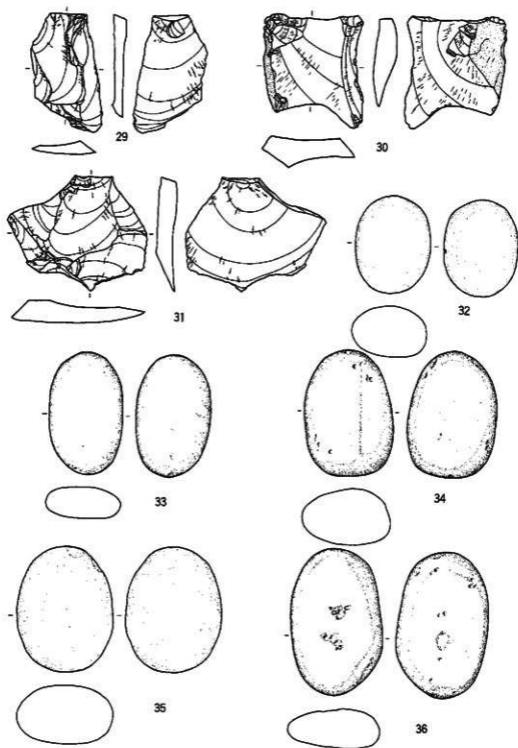
時期 出土した土器の特徴から、縄文時代中期中葉の遺構と考えられる。



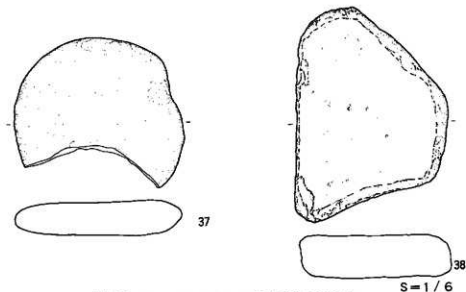
第9圖 7D-1・7E-1住居跡出土遺物(1)



第10圖 7D-1・7E-1住居跡出土遺物(2)



第11图 7D-1·7E-1住居跡出土遺物(3)



第12図 7D-1・7E-1住居跡出土遺物(4)

2F-1住居跡

遺構(第13図・写真図版7)

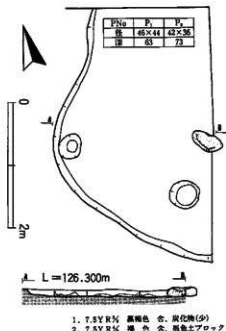
<検出状況>IV層面で黒褐色～暗褐色土の広がりとして検出された。北側の一部は調査区域外にかかる他、東側の大半は林道によって破壊されている。

<規模・平面形>検出できた部分が少ないため、詳細は不明である。残存部から推定すると、径4m前後の規模をもつ、不整な円形プランが想定される。

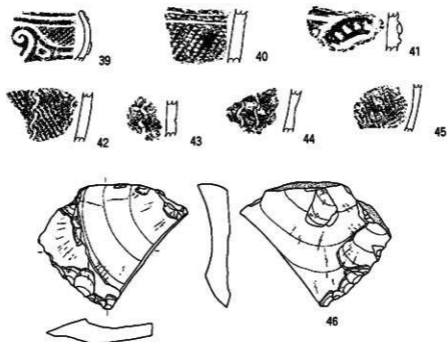
<埋土>上部は黒褐色土、下部は褐色土で構成されている。

<壁・床面>壁高は9-15cmで、外傾して立ち上がる。床面はIV層中で平坦であるが、硬くしまるものではない。

<柱穴>柱穴状の小土坑は2基検出されているが、いずれも明確なものではない。



第13図 2F-1住居跡



第14図 2F-1住居跡出土遺物

<炉>検出されなかった。

遺物 (第14図・写真図版44)

<出土状況>埋土から土器片と石器が出土しているが、量は少ない。なお、床面から巨礫が出土しているが、使用痕等は認められなかった。

<土器>39はキャリバー形の口縁部片で、隆沈線による文様を持つ。40は沈線文、41は刻みを持つ隆帯が貼り付けられている。42~44は綾絡文が垂下する。

<石器>46は角度を有する縁辺部に刃部加工を施した剝片で、種器的な機能を持つものと考えられる。

時期 出土遺物が少なく詳細は不明であるが、縄文時代中期頃の遺構の可能性がある。

4G-1住居跡

遺構 (第15図・写真図版8)

<検出状況・重複関係>IV層面で、褐色土の広がりとして検出された。南東側で4G-2住居跡と重複しこれに切られている。

<規模・平面形>掘り込みが浅いことや、埋土と壁の区別がつきにくかったため、プランは

確なものではないが、4×3.5mの不整な楕円形のプランが推定される。

〈埋土〉炭化物を僅かに含む褐色土の単層である。

〈壁・床面〉壁は各部とも明瞭ではない。床面はIV層中で、割合平坦で硬い。

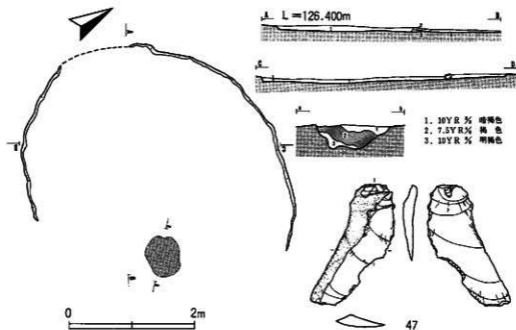
〈柱穴〉検出されていない。

〈炉〉床面中央部東側に地床炉検出された。65×70cmの範囲に最大10cmの厚さで淡い焼土層が形成されている。しかし、重複や検出された位置から、この炉が当住居跡に付属するかどうかは不明な点を残す。

遺物 (第15図・写真図版44)

47は鋭利な縁辺部に、細い加工によって抉入部を作り出している剥片石器である。

時期 不明である。



第15図 4G-1 住居跡出土遺物

4G-2 住居跡

遺構 (第16図・写真図版9)

〈検出状況・重複関係〉IV層上面で、石囲炉が検出され、住居跡と認定した遺構である。北西側で4G-1住居跡と重複しこれを切っている。

<規模・平面形>地山であるIV層を掘り込んでおらず、明確な規模・プランとも把握できなかった。土層断面の観察から推定すると、4m前後の規模を持つものと考えられる。

<埋土>上部は暗褐色土が主体となり、下部は褐色土で構成される。

<床面>床面はIV層上面で、炉の周辺部が僅かに凹むがほぼ平坦である。炉の周辺部はやや硬いが、他は軟らかい。

<柱穴>検出されていない。

<炉>土器埋設石囲炉で、床面中央と考えられる部分に位置する。長径20~10cm大の礫を65×70cmの北西側が開くコ字形に配し、西端に深鉢を斜位に埋設している。焼土は薄く、内部に散在する程度である。

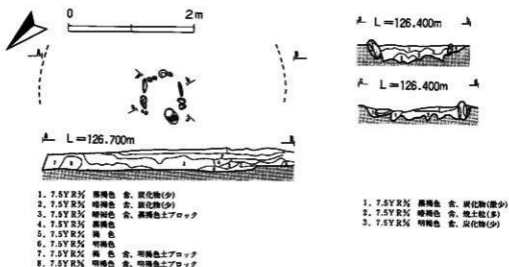
遺物 (第17図・写真図版44・45)

<出土状況>炉の埋設土器の他に埋土から土器片と石器が出土している。

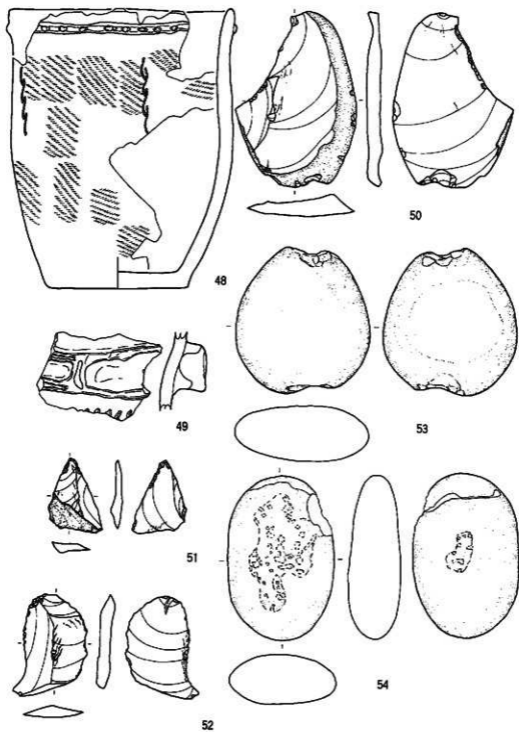
<土器>48は炉の埋設土器で、頂部に刺突を持つ細い隆帯が口縁に巡る。地文は無節の斜縄文で、綾絡文が垂下する。49は2本の隆帯が橋状の把手によってつながれている。

<石器>50・51は部分的に刃部加工が施された剥片、52は鋭利な縁辺部に使用痕を持つ剥片である。53は石錘で、磨石からの転用品と考えられる。54は両面に凹を伴う磨石である。

時期 明確に時期を判断できる遺物はないが、縄文時代中期の遺構と考えられる。



第16図 4G-2 住居跡



第17圖 4G-2住居跡出土遺物

21-1 住居跡

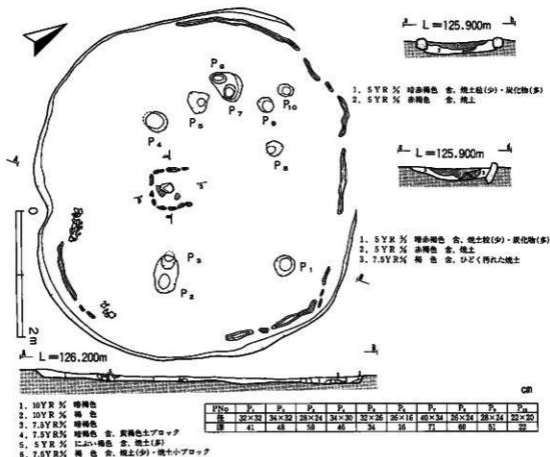
遺構 (第18図・写真図版10)

<検出状況>IV層面で、黒褐色土の広がりとして検出された。北壁部分は、試掘の際に削制されている。他の遺構との重複はないが、壁溝の位置や柱穴の分布から見て、1回以上の建て替えが行なわれた可能性がある。

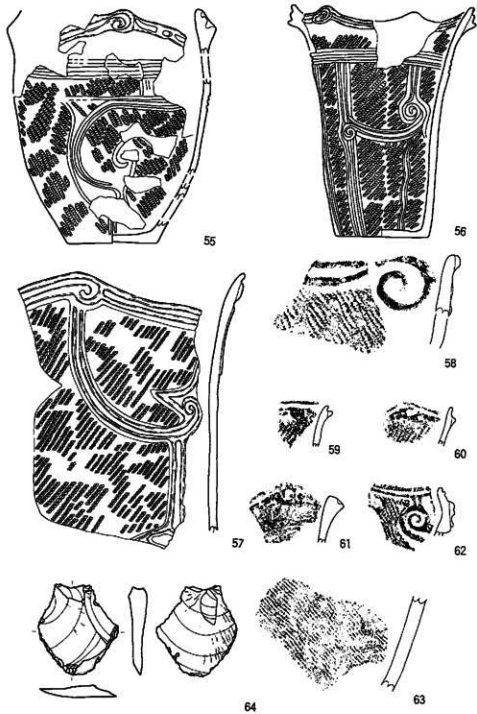
<規模・平面形>径5.2mの歪な円形を呈し、南壁に長さ70cm、最大幅20cmの不整な内側への張り出しを持つ。

<埋土>一部に焼土や褐色土が見られるが、大半は暗褐色土が主体となる。

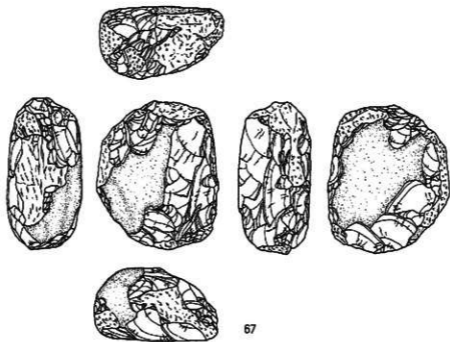
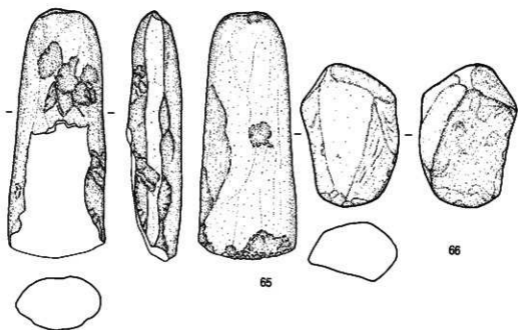
<壁・床面>壁高は9~17cmで、各部分とも外傾して立ち上がる。また、東壁と西壁の一部を除いて、壁際から5~20cmの位置に幅5~15cm、深さ3~9cmの壁溝が通る。床面はIV層中で、ほぼ平坦で硬い。



第18図 21-1 住居跡



第19圖 21-1 住居跡出土遺物(1)



第20图 21-1住居跡出土遺物(2)

<柱穴>柱穴状の小土坑は、10基検出された。位置や深さからP6・P10を除く8基が主柱穴を構成するものと考えられる。配置はP1-P2・P3-P4-P5-P8・P9等の四角形が考えられるが、明確に把握できたものではない。これらの内、P3・P4は外傾する。

<炉>土器埋設石囲炉で、床面の中央やや南に位置する。長径10～20cmの礫を60×70cmの北東側が開くコ字形に配して構築している。内部には深さ10cm程の掘り方を持ち、ほぼ中央部に深鉢が口縁部を開口部に向けて、斜位に埋設されている。内部は全体に良く焼けており、焼土層最大10cmの厚さを持つ。

遺物 (第19・20図・写真図版45・46)

<出土状況>炉内、床面、埋土の下部から土器と石器が出土している。

<土器>55は炉の埋設土器で、4単位の緩い波状口縁を呈するものと考えられる。口縁上端には渦巻文が配され、胴部には沈線による文様が展開される。56は6単位の波状口縁となり、胴部に膨らみを持たない。57～61も波状口縁である。62はキャリバー形の口縁部で、突起状の渦巻文を持つ。

<石器>64は縁辺の一部に刃部加工を持つ剥片で、削器的な機能が考えられる。65は刃部を欠損する磨製石斧である。66は砥石、67は敲石である。

時期 出土した土器の特徴から、縄文時代中期中葉の遺構と考えられる。

2L-1住居跡

遺構 (第21図・写真図版11)

<検出状況・重複関係>IV層面で黒褐色～褐色土の広がりとして検出された。東壁の一部は、近代の攪乱を受けている。また、北壁は2M-1住居跡と重複するが、重複する部分が極く僅かなため、新旧関係は不明である。

<規模・平面形>長軸4.5m、短軸5mの不整な楕円形(卵形)を呈する。

<埋土>中央部は黒褐色土、周辺部は褐色土が主体となる。

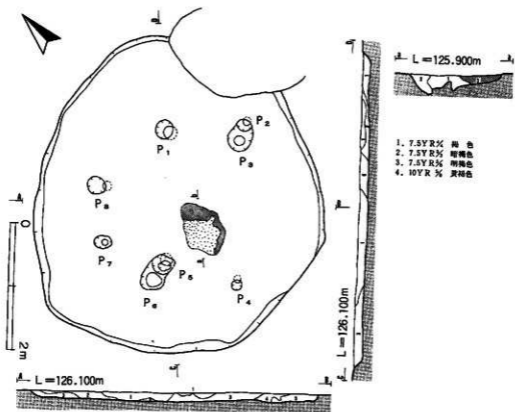
<壁・床面>壁高は6～14cmで、各部とも外傾して立ち上がる。床面は、平坦で硬くしまる。

<柱穴>柱穴状の小土坑は、8基検出された。この内、P1・P4・P5・P8は約10°の傾きで外傾する。これら4基はいずれも深く、主柱穴を構成していたものと考えられ、他の4基は補助的な役割が考えられる。

<炉>地床炉で、床面中央部やや南よりに位置する。62×95cmの範囲に最大12cmの厚さで焼土層が形成されている。

遺物 (第22・23図・写真図版46・47)

<出土状況>埋土下部から土器と石器が出土している。



1. 7.5YR% 褐色 含、炭化物(少)
2. 7.5YR% 褐色 含、炭化物(最少)
3. 7.5YR% 褐色 含、炭化物・暗褐色土ブロック
4. 7.5YR% 暗褐色 含、炭化物(少)
5. 7.5YR% 暗褐色 含、暗褐色土ブロック
6. 7.5YR% 褐色 含、炭化物(最少)
7. 7.5YR% 褐色 含、炭化物・暗褐色土ブロック
8. 7.5YR% 暗褐色

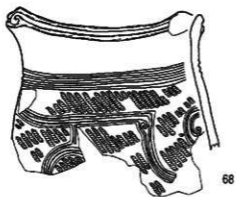
		cm									
PNo		P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	P ₅	P ₆	P ₇	P ₈	P ₉	
径		30×28	26×18	36×34	18×18	32×30	36×34	28×20	28×28		
厚		68	25	20	74	68	23	29	84		

第21図 2L-1住居跡

〈土器〉口縁の形態が分かるものには、キャリバー形のものはない。68は頂部に渦巻を配した波状口縁で、胴部には沈線による文様を持つ。69は隆帯、70は隆沈線による文様を胴部を持つ。71・74・75も波状口縁を呈する。

〈石器〉79は使用痕を有する剥片である。80は特殊磨石で、使用部分は両面からの剝離によって成形されている。81は両面が使用されている磨石である。

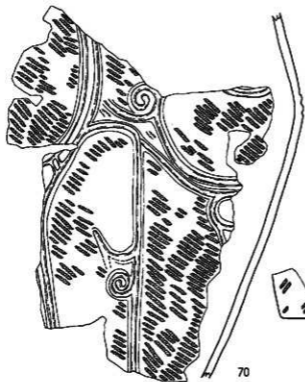
時期 出土した土器の特徴から、縄文時代中期中葉の遺構と考えられる。



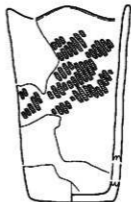
68



69



70



71



73

S = 1 / 4



74

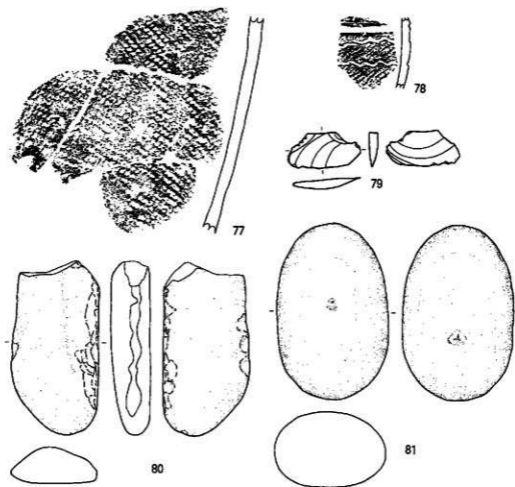


75



76

第22圖 2 L-1 住居跡出土遺物(1)



第23図 2L-1住居跡出土遺物(2)

6L-1住居跡

遺構 (第24図・写真図版12)

<検出状況・重複関係>IV層面で、黒褐色土の広がりとして検出された。土層断面の観察では、II層の中部から掘り込まれているようである。東壁部分で6M-1住居跡と重複し、これに切られている。

<規模・平面形>長径5.3m、短径4.5mの楕円形を呈する。

<埋土>上部の黒褐色土、下部の褐色土に大別される。

＜壁・床面＞壁高は9～14cmで、各部ともほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層中で平坦で硬くしまる。

＜柱穴＞柱穴状の小土坑は、4基検出された。P1-P2-P3は三角形の配置となる。また、P1の内側に位置するP4は、10°前後の角度で外傾する。

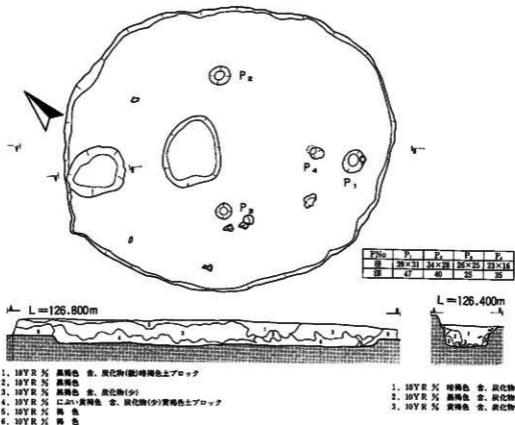
＜炉＞明確な炉跡は検出されなかった。床面のほぼ中央部に、炭化物と焼土粒が分布しており、この部分が炉にあたりと考えられる。この下部には1.2×0.9m、深さ7cmの不整な楕円形を呈する浅皿状の土坑が検出された。

＜付属施設＞南東壁際に土坑を持つ。45×75cm、深さ35cmの階円形を呈し、埋土は暗褐～黒褐色土で構成される。詳細は不明であるが、貯蔵的な機能が考えられる。

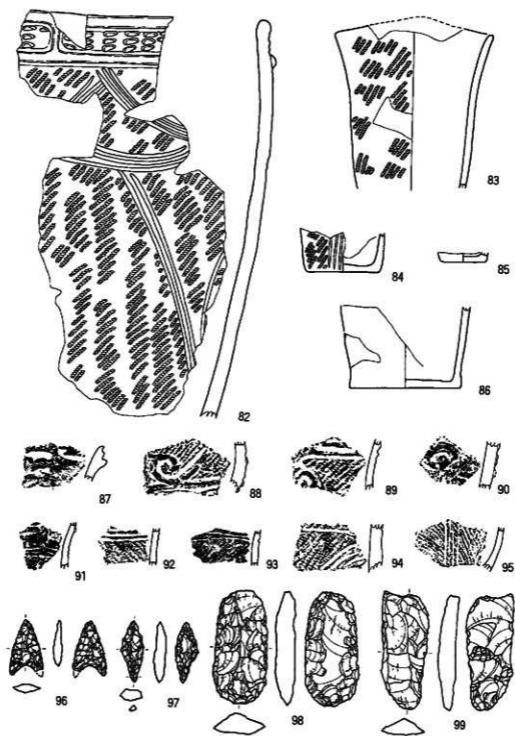
遺物（第25・26図・写真図版48・49）

＜出土状況＞埋土の下部、床面、小土坑内から土器と石器が出土している。

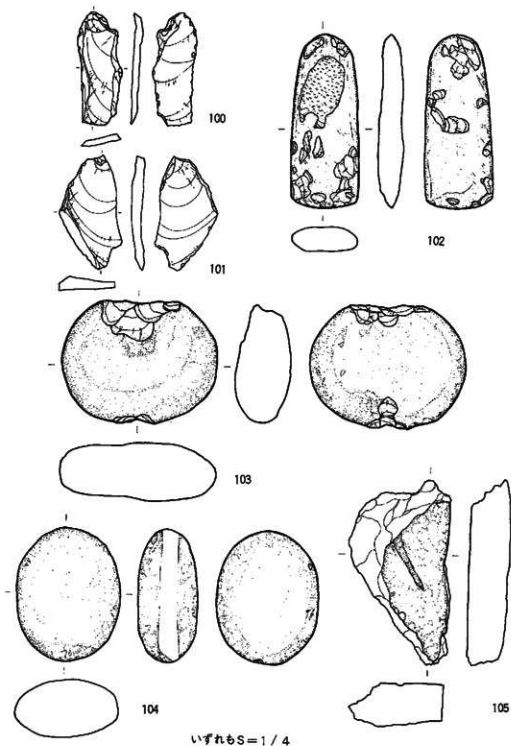
＜土器＞82は土坑の埋土から出土したもので、口縁部には隆帯に区画された刺突文を持ち、胴部には沈線による文様が展開される。83は波状口縁を呈し、84は沈線文を持つ。87は沈線、



第24図 6L-1住居跡



第25圖 6L-1 住居跡出土遺物(1)



第26図 6L-1住居跡出土遺物(2)

88-90は隆沈線による渦巻文が配される。91-95は沈線による文様が描かれる。

〈石器〉96は無茎回基の石鏃である。97は石鏃に分類したが、石鏃の可能性もある。98は石筥で、両面からの剝離加工で成形されている。99-101は刃部加工のみが施された剝片で、前二者は割器的、後者はノッチ的な機能が考えられる。102は磨製石斧であるが、全体に加工は雑で、剝離痕を多く残す。103は横長の石鏃、104は両面と両側面を使用している磨石である。105は細く浅い溝を持つ有溝砥石である。

時期 出土した土器の特徴から、縄文時代中期中葉の遺構と考えられる。なお、P4から出土した炭化物からは、4120±90 Y. B. P. の年代が得られた。

2 M-1 住居跡

遺構 (第27・28図・写真図版13)

〈検出状況・重複関係〉IV層面で、黒褐色-暗褐色土の広がりとして検出された。土層断面の観察では、掘り込み面はII層中部と考えられる。

北壁部分で6 L-1住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。また、西壁部で3 L-1土坑と重複しこれに切られているほか、3 M-1陥し穴状遺構を切っている。

埋土の状態や壁溝の在り方から、縮小された住居と考えられる。縮小後をa、前をb住居として記載する。

2 M-1 a 住居

〈規模・平面形〉当初重複がつかめず精査を行なったため、b住居跡のプランと共有する以外の部分は掘りすぎている。壁溝と床面の状態から推定すると、径6m前後の円形を呈するものと考えられる。

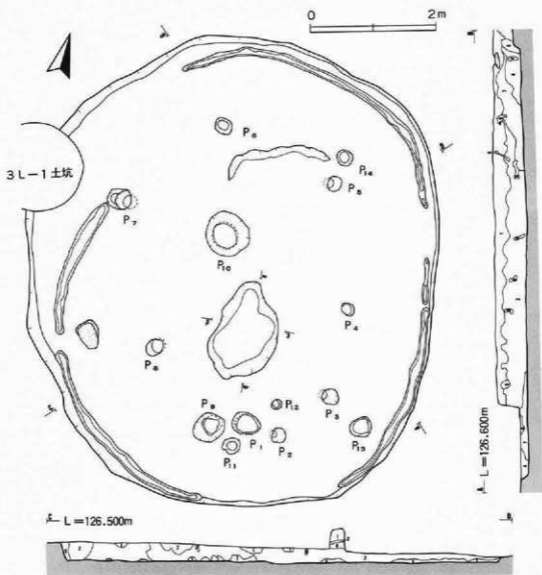
〈埋土〉中央部は暗褐色土が主体を占め、周辺部は褐色土で構成される。

〈壁・床面〉南半部をb住居跡と共有する。壁高は14-31cmで、ほぼ直立する。東西の壁際には幅10-20cm、深さ3-12cmの壁溝が通る。床面はV層面で、北端部分がいくぶん凹むが、他は平坦で硬くしまる。また、3 M-1陥し穴状遺構と重複する部分では、黄褐色土による貼床が施されている。

〈柱穴〉a・b住居跡全体では、14基の柱穴状土坑が検出された。この内、P2・P3・P4・P5・P7・P8・P9は、10°内外の傾きで外傾している。

相関関係が不明で、配置面からのみの推定であるが、P3・P8をb住居跡と共有するP1-P4-P8-P10の4本柱が考えられる。しかし、P10は他のものに比べて規模が大きく、埋土の状態のやや異なることから、柱穴ではない可能性がある。

〈炉〉明確な炉跡は検出されていない。床面中央部に炭化物と焼土粒が分布しており、この



1. 7.5YR5 黄褐色
2. 7.5YR5 暗褐色 含、炭化物(少)
3. 7.5YR5 暗褐色 含、炭化物(少)・褐色土ブロック
4. 7.5YR5 褐色 含、炭化物(少)・粘土・褐色土大ブロック
5. 7.5YR5 暗暗褐色
6. 7.5YR5 暗褐色
7. 10Y2 褐色
8. 7.5YR5 黄褐色 含、明褐色土ブロック

	PNo	P ₀	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	P ₅	P ₆	P ₇	P ₈	P ₉	P ₁₀	P ₁₁	P ₁₂	P ₁₃	P ₁₄
径	44×35	24×22	28×26	23×19	25×22	30×27	38×37	30×24	53×44	70×64	30×26	26×14	34×30	26×24		
深さ	76	65	24	72	68	67	68	71	76	81	22	30	11	7		

第27図 2M-1 住居跡(1)

1 L=126.000m

2 L=126.000m

3



第28図 2M-1住居跡(2)

1, 10YR 5/1 に赤い黄褐色
 2, 10YR 5/2 に赤い黄褐色 金、炭化物
 3, 10YR 5/3 暗褐色

部分が炉であったと考えられる。下部は1×1.5m、深さ30cmの不整な凹となっている。

2M-1 b住居跡

<規模・平面形> 長径7.5m、短径6.5m不整な楕円形(隅丸五角形)を呈する。

<埋土> a住居跡と明確に区別はできなかったが、上部は暗褐色土、下部は褐色土が主体となっている。

<壁・床面> 壁高は10~31cmで、各部ともほぼ垂直に立ち上がる。北壁から東壁にかけて、幅10~20cm、深さ2~10cmの壁溝が巡る。この壁溝は、壁際から10~20cm内側に位置しており、b住居からa住居の縮小のほかにも建て替えが行なわれた可能性がある。

床面はV層上部で、平坦で硬くしまる。

<柱穴> 検出された14基の内、規模と配置から考えて、P2-P3-P4-P5-P6-P7-P8-P9の8本で構成されていた可能性が強い。

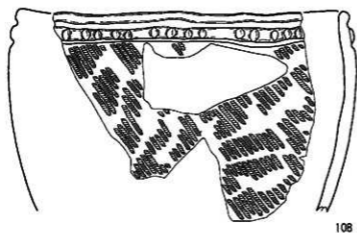
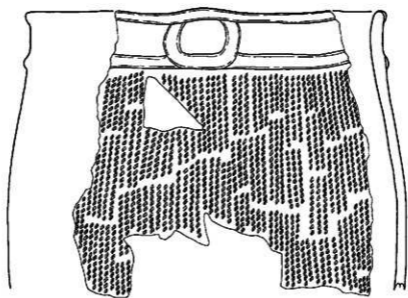
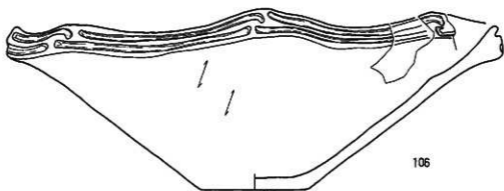
<炉> 明確な炉跡は検出されておらず、a住居と共有していたものと考えられる。

遺物 (第29~35図・写真図版49~54)

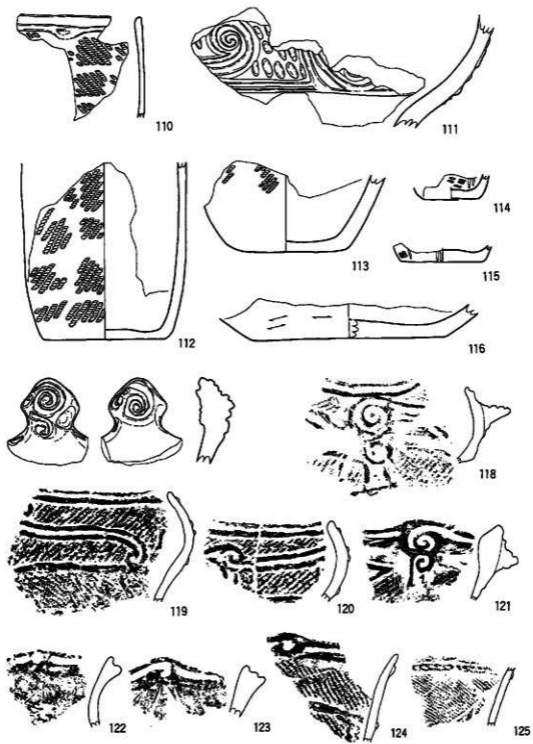
<出土状況> 床面、土坑内、埋土から土器、石器、土製品が出土している。当初重複がつかぬ、同一遺構として遺物を取り上げたため、帰属は不明である。

<土器> 106は柱穴状土坑P10の埋土上部から出土した浅鉢で、上端が肥厚する波状口縁には、太い沈線によって渦巻状の文様が描かれる。107・108は口縁部に隆帯が巡る。109は胴部に沈線による文様が展開される。111は大型のキャリパー形土器で、隆沈線による渦巻文間には刻み状の短沈線が充填されている。117は渦巻をモチーフとする突起である。118~121はキャリパー形の口縁部で、118・121突起状の渦巻文が配される。122~124は波状口縁で、波頭部に渦巻文を持つ。126~133は胴部片で、沈線、隆帯、隆沈線による文様を持ち、渦巻や棘状文が描かれるものもある。134~138は口縁上端に隆帯が巡る。134を除いて隆帯には小刺突や凹みを持つ。

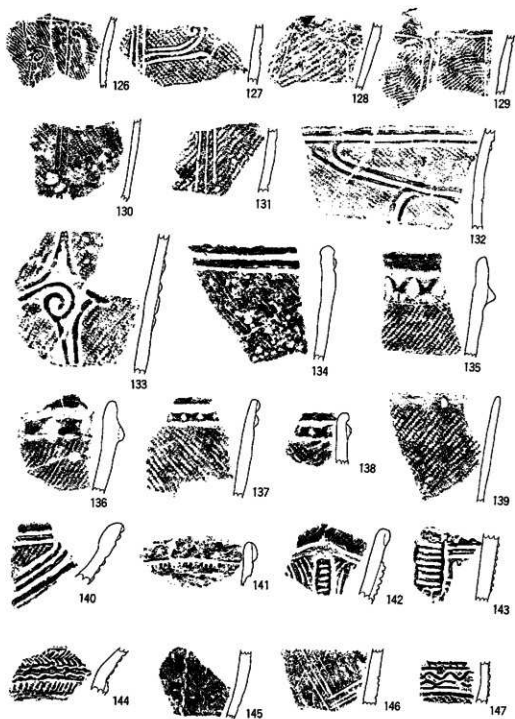
141は折り返し口縁で、下部に縦位の短沈線が施される。142・143は刻み状の短沈線が施された隆帯が垂下する。144は短沈線による幾何学文様、147は細い隆帯(粘土紐)による文様を持つ。



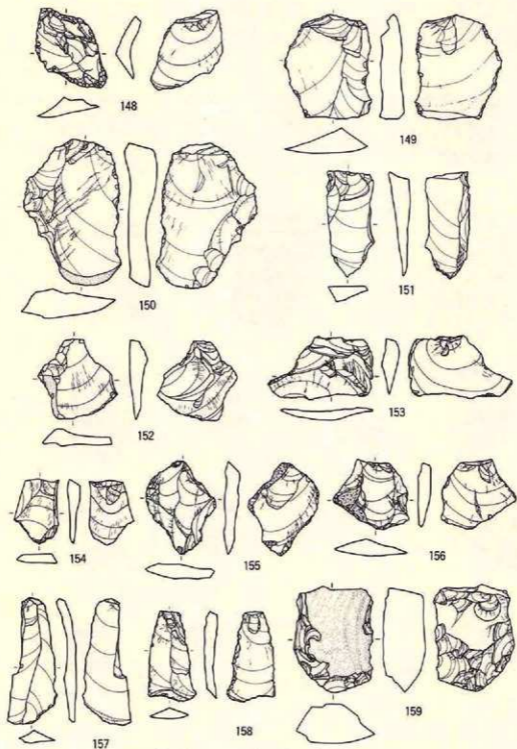
第29图 2M-1 住居跡出土遺物(1)



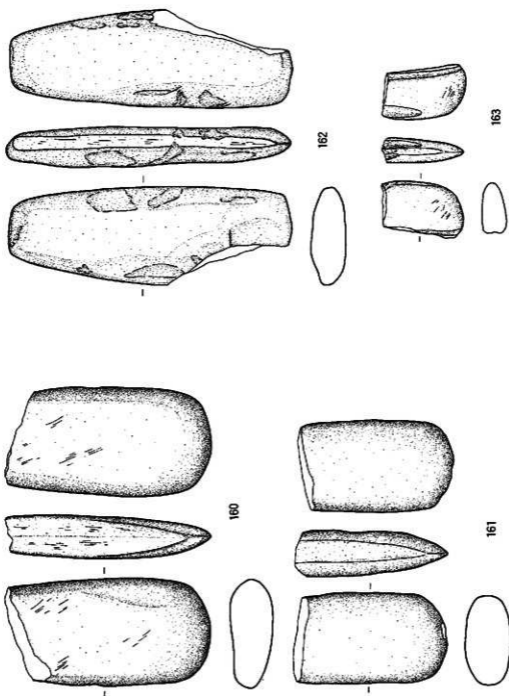
第30圖 2M-1 住居跡出土遺物(2)



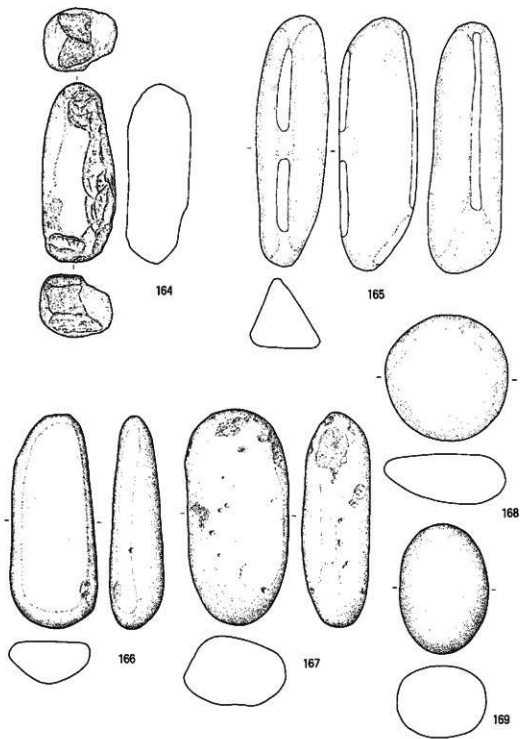
第31圖 2M-1 住居跡出土遺物(3)



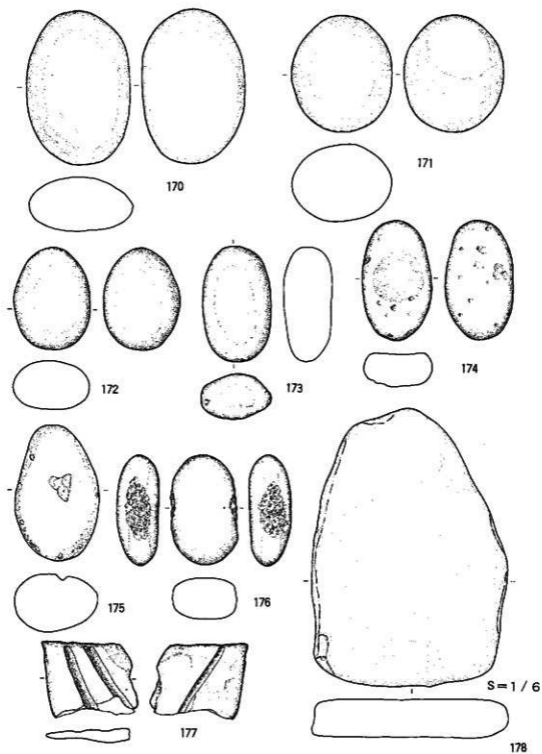
第32圖 2M-1 住居跡出土遺物(4)



第33图 2M-1 住居跡出土遺物(5)



第34圖 2M-1 住居跡出土遺物(6)



第35圖 2M-1 住居跡出土遺物(7)

<石器>148は急角度の縁辺部に、加工を加えた搔器である。149・150は刮器で、150は大きな剝離によって刃部を作り出している。151~154は部分的に刃部加工された刮片、155~158は使用痕を有する刮片である。159は両面からの剝離痕を持つが、特に刃部的なものではない。なお、157~159の3点は、2Q-1住居跡から出土している刮片群に接合する。

160~163は磨製石斧である。160・161は基端部を、162は刃部の片側を欠損する。163は側面に擦り切り痕を持ち、破損品を再利用しようとした可能性がある。164は石斧の半製品であろうか、剝離加工と擦り痕が見られる。

165は棒状の磨石で、3面を使用している。166・167は特殊磨石で、特に加工は施されていない。168~176は磨石類である。176は両側部に敲打痕を持つ。177は両面が使用されている有溝砥石、178は両面使用の粗製石皿である。

時期 出土した土器の特徴から、縄文時代中期中葉の遺構と考えられる。

2N-1住居跡

遺構（第36・37図・写真図版14）

<検出状況・重複関係>IV層面で黒褐色~暗褐色土の広がりとして検出された。土層断面の観察では、掘り込み面はII層中部と考えられる。他の遺構との重複は無いが、柱穴状の土坑や壁溝の在り方から、ほぼ同一規模での建て替えが行なわれた可能性がある。

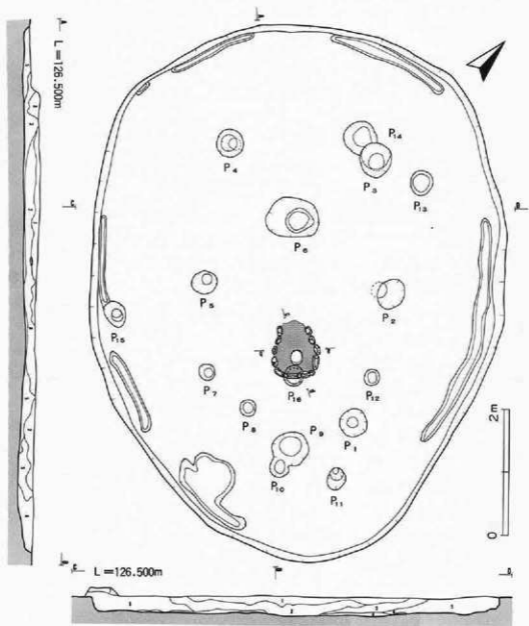
<規模・平面形>長径8.5m、短径6.5mの歪な楕円形（卵形）を呈する。

<埋土>3層に大別され、上部は黒色土、中部は黒褐色土、下部及び周辺部は暗褐色~褐色土で構成されている。

<壁・床面>壁高は11~22cmで、各部ともほぼ直立する。また、断続的ではあるが、幅10~25cm、深さ2~11cmの壁溝が巡る。床面はIV層~V層面で、炉の周辺がいくぶん凹むもののほぼ平坦で硬くしまる。

<柱穴>柱穴状の小土坑は、15基検出された。位置及び深さからP1-P2-P3-P4-P5の5本が主柱穴を構成していたと考えられる。これらの他、P6は床面中央やや北西寄りに位置し、他のものと比べて規模が大きいことから、大黒柱的機能を持つものかもしれない。また炉の下位から検出されたP15についても、同様な機能が考えられる。なお、P2・P3・P4は、10'前後の傾きで、外傾している。

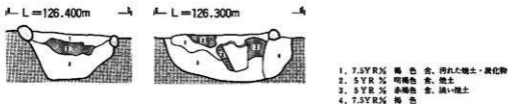
<炉>土器埋設石囲炉で、床面中央部南東寄りに位置する。長径10~26cmの礎を北西側が開くコ字状に配して構築している。内部には深さ40cmの掘り方を持ち、中央やや南東寄りに深鉢を斜位に埋設している。内部は良く焼けており、最大15cmの厚さで焼土層が形成されている。



1. 7.5Y R% 黒色 土、炭化物(最少)
2. 7.5Y R% 黒褐色 土、炭化物(最少)・褐色土フロック
3. 7.5Y R% 暗褐色 土、炭化物(少)
4. 10Y R% 褐色 土、炭化物(少)・明褐色土フロック
5. 7.5Y R% 褐色 土、炭化物(少)
6. 7.5Y R% 黒褐色 土、炭化物(最少)
7. 7.5Y R% 明褐色

PN0	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	
厚	44×44	52×42	54×48	44×42	42×36	86×62	28×24	26×24	58×34	32×30	24×22	26×26	38×34	54×50	38×28	30×26
深さ	93	93	88	90	93	74	11	11	28	11	19	9	9	22	41	49

第36図 2N-1 住居跡(1)



第37図 2N-1 住居跡(2)

遺物 (第38～40図・写真図版55～57)

<出土状況> 炉内と埋土から土器と石器及び土製品が出土している。

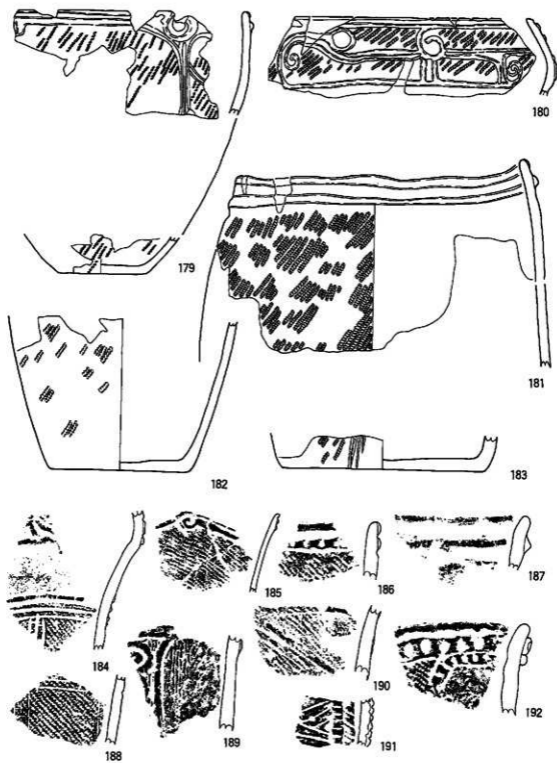
<土器> 179は炉の埋設土器である。口縁部上端に隆帯が巡り、渦巻文を構成している。胴部は隆沈線による文様を持つ。180はキャリバー形の口縁部で、隆帯による渦巻文様を持つ。181は2本の隆帯が口縁上端に巡る。184はキャリバー形土器で、口縁部は隆沈線、胴部は沈線による文様を持つ。185は波頭部に渦巻文を配した波状口縁である。192は頂部に刺突が連続する隆帯によって文様が構成される。

<石器> 193は凸刃と直刃、194は直刃、195は凸刃の削器である。196は尖頭器としたが、削器の可能性もある。197～199は一部に刃部加工のある剥片、200～201は使用痕を持つ剥片である。

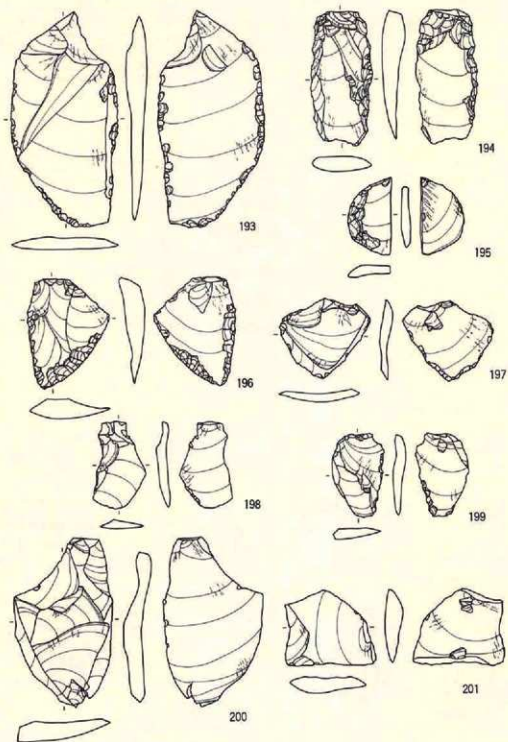
202は石錘で、両面に磨痕が見られ、磨石からの転用品と考えられる。203は凹石、204・205は粗製の石皿で、いずれも両面とも使用されている。

<土製品> 206は燈籠形の土製品で、全体に雑なミガキが施されている。上端には径約1cmの貫通孔を持つ。垂れ飾りの類であろうか。

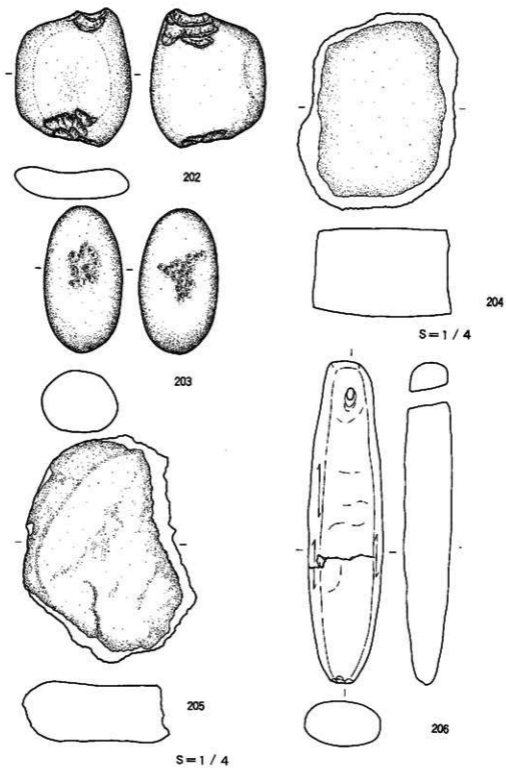
時期 出土した土器の特徴から、縄文時代中期中葉の遺構と考えられる。



第38圖 2N-1 住居跡出土遺物(1)



第39圖 2N-1 住居跡出土遺物(2)



第40圖 2N-1 住居跡出土遺物(3)

6M-1住居跡

遺構 (第41図・写真図版15)

<検出状況・重複関係>重複する6N-1住居跡の精査時に検出された。重複する部分が僅かで、同住居跡との新旧関係は不明である。この他、西壁部で6L-1住居跡と重複し、これを切っている。

<規模・平面形>北壁部は風倒木によって攪乱されているが、長軸4,6m、短軸1,6mの不整な扇形(長方形)を呈する。

<埋土>黒褐色土と暗褐色土が主体となる。

<壁・床面>壁高は12~30cmで、各部分ともほぼ直立する。床面はVI層面で、全体に硬くしまる。東半部分は平坦であるが、西半部分はいくぶん凹凸がある。

<柱穴>南北の壁際から2本ずつ検出された。北壁際の2本は深く、南壁の2本は浅い。いずれも20°前後の傾きで内傾する。

<炉>検出されていない。

<その他>西壁際と南壁際に、不整な楕円形の小土坑が検出されたが、性格については不明である。前者は1×0,7m、深さ2~19cmで、住居中央に向かって緩く下降する。後者は90×60cm、深さ10cmの規模を持つ。

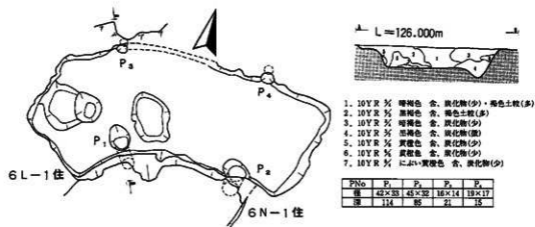
遺物 (第42図・写真図版57)

<出土状況>遺構としての認定が遅れ、遺構に伴う掘いをしなかったため、掲載量は少なかった。出土した総量も多くはない。

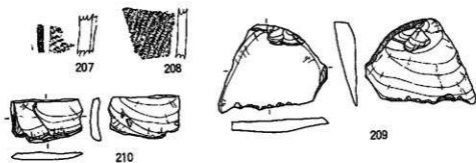
<土器>小破片が2点だけである。207は隆沈線よる文様を持つ。208は地文のみが施される。

<石器>209は刃器的な刃加工を持つ剃片である。210は角度のある縁辺部に使用痕を有する。

時期 時期を想定し得る遺物はないが、重複関係から縄文時代中期中葉以降の遺構と考えら



第41図 6M-1住居跡

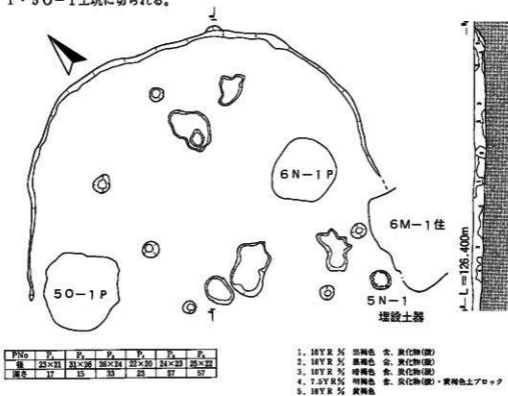


第42図 6M-1住居跡出土遺物

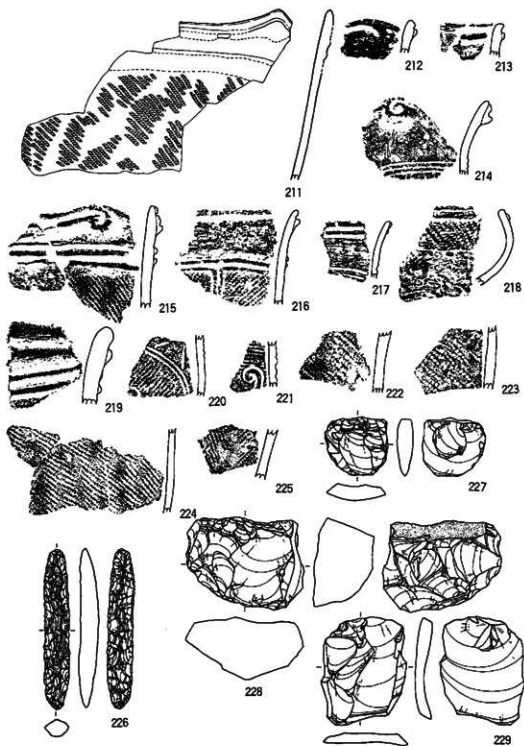
6N-1住居跡

遺構 (第43図・写真図版16)

<検出状況・重複関係>IV層面で、黒褐色～暗褐色土の広がりとして検出された。新旧関係は不明であるが、北壁部で6M-1住居跡・5N-1埋設土器と重複している。また、6N-1・50-1土坑に切られる。



第43図 6N-1住居跡



第44图 6N-1住居跡出土遺物(1)

〈規模・平面形〉東側は前年度調査の際に削られているが、残存部から推定すると、径5.5～6mの円形を呈するものと考えられる。

〈埋土〉部分的に黒褐色土や褐色土が混入するが、全体としては、暗褐色土が主体となっている。

〈壁・床面〉壁高は7～12cmで、各部ともほぼ直立する。床面はIV層中位で、不整な凹凸があり、部分的に硬くしまる。

〈柱穴〉柱穴状の小土坑は6基検出されたが、配置等は不明である。

〈炉〉検出されなかった。

遺物 (第44・45図・写真図版58)

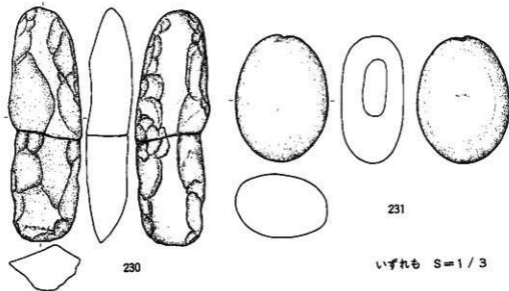
〈出土状況〉床面及び埋土の下部から、土器と石器が出土している。

〈土器〉211～215は口縁部が波状を呈するもので、いずれも上端に隆帯が巡り、波頭部では渦巻文を構成している。216～217は平縁である。218はキャリバー形の口縁部で、隆帯による渦巻文を持つ。

〈石器〉226は、全体に両面からの加工によって成形された棒状の石器である。剥離面には風化した部分が見られ、剥片の再利用と考えられる。227は部分的に刃部加工が施された剥片、229は使用痕を持つ剥片、228は残核である。

230は打製石斧で、両面からの剥離加工によって成形されている。231は両面と両側面を使用している磨石である。

時期 出土した土器の特徴から、縄文時代中期中葉の遺構と考えられる。



第45図 6N-1住居跡出土遺物(2)

2Q-1住居跡

遺構 (第46・47図・写真図版17)

<検出状況・重複関係>Ⅲ層面で黒色～黒褐色土の広がりとして検出された。西側で3Q-1住居跡と重複し、これに切られている。また、詳細は不明であるが、柱穴の分布状況から考えて、建て替えが行なわれている可能性が高い。

<規模・平面形>斜面部分に立地するため、下位にあたる南半は削刺されている。残存部から推定すると、長軸9m、短軸6m前後の隅丸長方形を呈するものと考えられる。

なお、西～北壁際にかけて、不整な段(所謂ベッド状施設)をもつ。

<埋土>3層に大別され、上部は黒～黒褐色土、中部は暗褐色土、下部は褐色土で構成される。上部から下部の層中には、多くの遺物や炭化物を包含されており、特に斜面上位側の壁際では、焼土や遺物が投げ込まれた状態で堆積している。

<壁・床面>壁高は13～42cmで、残存する部分ではほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅦ層下部～Ⅶ層面で、概ね平坦で硬くしまる。

<ベッド状施設>東壁の一部から北壁・西壁にかけて検出された。幅は0.7～1m、床面からの高さは5～20cmで、いずれの部分も中央に向かって緩く傾斜している。北壁では一部2段になる。床面はⅦ層上～中部で、硬くしまる。

<柱穴>柱穴状の小土坑は、20基検出された。規模と配置から、P1-P2-P3・P4・P5-P6・P7-P8-P9・P10による6本が主柱穴を構成するものと考えられる。

<炉>石囲炉で、床面中央部のやや東寄りに位置する。1×0.9mの円形を呈する。構成礫は、2個が残存するのみで他は抜き取られており、周囲には明確な抜きと取り跡が観察された。内部には深さ20cmの掘り方を持ち、最大10cmの厚さで焼土層が形成されている。

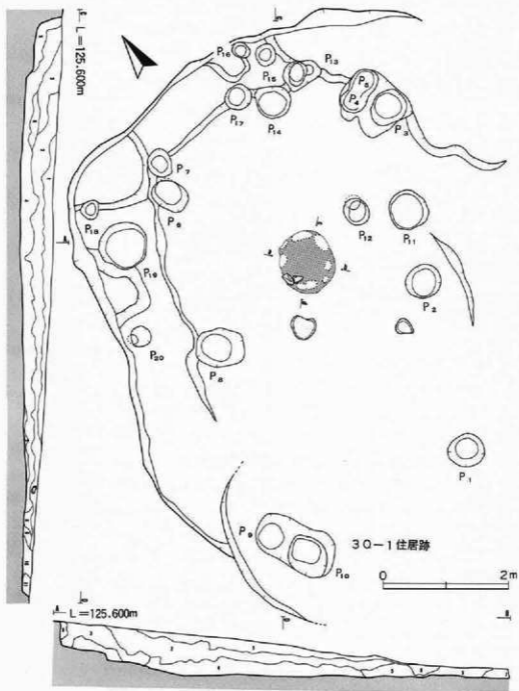
遺物 (第48～58図・写真図版59～67)

<出土状況>埋土の上部及び中部を中心に、縄文時代前期から弥生時代までの土器と石器が多量に出土している。また、第3層からは、焼土と共にそれぞれ接合する剥片群がまとまった状態で出土しているが、これらについては別項で記述する。

<土器>232～240、260～266はキャリバー形の深鉢である。いずれも口縁部には隆沈線によって、渦巻をモチーフとする文様が展開される。また、轆状文様が配されるものも多く、232・236・238は渦巻状の突起を持つ。241は平縁で、胴部には隆帯による渦巻文が配されている。

242～250、252・258・259は口縁部が波状を呈する深鉢である。243～248・250・252・258・259は波頭部分に渦巻文が配されている。胴部文様は、242・244・247が隆帯、243・245・248は沈線、249は隆沈線による。

255・256はキャリバー形の浅鉢である。口縁部には隆沈線による渦巻文様が展開され、前者



- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| 1. 7.5Y R 5/1 黄褐色 | 8. 7.5Y R 5/1 暗褐色 |
| 2. 7.5Y R 5/1 暗暗褐色 含、炭化物(多)・烧土(少) | 9. 7.5Y R 5/1 褐色 含、烧土(少) |
| 3. 7.5Y R 5/1 暗褐色 含、炭化物(多)・烧土(少) | 10. 7.5Y R 5/1 褐色 |
| 4. 7.5Y R 5/1 褐色 含、炭化物(多) | 11. 7.5Y R 5/1 暗褐色 含、炭化物(少) |
| 5. 7.5Y R 5/1 褐色 含、炭化物(少) | |
| 6. 7.5Y R 5/1 褐色 含、炭化物(多)・烧土(少) | |
| 7. 10Y R 5/1 黄褐色 | |

第46图 20-1 住居跡(1)

± L=124.800m



± L=124.800m



PN0	F ₁	F ₂	F ₃	F ₄	F ₅	F ₆	F ₇	F ₈	F ₉	F ₁₀	F ₁₁
表	60×51	58×54	61×52	38×40	37×40	58×44	48×38	75×62	42×41	62×50	
埋合	78	61	62	52	54	65	61	81	97	118	

F ₁₁	F ₁₂	F ₁₃	F ₁₄	F ₁₅	F ₁₆	F ₁₇	F ₁₈	F ₁₉	F ₂₀
62×62	41×40	40×22	54×50	36×31	33×22	42×40	30×27	75×74	33×32
63	108	67	8	6	34	61	12	69	46

1. 7.5Y R/5 明褐色 含、焼土粒(少)・炭化物(少)
2. 2.5Y R/5 赤褐色 含、焼土粒(多)・浮石
3. 7.5Y R/5 褐色 含、焼土粒(少)・浮石
4. 7.5Y R/5 明褐色 含、炭化物(少)
5. 7.5Y R/5 明褐色 含、褐色土(少)
6. 7.5Y R/5 明褐色 含、焼土粒(多)・浮石

第47図 2Q-1 住居跡(2)

は山形状、後者は渦巻状の突起を持つ。

271は平縁で、口縁部には隆帯と原体圧痕による区画的な文様を持つ。272~279は長く外傾する波状の口縁部を持つ。272は波頭部が台状、274は耳状、277は中央に貫通孔を有する角状を呈する。文様は隆帯によって表現されるものが多く、272・274~276・279は小波状のものが用いられている。また、273・276・277は原体圧痕による文様を持つ。

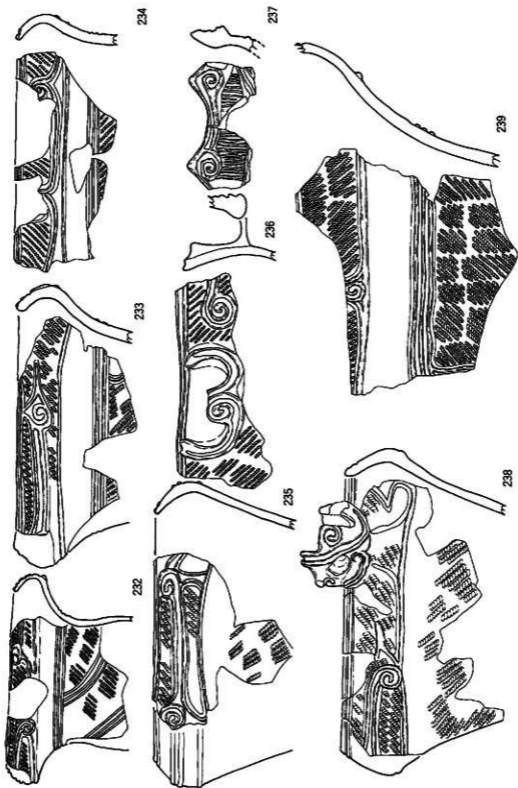
282は焼土と共に3層から出土した、舟形を呈する浅鉢である。短軸側の胴部はいくぶん膨らみを持ち、長軸側は緩く外反する。中央部は欠損するが、長軸側の先端部には3個の山形突起を有する。文様は、頂部に縄文が施文された隆帯とこれに並走する原体圧痕文によって、左右対称な曲線文が展開されている。文様の一部には、窪鉢状の貼り付けが配される他、口縁に沿って燃系圧痕文が巡る。282・283も浅鉢で、口縁部には原体圧痕による文様を持つ。

285・286は口縁部に沈線による文様が施された深鉢である。287は細い隆帯、288は沈線による波状文を持つ。289は台状の突起で、小さな刺突が施されている。290は口縁部に台状と環状の突起が対峙する、大型の深鉢である。

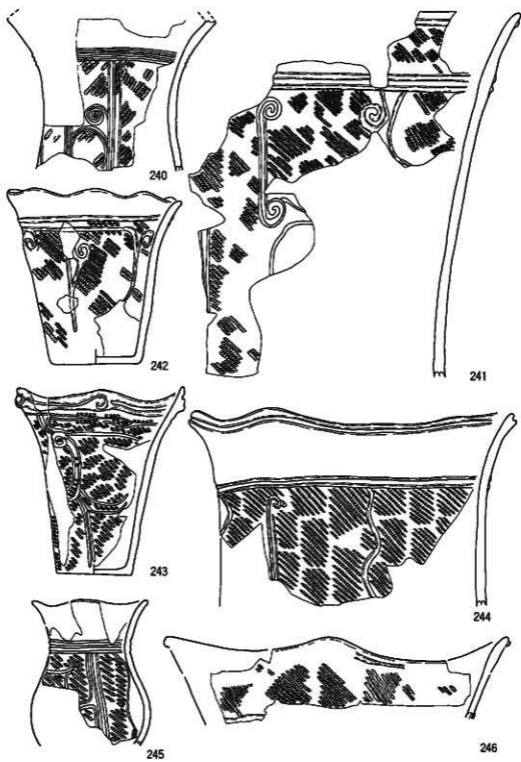
294は筒状を呈する土器で、外面には細い沈線、内面には幅5~10mmの凹凸を持つ。

285は沈線区画された磨消し縄文を持つ鉢である。296・297は口縁部に沈線が巡る鉢、298は口縁部が無文となる甕である。

<石器>299・300は無形凹器の石鏃で、前者は両面からの細かい加工によって成形されているが、後者は剥離加工は僅かで、素材の形状をそのまま利用している。301は石匙であるが、刃部の形状から鎌かノッチ的な機能が考えられる。302~305は石筥、306~308は削器である。309は一部に刃部加工が施された剥片で、削器的機能が考えられる。310は先端部に両面からの剥離



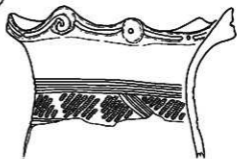
第48图 20-1 住居跡出土遺物(1)



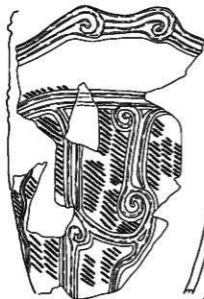
第49圖 20-1 住居跡出土遺物(2)



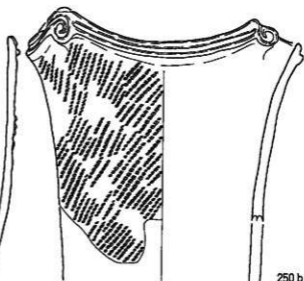
247



248



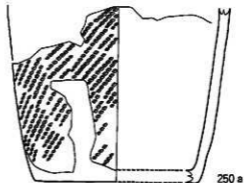
249



250 b

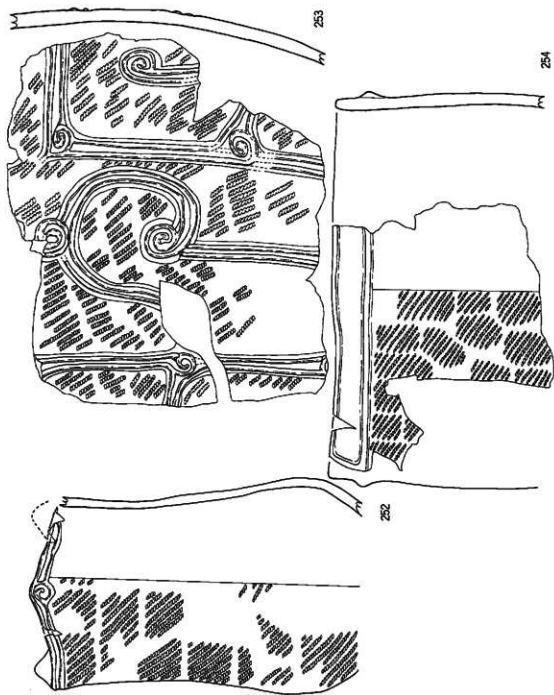


251

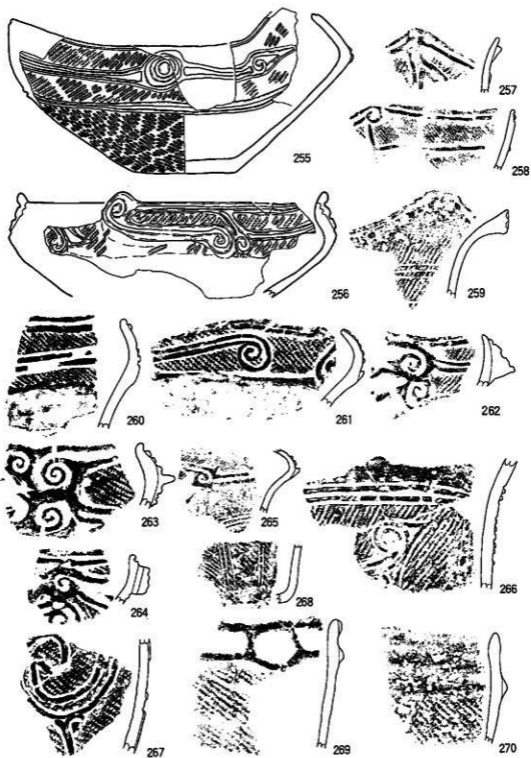


250 a

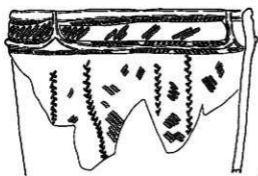
第50图 2Q-1 住居跡出土遺物(3)



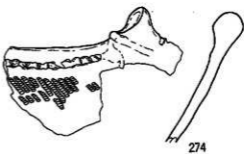
第51圖 2Q-1住居跡出土遺物(4)



第52圖 2Q-1 住居跡出土遺物(5)



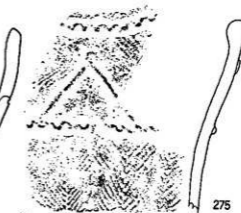
271



274



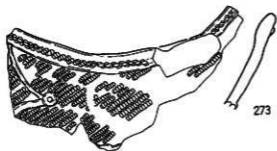
272



275



276



273

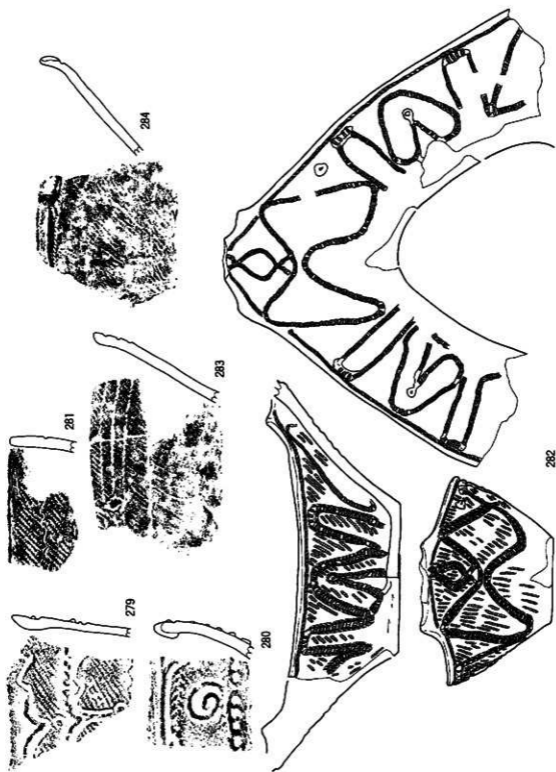


277

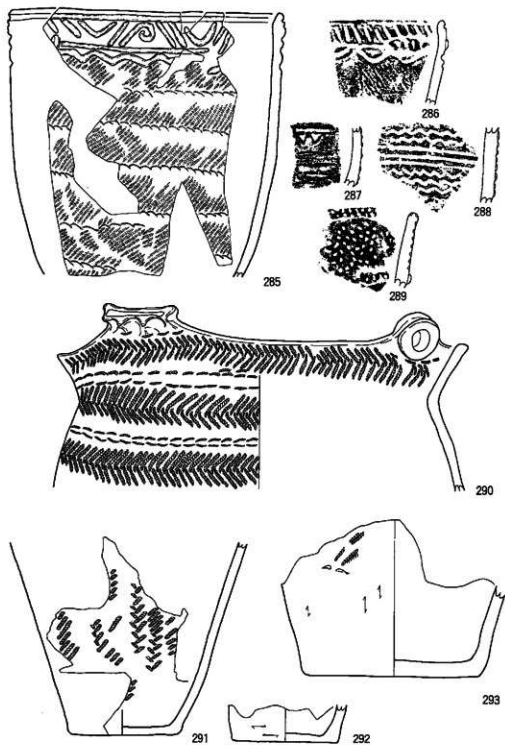


278

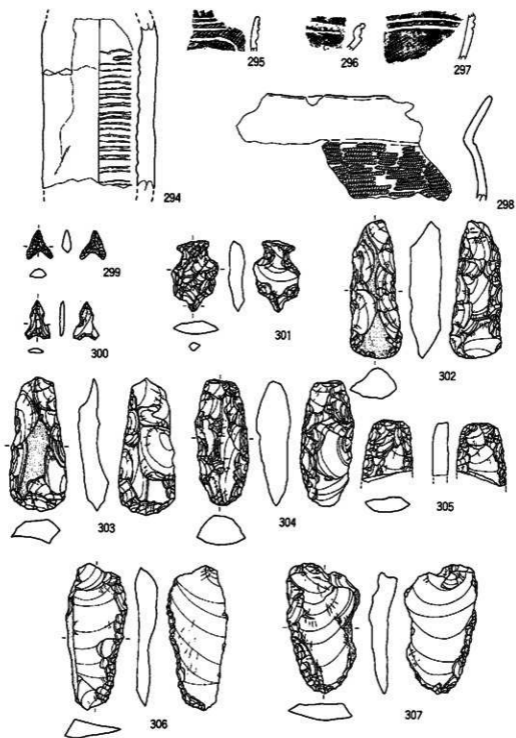
第53圖 20-1住居跡出土遺物(6)



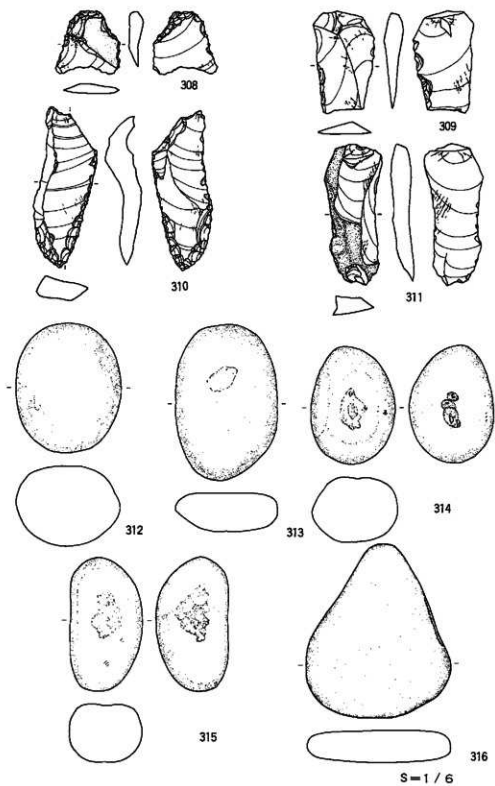
第54圖 2Q-1住居跡出土遺物(7)



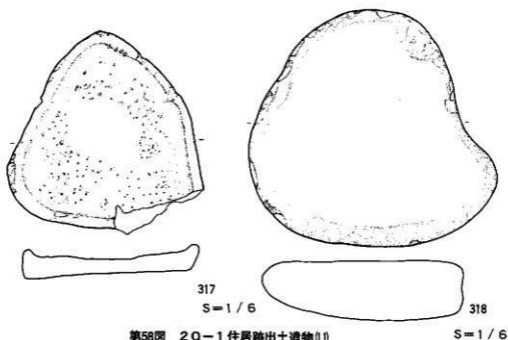
第55圖 20-1 住居跡出土遺物(8)



第56圖 2Q-1 住居跡出土遺物(9)



第57圖 2Q-1住居跡出土遺物(10)



加工が施され尖頭器としたが、削器的な機能も考えられる。この石器は、主要剥離面と刃部加工の剥離とに時間差が見られ、剥片の再利用と考えられる。311は鋭利な縁辺部に使用痕を持つ。

312～315は磨石類で、314・315は凹石としても使われている。316～317は石皿で、317は周囲に断面が三角形の縁が廻り、器面には敲打によると考えられる小孔が多数見られる。

時期 直接時期を決定できる遺物はないが、土器類の出土状況から推定して、縄文時代前期末葉から中期前葉にかけての遺構の可能性がある。

3Q-1 住居跡

遺構 (第59図・写真図版18)

<検出状況・重複関係> 2Q-1 住居跡の精査時に石囲炉が検出され、存在が確認された住居跡である。北半部で同住居跡と重複し、これを切っている。

<規模・平面形> 斜面に立地することや重複から、西壁の一部しか把握することができなかった。残存部からの推定であるが、径4m前後の円形プランが考えられる。

<埋土> 上部は黒色土、中部は黒褐色土、下部は暗褐色土、壁際は褐色土で構成される。

<壁・床面> 壁高は最高部22cmで、緩く外傾して立ち上がる。床面はIII~IV層面で、斜面下方にいくぶん傾斜している。全体に硬くしまるものではない。

<柱穴> 検出されていない。

<炉> 石囲炉で、床面の中央と推定される位置からやや東に寄る。長径10~30cmの扁平な礫を50×60cmに配して構築されている。内部には深さ20cmの掘り方を持ち、最大10cmの厚さで焼土層が形成されている。

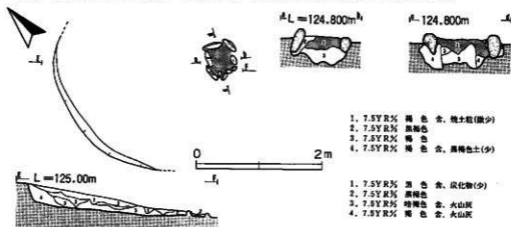
遺物 (第60図・写真図版68)

<出土状況> 埋土から土器片が出土しているが量は少ない。また、石皿はいずれも炉の構成礫として使用されていた。

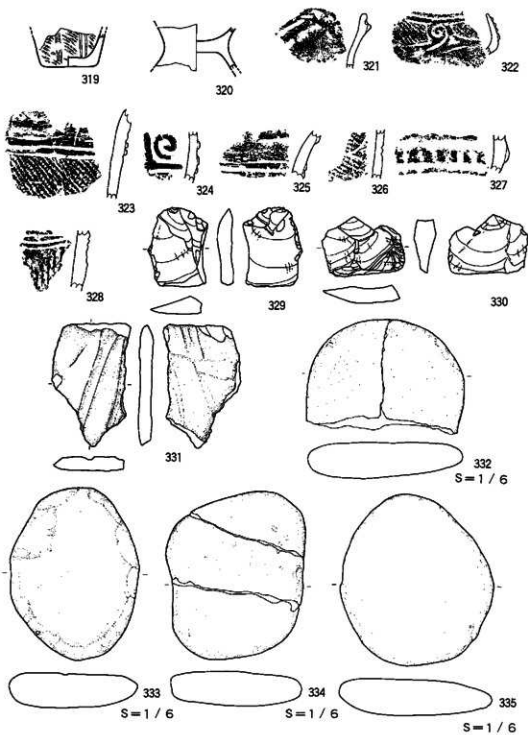
<土器> 319は小型の深鉢で、沈線文を持つ。320は無文の台付き鉢である。321は波状、322はキャリバー形の口縁部片で、渦巻をモチーフとする文様を持つ。323~325は隆沈線、326は沈線によって文様が描かれる。327は刻みを持つ隆帯が廻り、328は半截竹管による沈線文を持つ。

<石器> 329は一部に刃部加工が施されている剥片、330使用痕が見られる剥片である。331は有溝砥石で、両面に使用痕を持つ。332~335は粗製の石皿で、いずれも両面が使用されている。

時期 遺物が少なく詳細は不明であるが、縄文時代中期の遺構の可能性がある。



第59図 3Q-1 住居跡



第60圖 3Q-1住居跡出土遺物

1S-1 住居跡

遺構 (第61図・写真図版19)

<検出状況・重複関係> 試掘段階で石囲炉が検出され、存在が確認された住居跡である。

<規模・平面形> 斜面に立地していることから、下位にあたる南半部分の壁は検出できなかった。残存部から推定すると、径4mの歪な円形(隅丸方形)プランを呈するものと考えられる。

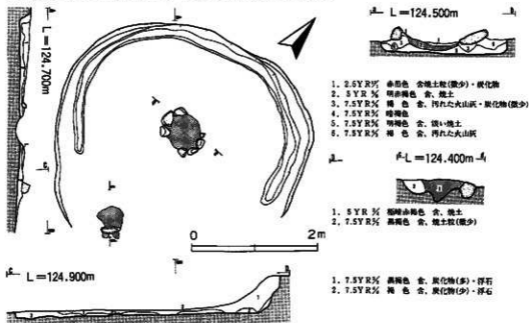
<埋土> 試掘トレンチによって、埋土の大半は失われており、壁際と下部が残存するだけである。埋土の下部は炭化物を含む黒褐色土と褐色土からなり、この境目には灰白色の粉状火山灰の小ブロックを挟む。

<壁・床面> 壁高は最高部で30cm、ほぼ垂直に立ち上がる。また、斜面上位にあたる西～北壁際には幅15～25cm、深さ8～20cmの壁溝が走る。床面はIV層上部～III層面で平坦で割合硬くしまる。

<柱穴> 検出されていない。

<炉・焼土> 炉は石囲炉で、床面のほぼ中央に位置する。長径15～30cmの礫を60×80cmに配して構築されている。内部には、深さ12cmの掘り方を持ち、最大6cmの厚さで焼土層が形成されている。

床面の南端に現地性焼土が検出された。40×55cmの範囲に最大18cmの厚さで薄い焼土層が形成されているが、当住居跡に伴うものかどうかは不明である。



第61図 1S-1 住居跡

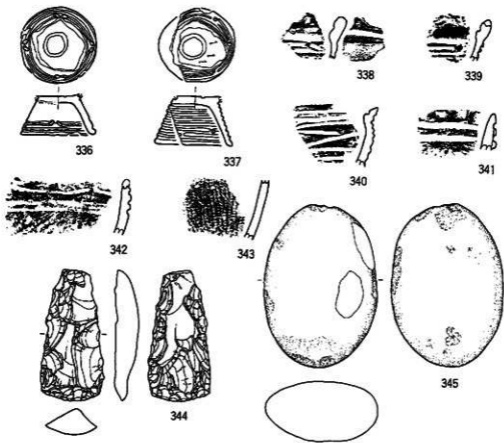
遺物 (第62図・写真図版69)

<出土状況>埋土の下部と床面から土器と石器が出土している。

<土器>336・337は台付き鉢で、いずれも台部のみが残存している。台部には沈線と小突起による変形工字文を持ち、底部内面には沈線で円文が描かれている。338～340は鉢の口縁部片で、沈線と小突起による変形工字文を持つ。341～343も沈線よる文様を持つ。

<石器>344は石笄で、全体に両面からの剥離加工によって成形されている。345は両面が使用されている磨石で、加熱を受けた痕跡が見られる。

時期 出土した土器の特徴から、縄文時代晩期末葉の遺構と考えられる。なお、床面から出土した炭化材の¹⁴C年代は、2850±80 Y. B. P. と土器編年から推定される年代よりやや古い数値を示している。



第62図 | S-1 住居跡出土遺物

(2)掘立柱建物跡

2H-1 建物跡

遺構 (第63図・写真図版20)

〈検出状況・重複関係〉IV層面で検出された。

2H-1土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

〈規模・平面形〉P1～P7の7本 (P3とP4は隣接する) で構成される桁行2間、梁行1間の建物跡である。柱間個々の距離は、P1-P2=2.5m、P2-P3=2.35m、P2-P4=2.7m、P3-P5=2.9m、P4-P5=2.8m、P5-P6=2.3m、P6-P7=2.2m、P7-P1=3.15mで全体としては、南側がやや開く長方形を呈する。

柱穴は径35～45cm、深さ31～45cmで、埋土は炭化物を含む暗褐色～褐色土で構成されるが、柱根底は確認できなかった。

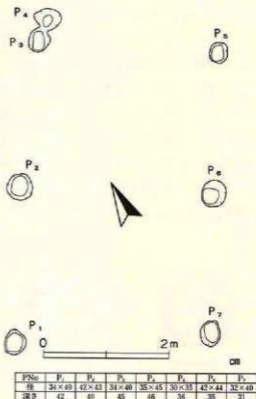
遺物 (第64図・写真図版69・70)

〈出土状況〉P1の埋土から、土器と石器が出土している。

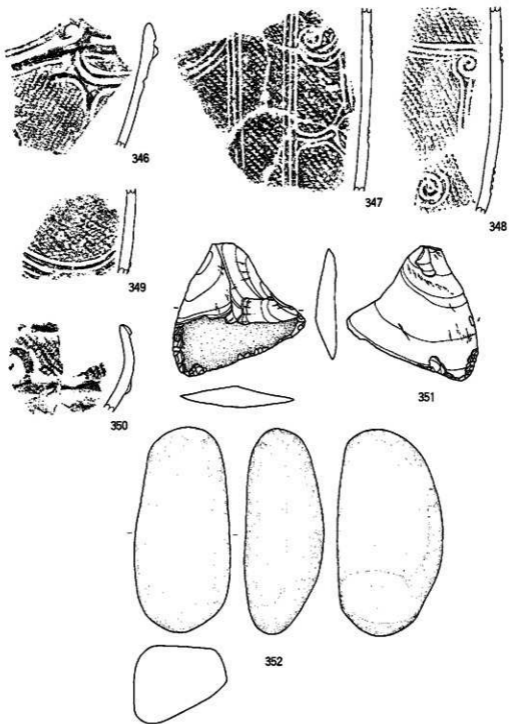
〈土器〉346は波状の口縁部片で、波頭部分に渦巻文が配される。347は沈線、349・349は隆沈線による文様を持つ。350は、キャリバー形土器の口縁部で、隆帯による文様を持つ。

〈石器〉351は、尖頭部分とその周辺部に、主に片面からの加工が加えられている削器である。352は1面と1側縁に使用痕を有する特殊磨石である。

時期 出土した土器から、縄文時代中期中葉の遺構と考えられる。



第63図 2H-1 建物跡



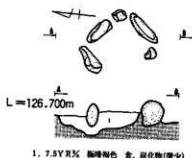
第64圖 2H-1 建物跡出土遺物

(3) 炉跡・焼土遺構

5 I-1 石囲炉 (第65図・写真図版20)

II層中位で検出された。竪穴住居跡に伴うものと考えられるが、柱穴・壁の立ち上がりとも確認できなかったので、独立した石囲炉として記述する。

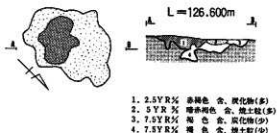
長径10～30cmの礎5個を、50×60cmの南西側が開くコ字状に配して構築されている。焼土層はなく、内部も周囲の土層と区別がつきにくいので、掘り方等は不明である。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。



第65図 5 I-1 石囲炉 S=1/30

5 C-1 焼土 (第66図・写真図版21)

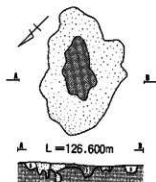
III層面で検出された。60×80cmの範囲に、最大10cmの厚さで焼土層が形成されている。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。



第66図 5 C-1 焼土

5 D-1 焼土 (第67図・写真図版21)

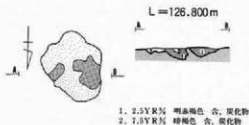
III層面で検出された。1×0.7mの範囲に、最大9cmの厚さで焼土層が形成されている。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。また、当焼土の南側約1.2mに位置する5 C-1 焼土は、同一面で検出されており、これとの関連が考えられるが、詳細は不明である。



第67図 5 D-1 焼土

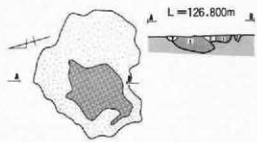
5 E-1 焼土 (第68図・写真図版21)

II層下部～III層面で検出された。45×57cmの範囲に、最大9cmの厚さで焼土層が形成されている。出土遺物はなく詳細は不明であるが、縄文時代の遺構と考えられる。



1. 2.5YR% 明赤褐色 含、炭化物
2. 7.5YR% 暗褐色 含、炭化物

第68図 5E-1 焼土



1. 2.5YR% 赤褐色 含、炭化物(多)
2. 7.5YR% 暗褐色 含、炭化物(多)・焼土粒

第69図 7E-1 焼土

S=1/30

7E-1 焼土 (第69図・写真図版22)

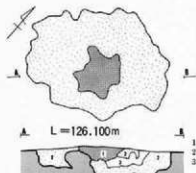
III層面で検出された。縄文時代中期中葉に位置づけられる、7E-1住居跡を切っている。1×0.8mの範囲に分布する。他に比べてよく焼けており、最大12cmの厚さでしっかりとした焼土層が形成されている。出土遺物はなく詳細は不明であるが、重複関係から中期中葉の遺構の可能性が高い。

9E-1 焼土 (第70図・写真図版22)

III層下部で検出された。1×1.2mの範囲に分布する。厚さは最大22cmに達するが、しっかりしたものではない。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

4F-1 焼土 (第71図・写真図版22)

II層下部～III層面で検出された。52×95cmの範囲に最大16cmの厚さで、淡い焼土層が形成されている。検出時、周辺部には石皿や磨石類が散在しており、竪穴等の遺構に伴う焼土の可能



1. 2.5YR% 赤褐色 含、炭化物(多)
2. 7.5YR% 暗褐色 含、炭化物(多)・焼土粒
3. 7.5YR% 明褐色 含、炭化物(少)

第70図 9E-1 焼土 S=1/30



1. 2.5YR% 赤褐色 含、炭化物
2. 7.5YR% 明褐色 含、炭化物
3. 7.5YR% 暗褐色 含、炭化物(少)

第71図 4F-1 焼土 S=1/30

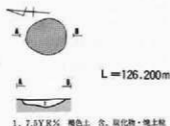
性が強い。詳細は不明であるが、縄文時代の遺構であろう。

3H-1 焼土 (第72図・写真図版23)

III層面で検出された。30×32cmの範囲に、最大6cmの厚さで焼土層が形成されている。他に比べて小規模だがよく焼けており、焼土層もしっかりしている。詳細は不明であるが、縄文時代の遺構であろう。

10H-1 焼土 (第73図・写真図版23)

II層中部で検出された。50×70cmの範囲に最大10cmの厚さで焼土層が形成されている。詳細は不明であるが、縄文時代の遺構と考えられる。



第72図 3H-1 焼土 S=1/30



第73図 10H-1 焼土 S=1/30

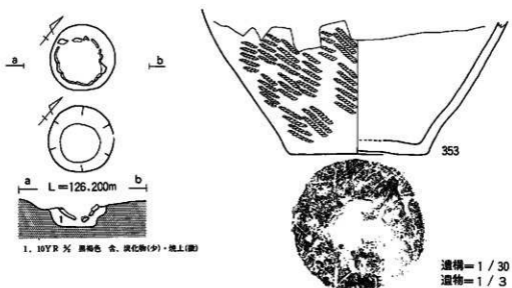
(4)埋設土器

5N-1 埋設土器 (第74図・写真図版23)

6N-1 住居跡の精査時に、IV層面で検出された。同住居跡を切る在り方をするが、これに伴う遺構の可能性もある。土器は径35cm、深さ16cmの掘り方に、正立の状態で埋置されている。

遺物は、埋設されていた土器(353)だけである。(第74図・写真図版70)胴部下半から底部が残存している。地文のみが施され、底面には木葉痕が見られる。

土器の特徴から推定して、縄文時代中期の遺構と考えられる。



1. 10YR 5/ 黒褐色 含、炭化物(少)・焼土(微)

第74図 5N-1 埋設土器・出土遺物

(5)土坑

5D-1 土坑 (第75図・写真図版24)

<検出状況・重複関係>Ⅲ層面で検出された。5D-1 住居跡を切っている。

<規模・形態>開口部径1.4×1.6m、底部径1.6m、深さ91cm。平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。底面はVI層上面で、平坦で硬くしまる。

<埋土>自然堆積。上部は黒褐色土、中部～下部は暗褐色～褐色土で構成される。

遺物はなく時期の詳細は不明である。

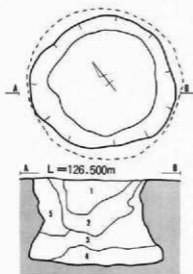
5D-2 土坑 (第76図・写真図版24)

<検出状況>Ⅲ層面で検出された。

<規模・形態>開口部径1.3×1.5m、底部径1.5m、深さ94cm。平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。底面はVI層上面で、平坦で硬くしまる。

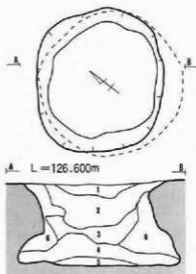
<埋土>自然堆積。上部は黒褐色土、中部～下部は暗褐色土で構成される。

遺物はなく時期の詳細は不明である。



1. 7.5YR 5/ 黒褐色 含、炭化物(少)
2. 7.5YR 5/ 黒褐色 含、炭化物(微)
3. 7.5YR 5/ 暗褐色 含、汚れた火山灰
4. 5YR 5/ 暗赤褐色 含、浮石少
5. 5YR 5/ 赤褐色 含、浮石少・汚れた火山灰

第75図 5D-1 土坑



1. 7.5YR 5/ 黒褐色 含、炭化物(少)
2. 7.5YR 5/ 暗褐色 含、浮石少
3. 5YR 5/ 暗赤褐色 含、浮石微少
4. 7.5YR 5/ 暗褐色 含、浮石多
5. 7.5YR 5/ 暗褐色 含、浮石多
6. 7.5YR 5/ 暗褐色 含、ひどく汚れた火山灰

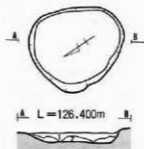
第76図 5D-2 土坑

3E-1 土坑 (第77図・写真図版24)

<検出状況> III層面で検出された。

<規模・形態> 開口部径1×0.9m、底部径80×95cm、深さ94cm。平面形は不整な円形、断面形は浅皿形を呈する。底面はIV層上面で、概ね平坦であるが、硬くしまるものではない。

<埋土> 上部は黒褐色土、下部は暗褐色土で構成される。遺物はなく時期の詳細は不明である。



1. 10YR 5/ 黒褐色 含、浮石
2. 7.5YR 5/ 暗褐色 含、黒褐色土(微)

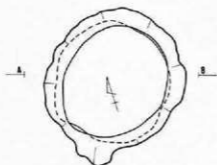
第77図 3E-1 土坑

6F-1 土坑 (第78図・写真図版25)

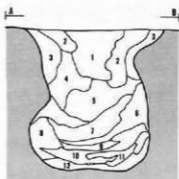
<検出状況> IV層面で検出された。

<規模・形態> 開口部径1.5m、底部径1.2m、深さ1.5m。平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。底面はVI層上面で、中央部が緩く凹み硬くしまる。

<埋土> 自然堆積。上部は黒色土、中部は黒褐色土、下部は黒褐色～褐色土で構成される。

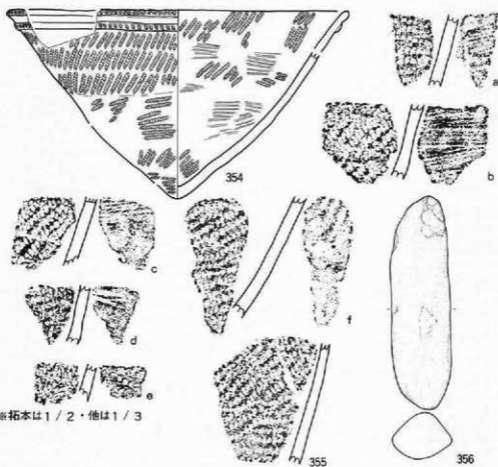


1. 7.5Y R 藍 色 含、大山沢(多)
2. 10Y R 藍褐色 含、大山沢(多)
3. 10Y R 暗褐色
4. 10Y R 暗褐色
5. 7.5Y R 暗褐色
6. 10Y R 明黄褐色 含、汚れの少ない大山沢



7. 10Y R 暗褐色
8. 10Y R 明黄褐色
9. 10Y R 暗褐色
10. 10Y R 明黄褐色
11. 10Y R 褐色 含、浮石
12. 10Y R 黄褐色 含、浮石
13. 10Y R 褐色 含、浮石、炭化物(少)

S = 1 / 40



※拓本は1/2・他は1/3

第78図 6F-1土坑・出土遺物

〈遺物〉底面直上部と埋土から、土器と石器が出土している。(第78図・写真図版70) 354 は底面直上から出土した土器で、a～fも同一固体である。尖底の深鉢で、口径に比べて器高は低い。胎土には砂を含むが、植物繊維は見られない。口縁部に縄文が施文された隆帯が巡る。地文はRLの単節縄文で、内面と口唇部にも施文される。また、内面中部には、条痕文も見られる。356は、一端部に敲打痕を持つ敲石である。

出土した土器の特徴から、縄文時代早期末葉の遺構と考えられる。

2H-1 土坑

(第79図・写真図版25)

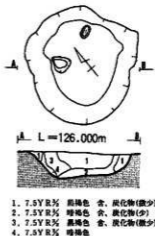
〈検出状況・重複関係〉IV層面で検出された。2H-1建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。

〈規模・形態〉開口部径1×1.3m、底部径70×90cm、深さ38cm。平面形は不整な隅円形、断面形は浅皿形を呈する。底面はIV層上面で、やや凹凸がある。

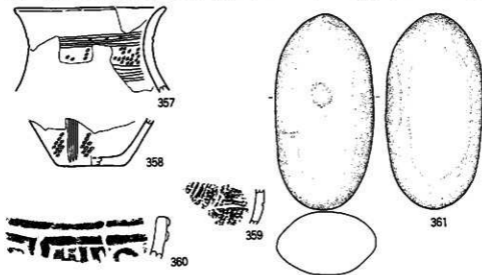
〈埋土〉自然堆積。黒褐色土と暗褐色土で構成される。

〈遺物〉埋土の下部から土器と石器が出土している。(第80図・写真図版71) 357～359は同一固体で、沈線による文様が施されている。360は太い隆帯による文様を持つ。361は両面が使用されている磨石である。

土器の特徴から、縄文時代中期中葉の遺構と考えられる。



第79図 2H-1 土坑



第80図 2H-1 土坑出土遺物

9H-1 土坑 (第81図・写真図版26)

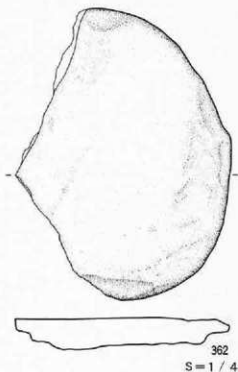
<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径1.4m、底部径1.4m、深さ1.6m。平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。底面はVI層上面で、平坦で硬くしまる。

<埋土>自然堆積。上部は黒色土、中部は暗褐色～黒褐色土、下部は褐色土で構成される。

<遺物>底面直上から石皿が出土している。(第82図・写真図版71) 片面のみが使用され、中央部は特に滑らかである。

時期を想定できる遺物はなく、詳細は不明である。

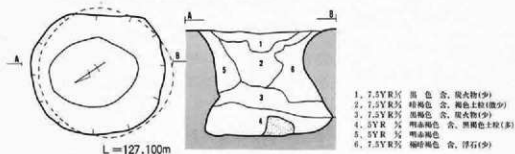


第81図 9H-1 土坑出土遺物

6I-1 土坑 (第83図・写真図版26)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径1.3×0.95m、底部



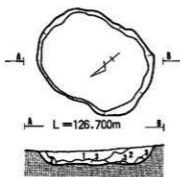
S=1/40

第82図 9H-1 土坑

径1.1×0.9m、深さ16cm。平面形は階円形、断面形は舟形を呈する。底面はV層上面で、いくぶん凹凸があるが硬くしまる。

<埋土>一部木根による攪乱を受けているが、黒色土～黒褐色土で構成される。

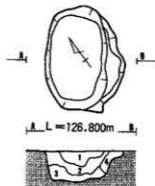
遺物はなく、時期を含めた詳細は不明であるが、形状から推定して墓塚の可能性がある。



1. 10YR 7/2 黒色 含、炭火物(圖)
2. 7.5YR 7/2 黒褐色
3. 7.5YR 7/2 黒色 含、褐色土ブロック
4. 10YR 7/2 黒色

S = 1 / 40

第83図 6I-1 土坑



1. 7.5YR 7/2 黒褐色
2. 10YR 7/2 黒褐色 含、炭火物(圖)
3. 7.5YR 7/2 黒褐色 含、炭火物(圖)
4. 7.5YR 7/2 黒褐色

S = 1 / 40

第84図 7I-1 土坑

7I-1 土坑 (第84図・写真図版26)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径1,1×0,85m、底部径55×90cm、深さ32cm。平面形は階円形、断面形は舟形を呈する。底面はV層上面で、概ね平坦である。

<埋土>上部は褐色土、中部は黒褐色土、下部は暗褐色土で構成される。

遺物はなく、時期を含めた詳細は不明であるが、6I-1土坑と共に墓塚の可能性はある。

3L-1 土坑 (第85図・写真図版27)

<検出状況・重複関係>IV層面で検出された。2M-1住居跡を切っている。

<規模・形態>開口部径1,4m、底部径1,8×1,7m、深さ1,6m。平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。底面はVI層中部で、平坦で硬くしまる。

<埋土>全体に褐色～暗褐色で構成され、人為的な堆積状況を示す。

<遺物>埋土の上部から土器片が出土している。(第85図・写真図版72) 363は隆沈線、364・364は太い隆帯による文様を持つ。366は網目状襷糸文、367は単節縄文を地文とする。

土器の特徴及び重複関係から、縄文時代中期の遺構と考えられる。

4L-1 土坑 (第86図・写真図版27)

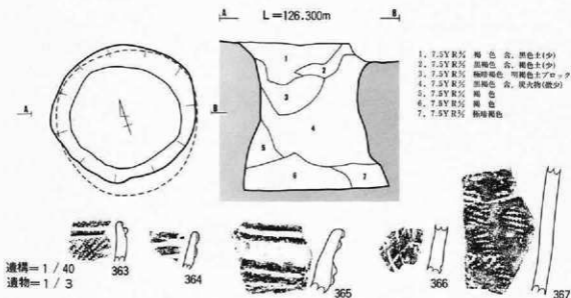
<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径1×1,2m、底部径1,7×1,9m、深さ1,5m。平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。底面はVI層中部で、中央部が緩く凹み、硬くしまる。

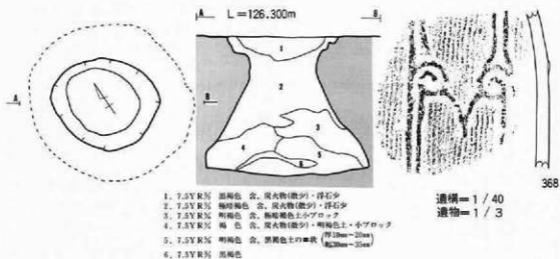
＜埋土＞上部は黒褐色土、中部は暗褐色土、下部は褐色～明褐色土で構成され、中部～下部は、人為的な堆積状況を示す。

＜遺物＞埋土から土器片が出土している。(第86図・写真図版72) 大型の深鉢片で、隆沈線による渦巻文と棘状文を持つ。

出土した土器から、縄文時代中期中葉の遺構の可能性がある。



第85図 4L-1土坑・出土遺物



第86図 4L-1土坑・出土遺物

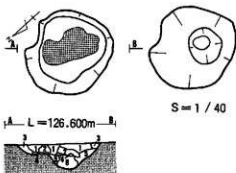
8 L-1 土坑 (第87図・写真図版27)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径90×95cm、底部径70cm、深さ13cm。平面形は不整な円形、断面形は浅皿形を呈する。底面及び壁面は焼けており、最大2cmの厚さで焼土層が形成されている。また、焼土層の下位には、深さ14cmの不整な掘り方を持つ。

<埋土>炭化物・焼土粒を含む黒色~暗褐色土で構成される。

遺物はなく、時期の詳細は不明である。



1. 10Y R % 黒色 含、炭大物(多)焼土粒(多)
2. 10Y R % 暗褐色
3. 10Y R % 褐色 含、炭大物、焼土粒(多)
4. 10Y R % 赤褐色 焼土
5. 10Y R % 褐色
6. 10Y R % 暗褐色 含、炭大物(多)

第87図 6 L-1 土坑

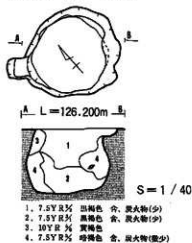
3 N-1 土坑 (第88図・写真図版28)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径1,1×0,9m、底部径80cm、深さ70cm。平面形は円形、断面形は不整なフラスコ形を呈する。底面はVI層上面で、いくぶん凹凸はあるが、硬くしまる。

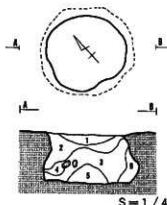
<埋土>主に黒褐色土で構成される。

遺物はなく、時期の詳細は不明である。



1. 7.5Y R % 赤褐色 含、炭大物(少)
2. 7.5Y R % 黒褐色 含、炭大物(少)
3. 10Y R % 黄褐色
4. 7.5Y R % 暗褐色 含、炭大物(多)

第88図 3 N-1 土坑



4 N-1 土坑

(第89図・写真図版28)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径80×90cm、底部径1×0,9m、深さ52cm。平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。底面はVI層下部面で、平坦で硬くしまる。

<埋土>上部は黒褐色~暗褐色土、下部は褐色土で構成される。

遺物はなく、時期の詳細は不明である。

1. 7.5Y R % 黒褐色 含、炭大物(少)、明褐色土ブロック
2. 7.5Y R % 暗褐色 含、炭大物(多)、褐色土小ブロック
3. 7.5Y R % 褐色 含、浮石
4. 7.5Y R % 黒褐色 含、明褐色土ブロック
5. 7.5Y R % 褐色
6. 7.5Y R % 褐色 含、浮石

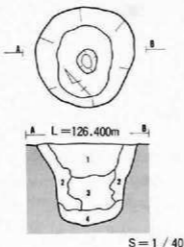
第89図 4 N-1 土坑

6N-1 土坑

(第90図・写真図版28)

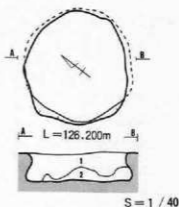
〈検出状況・重複関係〉IV層相当面で検出された。6N-1住居跡を切っている。

〈規模・形態〉開口部径1.05m、底部径60×76cm、深さ78cm。平面形は円形、断面形は不整な筒状を呈する。底面はVI層上面で、中央部に凹を持ち、硬くしまる。



1. 10Y R ㊄ 黒褐色
2. 10Y R ㊄ 黒褐色
3. 10Y R ㊄ 黒褐色
4. 10Y R ㊄ 黒褐色 欠、暗褐色土ブロック

第90図 6N-1 土坑



1. 7.5Y R ㊄ 褐色 欠、炭化物(最少)
2. 7.5Y R ㊄ 明褐色

第91図 10-1 土坑

〈埋土〉主に黒褐色土で構成される。

遺物はなく時期の詳細は不明だが、重複関係から縄文時代中期中葉以降の遺構と考えられる。

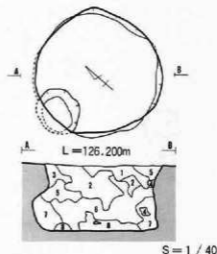
10-1 土坑 (第91図・写真図版29)

〈検出状況〉IV層面で検出された。

〈規模・形態〉開口部径1.1×1.2m、底部径1.1×1.2m、深さ29cm。平面形は円形、断面形は浅いフラスコ形を呈する。底面はV層面で、平坦で硬くしまる。

〈埋土〉上部は褐色土、下部は明褐色土で構成される。

遺物はなく、時期の詳細は不明である。



1. 7.5Y R ㊄ 暗褐色 欠、炭化物(最少)・浮石
2. 7.5Y R ㊄ 暗褐色 欠、炭化物(最少)・浮石
3. 7.5Y R ㊄ 暗褐色 欠、褐色土(固)・炭化物(最少)・浮石
4. 7.5Y R ㊄ 暗褐色 欠、褐色土(固)・炭化物(最少)・浮石
5. 7.5Y R ㊄ 暗褐色 欠、炭化物(最少)・明褐色土大ブロック
6. 7.5Y R ㊄ 暗褐色 欠、褐色土、明褐色土(固)・浮石
7. 7.5Y R ㊄ 暗褐色 欠、褐色土ブロック・浮石
8. 7.5Y R ㊄ 暗褐色 欠、浮石

第92図 40-1 土坑

40-1 土坑 (第92図・写真図版29)

〈検出状況〉IV層面で検出された。

〈規模・形態〉開口部径1.3×1.4m、底部径1.2×1.3m、深さ90cm。平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。底面の東壁際に45×50cm、深さ11cmの階円形

の小土坑を持つ。底面はVI層上面で、平坦で硬くしまる。

<埋土>上部は黒褐色～暗褐色土、中部は明褐色土、下部は黒褐色土で構成され、人為的な堆積状況を呈する。

遺物はなく、時期の詳細は不明である。

50-1 土坑 (第93図・写真図版29)

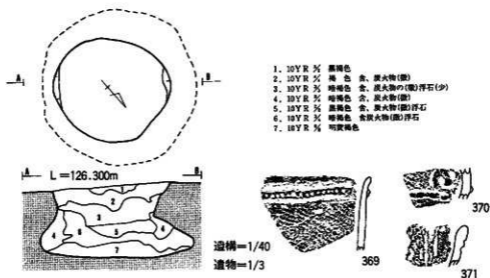
<検出状況・重複関係>III層面で検出された。6N-1住居跡を切る。

<規模・形態>開口部径1,1×1,25m、底部径1,65m、深さ75cm。平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。底面はVI層下部面で、平坦で硬くしまる。

<埋土>上部は黒褐色～暗褐色土、中部は黒褐色土、下部は褐色土で構成される。

<遺物>埋土から土器片が出土している。(第93図・写真図版72) 369は、頂部に円形の小刺突が連続する細い隆帯が巡る。370は隆沈線、371は沈線による文様を持つ。

出土した遺物と重複関係から推定して、縄文時代中期中葉以降の遺構と考えられる。



第93図 50-1 土坑・出土遺物

60-1 土坑 (第94図・写真図版30)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径1,4×1,7m、底部径1,3×1,5m、深さ40cm。平面形が不整な階円形を呈する皿状土坑である。北壁はオーバーハングする。底面はVI層上面で、凹凸があるが硬く

しまる。

<埋土>自然堆積。上部は黒褐色、中部は暗褐色土、下部は褐色土で構成される。

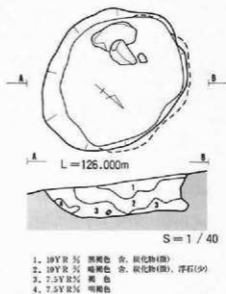
西壁際から3~4個の巨礫が検出されたが、いずれにも使用した痕跡は認められない。時期の詳細は不明である。

70-1 土坑 (第95図・写真図版30)

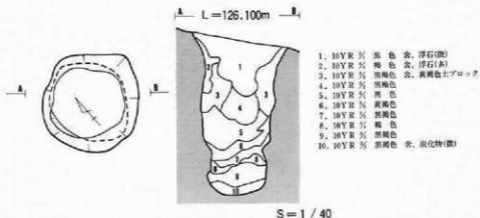
<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径1×1.1m、底部径80×95cm、深さは最深部で1.75m。平面形は円形、断面形は筒状を呈する。底面はVII層面で、中央部が緩く凹む。逆茂木痕が検出されていないことから、土坑として扱ったが、形態から考えると陥し穴の可能性はある。

<埋土>自然堆積。上部~中部は黒色~黒褐色土、下部は黒褐色~褐色土で構成される。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。



第94図 6 第94図 60-1 土坑



第95図 70-1 土坑

70-2 土坑 (第96図・写真図版30)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径85cm、底部径80×90cm、深さは最深部で1.25m。平面形は円形、断

面形は細長いフラスコ形を呈する。底面はVI層面で、平坦で硬くしまる。逆茂木痕が検出されていないことから、土坑として扱ったが、形態から考えると陥し穴の可能性はある。

<埋土>上部～中部は黒褐色土、下部は褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

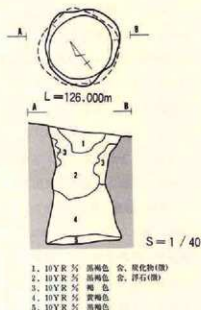
1P-1 土坑 (第97図・写真図版31)

<検出状況>IV層面で検出された。

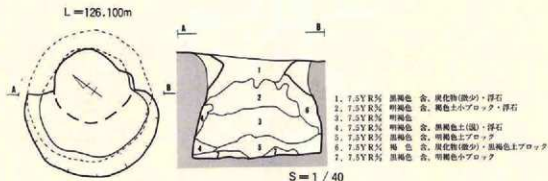
<規模・形態>開口部西半を掘りすぎている。開口部径約80cm、底部径1,3×1,4m、深さ1,1m。平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。底面はVI層面で、平坦で硬くしまる。

<埋土>上部は黒褐色土、中部は明褐色土、下部は黒褐色土で構成され、中部は人為的な堆積状況を呈する。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。



第96図 70-2 土坑



第97図 1P-1 土坑

1P-2 土坑 (第98図・写真図版31)

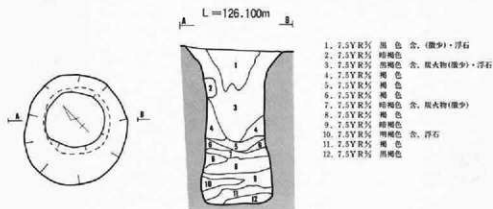
<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径1,1×1,2m、底部径70×75cm、深さは最深部で1,7m。平面形は円形、断面形は細長いフラスコ形を呈する。底面はVII層面で平坦である。逆茂木痕が検出されて

いないことから、土坑として扱ったが、形態から考えると陥し穴の可能性はある。

<埋土>自然堆積。上部は黒色～黒褐色土、中部～下部は暗褐色～褐色土の葉理層で構成される。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。



第98図 1P-2土坑

S=1/40

2P-1土坑 (第99図・写真図版31)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径1,2×1,35m、底部径1,5×1,6m、深さ78cm。平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。底面はVI層面で、平坦で硬くしまる。

<埋土>上部は黒褐色土、下部は褐色土で構成される。

<遺物>底面直上から土器が出土している。(第99図・写真図版72) 372は完形の深鉢で、口唇部には指頭圧痕状の凹凸を持ち、口縁部は無文となる。373は小型の壺である。

出土した土器の特徴から、縄文時代晩期後葉～末葉の遺構と考えられる。

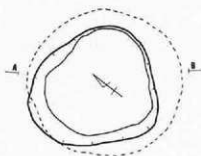
2P-2土坑 (第100図・写真図版32)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径1,35×1,5m、底部径1,5m、深さ1,1m。平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。底面はVI層面で、平坦で硬くしまる。

<埋土>自然堆積。全体に黒褐色土が主体となって構成される。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。



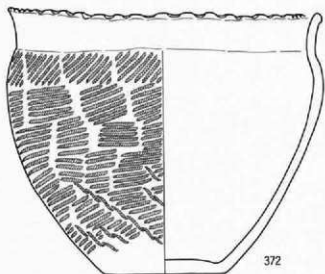
A L=126.000m B₁



1. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 暗褐色 含、炭化物(最少)・浮石
2. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 暗褐色 含、炭化物(最少)・浮石
3. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 暗褐色 含、明褐色土(混)
4. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 褐色
5. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 暗褐色 含、炭化物(最少)・浮石
6. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 明褐色 含、褐色土ブロック
7. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 暗褐色 含、浮石
8. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 褐色 含、浮石

遺構=1/40

遺物=1/3



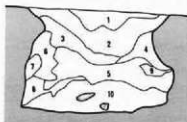
372



373

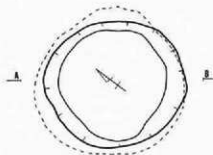
第99図 2P-1土坑・出土遺物

A L=126.100m B₁



S=1/40

1. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 暗褐色 含、炭化物(最少)・浮石
2. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 暗褐色 含、炭化物(少)・小礫・浮石
3. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 暗褐色 含、炭化物(最少)・褐色土ブロック
4. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 暗褐色 含、明褐色土ブロック
5. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 暗褐色 含、明褐色ブロック・浮石
6. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 褐色 含、暗褐色ブロック
7. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 褐色
8. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 暗褐色
9. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 明褐色 含、暗褐色、褐色(混)
10. 7.5Y R $\frac{5}{6}$ 暗褐色 含、褐色ブロック



第100図 2P-2土坑

2 P-3 土坑

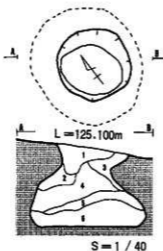
(第101図・写真図版32)

〈検出状況〉IV層面で検出された。

〈規模・形態〉開口部径80cm、底部径1.1×1.3m、深さは最深部で90cm。平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。底面はVI層面で、平坦で硬くしまる。

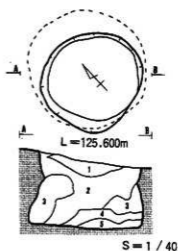
〈埋土〉自然堆積。黒褐色土と暗褐色土が主体となって構成される。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。



1. 7.5Y R% 黒褐色 土、炭化物(最少)
2. 7.5Y R% 暗褐色 土、褐色土ブロック
3. 7.5Y R% 暗褐色 土、褐色土ブロック
4. 7.5Y R% 暗褐色 土、砂石
5. 7.5Y R% 暗褐色 土、砂石
6. 7.5Y R% 暗褐色 土

第101図 2 P-3 土坑



1. 7.5Y R% 暗褐色 土
2. 7.5Y R% 暗褐色 土、炭化物(最少)
3. 7.5Y R% 暗褐色 土
4. 7.5Y R% 暗褐色 土
5. 7.5Y R% 暗褐色 土

第102図 3 Q-1 土坑

3 Q-1 土坑 (第102図・写真図版32)

〈検出状況〉IV層面で検出された。

〈規模・形態〉開口部径1.1m、底部径1.25m、深さは最深部で75cm。平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。底面はVI層面で、平坦で硬くしまる。

〈埋土〉自然堆積。黒褐色土と暗褐色土が主体となって構成される。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

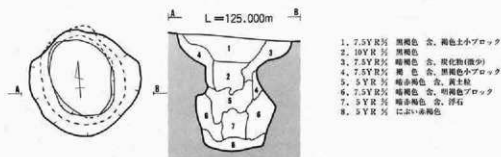
4 Q-1 土坑 (第103図・写真図版33)

〈検出状況〉IV層面で検出された。

〈規模・形態〉開口部径1.15×1.2m、底部径70×90cm、深さは最深部で1.25m。平面形は歪な円形、断面形は不整なフラスコ形を呈する。底面はVI層面で、中央部が凹む。

〈埋土〉上部は黒褐色土、中部～下部は暗褐色土～褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。



第103図 4Q-1 土坑

S = 1 / 40

(6) 陥し穴状遺構

3C-1 陥し穴状遺構 (第104図・写真図版33)

<検出状況> IV層面で検出された。

<規模・形態> 開口部径1.55m、底部1m、深さ1.1m。平面形は開口部が円形、底部は隅丸方形に近い円形を呈する。底面はVI層上面で、中央部に径22cm、深さ52cmの逆茂木痕と考えられる小土坑を持つ。

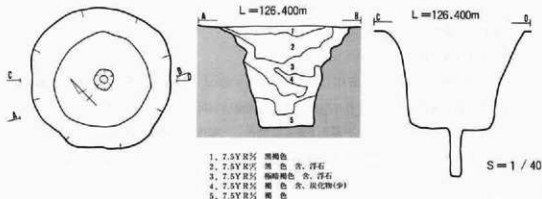
<埋土> 自然堆積。上部は黒色～暗褐色土、下部は褐色土で構成される。

遺物はなく、時期の詳細は不明である。

4E-1 陥し穴状遺構 (第105図・写真図版33)

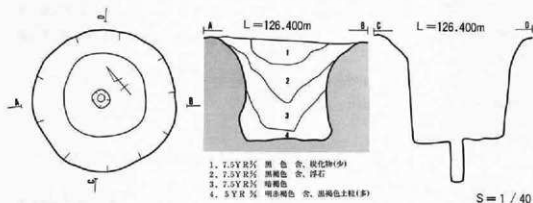
<検出状況> IV層面で検出された。

<規模・形態> 開口部径1.5m、底部85×90cm、深さ1.15m。平面形は開口部が円形、底部は



第104図 3C-1 陥し穴

S = 1 / 40



第105図 4E-1 陥し穴

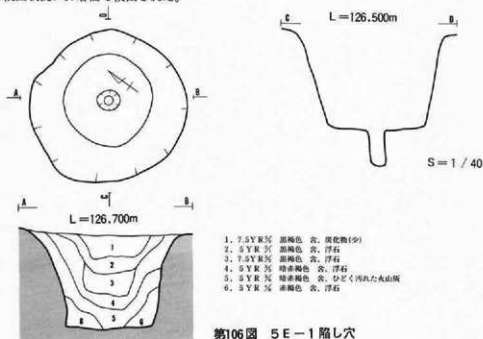
隅丸方形に近い円形を呈する。底面はVI層上面で、中央部に径20cm、深さ45cmの逆茂木痕と考えられる小土坑を持つ。

<埋土>自然堆積。上部は黒色～黒褐色土、下部は暗褐色～褐色土で構成される。

遺物はなく、時期の詳細は不明である。

5E-1 陥し穴状遺構 (第106図・写真図版34)

<検出状況>IV層面で検出された。



第106図 5E-1 陥し穴

<規模・形態>開口部径1,1×1,2m、底部90×95cm、深さ1m。平面形は開口部が円形、底部は隅丸方形に近い円形を呈する。底面はVI層上面で、中央部に径25cm、深さ40cmの逆茂木痕と考えられる小土坑を持つ。

<埋土>自然堆積。上部は黒褐色土、下部は暗褐色～褐色土で構成される。

遺物はなく、時期の詳細は不明である。

6E-1 陥し穴状遺構 (第107図・写真図版34)

<検出状況・重複関係>IV層面で検出された。5D-1住居跡を切る。

<規模・形態>開口部径1,5m、底部1m、深さ1m。平面形は開口部が円形、底部は隅丸方形に近い円形を呈する。底面はVI層上面で、中央部に径15cm、深さ45cmの逆茂木痕と考えられる小土坑を持つ。

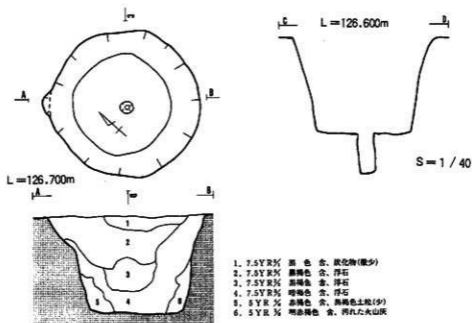
<埋土>自然堆積。上部は黒色～黒褐色土、下部は暗褐色～褐色土で構成される。

遺物はなく時期の詳細は不明であるが、重複から縄文時代中期より以前の遺構と考えられる。

7E-1 陥し穴状遺構 (第108図・写真図版34)

<検出状況・重複関係>IV層面で検出された。7E-1住居跡に切られている。

<規模・形態>開口部径1×1,1m、底部70×75cm、深さ70cm。平面形は開口部・底部とも



第107図 6E-1 陥し穴

円形を呈する。底面はVI層上面で、中央部に径25cm、深さ56cmの逆茂木痕と考えられる小土坑を持つ。

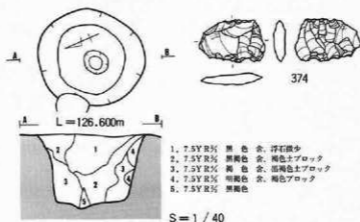
〈埋土〉自然堆積。

上部は黒色土、下部は黒褐色～褐色土で構成される。また、明瞭なものではないが、逆茂木の痕跡が見られる。

〈遺物〉埋土から模

形石器が出土している。(第108図・写真図版72)

時期の詳細は不明であるが重複関係から、縄文時代中期中葉より以前の遺構と考えられる。

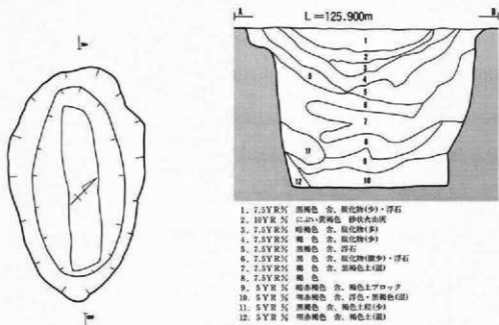


第108図 7E-1 陥し穴状遺構・出土遺物

9E-1 陥し穴状遺構 (第109図・写真図版35)

〈検出状況〉III層面で検出された。

〈規模・形態〉開口部径2,5×1,5m、底部0,35×1,7m、深さ1,7m。平面形は開口部が楕円



第109図 9E-1 陥し穴

S = 1 / 40

形、底部は細長い溝状を呈する。底面はVI層上面で、平坦であるが硬くしまるものではない。

<埋土>自然堆積。上部は黒色～褐色土、中部は黒褐色～褐色土、下部は褐色～明褐色土で構成される。また、上部には灰白色の砂状火山灰が堆積する。

遺物はなく、時期の詳細は不明である。

2H-1 陥し穴状遺構 (第110図・写真図版35)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径1.5m、底部1.1×1.25m、深さ1.1m。平面形は開口部が円形、底部は隅丸方形に近い円形を呈する。底面はVI層上面で、中央部に径25cm、深さ50cmの逆茂木痕と考えられる小土坑を持つ。

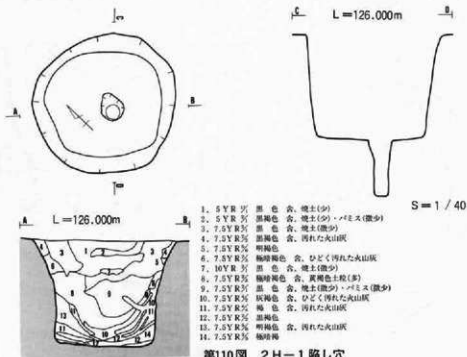
<埋土>自然堆積。上部～中部は黒色～暗褐色、下部は黒褐色～明褐色土で構成される。

遺物はなく、時期の詳細は不明である。

3H-1 陥し穴状遺構 (第111図・写真図版35)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径1.45×1.55m、底部90×95cm、深さ1m。平面形は開口部が円形、底部は隅丸方形に近い円形を呈する。底面はVI層上面で、中央部に径25cm、深さ78cmの逆茂木

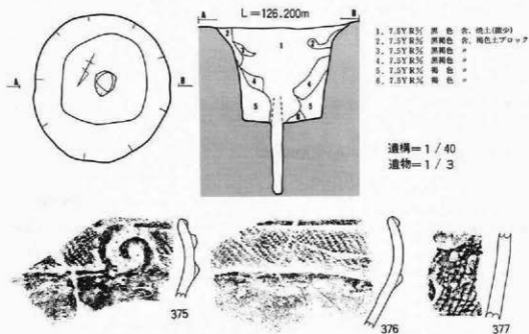


痕と考えられる小土坑を持つ。

<埋土>自然堆積。上部～中部は黒色～黒褐色、下部は褐色～明褐色土で構成される。また、明瞭なものではないが、逆茂木の痕跡が見られる。

<遺物>埋土の上部から土器が出土している。(第111図・写真図版72) 375・376は同一固体である。キャリバー形の口縁部で、隆帯による文様を持つ。377は貼り付け文を持つ。

詳細は不明であるが、出土した土器から縄文時代中期以前の遺構と考えられる。



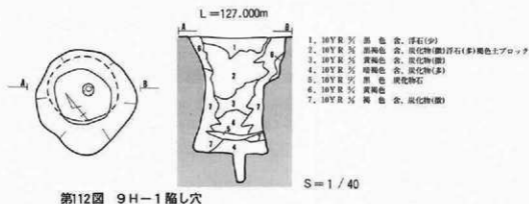
第111図 3H-1 陥し穴・出土遺物

9H-1 陥し穴状遺構 (第112図・写真図版36)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径1×1.1m、底部65×75cm、深さ1.2m。平面形は開口部・底部とも円形を呈する。底面はVI層上面で、中央部に径17cm、深さ30cmの逆茂木痕と考えられる小土坑を持つ。

<埋土>自然堆積。上部～中部は黒色～黒褐色、下部は暗褐色～明褐色土で構成される。また、下部には最大6cmの厚さで、草類の炭化物が堆積する。なお、この炭化物からは、6090土



第112図 9H-1 陥し穴

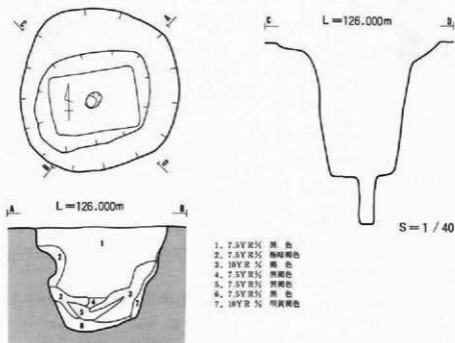
130 Y. B. P. の年代が得られた。

出土遺物はないが、¹⁴C年代は縄文時代早期にあたる。

1 J-1 陥し穴状遺構 (第113図・写真図版36)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径1.7m、底部65×90cm、深さ1.7m。平面形は開口部が歪な円形、底部は長方形を呈する。底面はVI層面で、中央部に径20cm、深さ50cmの逆茂木痕と考えられる小



第113図 1 J-1 陥し穴

土坑を持つ。

＜埋土＞自然堆積。上部～中部は黒色～黒褐色、下部は黒褐色～褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

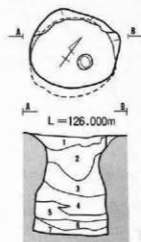
3M-1 陥し穴状遺構 (第114図・写真図版36)

＜検出状況・重複関係＞IV層面で検出された。2M-1住居跡に切られている。

＜規模・形態＞開口部径85×95cm、底部85×90cm、深さ1m。平面形は開口部・底部とも円形を呈する。底面はVI層面で、中央部に径17cm、深さ42cmの逆茂木痕と考えられる小土坑を持つ。

＜埋土＞自然堆積。上部～中部は黒褐色、下部は暗褐色～褐色土で構成される。

出土遺物はなく詳細は不明であるが、重複関係から縄文時代中期中葉より以前の遺構と考えられる。



1. 7.5YR% 黒褐色 含、炭化物(少)・浮石少
2. 7.5YR% 暗褐色 含、炭化物(少)・浮石少
3. 7.5YR% 暗褐色 含、炭化物(少)・浮石少
4. 7.5YR% 褐色 含、暗褐色土(固)・浮石少
5. 7.5YR% 褐色 含、暗褐色土ブロック
6. 7.5YR% 褐色 含、暗褐色土小ブロック
7. 7.5YR% 暗褐色 含

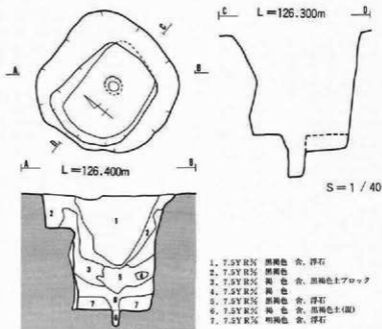
第114図 3M-1 陥し穴

4N-1 陥し穴状遺構

(第115図・写真図版37)

＜検出状況＞IV層面で検出された。

＜規模・形態＞開口部径1.4m、底部0.7×1m、深さ1.2m。平面形は開口部が円形、底部は隅丸方形に近い円形を呈する。西半を掘りすぎているが、底面はVI層上面で、中央部に径20cm、深さ47cmの逆茂木痕と考えられる小土坑を持つ。



1. 7.5YR% 黒褐色 含、浮石
2. 7.5YR% 黒褐色 含
3. 7.5YR% 褐色 含、暗褐色土ブロック
4. 7.5YR% 褐色 含
5. 7.5YR% 黒褐色 含、浮石
6. 7.5YR% 褐色 含、暗褐色土(固)
7. 7.5YR% 暗褐色 含、浮石

第115図 4N-1 陥し穴

<埋土>自然堆積。上部～中部は黒褐色主体、下部は褐色～明褐色土で構成される。また、明瞭なものではないが、逆茂木の痕跡が見られる。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

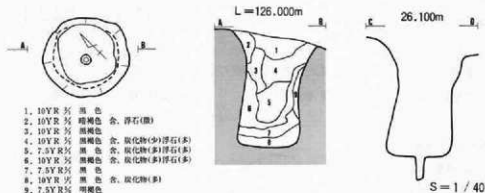
6 O-1 陥し穴状遺構 (第116図・写真図版37)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径95cm、底部径75cm、深さは最深部で1.2m。平面形は開口部・底部とも円形を呈する。底面はVI層面で、中央部に径10cm、深さ25cmの逆茂木痕と考えられる小土坑を持つ。

<埋土>自然堆積。最下部を除き、黒色～黒褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。



第116図 6 O-1 陥し穴

4 P-1 陥し穴状遺構 (第117図・写真図版37)

<検出状況>IV層面で検出された。

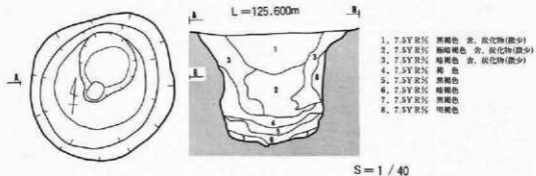
<規模・形態>開口部径1.5×1.65m、底部径1×0.95m、深さ1.2m。平面形は開口部が歪な円形、底部は隅丸方形に近い円形を呈する。底面はVI層面で、中央部に径25cm、深さ48cmの逆茂木痕と考えられる小土坑を持つ。また、この小土坑の北側に接して径60cm、深さ38cmの土坑が検出されている。

<埋土>自然堆積。上部～中部は黒色～黒褐色土、下部は黒褐色～褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

6 P-1 陥し穴状遺構 (第118図・写真図版38)

<検出状況・重複関係>IV層面で検出された。6 P-2 陥し穴状遺構と重複する。当初重複



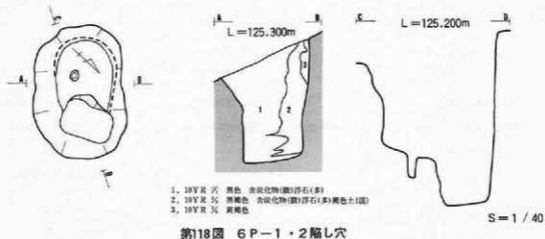
第117図 4P-1 陥し穴

がつかめず同一の遺構として精査を行なったため、断面からの新旧関係は把握できなかった。精査時の観察からは、当陥し穴状遺構が新しいと考えられる。

<規模・形態> 開口部径約90cm、底部径約60×80cm、深さは最深部で1.3m。平面形は開口部・底部とも階円形を呈するものと考えられる。底面はⅦ層面で、中央部に径10cm、深さ25cmの逆茂木痕と考えられる小土坑を持つ。また、重複のため明確に検出できなかったが、同様の小土坑が東側にも存在していた。

<埋土> 全体に黒色～黒褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。



第118図 6P-1・2 陥し穴

6P-2 陥し穴状遺構 (第118図・写真図版38)

<検出状況・重複関係> Ⅳ層面で検出された。6P-1 陥し穴状遺構と重複する。

<規模・形態> 開口部径約90cm、底部45×55cm、深さは最深部で1.85m。平面形は開口部が円形、底部は長方形呈する。底面はⅦ層まで掘り込まれている。

<埋土>当初重複がつかめず同一の遺構として精査を行なったため、土層断面は作成していない。精査時の観察では、黒色～黒褐色土が主体となっていた。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

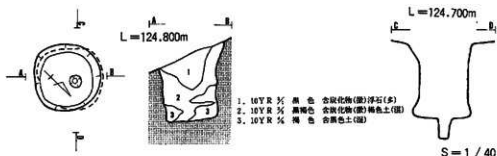
6 P-3 陥し穴状遺構 (第119図・写真図版38)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径70cm、底部径70cm、深さは最深部で80m。平面形は開口部・底部とも円形を呈する。底面はVII層面で、中央部に径15cm、深さ25cmの逆茂木痕と考えられる小土坑を持つ。

<埋土>自然堆積。上部は黒色～黒褐色土、下部は褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。



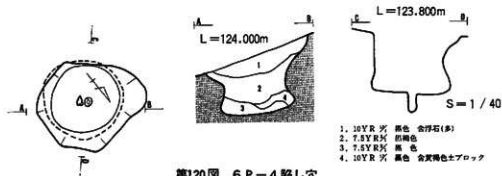
第119図 6 P-3 陥し穴

6 P-4 陥し穴状遺構 (第120図・写真図版39)

<検出状況>IV層相当面で検出された。

<規模・形態>開口部径1×1.2m、底部径85cm、深さは最深部で75cm。平面形は開口部が不整形、底部は円形を呈する。底面はVII層面で、中央部に径10cm、深さ20cmの逆茂木痕と考えられる小土坑を持つ。

<埋土>上部は黒色土、中部は暗褐色土主体の混合土、下部は黒色土で構成される。中部の



第120図 6 P-4 陥し穴

混合土は、人為的な堆積土層の可能性がある。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

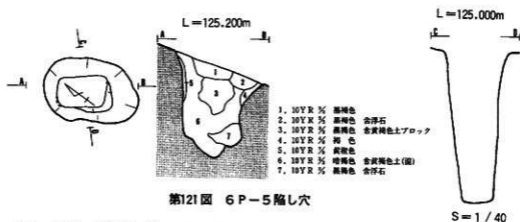
6 P-5 陥し穴状遺構 (第121図・写真図版39)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径0.7×1m、底部33×50cm、深さは最深部で1.7m。平面形は開口部が楕円形、底部は長方形を呈する。底面はⅧ層まで掘り込まれている。

<埋土>精査時の不手際から、実測できた部分は埋土の上部のみである。黒色土と黒褐色土が主体をなしている。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。



6 P-6 陥し穴状遺構 (第122図・写真図版39)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径1.1×0.85m、底部径95cm、深さは最深部で70cm。平面形は開口部が楕円形、底部は円形を呈する。底面はⅦ層面で、中央部に径10cm、深さ30・35cmの逆茂木痕と考えられる小土坑2個を持つ。

<埋土>自然堆積。上部は黒色-黒褐色土、下部は褐色土で構成される。



出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

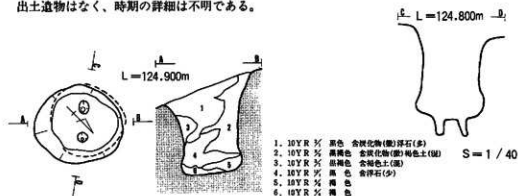
7P-1 陥し穴状遺構 (第123図・写真図版40)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径80×95cm、底部径75×80cm、深さは最深部で1m。平面形は開口部が楕円形、底部は円形を呈する。底面はⅢ層面で、中央部に径10・15cm、深さ20cmの逆茂木痕と考えられる小土坑2個を持つ。

<埋土>自然堆積。上部～中部は黒色～黒褐色土、下部は褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。



第123図 7P-1 陥し穴

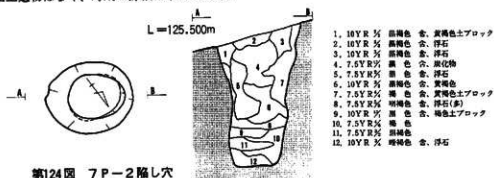
7P-2 陥し穴状遺構 (第124図・写真図版40)

<検出状況>IV層面で検出された。

<規模・形態>開口部径75×95cm、底部径50×55cm、深さは最深部で1.5m。平面形は開口部が楕円形、底部は円形を呈する。底面はⅢ層面まで掘り込まれている。

<埋土>自然堆積。上部～中部は黒色～黒褐色土、下部は黒褐色～褐色土の薬理層で構成される。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。



第124図 7P-2 陥し穴

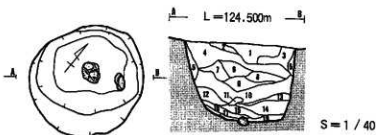
2 R-1 陥し穴状遺構 (第125図・写真図版40)

<検出状況・重複関係>IV層相当面で検出された。

<規模・形態>開口部径1.2m、底部55×75cm、深さは最深部で85cm。平面形は開口部が円形、底部は不整な長方形を呈する。底面はVII層下部面で、中央部に25径cm、深さ10cmの逆茂木痕と考えられる小土坑を持つ。

<埋土>自然堆積。全体に黒褐色～褐色土の葉理層で構成される。

出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。重複関係から、縄文時代晩期より以前の遺構と考えられる。



- | | | |
|--------------|-----|---------------------|
| 1. 7.5Y R/2 | 黒褐色 | 含、黄褐色土粒(数少) |
| 2. 7.5Y R/2 | 黒褐色 | 含、黄褐色土粒(多) |
| 3. 5 Y R /2 | 黒褐色 | 含、炭化物(数少) |
| 4. 10Y R /2 | 暗褐色 | 含、褐色土アロック・ひどく汚れた火山灰 |
| 5. 7.5Y R/2 | 黒色 | |
| 6. 7.5Y R/2 | 黒色 | 含、焼土粒(数少) |
| 7. 7.5Y R/2 | 黒褐色 | 含、炭化物(数少)・焼土粒(数少) |
| 8. 7.5Y R/2 | 黒褐色 | 含、炭化物(数少)・黄褐色土粒(多) |
| 9. 7.5Y R/2 | 黒色 | 含、黄褐色土粒(少) |
| 10. 7.5Y R/2 | 黒褐色 | 含、焼土粒(少) |
| 11. 7.5Y R/2 | 暗褐色 | 含、火山灰 |
| 12. 7.5Y R/2 | 褐色 | 含、汚れた火山灰・黒褐色土粒(数少) |
| 13. 7.5Y R/2 | 黒色 | 含、汚れた火山灰 |
| 14. 7.5Y R/2 | 黒褐色 | 含、炭化物(少) |
| 15. 7.5Y R/2 | 黒褐色 | 含、焼土粒(数少) |
| 16. 7.5Y R/2 | 黒褐色 | |
| 17. 7.5Y R/2 | 暗褐色 | 含、ひどく汚れた火山灰 |
| 18. 7.5Y R/2 | 暗褐色 | 含、黄褐色土粒(多) |

第125図 2 R-1 陥し穴

2. 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物は、41×31×30cmのコンテナで35箱である。遺物には土器・土製品・石器・石製品がある。大半は土器と石器で、他は少ない。

(1)土器

24箱約320kgが出土した。分類及び記述にあたり、縄文時代早期の土器を第Ⅰ群とし、以下前期-第Ⅱ群、中期-第Ⅲ群、後期-第Ⅳ群、晩期-第Ⅴ群、弥生土器-第Ⅵ群の時期区分を行った。これらの中での小分類はa類・b類…、1類・2類…として記載した。小分類群の設定にあたっては、従来の型式名や土器分類に対応させるよう努めた。

第Ⅰ群土器

縄文時代早期に属する土器群である。当群に該当するものは、6F-1土坑から出土した土器のみで、遺構外からは出土していない。

第Ⅱ群土器

縄文時代前期の土器群である。前葉・後葉・末葉のものが出土しているが、量は少ない。型式名にあわせてa～cに細分される。

Ⅱ群a類 (378a～d)

前葉に位置づけられる大木1式に比定される。a～dは同一固体で、当固体のみが出土している。胎土には植物繊維をやや多く含み、焼成は良い。口縁部は、緩く外反する6単位の波状を呈する。地文は不整な燃糸文で、器面全体に横走する。

Ⅱ群b類 (379-381)

大木5式と考えられるものである。379は台状の突起部分で、串状の工具による小刺突が施される。380は口縁部に、刺突を有する三日月状の貼り付けをもつ。381は肥厚した口唇部に両側から刻みが増えられている。

Ⅱ群c類 (382-413)

大木6式と考えられるものを一括したが、小破片が多く全体の器形や文様構成が明瞭なものとは少なく、口縁部文様帯が類似する後述のⅢ群a類を含む可能性がある。

382-390は、口縁部片で、文様は沈線及び隆帯によって表される。382は山形状の突起を持ち、383は折返し口縁となる。384は細い隆帯、385-389は沈線による文様で、385は半截竹管を工具としている。382・384は器面の傾きから、釜魚鉢形を呈するものと考えられる。391-409は胴部片で、大半が半截竹管による沈線文が施されているが、リング・ボタン状の貼付文を持つ例はない。410・411は同一固体で、口縁部は内側に折り返され、刻みを有する細い隆帯と沈

線による文様を持つ。器形は異なるが、十三菩提系の土器に見られる文様構成に似る。

II群d類 (412-425)

地文のみが施されたもので、器形や地文の種類から当群とした。425は胴部上半が開き、下半がすばみ台状となる深鉢である。

第III群土器

縄文時代中期の土器群である。初頭・前葉・中葉のa-c類に細分される。

III群a1類 (426-435)

大木7a式の前段階にあたる所謂椗塚式土器の内、刻み状の短沈線による幾何学文様を有するものである。434・435は突起部分で、折り返されて中空になり、一分は透かし状の文様となっている。

III群a2類 (436-449)

所謂椗塚式の内、口縁部文様帯が縦位の隆帯や貼付文によって区画されるものである。いずれも口縁部は外傾し、436・437・442・446は山形を呈する。436は区画帯が橋状の把手風となっている。437-440は頂部に刻みを持つ2本の隆帯、441-445はやや幅広の隆帯が垂下する。446-449は貼付文を有するもので、446・447は渦巻状を呈する。

III群a3類 (450-475)

上記以外の土器を一括した。小破片であるため全体形は不明で、文様区画帯を有する可能性もある。文様は沈線及び刺突によって表現される。

450-452は山形の口縁を持ち、454・456・457・460は口縁上端が肥厚する。461・462は三角形の刻みを有する。470-475は、押し引き状の連続した刺突による文様が施される。

III群b類 (476-522)

大木7a式に比定される土器群であるが、後述のc類との明確な区別はなし得なかった。文様は隆帯と沈線によって構成されるが、部分的に原体圧痕文を用いるものもある。4単位の大波状口縁となるものが多い。

476は波頭部に角状の突起を有する。文様は隆帯と沈線によって表現され、口縁部に沿って原体圧痕文が巡る。477-478は口縁部が無文のもので、480は裏面に渦巻き文を持つ剣状の突起を有する。481-502・517-519はいずれも波状を呈する口縁部片で、波頭部に突起を持ち上端内側が肥厚するものが多い。文様は隆帯・沈線文が主体となるが、刺突文も多用される。489・517-519は口縁部に沿って連続した刺突文が巡り、484は小さな円形の刺突を持つ。487は交互刺突文が施されるほか、490-493・459・500-502等はこれを模したと考えられる小波状の隆帯や、頂部に刻みが連続する隆帯による文様を持つ。また、497・498等は、隆帯に沈線が並走する隆沈線による文様を有する。

507～509は同一固体で、胴部にいくぶん膨らみを有し、隆沈線による文様を持つ。510～516は口縁部が僅かに外反し、平縁を呈するもので、口縁の上部に沈線による文様を持つものが多い。511は貼付文、514は刺突文を合わせ持つ。

Ⅲ群c類 (523～539)

大木7b式に比定される土器群で、主要文様が原体や燃糸の圧痕文によるものである。

523・525は大波状口縁で突起を有し、隆帯と原体圧痕による文様を持つ。525は短沈線による文様も合わせ持つ。528・529は太い原体圧痕文が口縁部にに返り当類としたが、折り返し口縁となることや胎土からb類に入る可能性がある。536は口縁部に角状の突起が付き、胴部には隆帯による文様を持つ。537は口縁部が緩い波状を呈する。538は口縁部に隆帯による長楕円形の区画を持ち、この内部に原体圧痕文が施されている。539は胴部上半がキャリバー状に内湾する。

531・535は鉢か浅鉢と考えられる。いずれも口縁と胴部の境は隆帯で区画され、534を除き文様は口縁部上端に集中して施されている。

Ⅲ群d類 (540～644)

大木8b式に比定する土器群である。出土量は最も多く、全体の8割を占める。一部大木8a式を含む可能性があるが、明確に区別できなかった。

540～579はキャリバー形の土器群である。口縁部には隆帯(540・542)、隆沈線による渦巻文や線状文を配した曲線文様が横位に展開する。この曲線文は544・556・568～571等では区画性が強いものとなっている。541・574は曲線文は持たず、貼付文と刻み状の刺突文が施されている。口縁部の形態は、多くのものは平縁であるが、540・544・556は波状を呈し、特に後の2者は大波状となる。548・549・568・569は渦巻き文が突出し、突起を形成している。また、575～579は中空・橋状の突起部分である。地文として、縄文が施されているものが多いが、544・575は刺突文、560・561・576は刻み状の短沈線が充填されている。

なお、553～555は浅鉢で、口縁部には深鉢と同様の文様を持つが、胴部はミガキが施され無文となっている。

580～618はキャリバー形以外の器形を呈す土器群である。口縁部が外反するものと、緩く内湾するものがあり、量的には後者が多い。口縁部の形態には平縁と波状口縁があり、波状となるものが多い。

580～589・598～606・612は口縁部が波状を呈する深鉢である。582～586・598～606は口縁上端に隆帯が返り、波頭部分で渦巻き文を構成している。このため口唇部、特に波頭部が肥厚するものが多い。胴部文様が明確なものは少ないが、582・585・600等は沈線、583・598・604・612等は隆沈線、599・601等は隆帯による渦巻を配した曲線文様を持つ。

587-589は口縁上端に隆帯を持たない。587-588は胴部が直線的であるが、589は内湾し膨らみを有する。胴部文様は587が直線文、589は渦巻を配した曲線文がいずれも沈線によって描かれている。590・591・609は口縁部が外反し平縁となるものである。591・609は口縁上端に隆帯が回り、609は渦巻き文を構成している。なお、592は上部の形態は不明であるが、口縁部が外反する器形で、胴部には隆沈線による渦巻き文を配した曲線文が展開している。

607・608・910・611・613・614は口縁部が内湾する。607は緩い波状口縁を呈する。口縁上端と下端に細い隆帯が回り、この間は無文帯となっている。608は太い隆帯が渦巻き文を構成している。613・614は楕状把手を持つ。

595は口縁部状端の形態は不明であるが、同様の器形を呈するものと考えられる。口縁部には幅広の隆帯によって、不整な格子目状の文様が構成され、胴部には隆沈線による文様が展開する。

593は胎土及び焼成、隆沈線による曲線文から当群としたが、地文が結束羽状縄文の縦回転であることや、曲線文の意匠から考えると第III群c類（大木7b式）の可能性が高い。

615-618は口縁部が外反し、文様要素に刺突が加えられる。615は沈線間に、他は細い隆帯上に小さな円形刺突が連続して施されている。

594・596・597・619-638は胴部破片である。619-628は沈線、他は隆沈線による文様を持つ。

639-644は底部片である。640・642は隆沈線、他は沈線文で、いずれも下端まで垂下する。
III群e類（679・680）

円筒上層b式に比定される。679は、波頭部が台状を呈す4単位の波状口縁となる。文様は、頂部に縄文が施文された隆帯、撚糸圧痕文、棒状工具と原体の末端による刺突文によって構成され、口縁部に集まる。680も波状口縁で、波頭部に小突起を有し、縄文施文の隆帯と原体圧痕による文様を持つ。

III群f類（645-678）

文様からは、型式が推定できない粗製土器及び底部破片を一括した。大半は中期に属すると考えられるが、一部前期の土器を含む可能性がある。

645-648は胴部文様を持たず、口縁部に隆帯を有する。645-647は口縁部が内湾し、648はほぼ直立する。647は隆帯の頂部に連続した小刺突が施されている。

649-653は口縁部に巡る2本の隆帯が、一部で環状文を構成する土器群である。649-651の口縁部は緩く外反し、652・653はほぼ直立する。

658-660は口縁部上端は無文となり、この下位に指頭圧痕状の凹凸を持つ太い隆帯が巡る。665-678は底部片で、665・666・675は底面に縄代痕を有する。

第IV群土器

後期中葉に位置づけられる土器で、681・682の2点だけが出土している。681は胴部の小破片で、沈線区画された磨消縄文をもつ。682は団扇状の突起を有する口縁部片で、沈線区画の磨消縄文に連続する小刺突を伴う。加曾利B2式に比定される。

第V群土器

晩期に位置づけられる土器群である。中葉と末葉のものがあるが出土量は少ない。

V群a類

683は皿もしくは浅鉢と考えられる。口唇部に沈線が巡り、胴部には所謂雲形の磨消縄文が施される。また、内面の中部には幅約5mmの縄文帯が巡る。中葉に位置づけられる大洞C1式に比定されよう。

V群b類 (684~687)

684は台付鉢もしくは高環の脚部片である。「は」字状に開き沈線による変形工字文が描かれている。685~687は深鉢片で、685は沈線と小刺突、687は突起と沈線文を有する。大洞A式に比定されよう。

V群c類 (688~697)

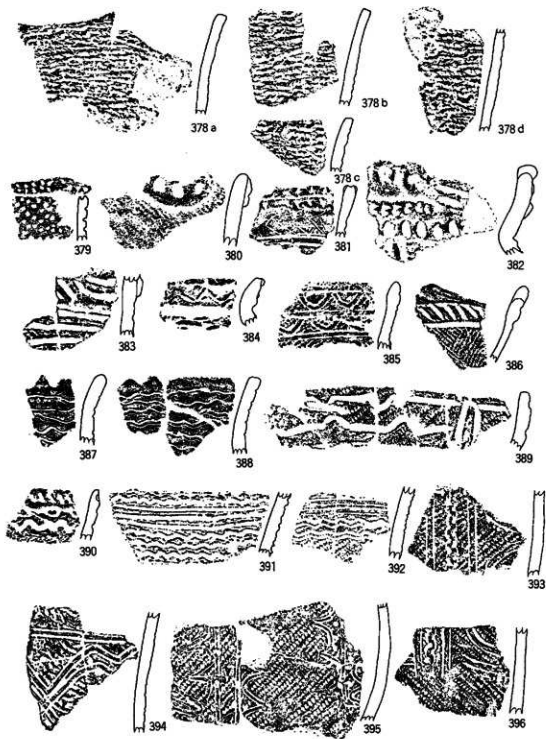
末葉に位置づけられる大洞A'式に比定される土器群である。668~690は鉢の口縁部は片で、並行沈線文を持つ。691は高環で、環部内面に凹文を有する。692は長頸の壺で、口縁上端に沈線とB状の小突起を持つ。693はほぼ完形の壺で、頸部下端に波状の隆帯(凸帯)を有する。694~697は深鉢である。694はやや小型で、口唇部には刻み状の小山形が連続し、口縁部は無文となり上端と下端に沈線が巡る。695は口唇部に指頭圧痕状の凹凸を持つ大型の深鉢である。

第VI群土器 (698~745)

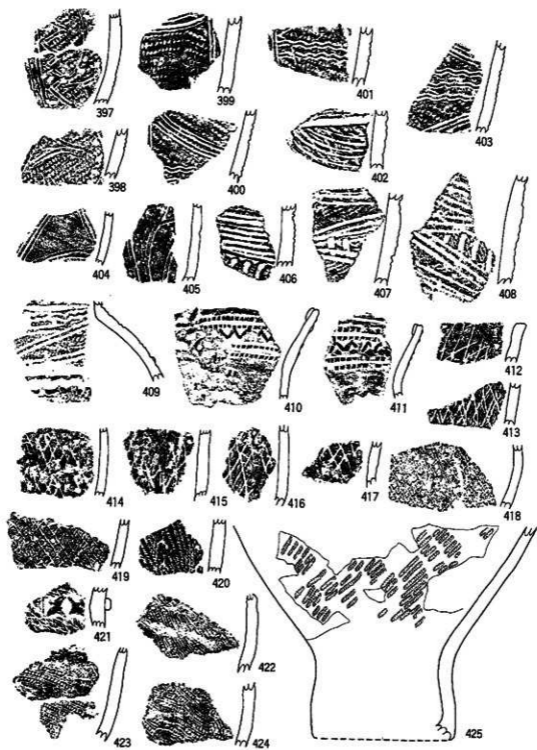
弥生土器を一括した。698~707は鉢と考えられ、701は高環の可能性もある。689~699は底面に網代痕を有し、699を除いて口縁部には、沈線による文様を持つ。709~711は高環である。709は脚部で、沈線による変形工字文を持つ。

712~719は壺と考えられる破片である。712~715は広口の壺で、口縁部には並行沈線が巡る。716は口縁部が極端に短く、無頸の壺であろうか。717~719は肩から胴部にかけての破片で、いずれもミガキが施されている。717・718は、肩の上端に並行沈線が巡る。

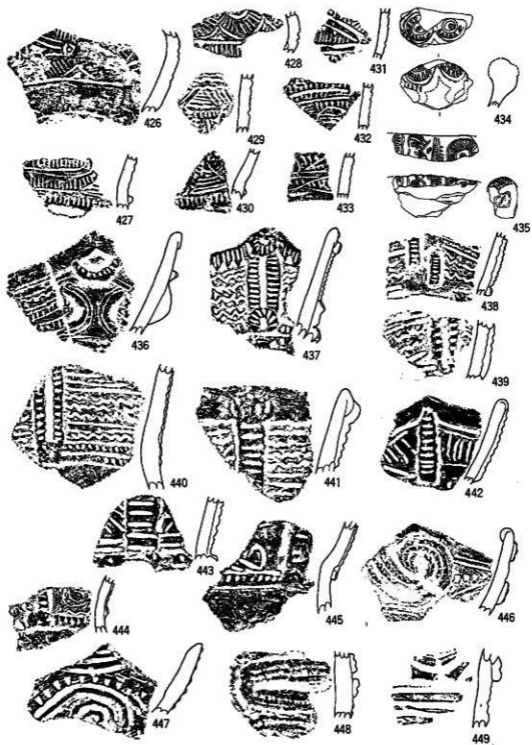
720~742は甕である。720・721は同一固体で、口唇部に連続した刻みを持ち、口縁部には沈線による変形工字文が描かれている。722・723は頂部が肥厚する突起が付き、722は口縁部にはB状突起を伴う沈線文様を有する。724は口唇部に小突起と刻みが施されている。725~737は粗製甕の上半部分の破片である。725は頂部に刻みを有する山形口縁となる。726・727は口縁部が直立し、上端と下端に沈線が巡る。728は口唇部に沈線が施され、729は指頭圧痕状の凹凸を有



第126圖 遺構外出土遺物(土器) 1



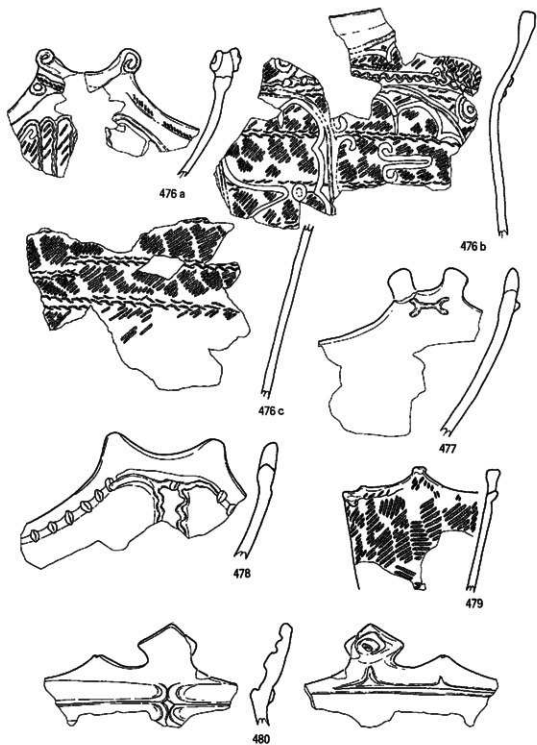
第127圖 遺構外出土遺物(土器) 2



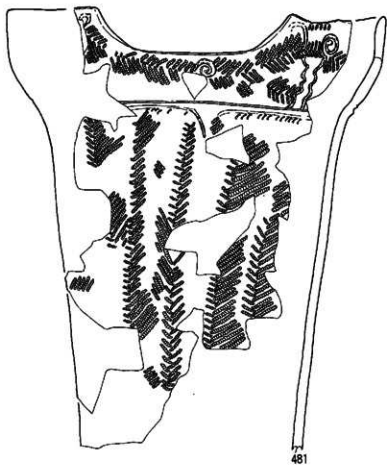
第128圖 遠禰外出土遺物（土器）3



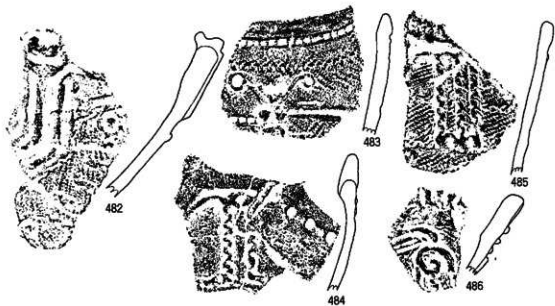
第129圖 遺構外出土遺物（土器）4



第130图 遼朝外出土遺物(土器) 5



481



482

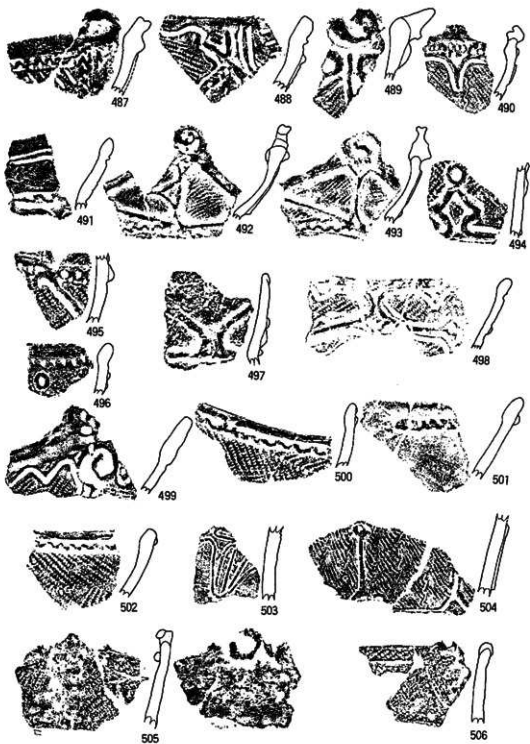
483

485

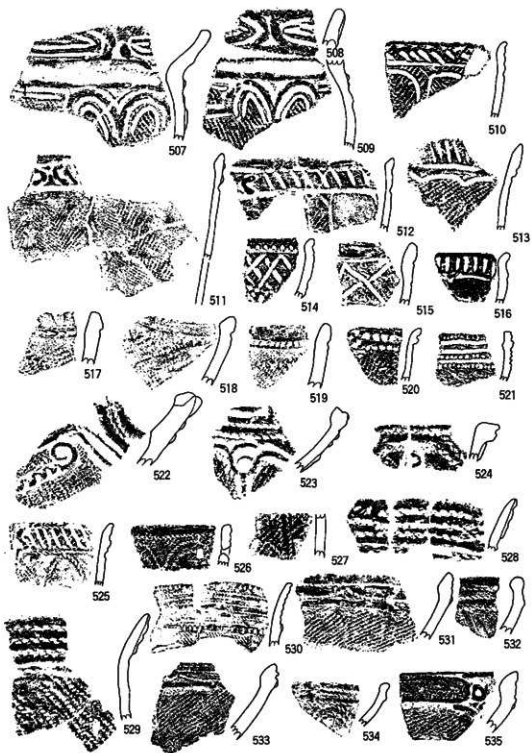
484

486

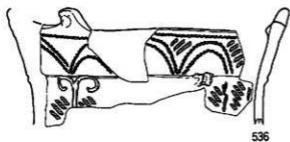
第131圖 遺構外出土遺物(土器)6



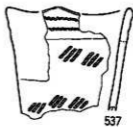
第132圖 遺構外出土遺物（土器）7



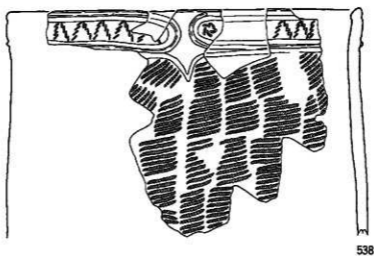
第133圖 遺構外出土遺物(土器) 8



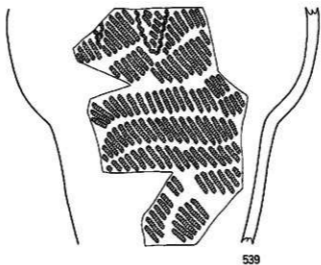
536



537

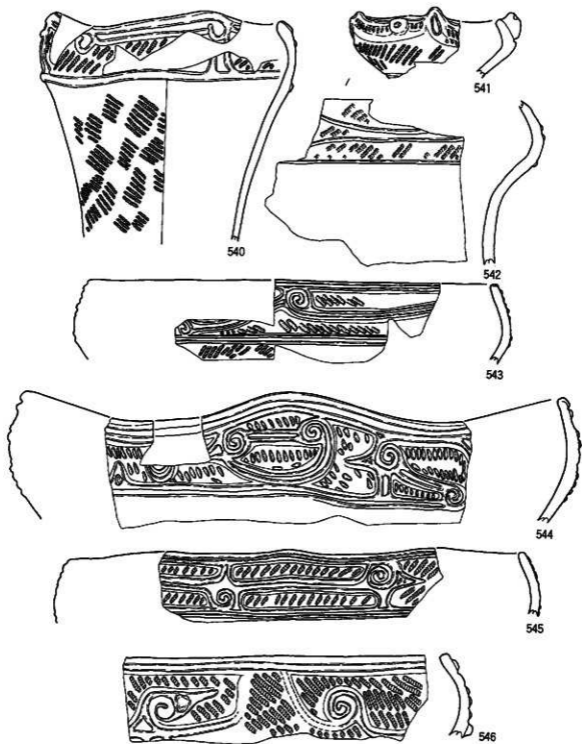


538



539

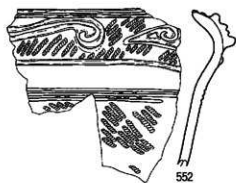
第134图 遺構外出土遺物(土器) 9



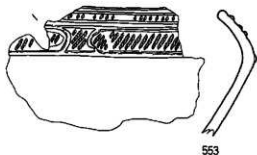
第135圖 遺構外出土遺物(土器) 10



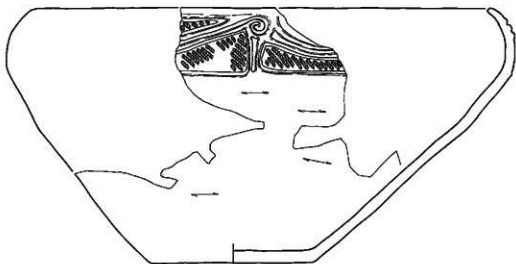
第136图 遼河外出土遺物(土器) 11



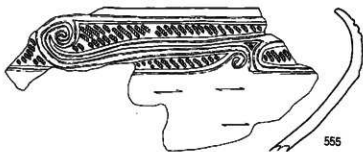
552



553



554

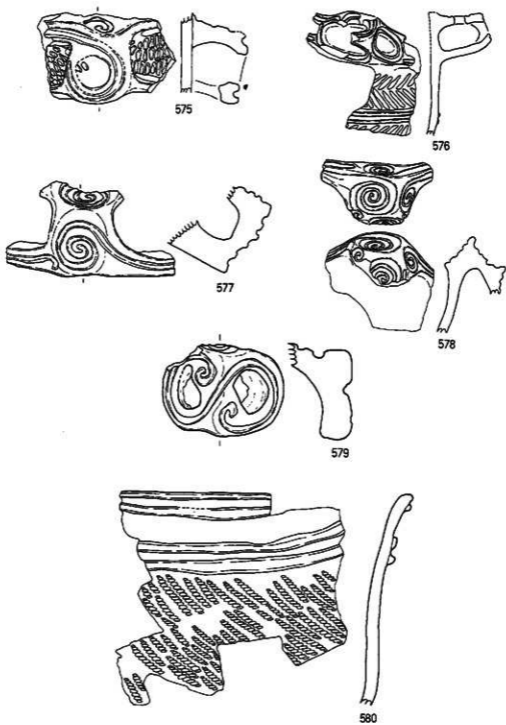


555

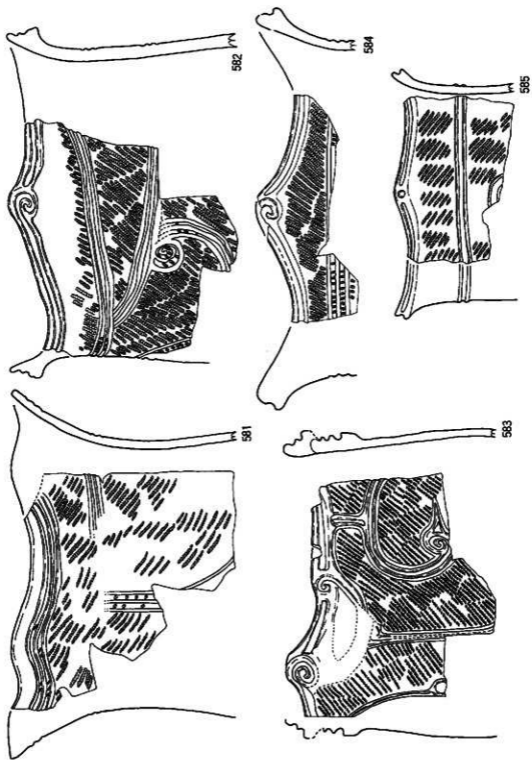
第137圖 遺構外出土遺物(土器) 12



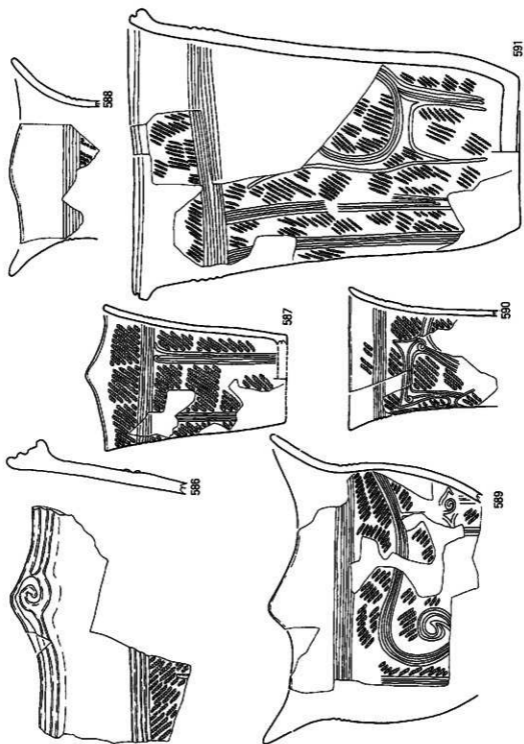
第138图 遺構外出土遺物(土器) 13



第139圖 遺構外出土遺物（土器）14



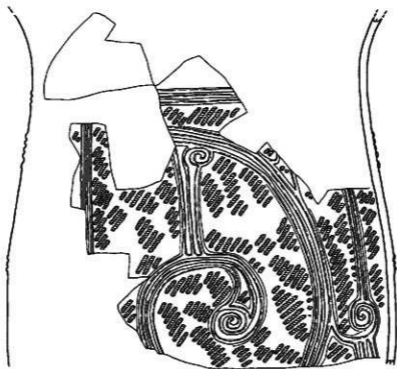
第140图 遗構外出土遺物(土器) 15



第141圖 遺構外出土遺物（土器）16

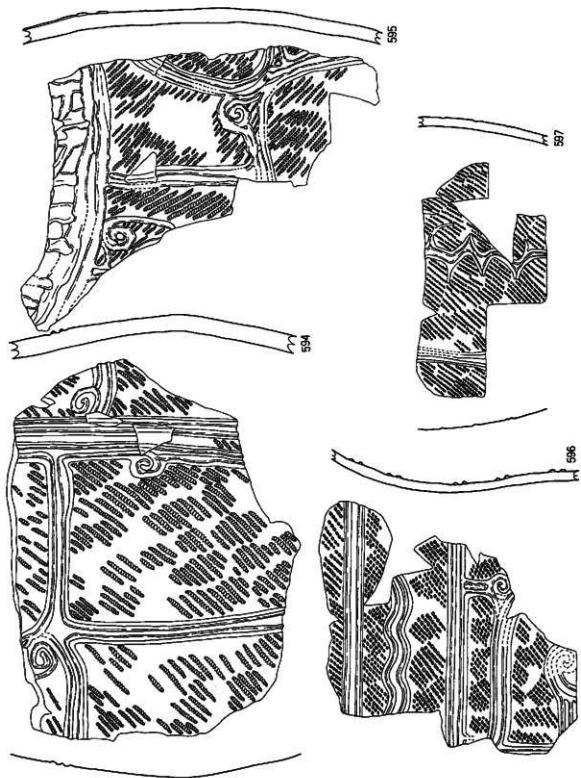


592

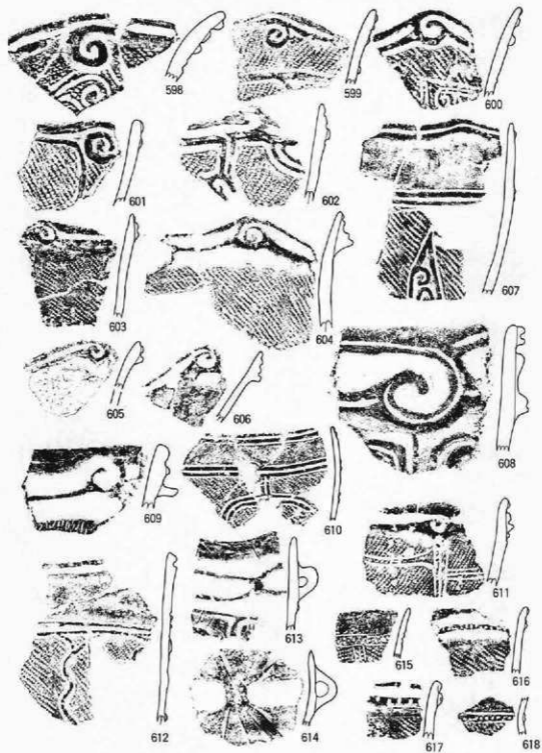


593

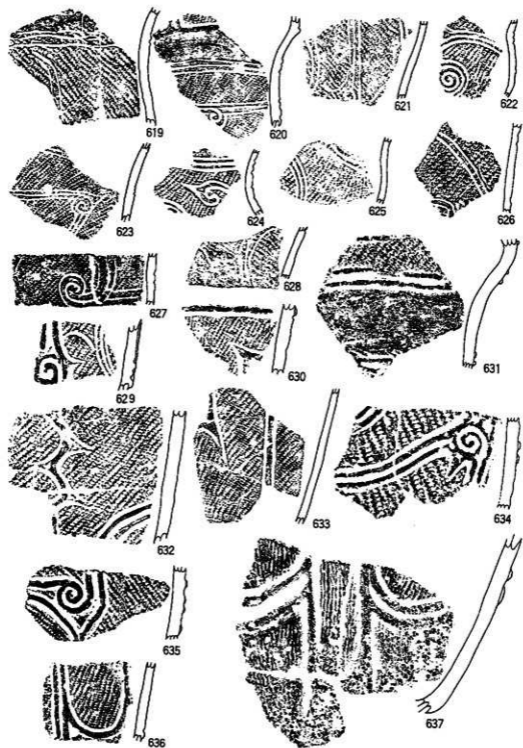
第142图 遗構外出土遺物(土器) 17



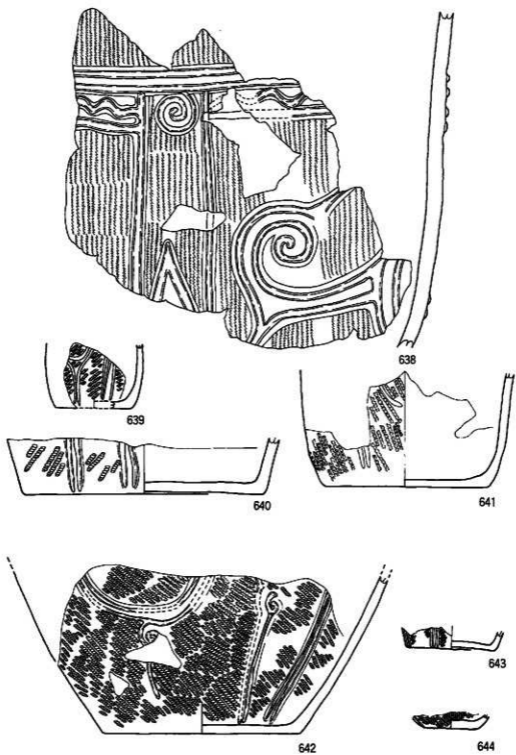
第143圖 遼東外出土遺物（土器）18



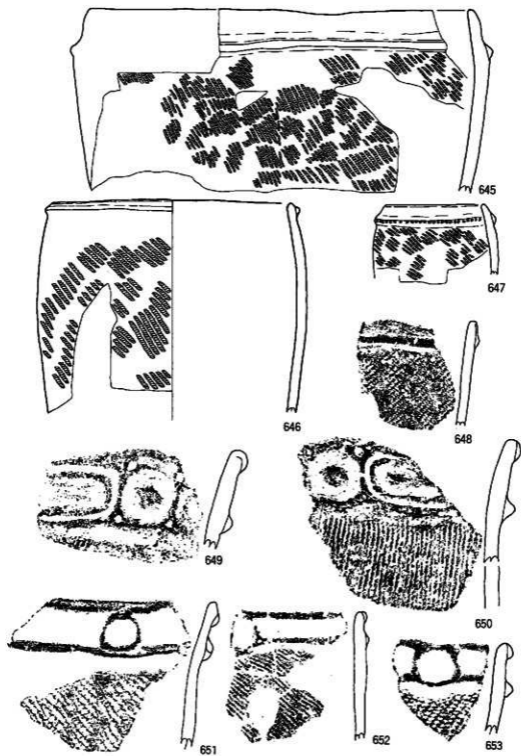
第144圖 遺構外出土遺物(土器) 19



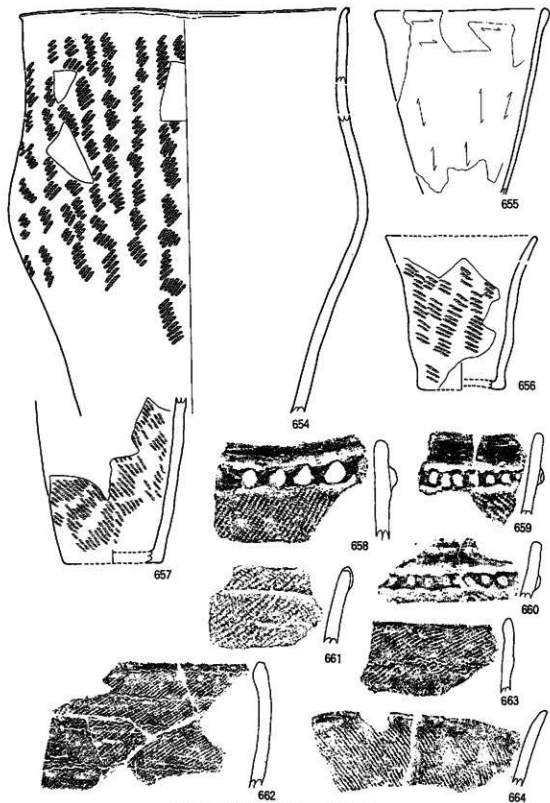
第145圖 遺構外出土遺物（土器）20



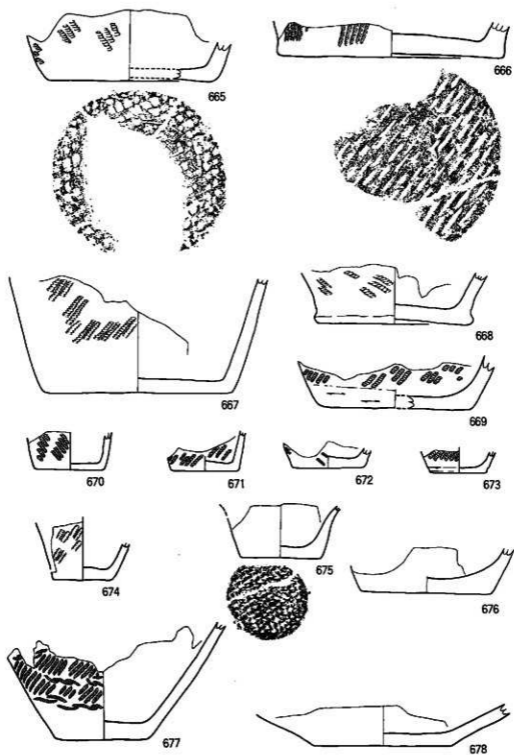
第146图 遼朝外出土遺物(土器) 21



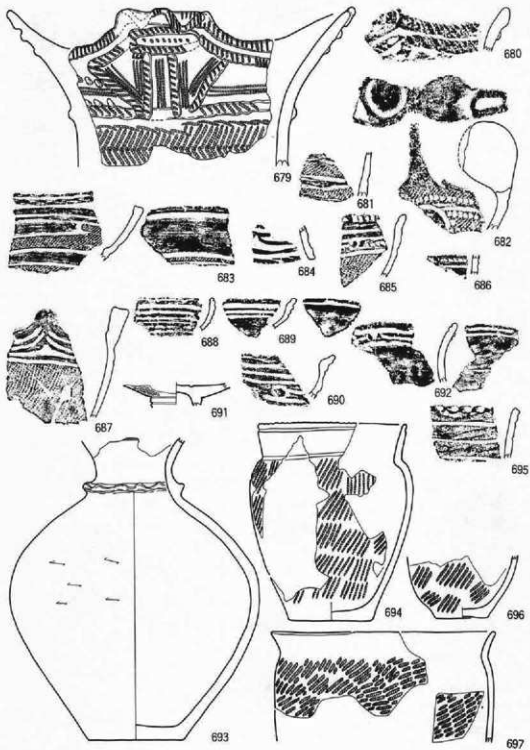
第147图 遺構外出土遺物(土器) 22



第148圖 遺構外出土遺物（土器）23



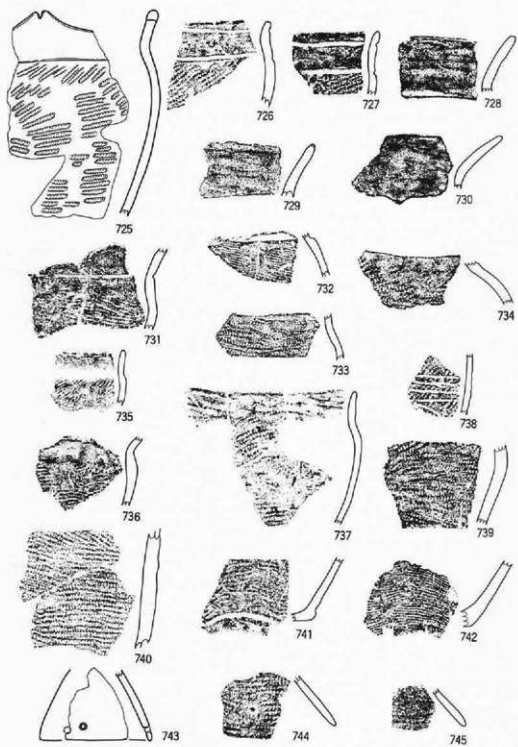
第149圖 遠橋外出土遺物（土器）24



第150圖 遺構外出土遺物（土器）25



第151图 遺構外出土遺物（土器）26



第152圖 遺構外出土遺物（土器）27

する。731～734は口縁部下端に沈線が巡る。735口唇部に原体圧痕による刺突を持つ。738は沈線文が施された胴部片で、741は胴部下端に沈線が巡る。

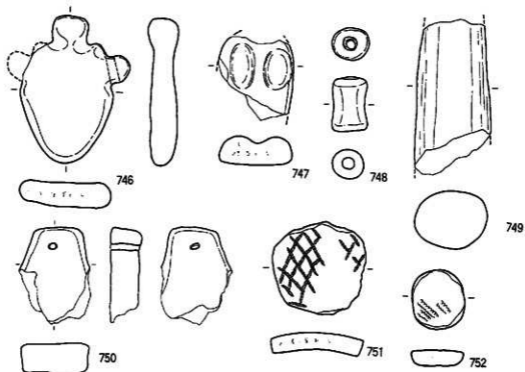
743～745は蓋と考えられる。745は傾きがきついが、口縁部に焼成前に穿たれた2個1対の小孔を有する。745は口縁部内側に炭化物が付着している。

(2)土製品

746～752の7点が出土しているが、所属時期は不明である。

746は土偶と考えられるが目鼻及び足はなく、詳細は不明である。全体は菱形の板状を呈し、頭部と腕は粘土を積み出したように作られている。腕の付け根部分に径2mm程の小孔を持つ。747は不整な楕円形の高まりを2固有する。これらを乳房と考えると土偶の類かもしれない。

748は管状の土製品で、中央部が狭く括れる。749は棒状の土製品で、器面は粗いミガキが施されている。750は上端に径2mm程の貫通孔を有し、垂れ飾りと考えられる。751・752は土器片を利用した円盤で、周囲を粗く打ち割って整形されている。



第153図 遺構外出土遺物（土製品）

(3)石器

遺構外から出土した石器類の総数は2,500点を越える。これらのうち、使用痕跡が認められない剥片類及びチップ、破損の著しい礫石器を除く516点を石器として登録し、内299点を掲載した。

石鏃 (753~758)

6点が出土している。いずれも茎を持たない。753~757は基部に抉りを有する、所謂凹基無茎鏃である。753は全面に加工剥離がおよぶが、他は第一次剥離面を残す。また、753は抉りが深く、755・756は浅い。757は器長が5,3cmと大きく、石槍の類かもしれない。758は平基無茎鏃である。全体に雑な作りで片面には第一次剥離面を多く残す。

石匙 (759~766)

8点が出土した。759・760は横型の石匙で、緩い凸状の縁辺に前者は片面から、後者は両面からの刃部加工が施されている。761~766は縦型の石匙である。761は全縁に両面からの加工を有する。762・763は素材の形状を大きく変えておらず、刃部加工も明瞭ではない。764は両側辺に両面からの加工が施されている。765は破損品で、刃部の形態は不明である。766は小型で、握み部分のみに加工を持つ。

石鏟 (767)

1点のみの出土である。両面からの剥離によって刃部を成形しており、加工は両側部に及ぶ。

石筭 (768~784)

主に形状から分類した。剥片の先端部に刃部加工が施されたもので、擡器の刃部より角度が鋭角なことを識別要素とした。

770・776・777・780は素材の形状を利用しているが、多くは全面に両面からの剥離加工によって成形されている。刃部は大半が凸状を呈し、768~776等は両面からの細かな剥離や撻状剥離が施されている。783・789は、他のものより大きな剥離によって刃部が形成されている。768は刃部と基部、770は腹面中央部、773は刃部、783は器面に使用に伴って生じたと考えられる摩滅痕や光沢を有する。なお、784は他に比べて、器面の風化が進んでいる。

擡器 (785~788)

不定形石器の内、鈍角で厚い刃部加工を有するもので、4点があげられる。785~787は縦長剥片の先端部に、片面からの剥離による刃部を持つ。785・786は周囲を細かい加工を加えて成形されるが、787は刃部のみに加工が施される。788は不整形な剥片の側辺部に刃部を持つが、刃部の形態から同類とした。

削器 (789~828)

不定形石器の内、主に剥片の側縁部に鋭角な刃部加工が施されるものを一括した。刃部の形

態により細分される。

789～793・798等は、片面からの加工による直状の刃部を有する。789は2辺に急角度の刃部を持つ。804～807等は凸状の刃部を有する。また、形態の異なる刃部を合わせ持つものも多く、794は直刃とノッチ状、797・799等は直刃と凹刃、803等は直刃と凸刃、811等は凸刃と凹刃を合わせ持つ。

820・821は刃部の両側に、822は片側に折断面を有する。これが調整の一部として施されたものか、破損によるものかは不明であるが、前の2者は所謂折断調整器に似る。刃部は共に凸状を呈する。

823～828は割合大きな剝離加工によって、鋸状の刃部を形成しているものである。いずれも片面からの加工で、刃部形態は823・826は直状、824・825は凸状、827はこれらを合わせ持つ。

挟入石器 (829～835)

挟り状の刃部を持つ石器を一括した。829～831は細かい剝離によって刃部を作り出しているが、832・833は単一あるいは数回の大きな加撃で刃部形成を行なっている。

尖頭器 (836～841)

石槍的なものと、一部に尖った部分を有する剥片とがある。836・837は両面からの加工によって尖頭部を作り出している剥片であるが、剝離が両側部に延びていることから削器的機能を考えたほうが適切かもしれない。

838～841は石槍的なものである。838は裏面中央部分に第一剝離面を残すが、全体に細かい加工によって成形されている。下部の片側は細く挟れ、この部分は特に丁寧に加工されている。器面は他の石器と比べて風化が進んでいる。有否尖頭器の類であろうか。839は石質も軟らかく、成形加工も雑である。840・841は尖頭部分を欠損するものと考えられる。

楔形石器 (842)

1点のみの出土である。形状は長方形を呈し、上下両端に階段状の剝離を有するが、成形に伴う加工は認められない。

細部加工剥片 (843～864)

剥片の一部に刃部加工が施された石器を一括した。843～862は鋭利な縁辺部に加工を有するもので、削器的な機能が考えられる。855・856は器面にタール状の物質が付着している。862・863は剥片の先端部分や尖頭部分に僅かに加工が加えられるもので、挿器あるいは刺突具としての使用が考えられる。

使用痕を有する剥片 (865～882)

使用に伴って生じたと考えられる微細な剝離痕が観察される剥片を一括した。865～876は鋭利な縁辺部に、878～880は尖頭部分に使用痕を持つ。881・882は特に顕著な使用痕は認められ

ないが、先端にタール状の物質が付着している。

打製石斧 (883~889)

全体に大きな剝離によって成形される。883は刃部に使用による摩滅痕と光沢が観察される。884は刃部が鈍角で、半製品であろうか。885は刃部の片面に自然面を残す。886は両面からの大きな加工によって刃部を作り出しており、所謂トランシェ様石器にも類似する。882も未製品と考えられる。888・889は器面に自然面を多く残す。

石鏃 (890・891)

2点出土している。共に両面からの大きな剝離加工によって成形されており、形状は撥状を呈する。

磨製石斧 (892~897)

8点出土しているが、完形品はない。892・893は基部が直線的である。前者は基端部に剝離痕が見られ、再利用をしようとしたものかもしれない。894は基端から刃部にかけて開き、刃部には歯零れ状の剝離を持つ。895は丸味の強い刃部を持つ。896は細長い礫の両側部に敲打状の加工を有し、半製品の可能性がある。897は破損が著しい。

礫器 (898~901)

4点があげられる。898は楕円形で扁平な小礫の側縁部に、両面からの剝離加工を施して刃部としている。899・900は大きな剝離が加えられている。901は楕円形の礫の側縁部に両面からの加工を持つ。

残核 (902・903)

902は片側に両面からの剝離痕を有する。903は一部に自然面を残す残核である。

石鏃 (904~926)

扁平な小礫の両端に加撃による抉りを施すものである。石製品として扱った1個を含めて50が出土し、この内23点を掲載した。形態には横型6点と、縦型44点がある。他の機能を合わせ持つものが9点あり、磨石との併用及び転用3点、凹石5点、磨石・凹石1点が含まれる。

磨石類 [磨石・凹石・敲石・特殊磨石] (927~1025)

使用痕によって区別されるが、素材となる石の形状も類似し、使用痕の重複も多いことから磨石類とした。「磨る(擦る)、敲き潰す」といった機能を有する石器群である。出土量は237点と石器中最も多い。

927~968は器面に摩滅痕を有する所謂磨石で、大半は平面形が円形または楕円形を呈する。出土総数は137点で、42点を掲載した。内片面のみ使用されるもの23点、両面75点、3面以上に使用痕を持つものは39点である。969~988は円錐状の凹みを合わせ持つもので、48点が出土し20点を掲載した。摩滅痕を両面に持ち、両面に凹みを有するものは23点、片面に凹みを有する

のも23点である。また、摩滅痕を3面以上有するものが14点、側面に敲打痕が見られ、敲石との併用と考えられるものが1点ある。989~1000は器面に凹のみを有するもので17点出土し、両面に凹を持つ12点を掲載した。1000は意匠は不明であるが片面に細い刻線文、片面に鼠歯条痕を有する。1001~1005は器面に敲打によって生じたと考えられる潰れが見られ、1001・1002は凹石、1004は磨石との併用である。

1006~1025は所謂特殊磨石と呼ばれるもので、楕円形を呈する礫の側面部、断面形が三角形の礫の頂部に使用痕を有する石器群である。26点の内、20点を掲載した。1006~1012は部分的に剝離加工を持つが他は無加工である。側面部以外に使用痕を持つ例も多く、磨面を伴うものが8点、凹みを伴うもの4点、敲打痕を有するものが2点ある。

砥石 (1026~1031)

1026・1027は小型で、緩く凹む使用面を持つ。1028・1029は石皿との併用品で、浅い溝状の凹みを有する。1030は器形は特殊磨石に似るが、使用面は滑らかで、砥石の類とした。

石皿 (1032~1044)

68点中13点を掲載した。いずれも素材に大きな加工を加えない粗製の石皿である。片面が緩い凹状、片面が緩い凸状の円形~楕円形の花崗岩・安山岩礫が多い。器面に溝等を有し砥石との併用品が前述の2個を含めて6点、敲打痕を伴い台石との併用と考えられるものが2点ある。

石棒 (1045~1047)

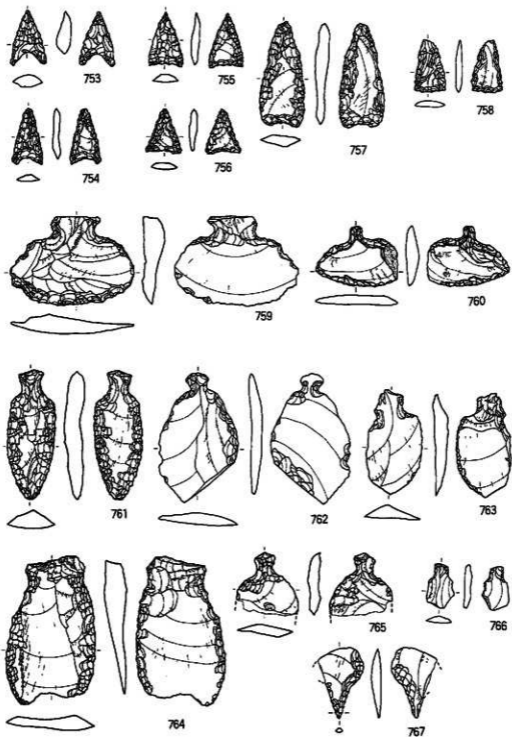
棒状の自然礫で、器面に加工はほとんどない。1045・1046は墓壙と考えられる土坑の上部から出土している。1057は斜めに傾いた状態で出土した。

石刀 (1048~1051)

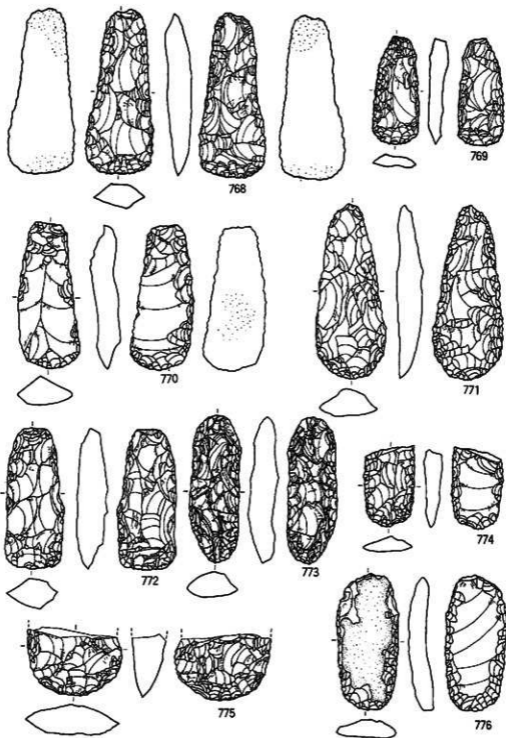
4点が出土したが、完形品はない。いずれも器面には磨擦痕が見られる。1048は先端部の両側面に刻み状の刻線を有する。

(4)石製品

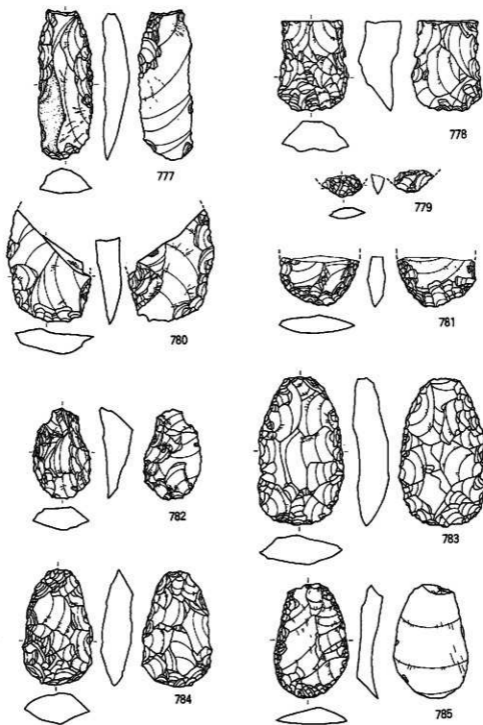
1052~1057の6点が出土している。1052は石鏃と凹石との併用品で、表裏両面に葉理状の細い刻線文様を持つ。1053・1055は円盤で周縁部は研かれ、前者は両面に捺痕を有する。1054は径約5mmの貫通孔を有する台状の柄杓が付く、環状石製品である。垂れ飾りの類であろうか。1056は、中央部に径3cmの貫通孔を持つ溶岩製の石製品である。1057は両面が削られ平坦となっている。磨石類に見られる使用痕とは異なり石製品とした。未製品と思われる。



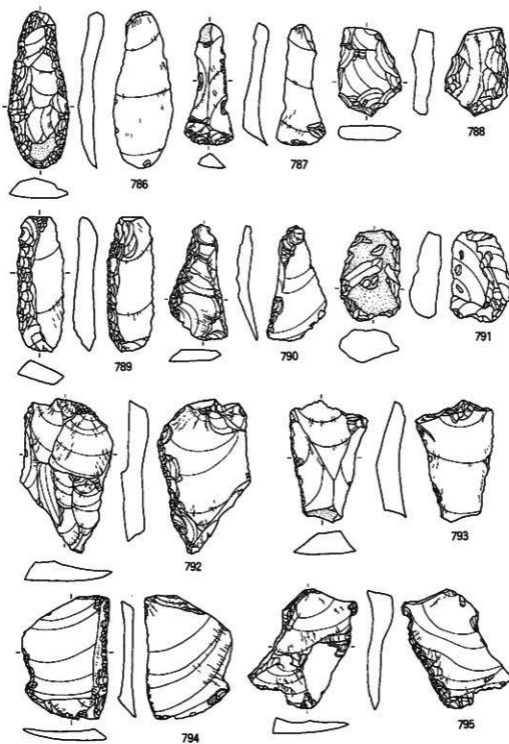
第154圖 遠構外出土遺物(石器) 1



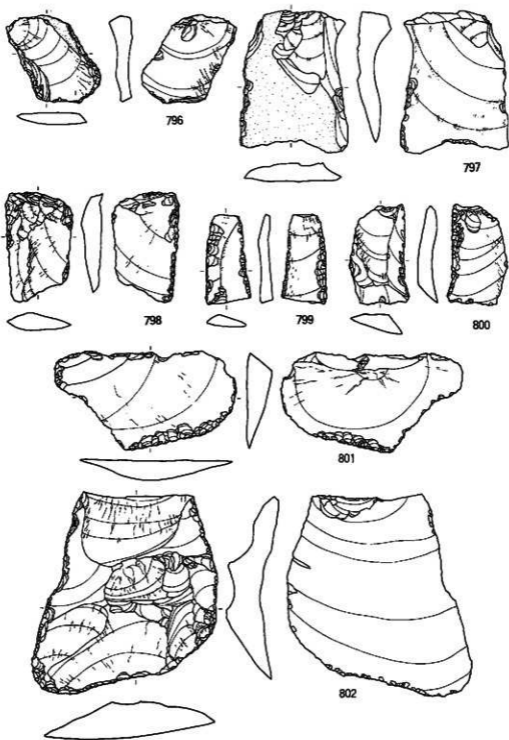
第155圖 遺構外出土遺物(石器) 2



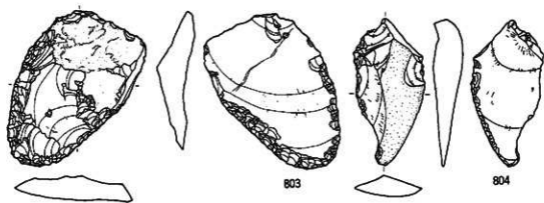
第156圖 遺構外出土遺物(石器) 3



第157圖 遺構外出土遺物(石器)4

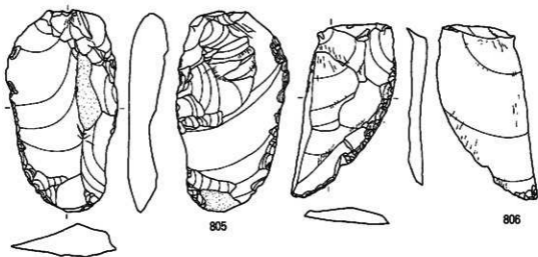


第158圖 遺構外出土遺物(石器) 5



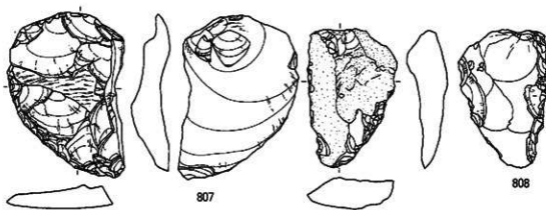
803

804



805

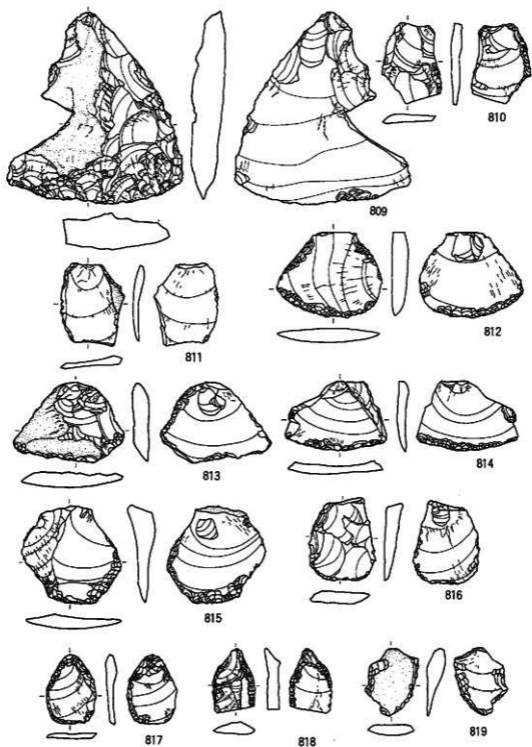
806



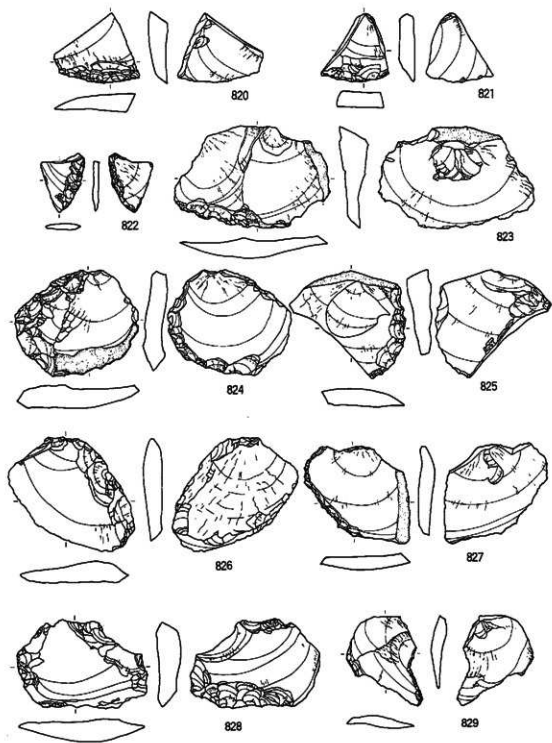
807

808

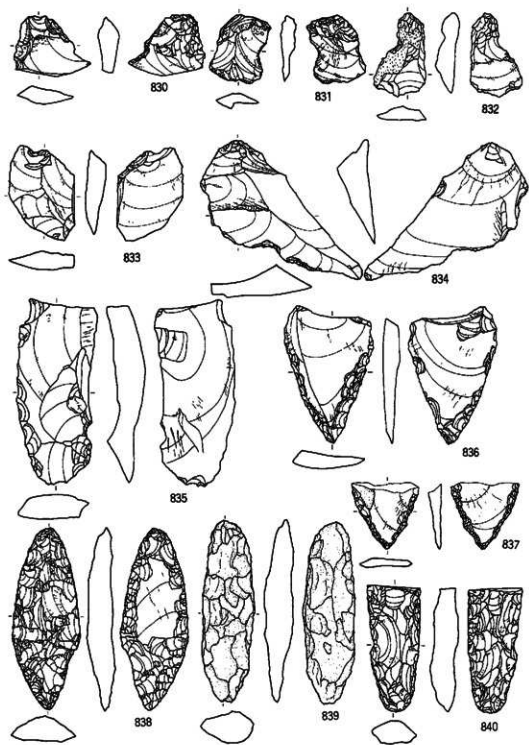
第159圖 濠溝外出土遺物(石器) 6



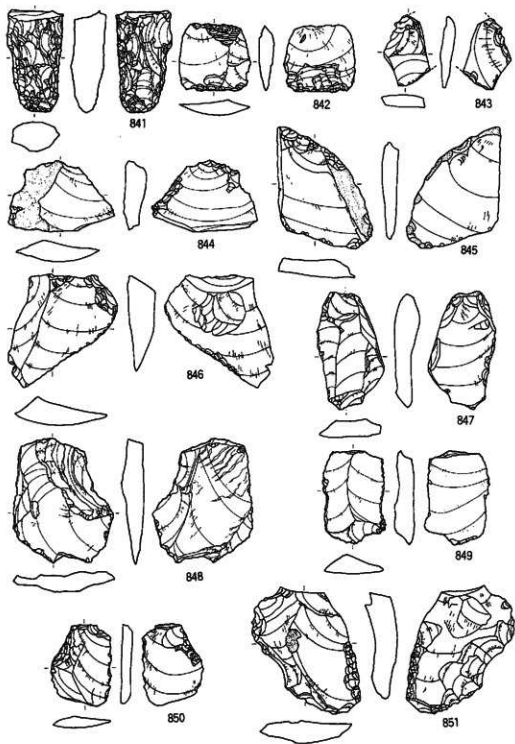
第160圖 遺構外出土遺物（石器）7



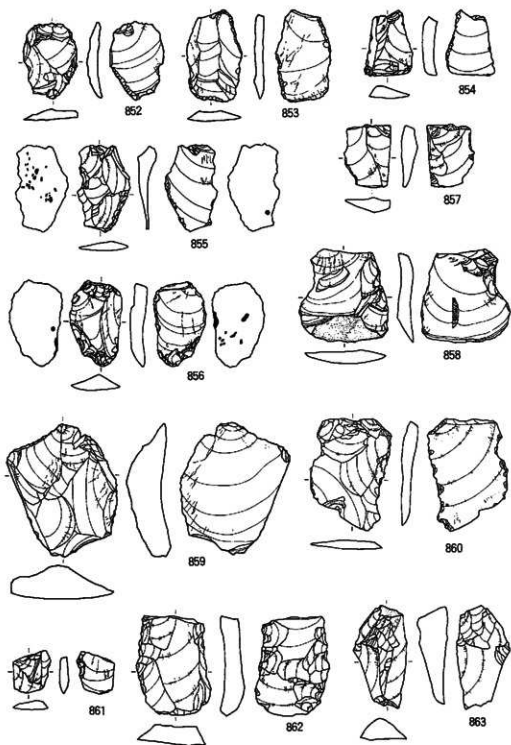
第161圖 遺構外出土遺物(石器) 8



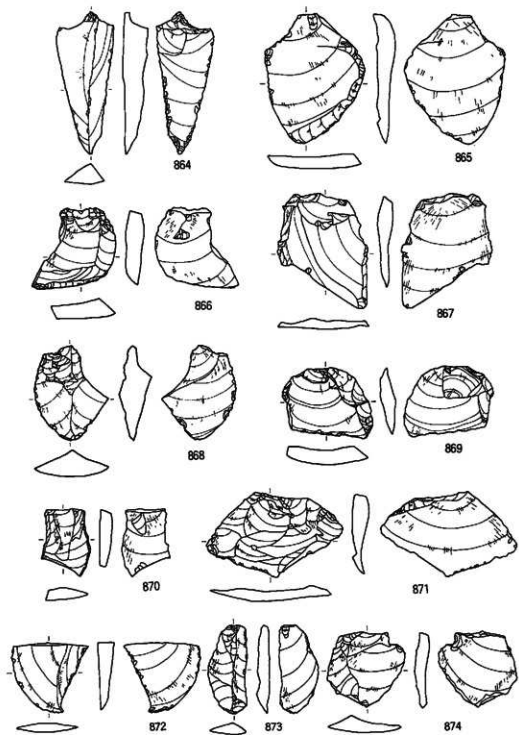
第162圖 遺構外出土遺物(石器) 9



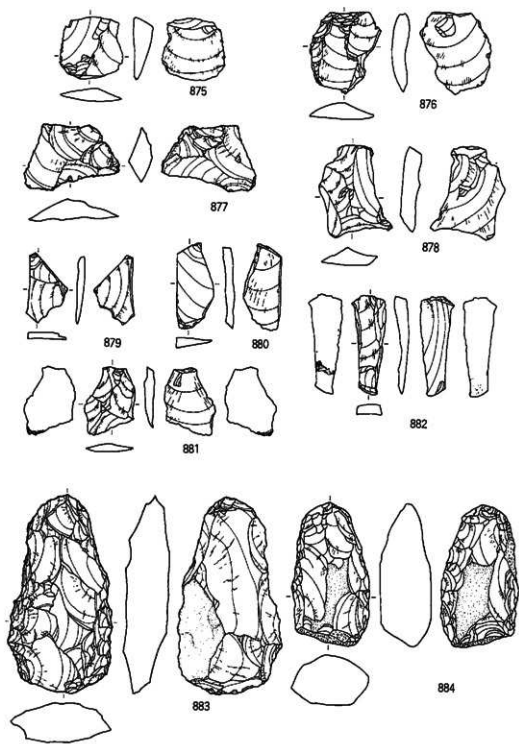
第163圖 遺構外出土遺物（石器）10



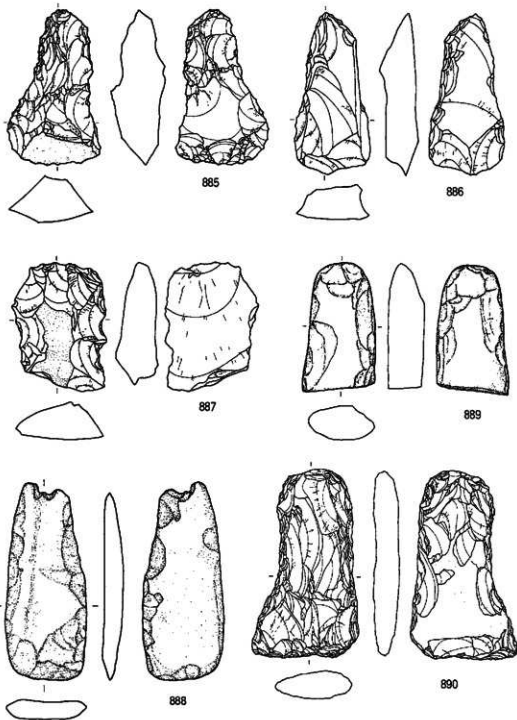
第164圖 遼東外出土遺物(石器) 11



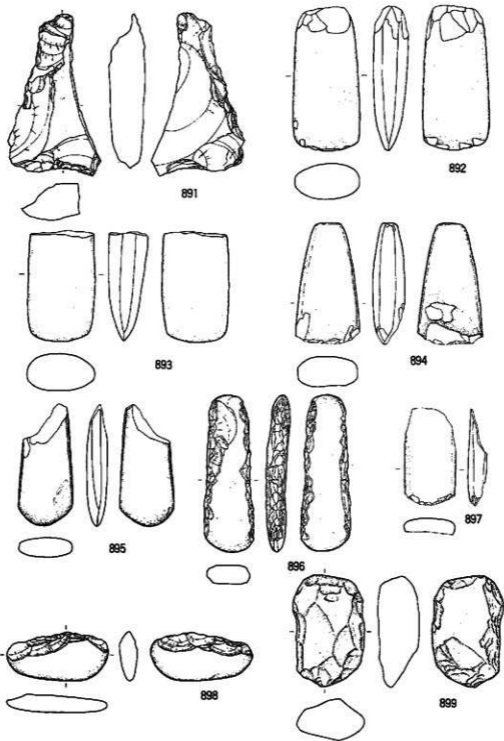
第165图 遺構外出土遺物(石器) 12



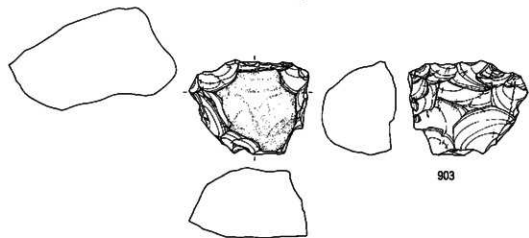
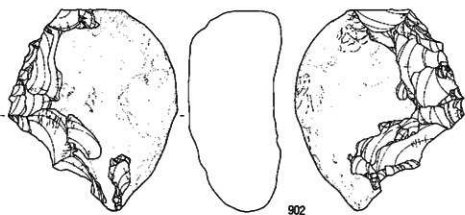
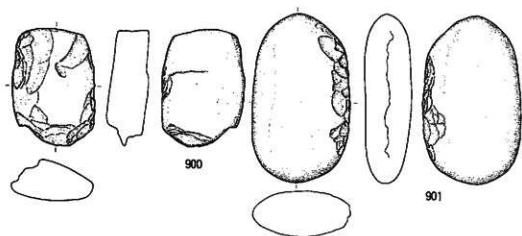
第166圖 遺構外出土遺物 (石器) 13



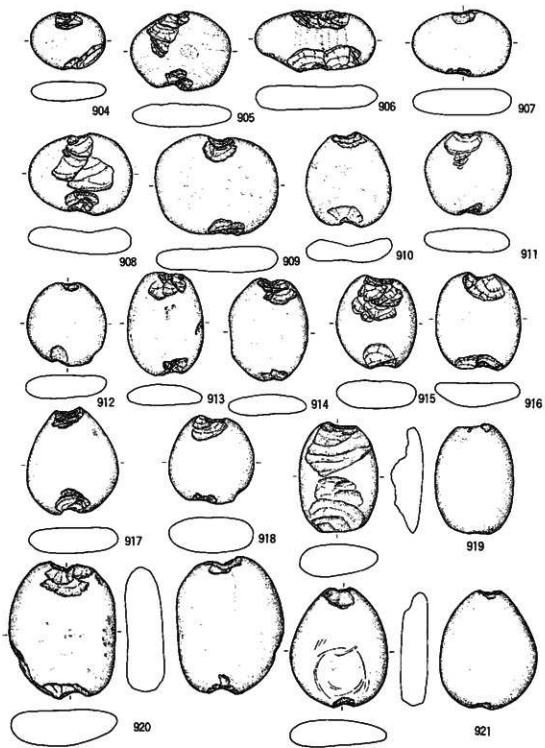
第167图 遼構外出土遺物(石器) 14



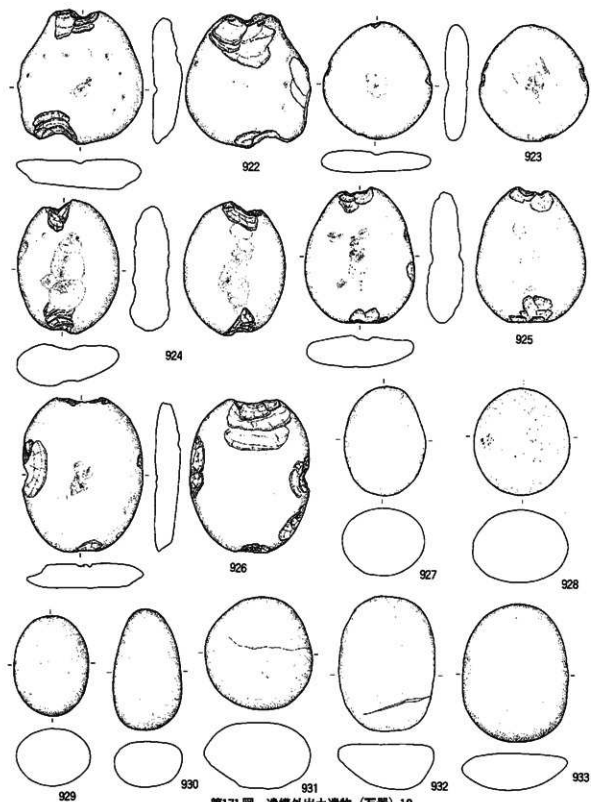
第168圖 遼構外出土遺物（石器）15



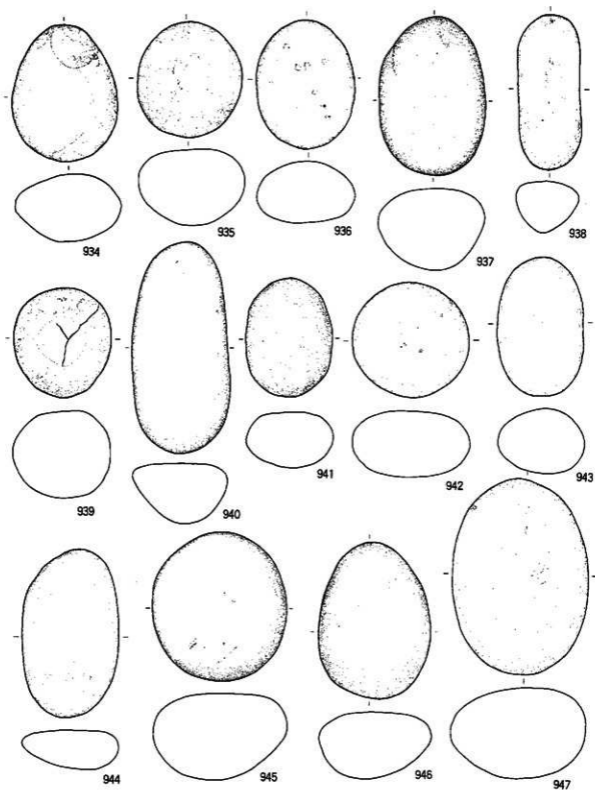
第169图 道桥外出土遗物(石器) 16



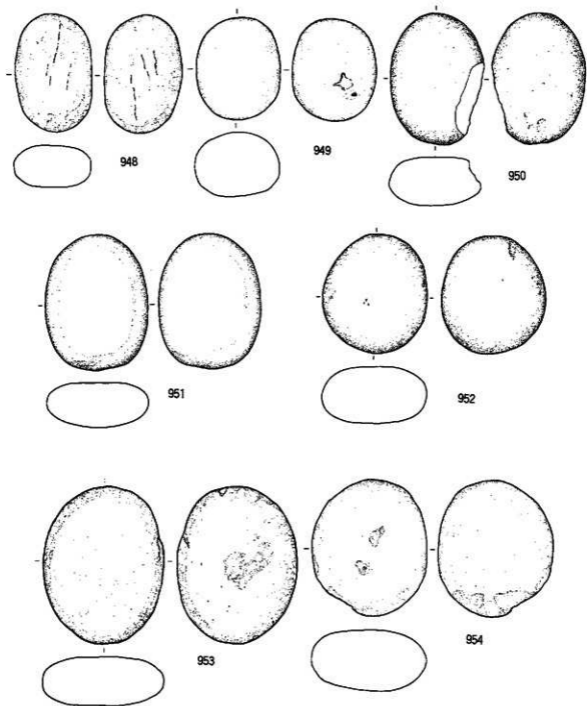
第170图 濠洲外出土遺物（石器）17



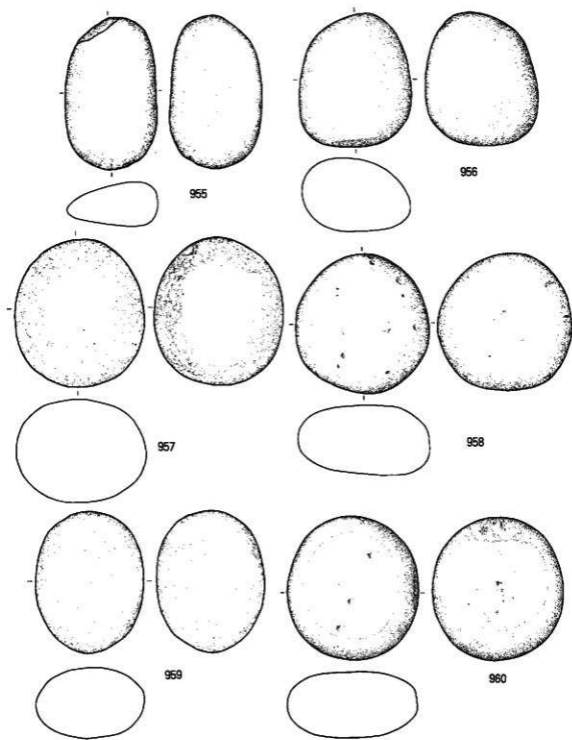
第171圖 遺構外出土遺物(石器) 18



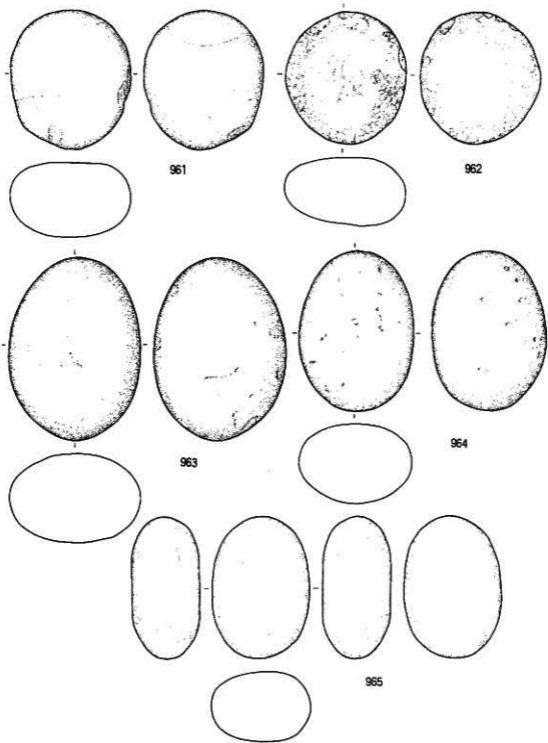
第172圖 遺構外出土遺物(石器)19



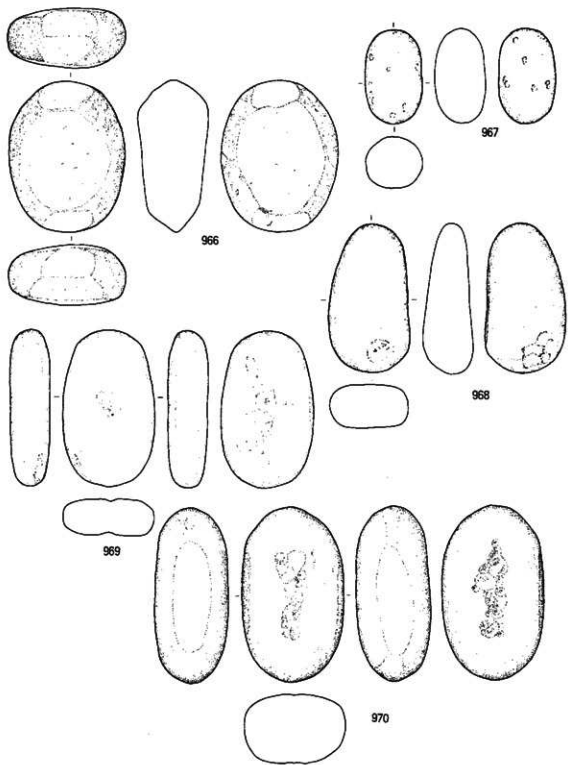
第173圖 遺構外出土遺物（石器）20



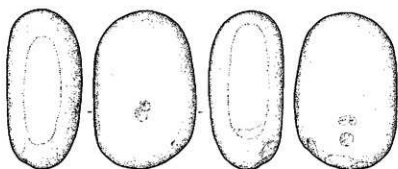
第174圖 遺構外出土遺物（石器）21



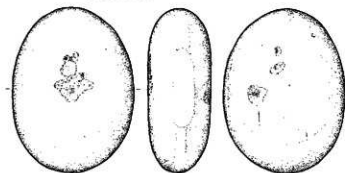
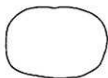
第175圖 遺構外出土遺物（石器）22



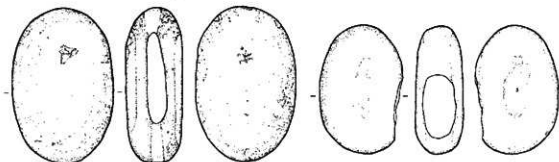
第176圖 遠構外出土遺物 (石器) 23



971

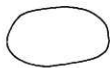


972

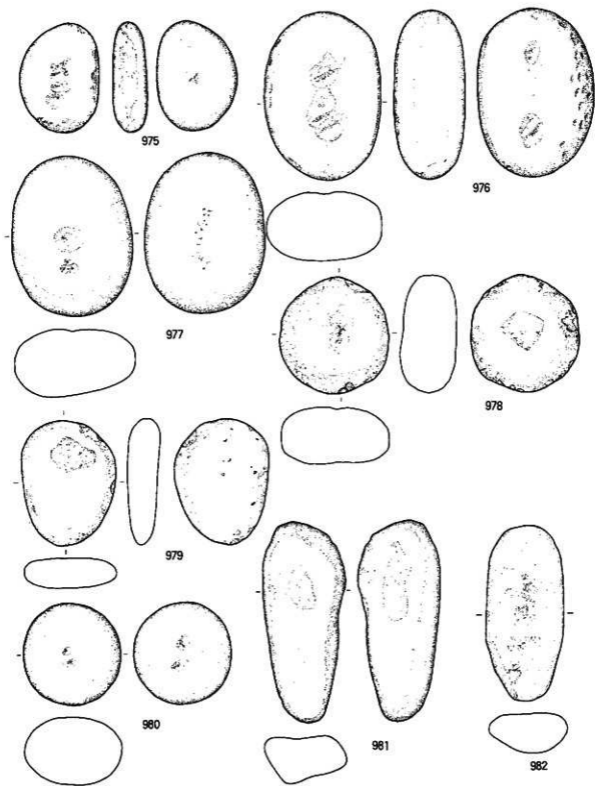


973

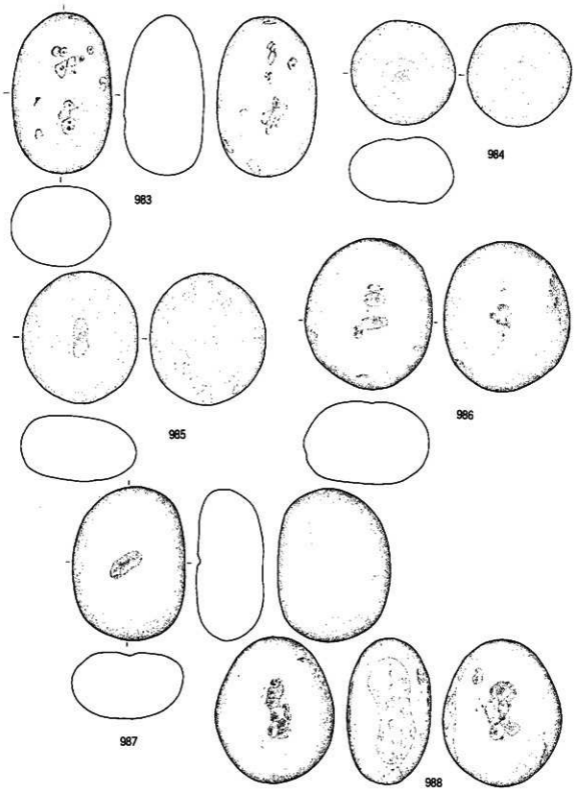
974



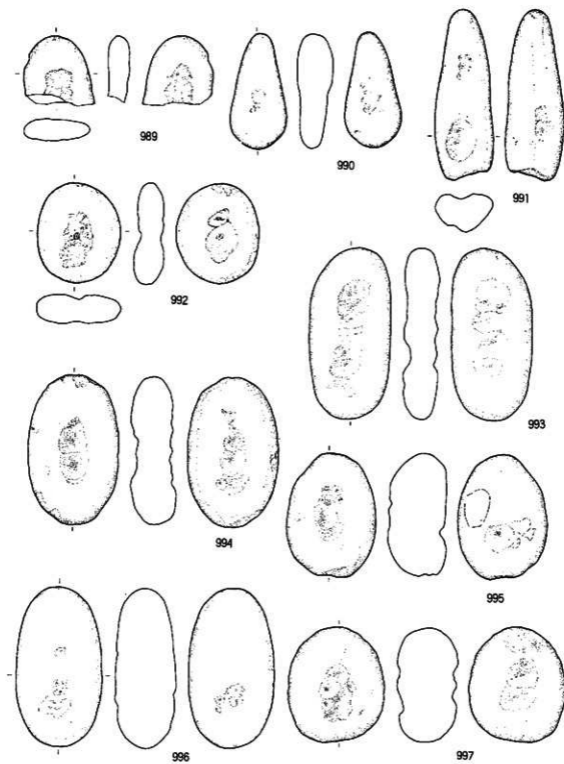
第177圖 遼寧外出土遺物（石器）24



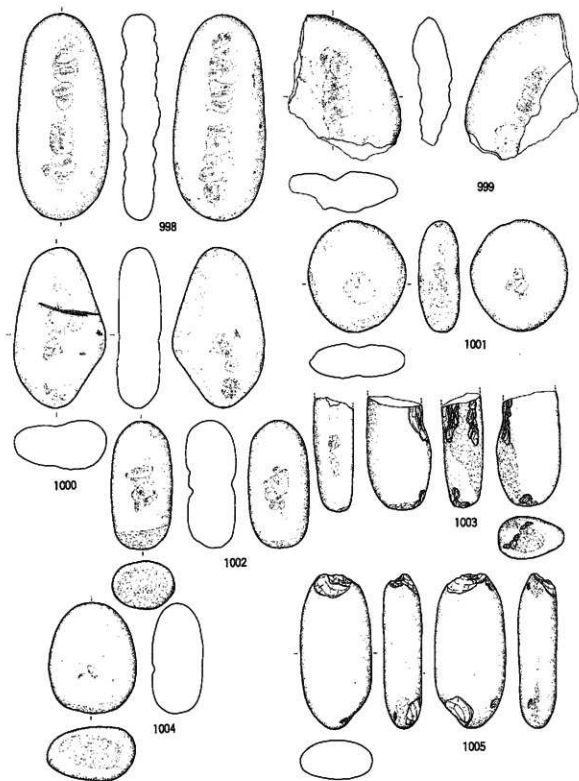
第178圖 遼南外出土遺物（石器）25



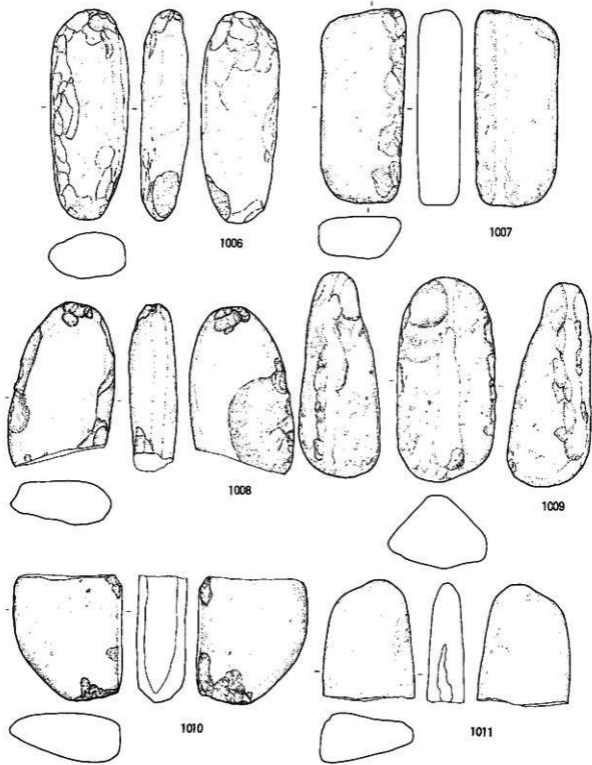
第179圖 遺構外出土遺物 (石器) 26



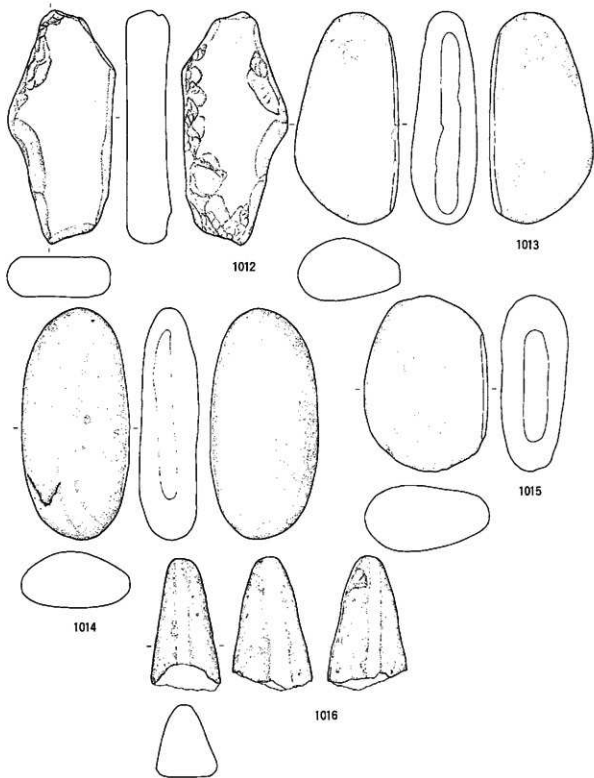
第180图 遼南外出土遺物(石器) 27



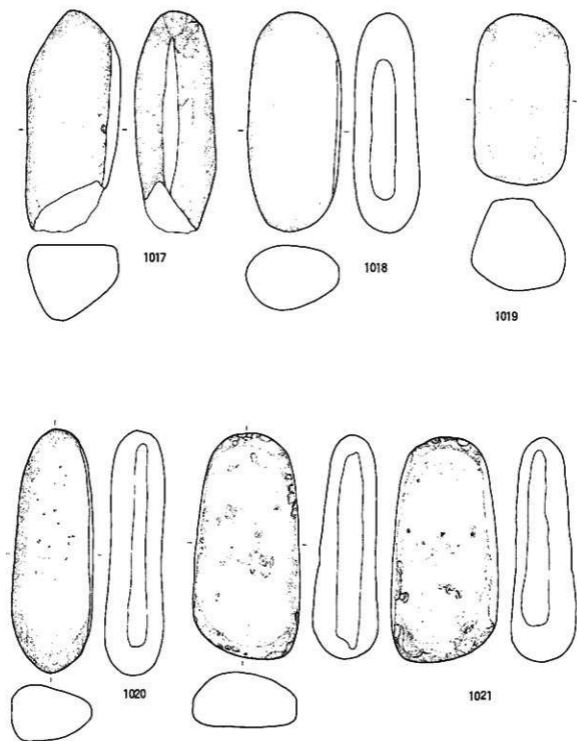
第181圖 遺構外出土遺物(石器) 28



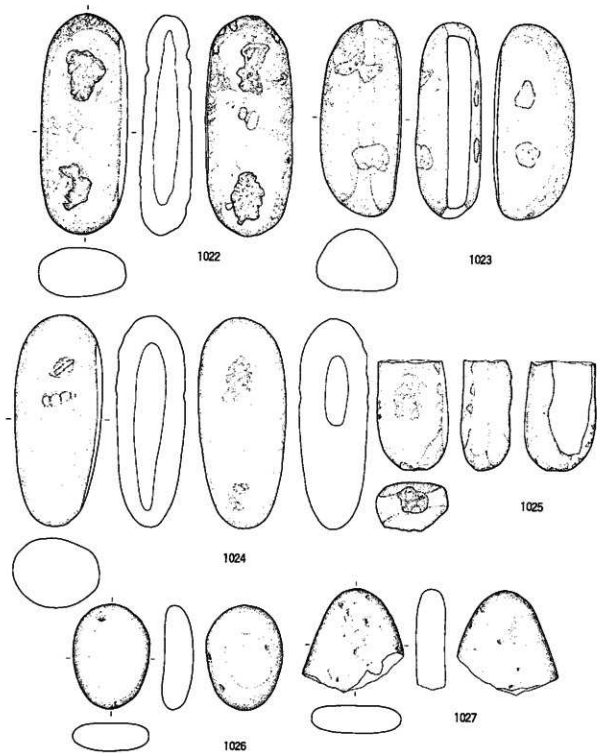
第182圖 遼構外出土遺物(石器) 29



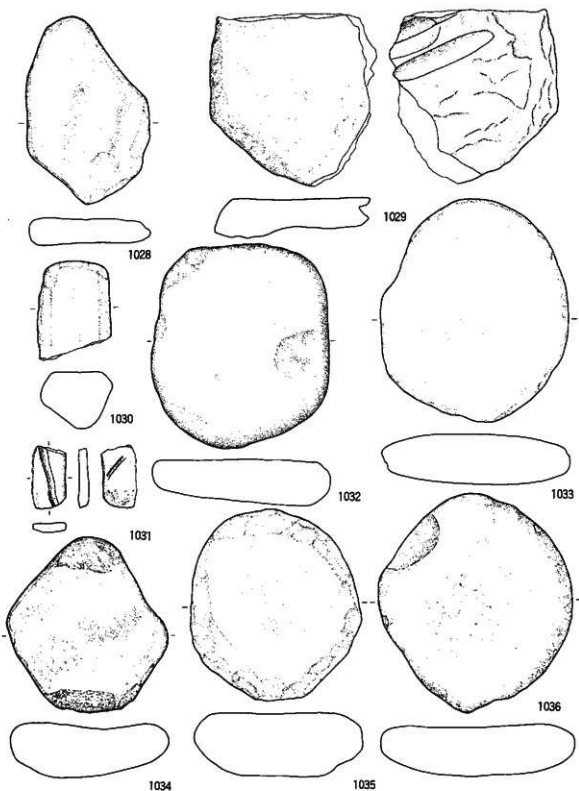
第183图 遺構外出土遺物(石器) 30



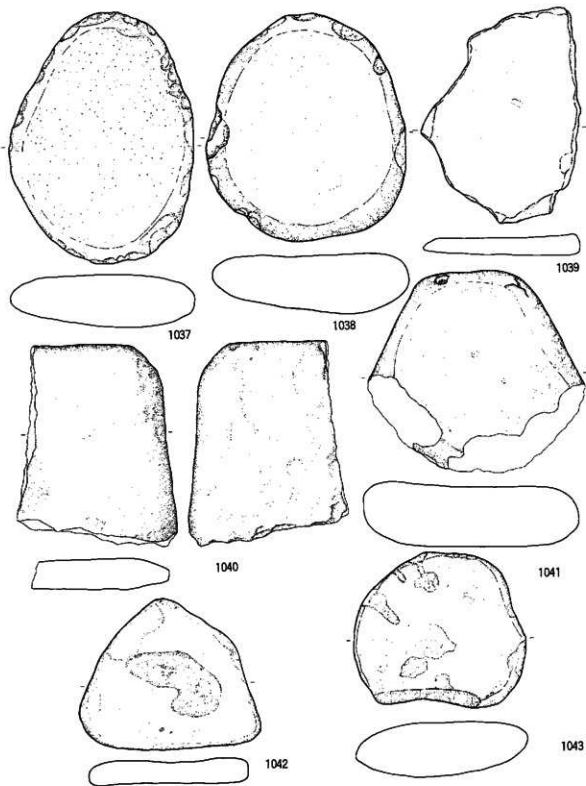
第184圖 遺構外出土遺物(石器) 31



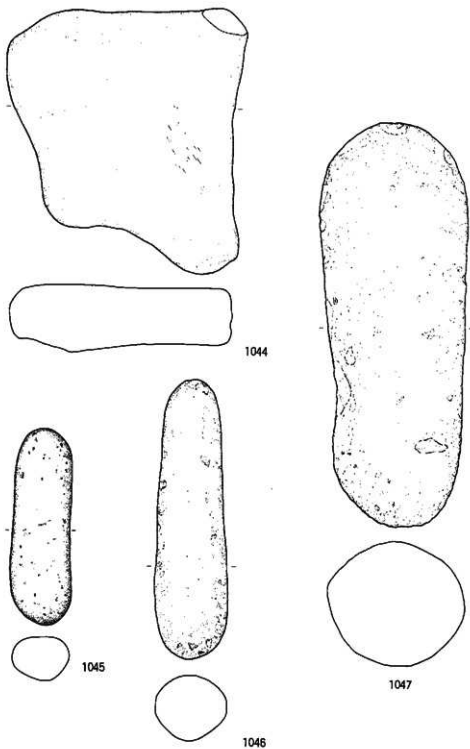
第185图 透槽外出土遺物(石器) 32



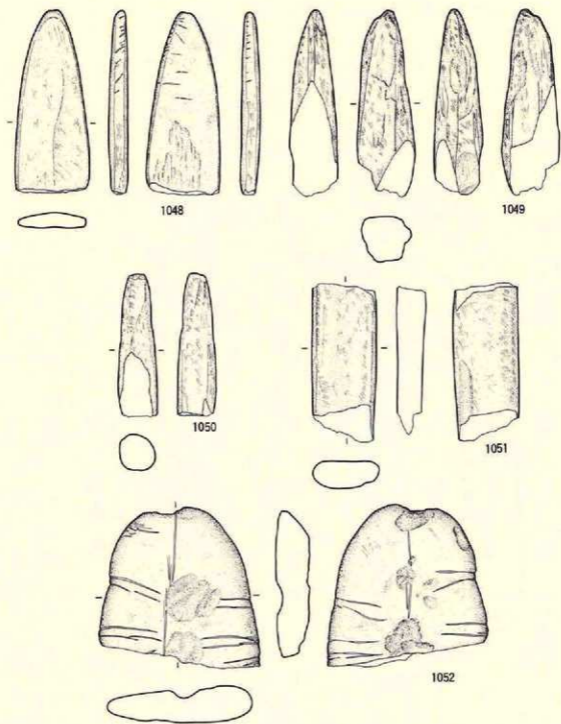
第186圖 遠構外出土遺物(石器) 33



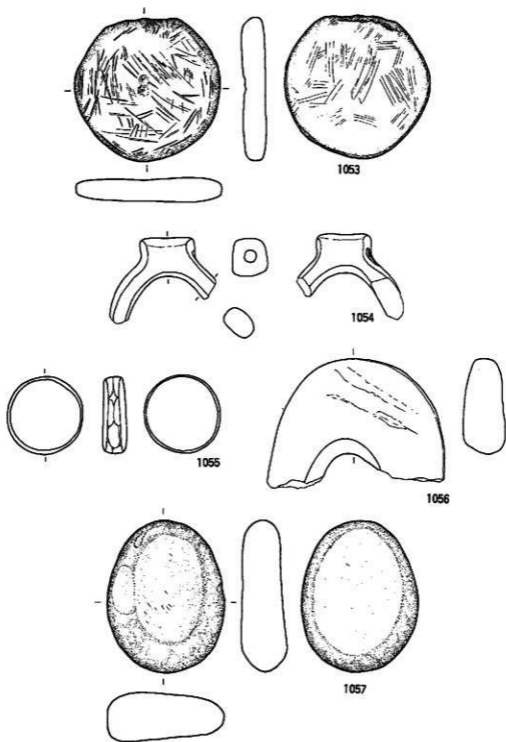
第187圖 遺構外出土遺物(石器) 34



第188图 遺構外出土遺物(石器) 35



第189圖 遺構外出土遺物（石製品）1



第190圖 遺構外出土遺物（石製品）2

3. 接合剥片資料

2Q-1住居跡の北壁際埋土中部から、約300点の剥片が集中して出土した。これらの内、83点と2M-1住居跡から出土した3点を含めた計86点による7個の接合資料が得られた。これらは互いに接合する可能性を持ち、さらに石質が同じで今後接合の可能性を有する96点の剥片が存在するが、時間的制約からこれ以上の検討を加えることはできなかった。ここでは7個の資料について若干の説明とまとめを行なうことにする。

№1 (第191~198図)

最も大きな資料で55点が接合し、総重量は2,586.65gである。原石は長さ21.8cm、幅14.9cm、厚さ16.6cmの人頭形を呈し、表面は自然面に覆われている。接合のまとまりごとにA-Dの4群に細分される。

A群 (1~6)

6個の剥片で構成される。原石を大きく2分割する工程で生じた剥片群と考えられ、3・4・6は、この時の第一次剥離面を打面としている。また、1・2は6の剥離後打点を90°転位させている。

B群 (7~10)

4個の剥片からなる。当群もA群と同様な工程において生じた剥片類と考えられ、8の背面に第一次剥離面を残す。7の剥離後、この面を打面として9・10が剥取されている。

C群 (11)

11のみが残存する。A・B群と同様に原石の2分割を意図とした加工と考えられるが、前二者は同時に剥離された可能性を持つのに対し、当剥片はA・Bの工程で取り残した部分と考えられる。1側辺部には粗い加工痕が見られる。

D群 (12~55)

A-Dの加工によって大きく分割された一方で、全体の2/3弱を占める。残核である55に至るまでに数段階の工程が観察される。

12~14は11の剥離に伴う面を打面としている。同様の加工を数回行った後、15・16、17・18を剥離している。これらの剥片は石材の風化が著しい部分で、この加工は周囲の整形と共に風化部分の除去を意図したものと考えられる。

19は打面の調整のための剥離と考えられる。この後これと第一次剥離面を打面として20~29が連続して剥取される。

次の過程では、打面の90°の転位が行なわれる。前段階の剥離によって形成された面に打面を移し、2分割時の第一次剥離面に対し平行する剥片類を取得している。接合した剥片順では30

を取り、打点を180°回転して31・32、33を剥取している。34もこれらと一連の過程での剥取と考えられる。

この後さらに90°転位させ、36・37・38を剥取している。35はこれに先行した打面の調整の加工と考えられる。

39・40は38の剥取後に90°の転位、41はまた90°転位し、40の剥離面を打点としている。さらに90°転位させ38の剥離面を打点として42・43、これらの剥離面に転位して44・45を取得している。なお、43の1側辺には主に片面からの細部加工が施され、凸刃の削器としての機能を持つ石器となっている。No.1の接合資料中、明瞭な細部加工が施される剥片はこの1点だけである。

46～50も前段階からの工程を継続して、剥離が行なわれている。45の剥取後、43の剥離面に打点を90°転位させ、46～50を順に剥取している。39～50の剥離は、連続した一連の加工と捉えられ、この段階では頻繁に90°の打面転位が行なわれている。

残核である55には、51～54の小剥片が接合するが周辺部分を欠く。一部に43の剥離面を残すことから、周辺部はこの面を打面として剥離された可能性がある。表面は下方向から51～53等を、この後打点を180°転位させて54を剥取している。これに対し裏面は、両側からの剥離痕が観察される。

No.2 (第199図)

56～60の5個の剥片から構成される。石質はNo.1と同様であるが、視覚的にはあるが別面体の可能性がある。一部に自然面を残し、素材は径15cm前後の亜角礫と考えられる。いずれにも大きく打割した際の剥離面を持ち、この時点で56は他と分離される。57は分割の際の打点とは90°の転位が見られる。58～60は最初の打点と同方向からの打撃の際、破碎したものと考えられる。

56は先端部に両側から粗い加工痕を有する。60は1側辺に片面からの大きな調整が施され、鋸歯状の刃部を持つ。

No.3 (第200図)

61～69の9個が接合した。No.1と同一素材の可能性がある資料である。61はコーンを残し、当初この位置から素材の分割を試みたことが窺われる。この後打面を180°転位し62、63・64、65を順に剥取している。66・67・68の剥離を経て、残核69に至る。

61の側辺部には片面からの細かい剥離加工が施されている。

No.4 (第201図)

70～72の3個が接合した。No.1と同一素材の可能性がある資料である。70・71の剥離後ランダムに打面の転位を行なっている。73は一部に自然面を残す残核である。

No.5 (第201図)

No.1 と同一素材の可能性のある資料である。同一の打面を持つ、73・74の2個から成る。73は上部に両側からの粗い加工が施されている。

No.6 (第201図)

No.1 と同一素材の可能性のある資料である。75・76の2個が接合した。

No.7 (第201図)

No.1 と同一素材の可能性のある資料である。いずれも自然面を残す77-80の4個が接合した。数回の打撃により、破砕した剥片類と考えられる。

<小結>

以上の接合資料について剥片剥取の作業工程の検討と、他遺跡の資料との比較をし小結としたい。

資料No.1では、初めに素材の大まかな分割(2分割か?)が行なわれている。接合数が多いD群の観察では、この後大分割時の剥離面を打面として、周囲を順に剥離していく工程に進んでいる。これは自然面及び風化部分の除去と、次の作業面の整形工程と考えられる。

次に前工程での剥離面に打面を90°転位し、大分割時の剥離面に平行する剥片を剥取している。この段階から本格的な剥片剥取の工程に入ると考えられるが、残存する剥片及びこれらに見られる剥離痕からは良質な剥片は取得できなかったようである。

次の段階では頻繁に打面の転位が行なわれている。打面の転位は剥片剥取後の剥離面を次の打面とする90°の転位が多い。この結果、素材の周辺部からは大型の剥片が取得され、素材の中心部分が残ることとなる。

次の段階での剥離は、素材の中心部に移るが、この部分は接合する剥片が少なく、詳細は不明である。残核から推定すると、前段階の剥離面を打面とした剥離が加えられるようであるが、この過程では大きな剥片の取得はできなかったと考えられる。

残核には表面は上下から、裏面は左右からの剥離が観察される。これは、最終的に残核を製品に加工しようとしたものと考えられる。

この他の小群に於いても自然面の除去、打点の転位等同様の加工が見られる。

県内での接合剥片の好資料としては、平石町桜松遺跡(中川他、1982)や都南村(現盛岡市)湯沢遺跡(三浦他、1983)等があげられる。

桜松遺跡では、楕円形を呈する浅いビットから877片の剥片が出土し、29個の接合資料が得られている。これらは原石の自然面を打面として剥片の剥取をしており、打面整形の調整は行なわれていない。これは素材の形状に因るところが大きいと考えられるが、打面はほぼ同一面を使用し連続した剥取をしており、打面の頻繁な転位は行なわれていない。この結果規模、形状

とも安定した剥片が得られている。

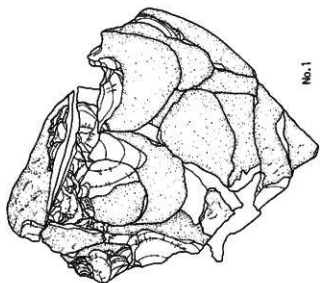
湯沢遺跡では、縄文時大中期末の住居跡14棟から20例の「剥片貯蔵」（高橋他、1978）が認められ、5個の接合資料が得られている。これらは自然面を除去し打面を作出している例もあるが、大半は自然面を打面とし、同一方向からの連続した剥離を行なっている。打面を転位させる場合でも、同一方向から剥取できるだけの剥片を取った後の転位で、頻繁なものではない。剥取される剥片も、桜松遺跡と同様にある程度安定したものとなっている。

この2例と当遺跡の資料を比較すると、自然面の除去過程と打面の頻繁な転位という点で相異が見られる。自然面の除去という点は、素材の形状と共に風化の度合に起因するところが大きいであろう。打面の転位については、具体的に考察できる資料は乏しいが、第一次の剥片取得段階で目的とする剥片が得られなかったことや、これに伴って次段階の剥離のための打面に不都合が生じたこと等が考えられる。これは桜松・湯沢両遺跡の剥片は「貯蔵」という形態をとるのに対し、当遺跡のそれは「廃棄」という出土状況の相異にも現われているのかもしれない。

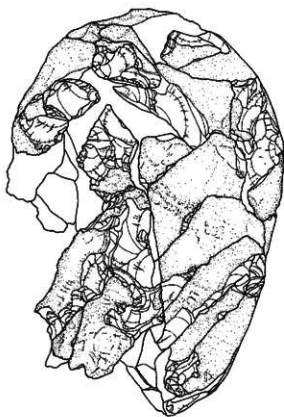
第1表 接合剥片観察表

番号	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	メモ
1	2Q-1住居土		5.1	2.5	1.8	23.4	硬質泥岩	
2	2Q-1住居土		4.7	2.6	1.5	12.5	硬質泥岩	
3	2Q-1住居土		3.9	3.6	0.7	12.6	硬質泥岩	
4	2Q-1住居土		5.8	3.8	0.9	20.4	硬質泥岩	
5	2Q-1住居土		1.1	3.3	0.7	2.2	硬質泥岩	
6	2Q-1住居土		4.9	8.7	1.9	110	硬質泥岩	
7	2Q-1住居土		3.9	6.9	2.1	46.4	硬質泥岩	
8	2Q-1住居土		7.9	3.1	1.1	25.25	硬質泥岩	
9	2Q-1住居土		2.8	3.4	1.6	12.75	硬質泥岩	
10	2Q-1住居土		3.8	4.7	1.1	18.15	硬質泥岩	
11	2Q-1住居土		8.4	5.8	2.6	140	硬質泥岩	
12	2Q-1住居土		2.2	2.2	1.2	6.55	硬質泥岩	
13	2Q-1住居土		2.9	1.1	0.6	2.15	硬質泥岩	
14	2Q-1住居土		2.6	4.2	1.1	10.65	硬質泥岩	
15	2Q-1住居土		3.3	3.5	0.9	7.6	硬質泥岩	
16	2Q-1住居土		4.8	4.5	1	20.9	硬質泥岩	
17	2Q-1住居土		4.5	6.5	1	27.3	硬質泥岩	

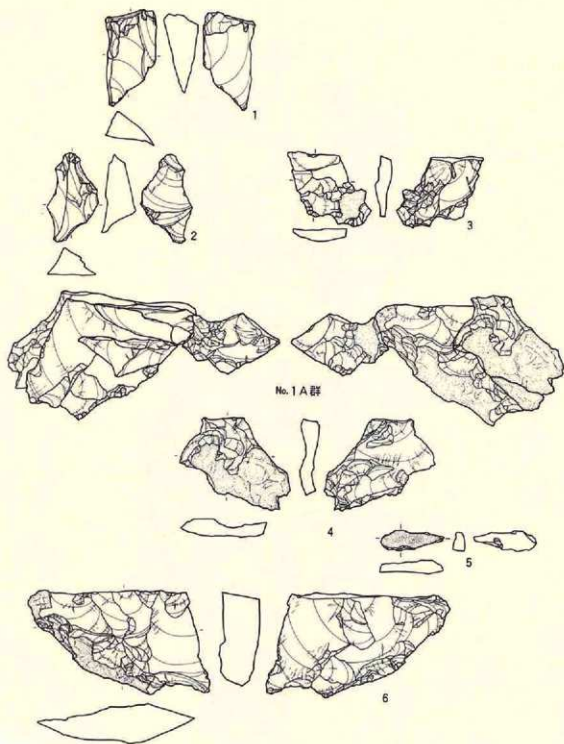
番号	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	メモ
18	2Q-1住棟土		6.1	5.2	0.9	23.8	硬質泥岩	
19	2Q-1住棟土		1.4	3.8	0.7	5.9	硬質泥岩	
20	2Q-1住棟土		7	5.2	1.8	80	硬質泥岩	
21	2Q-1住棟土		8.4	4.9	1.2	56.65	硬質泥岩	
22	2Q-1住棟土		5.4	4.8	1	24	硬質泥岩	
23	2Q-1住棟土		6.6	4	1.5	43.95	硬質泥岩	
24	2Q-1住棟土		2.6	4.3	1	11.15	硬質泥岩	
25	2Q-1住棟土		6.3	6.3	1	56.6	硬質泥岩	
26	2Q-1住棟土		7.1	6.6	1.9	90	硬質泥岩	
27	2Q-1住棟土		7.5	8.1	1.9	110	硬質泥岩	
28	2Q-1住棟土		6.6	6.5	2.1	96	硬質泥岩	
29	2Q-1住棟土		3.5	7.5	1	38.85	硬質泥岩	
30	2Q-1住棟土		3.2	4.2	0.7	10.2	硬質泥岩	
31	2Q-1住棟土		4.1	7.8	0.7	23	硬質泥岩	
32	2Q-1住棟土		2.9	4.5	0.6	8.4	硬質泥岩	
33	2Q-1住棟土		5.2	5	1	20.6	硬質泥岩	
34	2Q-1住棟土		0.8	2.7	0.4	1.2	硬質泥岩	
35	2Q-1住棟土		2.5	3.2	0.9	6.8	硬質泥岩	
36	2Q-1住棟土		5.2	6.1	0.9	24.55	硬質泥岩	
37	2Q-1住棟土		6.5	5.1	2.4	60	硬質泥岩	
38	2Q-1住棟土		5.2	7.6	1.9	56.45	硬質泥岩	
39	2Q-1住棟土		2	1.4	0.5	1.95	硬質泥岩	
40	2Q-1住棟土		8.2	4.2	1.5	51.35	硬質泥岩	
41	2Q-1住棟土		4.8	5.6	1	25.9	硬質泥岩	
42	2Q-1住棟土		9.8	8.5	3.6	260	硬質泥岩	
43	2Q-1住棟土		8.7	6.8	2.7	160	硬質泥岩	側面に刃部加工 凸方割器的
44	2Q-1住棟土		7.2	5.2	2.7	59	硬質泥岩	
45	2Q-1住棟土		10.3	6.5	1.8	110	硬質泥岩	
46	2Q-1住棟土		4.8	3.7	2.1	26.4	硬質泥岩	
47	2Q-1住棟土		5.1	3.8	2.6	57.8	硬質泥岩	
48	2Q-1住棟土		2	2.1	0.8	5.45	硬質泥岩	
49	2Q-1住棟土		9	8.2	3.6	200	硬質泥岩	
50	2Q-1住棟土		8.2	5.2	1.5	65	硬質泥岩	
51	2Q-1住棟土		2.4	1.4	0.3	0.95	硬質泥岩	
52	2Q-1住棟土		1.8	3.1	0.5	2.25	硬質泥岩	
53	2Q-1住棟土		2.4	2.1	0.4	2.2	硬質泥岩	
54	2M-1住		4.6	2.4	0.6	6.7	硬質泥岩	
55	2Q-1住棟土		6.1	5.5	2.6	100	硬質泥岩	
56	2M-1住		6	4.1	2.2	61	硬質泥岩	先端部に粗い加工
57	2Q-1住棟土		5.2	8	2.1	120	硬質泥岩	
58	2Q-1住棟土		5	6.2	2.2	70	硬質泥岩	
59	2Q-1住棟土		3.8	2.1	1.5	15.7	硬質泥岩	
60	2Q-1住棟土		9.9	5.3	2.1	130	硬質泥岩	側面に鋸歯状の刃部加工
61	2Q-1住棟土		3.8	4.1	1	6.1	硬質泥岩	側面に刃部加工
62	2Q-1住棟土		4.1	2.9	0.9	11.9	硬質泥岩	
63	2Q-1住棟土		5.7	6	1.3	49.6	硬質泥岩	
64	2Q-1住棟土		2	1.9	0.4	2.4	硬質泥岩	
65	2Q-1住棟土		5.1	5	1.2	25.85	硬質泥岩	
66	2Q-1住棟土		5.6	4.1	1.4	37.8	硬質泥岩	
67	2Q-1住棟土		3.6	1.6	0.9	4.35	硬質泥岩	
68	2Q-1住棟土		3.3	2.5	0.9	5.3	硬質泥岩	
69	2Q-1住棟土		4.6	7.7	3.7	120	硬質泥岩	
70	2Q-1住棟土		4.2	3.9	1.4	16.3	硬質泥岩	
71	2Q-1住棟土		2.8	3.5	0.9	9.45	硬質泥岩	
72	2Q-1住棟土		4.9	6.7	3.1	85	硬質泥岩	
73	2M-1住		6.8	2.5	0.6	15	硬質泥岩	上部に両面からの粗い加工
74	2Q-1住棟土		9.2	5.3	2.8	100	硬質泥岩	
75	2Q-1住棟土		3.3	2.1	0.6	4.25	硬質泥岩	
76	2Q-1住棟土		5.2	4.2	1.2	29.9	硬質泥岩	
77	2Q-1住棟土		3.1	4.6	2.2	33.8	硬質泥岩	
78	2Q-1住棟土		2.8	2.8	1.2	47	硬質泥岩	
79	2Q-1住棟土		3.9	4.8	2.3	29.2	硬質泥岩	
80	2Q-1住棟土		5.2	3	1.2	10.9	硬質泥岩	



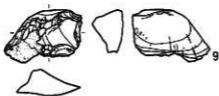
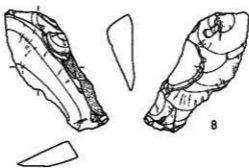
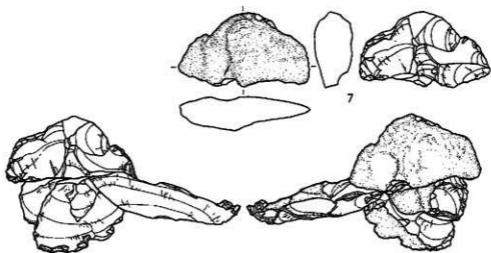
No. 1



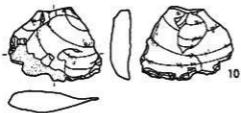
第191圖 接合製片1



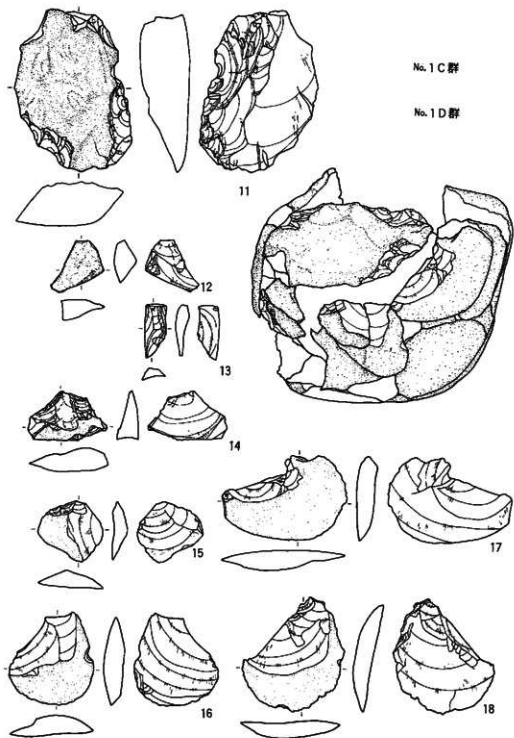
第192图 接合制片2



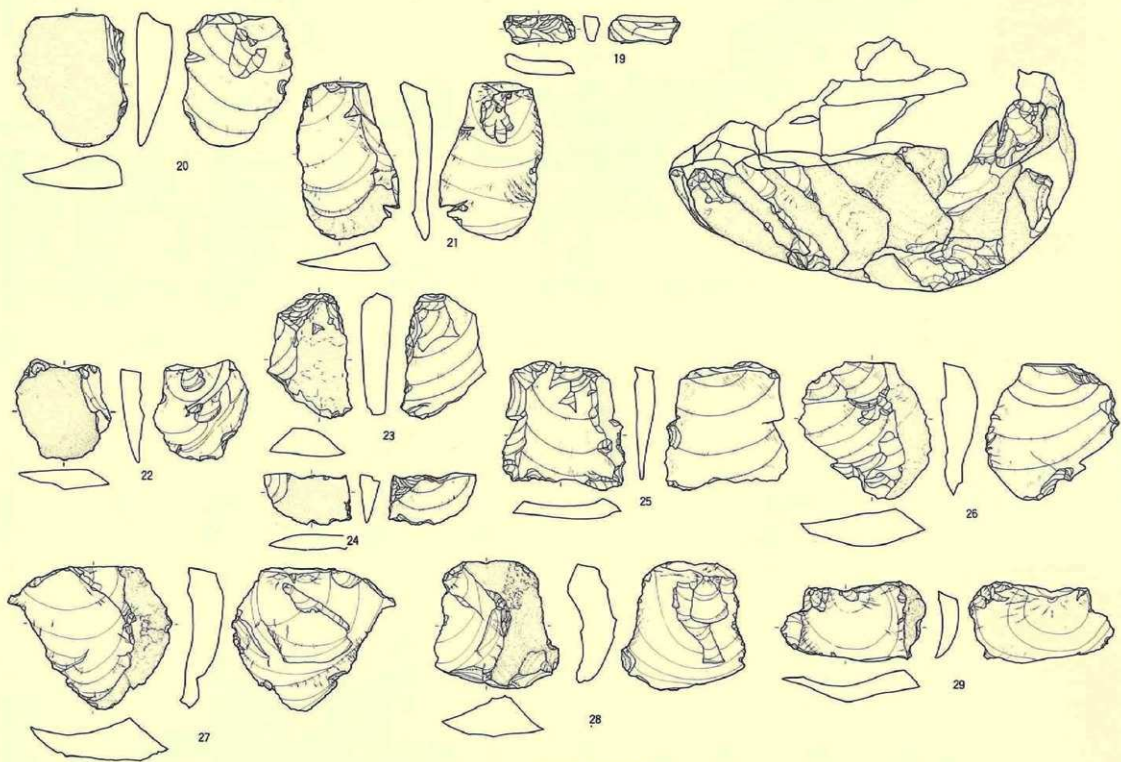
No. 1B群



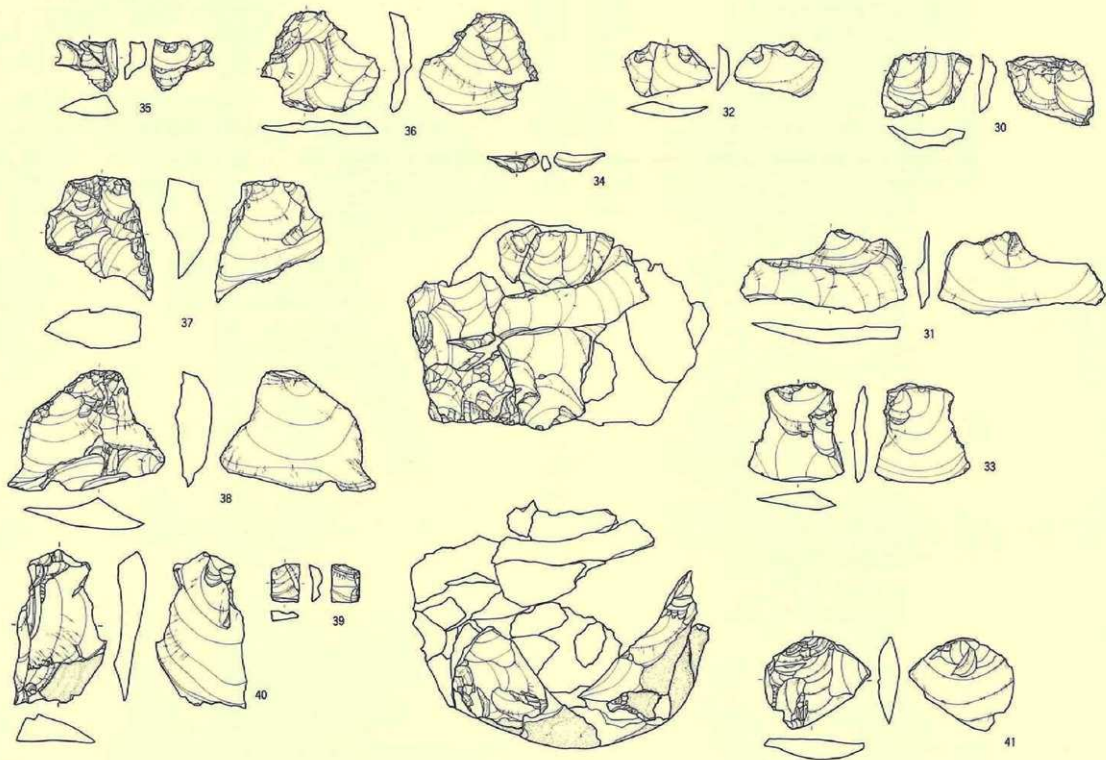
第193图 接合制片3



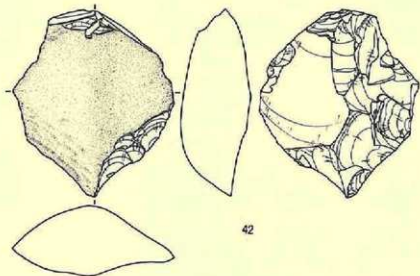
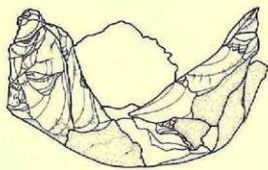
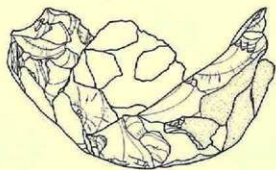
第194图 接合碎片4



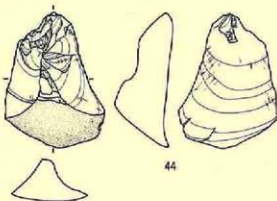
第195圖 接合刺片5



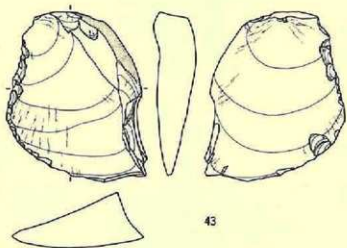
第196图 接合制片6



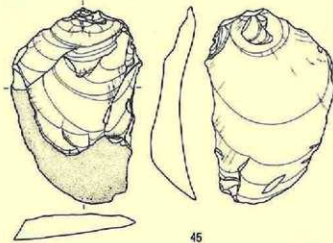
42



44

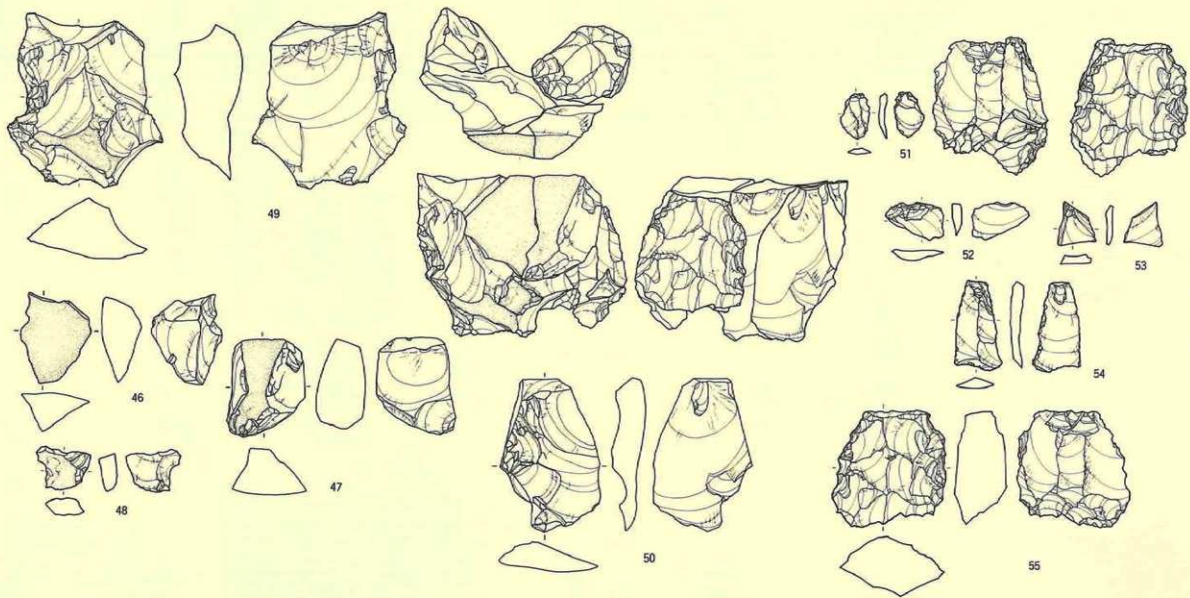


43

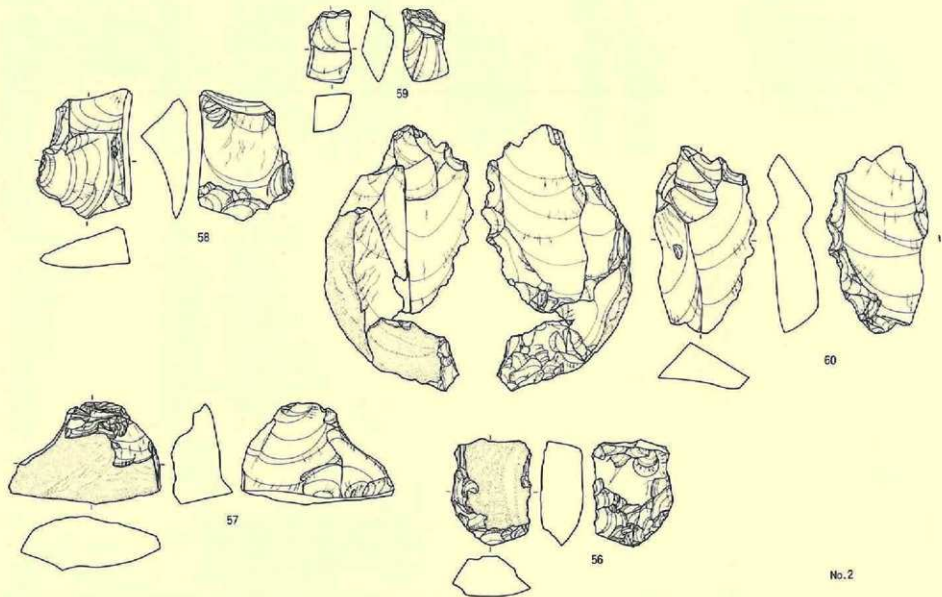


45

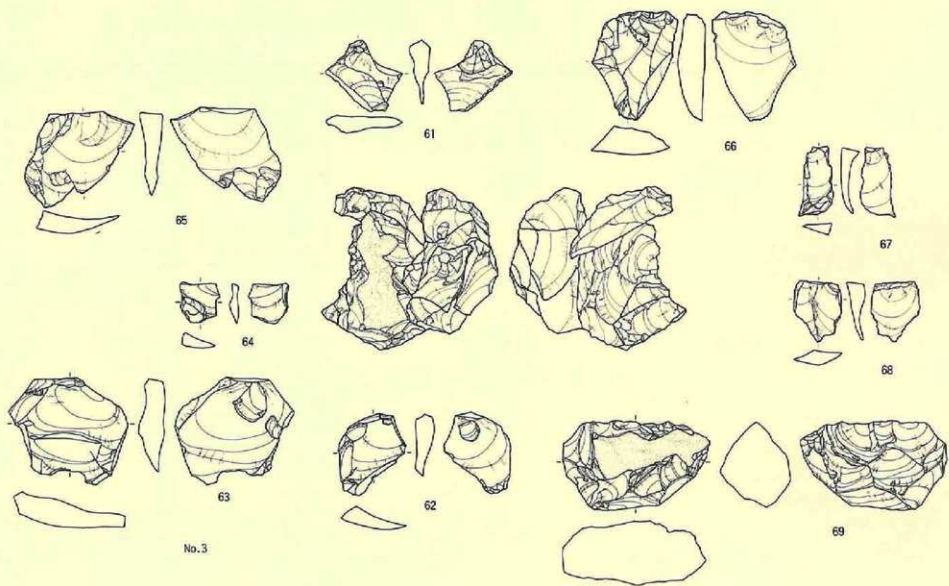
第197图 接合铜片7



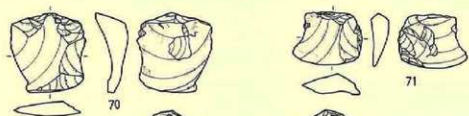
第198图 接合碎片8



No. 2

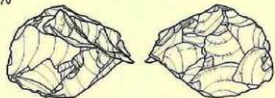


第200图 接合制品10



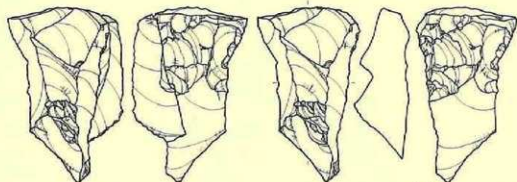
70

71



72

No. 4

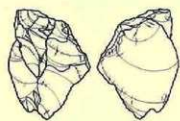


74

No. 5

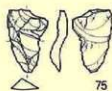


73

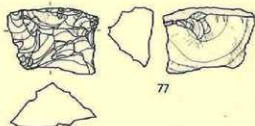


No. 6

76

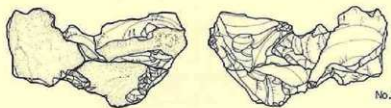


75

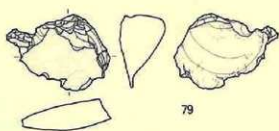


77

78



No. 7



79

80

第201 圆接合制片11

第2表 土器観察表

番号	出土地点	器種	部位	器体	方向	文様の特徴	分類
1	5D-1住埋土	深鉢	口縁部-胴部	L R	横	キャリバー 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
2	5D-1住埋土	深鉢	口縁部-底部	L R	縦	口縁部肥厚 沈線文	Ⅲ群a2類
5	7D-1住埋土	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	波状口縁 隆帯による渦巻文	Ⅲ群d類
6	7D-1住床	深鉢	底面	L R	縦	沈線文	Ⅲ群d類
7	7D-1住内P埋土	深鉢	胴部	R L	縦	沈線文	Ⅲ群d類
8	7D-1住床	深鉢	口縁部	L R	横	キャリバー 隆沈線文	Ⅲ群d類
9	7D-1住床	深鉢	口縁部	L R	横	口縁内側肥厚 隆帯による文様	Ⅲ群b類
10	7E-1住内P埋土	深鉢	口縁部-底部	L R	縦	波状口縁 沈線文	Ⅲ群d類
11	7E-1住内P埋土	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	波状口縁 隆帯・隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
12	7D・7E-1住埋土	深鉢	口縁部	R L	横	キャリバー 隆沈線による渦巻文 突起	Ⅲ群d類
13	7D・7E-1住埋土	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦・横	キャリバー 波状口縁? 隆沈線・沈線文	Ⅲ群d類
14	7D・7E-1住埋土	深鉢	口縁部	R L	横	キャリバー 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
15	7D・7E-1住埋土	深鉢	口縁部	R L	横	キャリバー 隆沈線	Ⅲ群d類
16	7D・7E-1住埋土	深鉢	口縁部	L R	縦・横	キャリバー 隆沈線による文様	Ⅲ群d類
17	7D・7E-1住埋土	深鉢	胴部	L R	横	キャリバー 隆沈線による文様	Ⅲ群d類
18	7D・7E-1住埋土	深鉢	口縁部			キャリバー 隆帯による文様	Ⅲ群d類
19	7D・7E-1住埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	波状口縁 隆沈線による渦巻文 斜突文	Ⅲ群d類
20	7D・7E-1住埋土	鉢	口縁部			波状口縁 口唇部肥厚 沈線文	Ⅲ群d類
21	7D・7E-1住埋土	深鉢	胴部		縦	隆沈線による文様	Ⅲ群d類
22	7D・7E-1住埋土	深鉢	胴部	R L	縦	隆沈線による渦巻文 鐘状文	Ⅲ群d類
23	7D・7E-1住埋土	深鉢	胴部	R L	縦	沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
24	7D・7E-1住埋土	深鉢	胴部	L R	縦	沈線文	Ⅲ群d類
25	7D・7E-1住埋土	浅鉢	底面			ミニチュア 底部内形	Ⅲ群f類
39	2F-1住埋土	深鉢	口縁部	L R	横	キャリバー 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
40	2F-1住埋土	深鉢	胴部	R L	縦	沈線文	Ⅲ群d類
41	2F-1住埋土	深鉢	口縁部			貼り付け 沈線文	Ⅲ群a2類
42	2F-1住埋土	深鉢	胴部	L R	縦	鐘状文横走	Ⅲ群f類
43	2F-1住埋土	深鉢	胴部			鐘状文	Ⅲ群f類
44	2F-1住埋土	深鉢	口縁部	R L	縦	結実(第二種) 羽状文?	Ⅲ群f類
45	2F-1住埋土	深鉢	胴部		縦	結実(第一種) 羽状文	Ⅲ群f類
48	4G-2住炉埋土	深鉢	口縁部-底部	L	縦	斜みを持つ隆帯	Ⅲ群d類
49	4G-2住埋土	深鉢	底面			把手状のたい隆帯	Ⅲ群d類
55	2I-1住炉埋土	深鉢	口縁部-底部	L R	縦	波状口縁 隆帯・沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
56	2I-1住床	深鉢	口縁部-底部	R L	縦	6単位の山形口縁 沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
57	2I-1住埋土	深鉢	口縁部-胴部	R L R	縦	波状口縁 隆沈線による渦巻文 鐘状文	Ⅲ群d類
58	2I-1住内P埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	波状口縁 隆帯による渦巻文	Ⅲ群d類
59	2I-1住埋土	深鉢	口縁部	R L	縦	波状口縁 沈線文・渦巻文	Ⅲ群d類
60	2I-1住埋土	深鉢	口縁部	R L	縦	59と同一體	Ⅲ群d類
61	2I-1住埋土	深鉢	口縁部			波状口縁 沈線文・渦巻文	Ⅲ群d類
62	2I-1住埋土	深鉢	口縁部	R L	横	キャリバー 隆沈線による渦巻文(突起状)	Ⅲ群d類
63	2I-1住埋土	深鉢	胴部	L R	縦	地文のみ	Ⅲ群f類
68	2L-1住埋土	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	波状口縁(4単位) 隆帯・沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
69	2L-1住埋土	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	隆帯による渦巻文	Ⅲ群d類
70	2L-1住埋土	深鉢	胴部	L R	縦	隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
71	2L-1住埋土	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	波状口縁	Ⅲ群f類
72	2L-1住埋土	深鉢	底面	R L	縦	沈線文	Ⅲ群d類
73	2L-1住埋土	深鉢	底面	L R	縦	隆沈線による渦巻文様	Ⅲ群d類
74	2L-1住埋土	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	波状口縁 隆帯・沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
75	2L-1住埋土	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	波状口縁(4単位) 地文のみ	Ⅲ群f類
76	2L-1住埋土	深鉢	胴部	L R	縦	地文のみ	Ⅲ群f類
77	2L-1住埋土	深鉢	胴部	L R	縦	地文のみ 76と同一體	Ⅲ群f類
78	2L-1住埋土	深鉢	胴部	L R	縦	沈線文 鐘状文横走	Ⅲ群f類
82	6L-1住内P埋土	深鉢	口縁部-胴部	R L	縦	口縁部は斜突文 胴部は沈線文	Ⅲ群d類
83	6L-1住床	深鉢	口縁部-胴部	R L	縦	地文のみ 波状口縁?	Ⅲ群d類
84	6L-1住床	深鉢	胴部-底部	R L	縦	沈線による文様	Ⅲ群d類
85	6L-1住床	深鉢	底面			ミニチュア	Ⅲ群f類
86	6L-1住床	深鉢	胴部-底部			編文	Ⅲ群f類
87	6L-1住床	深鉢	口縁部			口縁部上端肥厚 沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
88	6L-1住床	深鉢	口縁部	L R	横	キャリバー 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
89	6L-1住床	深鉢	胴部	R L R	縦	隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類

番号	出土地点	器種	部位	原体	方向	文様の特徴	分類
90	6 L-1 住床	深鉢	胴部			隆沈線による渦巻文	Ⅱ群㉔類
91	6 L-1 住床	深鉢	胴部			隆沈線と沈線による文様	Ⅱ群㉔類
92	6 L-1 住床	深鉢	胴部	L R	縦	沈線による文様	Ⅱ群㉔類
93	6 L-1 住床	深鉢	胴部	R L	縦	84と同一個体	Ⅱ群㉔類
94	6 L-1 住床	深鉢	胴部	R L	縦	沈線による文様	Ⅱ群㉔類
95	6 L-1 住内P埋土	深鉢	胴部～底部	L R	縦	沈線文	Ⅱ群㉔類
106	2 M-1 住内P埋土	浅鉢	口縁部～底部			口縁部上端肥厚 沈線による渦巻文 胴部は無文	Ⅱ群㉔類
107	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部～底部	R L	縦	隆帯による文様 線状文	Ⅱ群㉔類
108	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部～胴部	L R	縦	沈線と刻みを持つ隆帯	Ⅱ群㉔類
109	2 M-1 住埋土	深鉢	胴部～底部	R L	縦	沈線による渦巻文	Ⅱ群㉔類
110	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部～胴部	L R	縦	隆帯による文様	Ⅱ群㉔類
111	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部～胴部	L R	縦	キャリバー 隆沈線による渦巻文 刻突文	Ⅱ群㉔類
112	2 M-1 住埋土	深鉢	胴部～底部	R L	縦	地文のみ	Ⅱ群㉔類
113	2 M-1 住床	深鉢	底部	R L	縦	地文のみ	Ⅱ群㉔類
114	2 M-1 住埋土	深鉢	底部	L R	縦	沈線文	Ⅱ群㉔類
115	2 M-1 住床	深鉢	底部	L R	縦	沈線文	Ⅱ群㉔類
116	2 M-1 住埋土	浅鉢	底部			無文	Ⅱ群㉔類
117	2 M-1 住床	深鉢	口縁部			渦巻突起	Ⅱ群㉔類
118	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部	L R	横	キャリバー 突起状の渦巻文 119と同一個体?	Ⅱ群㉔類
119	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部	L R	縦・横	キャリバー 隆帯による渦巻文	Ⅱ群㉔類
120	2 M-1 住床	深鉢	口縁部	L R	縦	キャリバー 隆沈線による渦巻文	Ⅱ群㉔類
121	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	キャリバー? 隆沈線・突起状の渦巻文	Ⅱ群㉔類
122	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部			隆沈線による渦巻文	Ⅱ群㉔類
123	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部			波状口縁 上端肥厚 沈線による渦巻文	Ⅱ群㉔類
124	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部～胴部	L R	縦	波状口縁 隆帯による渦巻文	Ⅱ群㉔類
125	2 M-1 住埋土	深鉢	胴部	R L	縦	隆帯による線状文 沈線文	Ⅱ群㉔類
126	2 M-1 住埋土	深鉢	胴部	L R	縦	沈線による渦巻文・線状文	Ⅱ群㉔類
127	2 M-1 住床	深鉢	胴部	R L	縦	沈線による渦巻文 線状文	Ⅱ群㉔類
128	2 M-1 住埋土	深鉢	胴部	R L	縦	沈線による渦巻文 線状文	Ⅱ群㉔類
129	2 M-1 住埋土	深鉢	胴部	R L	縦	沈線 0段多糸	Ⅱ群㉔類
130	2 M-1 住埋土	深鉢	胴部～底部	L R	縦	沈線文	Ⅱ群㉔類
131	2 M-1 住埋土	深鉢	胴部	R L	縦	沈線文	Ⅱ群㉔類
132	2 M-1 住内P埋土	深鉢	胴部	L R	縦	隆帯による文様	Ⅱ群㉔類
133	2 M-1 住床	深鉢	胴部	R L	縦	隆帯による渦巻文 線状文	Ⅱ群㉔類
134	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	隆帯による文様	Ⅱ群㉔類
135	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部	R L	縦	刻突文(削み文)を持つ隆帯	Ⅱ群㉔類
136	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部	R L	縦	135と同一個体	Ⅱ群㉔類
137	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	刻みを持つ隆帯文	Ⅱ群㉔類
138	2 M-1 住床	深鉢	口縁部	L R	縦	137と同一個体	Ⅱ群㉔類
139	2 M-1 住床	深鉢	口縁部～胴部	R L	縦	地文のみ	Ⅱ群㉔類
140	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部	L R	横	波状口縁 内周肥厚 隆帯・沈線文	Ⅱ群㉔類
141	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部			口縁上端肥厚 刻み状の沈線文	Ⅱ群㉔3類
142	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部			短く折返される山形口縁 刻みを持つ隆帯	Ⅱ群㉔2類
143	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部			刻みを持つ貼り付文 沈線文	Ⅱ群㉔2類
144	2 M-1 住埋土	深鉢	口縁部			隆帯・刻み状の沈線文	Ⅱ群㉔1類
145	2 M-1 住埋土	深鉢	胴部	R L	縦	線状文	Ⅱ群㉔類
146	2 M-1 住埋土	深鉢	胴部			半曲竹管文	Ⅱ群㉔類
147	2 M-1 住埋土	深鉢	胴部	R L	横	隆帯による文様	Ⅱ群㉔類
179	2 N-1 住内P埋土	深鉢	口縁部～底部	R L R	縦	隆帯・沈線文	Ⅱ群㉔類
180	2 N-1 住埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	隆沈線による渦巻文	Ⅱ群㉔類
181	2 N-1 住埋土	深鉢	口縁部～胴部	R L	縦	波状口縁? 口縁肥厚 隆帯による文様	Ⅱ群㉔類
182	2 N-1 住埋土	深鉢	底部	R L	縦	地文のみ	Ⅱ群㉔類
183	2 N-1 住埋土	深鉢	底部	R L	縦	隆沈線文	Ⅱ群㉔類
184	2 N-1 住埋土	深鉢	口縁部～胴部	L R	縦	キャリバー 隆沈線による渦巻文 沈線文	Ⅱ群㉔類
185	2 N-1 住埋土	深鉢	口縁部～胴部	L R	縦	波状口縁 隆帯による渦巻文	Ⅱ群㉔類
186	2 N-1 住埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	刻みを持つ隆帯	Ⅱ群㉔類
187	2 N-1 住埋土	深鉢	口縁部			隆帯による文様	Ⅱ群㉔類
188	2 N-1 住埋土	深鉢	胴部	L R	縦	沈線文	Ⅱ群㉔類
189	2 N-1 住埋土	深鉢	胴部	R	縦	隆沈線による渦巻文 地文は磨永文か?	Ⅱ群㉔類
190	2 N-1 住埋土	深鉢	胴部	L R	縦	隆沈線	Ⅱ群㉔類
191	2 N-1 住埋土	深鉢	口縁部			刻みを持つ隆帯 沈線文	Ⅱ群㉔2類
192	2 N-1 住埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	刻みを持つ隆帯	Ⅱ群㉔類

番号	出土地点	器種	部位	原体	方向	文様の特徴	分類
207	6M-1 住壇土下部	深鉢	胴部	R L	縦	隆沈線による文様	Ⅲ群d類
208	6M-1 住壇土下部	深鉢	胴部	L R	横	地文のみ	Ⅲ群f類
211	6N-1 住壇土下部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	波状口縁 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
212	6N-1 住壇土下部	深鉢	口縁部			波状口縁 隆沈線	Ⅲ群d類
213	6N-1 住壇土下部	深鉢	口縁部			波状口縁 隆沈線による文様	Ⅲ群d類
214	6N-1 住壇土下部	深鉢	口縁部			渦巻状の突起を持つ波状口縁 沈線文	Ⅲ群d類
215	6N-1 住壇土下部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	波状口縁 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
216	6N-1 住壇土下部	深鉢	口縁部	R L R	縦	波状口縁 隆沈線による文様	Ⅲ群d類
217	6N-1 住壇	深鉢	口縁部			隆沈線	Ⅲ群d類
218	6N-1 住壇土下部	深鉢	口縁部	L R	縦	キャリパー 隆巻による渦巻文	Ⅲ群d類
219	6N-1 住壇土下部	深鉢	口縁部			波状口縁 太い隆巻	Ⅲ群d類
220	6N-1 住壇土下部	深鉢	胴部	R L	縦	沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
221	6N-1 住壇土下部	深鉢	胴部	R L	縦	沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
222	6N-1 住壇土下部	深鉢	胴部	L R	縦	隆沈線による線状文	Ⅲ群d類
223	6N-1 住壇土下部	深鉢	胴部	L R	縦	地文のみ	Ⅲ群f類
224	6N-1 住壇土下部	深鉢	胴部	L R	縦	地文のみ	Ⅲ群f類
225	6N-1 住壇土下部	深鉢	胴部		縦	地文のみ 緒東(第二種)現状図文 無文部分有り	Ⅲ群f類
232	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部~胴部	R L	縦	キャリパー 隆沈線による渦巻文(突起) 沈線文	Ⅲ群d類
233	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	キャリパー 突起を持つ?隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
234	2Q-1 住壇土上部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	キャリパー 隆沈線による渦巻文 沈線文	Ⅲ群d類
235	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	キャリパー 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
236	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部	R L	横	キャリパー 渦巻状の突起を持つ 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
237	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部	L R	縦	キャリパー 渦巻状の突起 隆沈線・沈線文	Ⅲ群d類
238	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	キャリパー 渦巻状の突起 隆沈線文	Ⅲ群d類
239	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部~胴部	R L	縦	キャリパー 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
240	2Q-1 住壇土上部	深鉢	胴部			キャリパー 沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
241	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部	L R	縦	隆巻による渦巻文	Ⅲ群d類
242	2Q-1 住壇土上部	浅鉢	口縁部~底部	L R	縦	波状口縁(8単位)隆巻による渦巻文	Ⅲ群d類
243	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部~底部	L R	縦	波状口縁 隆巻による渦巻文	Ⅲ群d類
244	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	波状口縁 口縁部に沈線 隆巻による文様	Ⅲ群d類
245	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	波状口縁 沈線 線状文	Ⅲ群d類
246	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部			波状口縁 隆巻による文様	Ⅲ群d類
247	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部~胴部	R L	縦	波状口縁 隆巻による渦巻文	Ⅲ群d類
248	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部(3単位)	R L	縦	波状口縁(3単位)渦巻・隆沈の突起 沈線文	Ⅲ群d類
249	2Q-1 住壇土上部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	波状口縁 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
250	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部~胴部	R L R	縦	波状口縁 隆巻による渦巻文	Ⅲ群d類
251	2Q-1 住壇土上部	深鉢	底部	R L R	縦	沈線文	Ⅲ群d類
252	2Q-1 住壇土上部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	波状口縁(3単位?)隆巻による渦巻文	Ⅲ群d類
253	2Q-1 住壇土中部	深鉢	胴部	L R	縦	隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
254	2Q-1 住壇土上部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	隆巻による文様	Ⅲ群f類
255	2Q-1 住壇土中部	浅鉢	口縁部~底部	L R	縦	山形状突起 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
256	2Q-1 住壇土上部	浅鉢	口縁部	L R	縦	渦巻状の突起 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
257	2Q-1 住壇土上部	深鉢	口縁部~胴部	R L	縦	波状口縁 隆沈線による文様 割突文	Ⅲ群d類
258	2Q-1 住壇土上部	深鉢	口縁部	L	縦	波状口縁 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
259	2Q-1 住壇土上部	深鉢	口縁部~胴部	R L	縦	波状口縁 隆巻による渦巻文 沈線文	Ⅲ群d類
260	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部	R L R	横	キャリパー 隆沈線	Ⅲ群d類
261	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部	R L R	横	キャリパー 渦巻状の突起?隆沈線文	Ⅲ群d類
262	2Q-1 住壇土上部	深鉢	口縁部	L R	横	キャリパー 隆沈線による渦巻文(突起状)	Ⅲ群d類
263	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部	R L R	横	キャリパー 隆沈線による突起状渦巻文 径7mmの小孔	Ⅲ群d類
264	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部	L R	横	キャリパー 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
265	2Q-1 住壇土上部	深鉢	口縁部	R L	横	キャリパー 隆沈線による突起状の渦巻文 貫通孔	Ⅲ群d類
266	2Q-1 住壇土上部	深鉢	胴部	R L	縦	隆沈線による渦巻文・線状文 0段多糸	Ⅲ群d類
267	2Q-1 住壇土中部	深鉢	胴部	L R	縦	隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
268	2Q-1 住壇土中部	深鉢	胴部~底部	L R	縦	沈線文	Ⅲ群d類
269	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	隆巻による文様	Ⅲ群f類
270	2Q-1 住壇土上部	深鉢	口縁部~胴部	L R	横	隆巻による文様	Ⅲ群f類
271	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	隆巻文・崖状凹凸文 未端処理による不整な線状文	Ⅲ群c類
272	2Q-1 住壇土下部	深鉢	口縁部~胴部	L R	横	古状突起 隆巻・沈線 不整な線状文	Ⅲ群b類
273	2Q-1 住壇土下部	深鉢	口縁部	L R	縦	波状口縁 隆巻と面体正交文による文様	Ⅲ群b類
274	2Q-1 住壇土下部	深鉢	口縁部	R L	横	耳状突起 口縁部肥厚 口縁部に刻み 筋みを持つ隆巻	Ⅲ群b類
275	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部~胴部		縦	波状口縁 口縁部肥厚 隆巻・筋付状文 筋取状渦文	Ⅲ群b類
276	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部	L R	横	波状口縁 口縁部肥厚 隆巻と筋付状文による文様	Ⅲ群b類

番号	出土地点	器種	部位	器体	方向	文様の特徴	分類
277	2Q-1 住壇土上部	深鉢	口縁部	L R	横	角状突起を持つ波状口縁 隆帯と厚体圧痕文	II群c類
278	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部	L R	横	右状突起を持つ波状口縁 隆帯文 縦筋文 口縁肥厚	II群b類
279	2Q-1 住壇土上部	深鉢	口縁部-胴部	L R	横	波状口縁 口縁肥厚 隆帯・沈線文	II群c類
280	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部	L R	横	口縁部内折れ 隆帯・沈線・連続斜線文	II群c類
281	2Q-1 住壇土下部	深鉢	口縁部	L R	横	地文のみ 連続文	II群c類
282	2Q-1 住壇土中部	浅鉢	口縁部-底部	L R	横	赤彩と器 厚体圧痕を持つ隆帯文 照永圧痕文	II群c類?
283	2Q-1 住壇土中部	浅鉢	口縁部-胴部	L R	横	口縁部削ぎ 厚体圧痕文による隆帯文	II群c類
284	2Q-1 住壇土中部	浅鉢	口縁部-胴部	L	横	隆帯と厚体圧痕文による文様	II群c類
285	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部-胴部	L	横	沈線文 厚体の末端処理による連続文	II群c類?
286	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部-胴部	L R	横	口縁肥厚 斜めを持つ筋り付文 沈線文 不連続縦筋文	II群c類?
287	2Q-1 住壇土下部	深鉢	胴部			隆帯による文様	II群b類
288	2Q-1 住壇土上部	深鉢	胴部			沈線文	II群c類
289	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部			連続する角状突起 棒状工具による斜線文 隆帯文	II群c類
290	2Q-1 住壇土中部	深鉢	口縁部-胴部			角状と帯状の突起 筋系四角文(第一種) 連続文	II群b類
291	2Q-1 住壇土中部	深鉢	胴部-底部	R L	縦	地文のみ 厚体の末端処理による連続文	II群c類
292	2Q-1 住壇土下部	深鉢	底部			下堀ミガキ	II群c類
293	2Q-1 住壇	浅鉢	胴部-底部	L R	縦	地文のみ 下堀ミガキ	II群c類
294	2Q-1 住壇土上部	胴部				円筒形 外面は細い沈線文 内面は幅5-10mmの凸出	
295	2Q-1 住壇土上部	鉢	口縁部-胴部	L R	横	沈線文 口唇部に刻み	V群a類
296	2Q-1 住壇土上部	鉢	口縁部			沈線文 口縁内面にも通る	V群c類
297	2Q-1 住壇土上部	鉢	胴部	L R	横	沈線文	V群
298	2Q-1 住壇土上部	腹	口縁部-胴部	L R	横走	地文のみ 口縁部縁文	V群
319	3Q-1 住壇土	深鉢	底部	L	縦	沈線文	II群d類
320	3Q-1 住壇土	台付鉢	底部			無文 全体にナブ	II群f類
321	3Q-1 住壇土	深鉢	口縁部			波状口縁 隆帯による隆帯文	II群d類
322	3Q-1 住壇土	深鉢	口縁部	R L	横	キャリバー 隆帯による隆帯文・縁状文	II群d類
323	3Q-1 住壇土	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	隆帯	II群d類
324	3Q-1 住壇土	深鉢	口縁部			隆帯による縁状文	II群d類
325	3Q-1 住壇土	深鉢	口縁部			キャリバー? 隆帯による文様	II群d類
326	3Q-1 住壇土	深鉢	胴部	L R	縦	隆帯による縁状文	II群d類
327	3Q-1 住壇土	深鉢	口縁部			斜めを持つ隆帯	II群f類
328	3Q-1 住壇土	深鉢	胴部			半截竹管文 1段の燃系?	II群c類
336	1S-1 住壇直	台付鉢	台部			沈線による工字文と貫通孔 裏面内側に円文	V群c類
337	1S-1 住壇直	台付鉢	台部			沈線による工字文と貫通孔 小突起 裏面内側に円文	V群c類
338	1S-1 住壇土下部	鉢	口縁部			339と同一個体	V群c類
339	1S-1 住壇土	鉢	口縁部			口縁肥厚 沈線文 A・B状突起 口唇部にも沈線	V群c類
340	1S-1 住壇土	鉢	口縁部			口唇部に刻み 矢羽状の沈線文	V群c類
341	1S-1 住壇土	深鉢	口縁部			口唇部に指環状突起の凹凸 沈線文	V群c類
342	1S-1 住壇土	深鉢	口縁部-胴部	L R	横	沈線文 B状突起 口唇部にも沈線	V群c類
343	1S-1 住壇土	鉢	胴部	L R	横	沈線文	V群c類
346	2H-1 總物P1埋土	深鉢	口縁部-胴部	R L	縦	波状口縁 隆帯による隆帯文 隆帯縁による縁状文	II群d類
347	2H-1 總物P1埋土	深鉢	胴部	L R L	縦	沈線による隆帯文 348・349と同一個体	II群d類
348	2H-1 總物P1埋土	深鉢	胴部	L R L	縦	沈線による隆帯文 347・348と同一個体	II群d類
349	2H-1 總物P1埋土	深鉢	胴部	L R L	縦	沈線による隆帯文 347・348と同一個体	II群d類
350	2H-1 總物P1埋土	深鉢	口縁部	R L	横	キャリバー 隆帯による隆帯文	II群d類
353	5N-1 埋設土P	深鉢	胴部-底部	L R	縦	地文のみ 底部木炭痕	II群f類
354	6F-1 P埋土	深鉢	口縁部-底部	L R	縦・横	上に黒文を持つ隆帯 内面・唇部にも黒文 一部赤文	I群b類
355	6F-1 P埋土	深鉢	胴部	L R	横	地文のみ 胎土に砂	I群b類
357	2H-1 P埋土	深鉢	口縁部	R L R	縦	沈線文 358・359と同一個体	II群d類
358	2H-1 P埋土	深鉢	底部	R L R	縦	沈線文 357・358と同一個体	II群d類
359	2H-1 P埋土	深鉢	胴部	R L R	縦	沈線文 357・358と同一個体	II群d類
360	2H-1 P埋土	深鉢	口縁部			波状口縁? 隆帯・沈線による文様	II群d類
363	3L-1 P埋土	深鉢	口縁部	L R	横	キャリバー 隆帯縁による文様	II群d類
364	3L-1 P埋土	深鉢	口縁部			太い沈線	II群f類
365	3L-1 P埋土	深鉢	口縁部			波状口縁? 太い隆帯	II群f類
366	3L-1 P埋土	深鉢	胴部	L	縦	地文のみ 圓日状燃系文	II群f類
367	3L-1 P埋土	深鉢	胴部	L	縦	地文のみ	II群f類
368	4L-1 P埋土	深鉢	胴部	L R	縦	隆帯縁による隆帯文・縁状文 地文は燃系文	II群d類
369	5O-1 P埋土	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	円形の斜交が連続する隆帯	II群d類
370	5O-1 P埋土	深鉢	口縁部	L R	横	キャリバー 隆帯縁による隆帯文	II群d類
371	5O-1 P埋土	深鉢	口縁部-底部	R		突起を持つ? 口縁部内面肥厚 沈線による文様	II群b類
372	2P-1 P埋土	鉢	口縁部-底部	L R		小波状口縁 不連続縦筋文	V群a類

番号	出土地点	器種	部位	原形	方向	文様の特徴	分類
373	2P-1P埋土	壺	胴部~底部	L R	横	浅い沈線文	V群a類
375	3H-1TP埋土	深鉢	口縁部	R L	横	376と同一個体	II群d類
376	3H-1TP埋土	深鉢	口縁部	R L	横	キャリパー 太い隆帯による渦巻文	II群d類
377	3H-1TP埋土	深鉢	胴部	R L	横	隆帯による凹形文 摩滅が著しい	II群f
378	7G埋土上部	深鉢	口縁部~胴部	L	横	波状(山形)口縁部に沈線を含む 不整な沈線文	II群a類
379	4S埋土上部	深鉢	口縁部			台状突起 小突起を伴う	II群b類
380	2F埋土下部	深鉢	口縁部	R L	横	刻みを持つ太い隆帯	II群b類
381	5L埋土下部	深鉢	口縁部			口縁部上端に刻み 口唇部に沈線 沈線文	II群b類
382	6D埋土中部	深鉢	口縁部			山形突起 太い沈帯・刻みを持つ隆帯	II群c類
383	2H埋土上部	深鉢	口縁部			折返し口縁 太い沈線文	II群c類
384	3Q埋土下部	深鉢	口縁部			隆帯による文様 古付跡?	II群c類
385	6K埋土中部	深鉢	口縁部	L R	横	半截竹管による文様 刻みを持つ隆帯	II群c類
386	2R埋土上部	深鉢	口縁部~胴部			小突起 口縁部内側肥厚 短沈線文	II群c類
387	5S埋土中部	深鉢	口縁部			山形状の突起? 沈線文	II群c類
388	3D埋土中部	深鉢	口縁部			山形状の凹凸 半截竹管文	II群c類
389	8G埋土中部	深鉢	口縁部	L R	横	太い沈線文	II群c類
390	1V埋土中部	深鉢	口縁部			刻み状の短沈線文 沈線分	II群c類
391	4R埋土上部	深鉢	口縁部			太い沈線分	II群c類
392	4G埋土中部	深鉢	胴部	L R	横	半截竹管文	II群c類
393	5V埋土上部	深鉢	胴部	L R	横	沈線分 縞線文	II群c類
394	2H埋土上部	深鉢	胴部	L	縦	半截竹管による文様	II群c類
395	4S埋土上部	深鉢	胴部	L R	横	半截竹管による幾何学文様 刺突文	II群c類
396	4R埋土中部	深鉢	胴部	L R	横	半截竹管文によるコンパス状文	II群c類
397	4R埋土上部	深鉢	胴部	L R	横	半截竹管による幾何学文様 刺突文 395と同一個体	II群c類
398	4R埋土中部	深鉢	胴部	L R	横	半截竹管文 刺突文 395と同一個体	II群c類
399	2E埋土下部	深鉢	胴部	R L	横	半截竹管文	II群c類
400	3E埋土下部	深鉢	胴部	L R	横	半截竹管文	II群c類
401	3F埋土中部	深鉢	胴部			半截竹管文	II群c類
402	3M埋土下部	深鉢	胴部	L	縦	半截竹管による文様	II群c類
403	2E埋土中部	深鉢	胴部			半截竹管文	II群c類
404	5G埋土中部	深鉢	胴部			沈線文	II群c類
405	3S埋土中部	深鉢	胴部			沈線文 前期?	II群c類
406	5I埋土上部	深鉢	口縁部			半截竹管文	II群c類
407	3I埋土下部	深鉢	胴部	L R	横	半截竹管文	II群c類
408	3I埋土下部	深鉢	胴部			半截竹管による文様	II群c類
409	8G埋土中部	深鉢	胴部			金魚鉢形? 半截竹管による文様	II群c類
410	7F埋土下部	深鉢	口縁部~胴部	R L	縦	口縁部は内側に折返し 刻みを持つ隆帯 沈線と突起	II群c類
411	7G埋土上部	深鉢	口縁部~胴部			411と同一個体	II群c類
412	3W埋土中部	深鉢	口縁部			地文のみ 網目状沈線文 口唇部にも施文	II群d類
413	2M埋土上部	深鉢	胴部	R	縦	地文のみ 網目状沈線文	II群d類
414	4U埋土上部	深鉢	胴部	R	縦	地文のみ 網目状沈線文	II群d類
415	5R埋土上部	深鉢	胴部			地文のみ 網目状沈線文	II群d類
416	3O埋土上部	深鉢	胴部	R	縦	地文のみ 網目状沈線文	II群d類
417	5Q埋土下部	深鉢	胴部	R	縦	地文のみ 網目状沈線文	II群d類
418	4R埋土上部	深鉢	胴部	L	縦	地文のみ 網目状沈線文	II群d類
419	4R埋土中部	深鉢	胴部	L	縦	地文のみ 網目状沈線文	II群d類
420	1W埋土中部	深鉢	胴部	R	縦	地文のみ 木目状沈線文	II群d類
421	4E埋土下部	深鉢	胴部			大きな刻みを持つ隆帯 地文は不整な沈線文	II群d類
422	3F埋土中部	深鉢	胴部			地文のみ R・Lの合せ振り	II群d類
423	3F埋土中部	深鉢	胴部			縦 422と同一個体	II群d類
424	2E埋土上部	深鉢	胴部			横 422と同一個体	II群d類
425	3F埋土	深鉢	胴部	L R	横	金魚鉢形? 地文のみ	II群d類
426	4R埋土中部	深鉢	胴部			短沈線による幾何学文様	II群e1類
427	6N埋土下部	深鉢	口縁部			短沈線による幾何学文様 刻みを持つ隆帯	II群e1類
428	4R埋土上部	深鉢	胴部			短沈線による幾何学文様	II群e1類
429	1I乙埋土上部	深鉢	口縁部			短沈線による幾何学文様	II群e1類
430	3M埋土下部	深鉢	口縁部			短沈線による幾何学文様 刻みを持つ隆帯	II群e1類
431	4R埋土上部	深鉢	口縁部			短沈線による幾何学文様	II群e1類
432	3L埋土下部	深鉢	口縁部			沈線・短沈線による文様	II群e1類
433	2S埋土上部	深鉢	口縁部			沈線文	II群e1類
434	4R埋土上部	深鉢				突起部分 中空となる 短沈線と刺突による幾何学文	II群e1類
435	9D埋土中部	深鉢				突起部分 中空となる 短沈線と刺突による幾何学文	II群e1類

番号	出土地点	器種	部位	扉体	方向	文様の特徴	分類
436	5 X II 層上部	深鉢	口縁部			波状の折返し口縁 横状の突起 沈線文・刺突文	II 群 a 2 類
437	4 R II 層上部	深鉢	口縁部			波状の折返し口縁 刻みを持つ隆帯 沈線文 貼り付文	II 群 a 2 類
438	4 S II 層上部	深鉢	口縁部			刻みを持つ隆帯 隆帯・沈線による文様	II 群 a 2 類
439	4 R II 層上部	深鉢	口縁部			刻みを持つ隆帯 沈線文	II 群 a 2 類
440	4 R II 層中部	深鉢	口縁部			刻みを持つ隆帯 沈線文	II 群 a 2 類
441	4 R II 層上部	深鉢	口縁部			折返し口縁 刻みを持つ隆帯 沈線文	II 群 a 2 類
442	3 M II 層中部	深鉢	口縁部			波状の折返し口縁 刻みを持つ隆帯 沈線文	II 群 a 2 類
443	2 M II 層上部	深鉢	口縁部			刻みを持つ隆帯	II 群 a 2 類
444	4 R II 層上部	深鉢	口縁部～胴部			刻みを持つ隆帯 沈線文 縁線文	II 群 a 2 類
445	4 R II 層上部	深鉢	口縁部～胴部			刻みを持つ隆帯 沈線文	II 群 a 2 類
446	5 I II 層上部	深鉢	口縁部			波状口縁 沈線文と刺突文を伴う渦巻状の貼り付け	II 群 a 2 類
447	1 I II 層下部	深鉢	口縁部			頂部が尖がる波状口縁 隆帯・沈線による文様 刺突文	II 群 a 2 類
448	3 I II 層下部	深鉢	口縁部			上面に沈線を持つ貼り付け文	II 群 a 2 類
449	2 G II 層中部	深鉢	口縁部			ボタン状突起 太い沈線文	II 群 a 2 類
450	4 R II 層上部	深鉢	口縁部	L R	横	451 と同一個体	II 群 a 3 類
451	4 R II 層上部	深鉢	口縁部	L R	横	山形状の小突起 沈線・隆帯による文様 刺突文	II 群 a 3 類
452	4 S II 層上部	深鉢	口縁部	L R	横	口縁部内側肥厚 小突起 半葉竹管文・刺突文	II 群 a 3 類
453	5 K II 層下部	深鉢	口縁部			沈線と刺突文	II 群 a 3 類
454	4 S II 層中部	深鉢	口縁部			折返し口縁 内側肥厚 沈線文・刺突文	II 群 a 3 類
455	3 I II 層中部	深鉢	口縁部			沈線文 半葉竹管による刺突文	II 群 a 3 類
456	5 Q II 層下部	深鉢	口縁部			口縁部内側肥厚 沈線による格子目文	II 群 a 3 類
457	1 J II 層中部	深鉢	口縁部			口縁上端肥厚 沈線文	II 群 a 3 類
458	2 M II 層下部	深鉢	口縁部			口縁部上端肥厚 沈線による文様	II 群 a 3 類
459	7 F II 層上部	深鉢	口縁部			口縁部上端肥厚 短沈線による幾何学文	II 群 a 3 類
460	2 K II 層中部	深鉢	口縁部			口縁部上端肥厚 沈線文	II 群 a 3 類
461	3 S II 層上部	深鉢	口縁部			折返し口縁 沈線文 三角形の刻み	II 群 a 3 類
462	4 R II 層上部	深鉢	口縁部			沈線と三角形刺突文	II 群 a 3 類
463	8 D II 層中部	深鉢	胴部			刻みを持つ貼り付文 沈線文 竹管による刺突文	II 群 a 3 類
464	5 K II 層上部	深鉢	口縁部			沈線と刺突文 刻みを持つ隆帯	II 群 a 3 類
465	4 R II 層中部	深鉢	口縁部	R	縦	沈線文と刺突文 地文は無彫刻縄文	II 群 a 3 類
466	4 R II 層上部	深鉢	口縁部			沈線と刺突文 刻みを持つ隆帯	II 群 a 3 類
467	9 G II 層中部	深鉢	口縁部	L R	縦	半葉竹管文	II 群 a 3 類
468	4 R II 層中部	深鉢	口縁部～胴部	L R	縦	刻みを持つ隆帯 半葉竹管文	II 群 a 3 類
469	7 E II 層中部	深鉢	胴部			三角形の刺突をもつ隆帯 結束状縄文(部2種)	II 群 a 3 類
470	3 E II 層中部	深鉢	口縁部			低い台状突起 押し引き沈線文	II 群 a 3 類
471	4 F II 層中部	深鉢	口縁部			470 と同一個体	II 群 a 3 類
472	2 E II 層下部	深鉢	口縁部			470 と同一個体	II 群 a 3 類
473	3 F II 層中部	深鉢	胴部	L R	縦	押し引き沈線状の連続刺突文	II 群 a 3 類
474	2 E II 層下部	深鉢	胴部			470 と同一個体?	II 群 a 3 類
475	4 E II 層中部	深鉢	胴部	L R	縦	刺突文	II 群 a 3 類
476	6 F II 層上部	深鉢	口縁部～胴部	L R	縦	頂部が角状となる波状口縁 隆帯・沈線・刺突文	II 群 b 類
478	2 V II 層中部	深鉢	口縁部			角状突起を持つ波状口縁 隆帯による文様	II 群 b 類
479	2 U II 層中部	深鉢	口縁部～胴部	L R	縦	波状口縁 頂部ボタン状の貼り付	II 群 b 類
480	4 S II 層上部	深鉢	口縁部			角状の突起 沈線文 内面にも沈線文	II 群 b 類
481	2 V II 層中部	深鉢	口縁部～胴部			縦・横 波状口縁 隆帯による渦巻文 結束状縄文	II 群 b 類
482	4 J II 層上部	深鉢	口縁部	L R	横	角状突起となる波状口縁 隆帯と沈線による渦巻文	II 群 b 類
483	8 G II 層上部	深鉢	口縁部			波状口縁 隆帯文・刺突文 結束状縄文	II 群 b 類
484	4 U II 層上部	深鉢	口縁部			角状突起を持つ波状口縁 隆帯文 刺突文	II 群 b 類
485	7 Q II 層上部	深鉢	胴部	L R	横	波状口縁 上端肥厚 刻みを持つ隆帯と刺突文	II 群 b 類
486	4 L II 層上部	深鉢	口縁部	R L	縦	頂部が角状となる波状口縁 隆帯と沈線による渦巻文	II 群 b 類
487	3 H II 層中部	深鉢	口縁部	L R	縦	鳥帽子状の突起 交互刺突文 隆帯・沈線による文様	II 群 b 類
488	1 L II 層上部	深鉢	口縁部	R L	縦	台状となる波状口縁 沈線と隆帯による文様	II 群 b 類
489	4 S II 層上部	深鉢	口縁部	R L	縦	不整突起を持つ波状口縁 内側肥厚 隆帯による文様	II 群 b 類
490	4 R II 層上部	深鉢	口縁部～胴部	L R	縦	内面に刺突を持つ突起 隆帯と刺突文	II 群 b 類
491	3 S II 層中部	深鉢	口縁部	L R	縦	波状口縁 不整な交互刺突文 縁線文	II 群 b 類
492	5 D II 層中部	深鉢	口縁部			突起中央に貫通孔を持つ 493 と同一個体	II 群 b 類
493	5 D II 層中部	深鉢	口縁部	L R	縦	渦巻状突起を持つ波状口縁 隆帯による文様	II 群 b 類
494	5 Q II 層下部	深鉢	胴部			隆帯による文様 結束状縄文	II 群 b 類
495	4 R II 層上部	深鉢	胴部			不整な交互刺突文 縁部凸出沈線による文様 羽状縄文?	II 群 b 類
496	7 K II 層中部	深鉢	口縁部	L R	縦	波状口縁 口縁部内側肥厚 刺突文 円形の貼り付け文	II 群 b 類
497	4 S II 層上部	深鉢	口縁部	L R	縦	縄文が施された隆帯による文様	II 群 b 類
498	4 S II 層中部	深鉢	口縁部	L R	横	波状口縁? 口縁部内側肥厚 隆帯による文様	II 群 b 類

番号	出土地点	種類	部位	主体	方向	文様の特徴	分類
499	3 R II 層上部	深鉢	口縁部	L R	横	山形突起を持つ波状口縁 口縁部肥厚 沈隆・隆帯文	II 群 b 類
500	5 Q II 層下部	深鉢	口縁部	R L	横	波状口縁 口縁部肥厚 削突を持つ隆帯文	II 群 b 類
501	4 U II 層中部	深鉢	口縁部			口縁部内側肥厚 刻みを持つ隆帯	II 群 b 類
502	5 Q II 層下部	深鉢	口縁部	R L	横	波状口縁 口縁部内側肥厚 隆帯による文様	II 群 b 類
503	1 I 2 O 層	深鉢	胴部			半枝竹管文	II 群 b 類
504	4 O II 層下部	深鉢	胴部	L R	縦	沈隆・隆帯による文様 縁結文	II 群 b 類
505	4 S II 層上部	深鉢	口縁部～胴部	L R	横	山形突起の小突起 隆帯による文様 円形の貼り付け文	II 群 b 類
506	4 R II 層上部	深鉢	口縁部	L R	横	突起を持つ折返し口縁 隆帯による文様 ? 552 と同一個体	II 群 b 類
507	4 U II 層中部	深鉢	口縁部～胴部	L R	横	口縁部内側肥厚 隆帯・沈隆・隆沈隆による文様	II 群 b 類
508	3 W II 層中部	深鉢	口縁部			太い隆帯と沈隆文	II 群 b 類
509	3 R II 層上部	深鉢	胴部	R L	横	口縁部下端肥厚 隆沈隆による文様	II 群 b 類
510	2 K Ⅰ 層上部	深鉢	口縁部～胴部			半枝竹管による削突文 沈隆文 結東形状文	II 群 b 類
511	6 M II 層下部	深鉢	口縁部～胴部			沈隆と隆帯による文様 結東形状文	II 群 b 類
512	6 K II 層下部	深鉢	口縁部～胴部	R L	縦	口縁部は地割・短沈隆・貼り付け文 胴部は沈隆文	II 群 b 類
513	3 W II 層中部	深鉢	口縁部	L R	横	沈隆文	II 群 b 類
514	3 L II 層上部	深鉢	口縁部			口縁部内側肥厚 沈隆文・削突文 不整な交互削突文	II 群 b 類
515	8 D II 層中部	深鉢	口縁部	L R	縦	湾い折返し口縁 沈隆文	II 群 b 類
516	3 H II 層中部	深鉢	口縁部	L R	縦	口縁部内側折 沈隆・短沈隆による文様	II 群 b 類
517	3 V II 層下部	深鉢	口縁部			波状口縁 ? 内側肥厚 押し引き沈隆文 結東形状文	II 群 b 類
518	5 K II 層上部	深鉢	口縁部			波状口縁 内側肥厚 削突文 地文は明瞭地の結東形状文	II 群 b 類
519	3 V II 層下部	深鉢	口縁部			波状口縁 ? 内側肥厚 押し引き沈隆文 結東形状文	II 群 b 類
520	1 V II 層中部	深鉢	口縁部～胴部	L R	横	隆帯による文様 削突文	II 群 b 類
521	5 X O 層	深鉢	口縁部～胴部	L R	横	沈隆文と通底削突文	II 群 b 類
522	2 E II 層上部	深鉢	口縁部			不整な突起を持つ波状口縁 隆帯と原体圧痕文	II 群 b 類
523	3 W II 層中部	深鉢	口縁部	L R	横	不整な突起を持つ波状口縁 隆帯と原体圧痕文	II 群 c 類
524	3 E II 層中部	深鉢	口縁部			台状突起 原体圧痕文 (L R) と隆帯による文様	II 群 c 類
525	1 I 2 O 層	深鉢	口縁部～胴部	L R	縦	短沈隆と隆帯による文様 原体圧痕文	II 群 c 類
526	3 W II 層中部	深鉢	口縁部			原体圧痕文 (R L) 遮糸圧痕文 (R)	II 群 c 類
527	3 L II 層上部	深鉢	胴部	L R	横	隆帯と原体圧痕による文様	II 群 c 類
528	6 O II 層下部	深鉢	口縁部			折返し口縁 太い原体圧痕文 (L R) II 群 b 類 ?	II 群 c 類
529	6 O II 層下部	深鉢	口縁部～胴部			527 と同一個体 II 群 b 類 ?	II 群 c 類
530	7 E II 層下部	深鉢	口縁部～胴部	L	縦	半枝竹管による削突文 遮糸圧痕文	II 群 c 類
531	4 S II 層上部	深鉢	口縁部	L R	横	口縁部内側肥厚 隆帯と原体圧痕による文様	II 群 c 類
532	4 R II 層上部	鉢	口縁部～胴部	L R	横	口縁部内側肥厚 隆帯と原体圧痕による文様	II 群 c 類
533	4 R II 層上部	鉢	口縁部	L R	横	口縁部内側肥厚 隆帯と原体圧痕による文様 縁結文	II 群 c 類
534	4 L II 層上部	鉢	胴部			口縁部下側折 隆帯と原体圧痕文 (L R)	II 群 c 類
535	4 R II 層上部	鉢	口縁部～胴部	L R	横	隆帯と原体圧痕による文様 円形の貼り付け文	II 群 c 類
536	3 W II 層中部	深鉢	口縁部～胴部	L R	縦・横	角状の突起 原体圧痕文・隆帯文 不整な縁結文	II 群 c 類
537	4 U II 層中部	深鉢	口縁部～胴部	R L	縦	波状口縁 原体圧痕文	II 群 c 類
538	3 C II 層中部	深鉢	口縁部～胴部	L R	縦	隆帯・沈隆文 原体圧痕文	II 群 c 類
539	4 R II 層上部	深鉢	胴部	R L	横	原体圧痕文	II 群 c 類
540	1 M II 層下部	深鉢	口縁部～胴部	L R	縦・横	キャリバー 波状口縁(3単位?) 隆帯による文様	II 群 d 類
541	7 D II 層下部	深鉢	口縁部	R L	縦	キャリバー 不整な突起 隆帯文 削突文	II 群 d 類
542	3 Q II 層下部	深鉢	口縁部	L R	横	キャリバー 隆帯による文様	II 群 d 類
543	9 H II 層上部	深鉢	口縁部	R L	縦・横	キャリバー 隆沈隆による渦巻文	II 群 d 類
544	2 E II 層上部	深鉢	口縁部			キャリバー 波状口縁 太い隆沈隆による渦巻文	II 群 d 類
545	2 L II 層下部	深鉢	口縁部	L R	横	キャリバー 隆沈隆による渦巻文 縁結文	II 群 d 類
546	4 F II 層下部	深鉢	口縁部	R L	横	キャリバー 隆沈隆による渦巻文	II 群 d 類
547	1 P II 層下部	深鉢	口縁部	L R	縦・横	キャリバー 隆沈隆による文様	II 群 d 類
548	7 G II 層下部	深鉢	口縁部～胴部	L R	縦	キャリバー 太い隆沈隆による突起状の渦巻文	II 群 d 類
549	6 P II 層下部	深鉢	口縁部～胴部	R L	縦・横	キャリバー 隆沈隆による渦巻状突起 胴部は沈隆文	II 群 d 類
550	7 D II 層下部	深鉢	口縁部	R L	横	キャリバー 隆沈隆による渦巻文突起状 縁結文	II 群 d 類
551	3 M II 層下部	深鉢	口縁部～胴部	R L	縦・横	キャリバー 隆沈隆による渦巻文	II 群 d 類
552	6 N II 層中部	深鉢	口縁部～胴部	L R	縦・横	キャリバー 隆沈隆・沈隆による渦巻文・縁結文	II 群 d 類
553	7 E II 層中部	浅鉢	口縁部	L R	横	キャリバー 隆沈隆による文様 552 と同一個体	II 群 d 類
554	5 K II 層上部	浅鉢	口縁部～胴部	L R	横	キャリバー 隆沈隆による文様 552 と同一個体	II 群 d 類
555	5 K II 層上部	浅鉢	口縁部	R L	横	キャリバー 隆沈隆による文様 552 と同一個体	II 群 d 類
556	1 M II 層中部	深鉢	口縁部	R L	縦	キャリバー 波状口縁 隆沈隆による渦巻文	II 群 d 類
557	7 E II 層下部	深鉢	口縁部	R L	横	キャリバー 隆沈隆による渦巻文	II 群 d 類
558	1 D II 層上部	深鉢	口縁部	L R	横	キャリバー 隆沈隆による渦巻文・縁結文	II 群 d 類
559	4 R II 層上部	深鉢	口縁部	R L	縦	キャリバー 隆沈隆による渦巻文	II 群 d 類
560	2 H II 層中部	深鉢	口縁部			キャリバー 太い隆沈隆による渦巻文	II 群 d 類

番号	出土地点	器種	部位	素材	方向	文様の特徴	分類
561	4 F Ⅱ層中部	深鉢	口縁部			キャリバー 隆沈線による文様	Ⅲ群d類
562	6 O Ⅱ層中部	深鉢	口縁部	L R	縦	キャリバー 隆沈線による渦巻文・線状文	Ⅲ群d類
563	7 E Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	R L	横	キャリバー 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
564	6 F Ⅱ層中部	深鉢	口縁部	L R	縦	キャリバー 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
565	4 R Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	L R	横	キャリバー? 隆沈線による文様	Ⅲ群d類
566	4 R Ⅱ層上部	鉢	口縁部-胴部	L R	縦	キャリバー 沈線・隆沈線による文様	Ⅲ群d類
567	3 E Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	R L	縦	キャリバー 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
568	7 E Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	L R	縦、横	キャリバー 隆沈線による突起状の渦巻文	Ⅲ群d類
569	1 K Ⅱ層中部	深鉢	口縁部	R L	横	キャリバー突起状による渦巻文 突出して把手状となる	Ⅲ群d類
570	6 Q Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	R L	横	キャリバー 隆沈線による突起状の渦巻文	Ⅲ群d類
571	8 D Ⅱ層中部	深鉢	口縁部			キャリバー 隆沈線による把手状の渦巻文	Ⅲ群d類
572	8 G Ⅱ層上部	深鉢	口縁部			キャリバー 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
573	3 E Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	L R	横	キャリバー 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
574	7 D Ⅱ層中部	深鉢	口縁部-胴部	R L	縦	キャリバー? 刺突を持つ隆帯 沈線文	Ⅲ群d類
575	4 E Ⅱ層中部	深鉢	口縁部			キャリバー? 渦巻状の大窓把手	Ⅲ群d類
576	5 F Ⅱ層下部	深鉢	口縁部			キャリバー-帯に張り出す半窓把手 隆帯・沈線による文様	Ⅲ群d類
577	2 J Ⅱ層下部	深鉢	胴部			キャリバー? 渦巻状の線状把手	Ⅲ群d類
578	8 G Ⅱ層上部	深鉢	口縁部			キャリバー? 渦巻状の線状把手	Ⅲ群d類
579	8 D Ⅱ層中部	深鉢	口縁部			キャリバー? 渦巻状の線状把手	Ⅲ群d類
580	1 M Ⅱ層下部	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	波状口縁 太い隆帯	Ⅲ群d類
581	2 F Ⅱ層下部	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	波状口縁 沈線文	Ⅲ群d類
582	1 M Ⅱ層下部	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	波状口縁 隆帯による渦巻文 沈線文	Ⅲ群d類
583	7 D Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	R L R	縦	波状口縁 隆沈線による渦巻文 597と同一器体	Ⅲ群d類
584	1 M Ⅱ層中部	深鉢	口縁部	R L	縦	波状口縁 隆帯・沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
585	5 Q Ⅱ層下部	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	波状口縁 隆帯・沈線文	Ⅲ群d類
586	2 H Ⅱ層中部	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	隆帯による渦巻状突起	Ⅲ群d類
587	3 R Ⅱ層上部	深鉢	口縁部-底帯	R L	横	波状口縁 沈線文	Ⅲ群d類
588	5 K Ⅱ層下部	深鉢	口縁部-胴部	R L R	縦	波状口縁 沈線文	Ⅲ群d類
589	2 L Ⅱ層下部	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	波状口縁 隆帯・沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
590	7 D Ⅱ層下部	深鉢	口縁部-胴部	R L	縦	沈線による渦巻文・線状文	Ⅲ群d類
591	5 Q Ⅱ層下部	深鉢	口縁部-底帯	R	縦	口縁部上端に隆帯 沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
592	2 I Ⅱ層中部	深鉢	口縁部-胴部	R L	縦	隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
593	9 H Ⅱ層下部	深鉢	口縁部-胴部			口縁部は約突起状の沈線文 胴部は隆沈線文 刺突状突起	Ⅲ群c類
594	4 N Ⅱ層上部	深鉢	胴部	R L	縦	隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
595	9 D Ⅱ層中部	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	波状口縁? 隆帯・沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
596	2 E Ⅱ層上部	深鉢	胴部	R L R	縦	隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
597	7 D Ⅱ層下部	深鉢	胴部	R L R	縦	隆沈線文	Ⅲ群d類
598	3 O Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	L R	縦	隆帯・隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
599	7 E Ⅱ層中部	深鉢	口縁部-胴部	R L	縦	波状口縁 隆帯による渦巻文	Ⅲ群d類
600	2 F Ⅱ層下部	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	隆帯による渦巻文 沈線文	Ⅲ群d類
601	5 E Ⅱ層上部	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	波状口縁 隆帯による渦巻文	Ⅲ群d類
602	3 H Ⅱ層下部	深鉢	口縁部-胴部	R L R	縦	山形状の小突起 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
603	3 Q Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	L R	縦	小突起 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
604	5 Q Ⅱ層下部	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	波状口縁 隆帯・沈線による突起状の渦巻文	Ⅲ群d類
605	2 H Ⅱ層中部	深鉢	口縁部-胴部			波状口縁 隆帯による渦巻文	Ⅲ群d類
606	2 F Ⅱ層下部	深鉢	口縁部			波状口縁 隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
607	6 O Ⅱ層中部	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	波状口縁 隆沈線による渦巻文・線状文	Ⅲ群d類
608	5 R Ⅱ層下部	深鉢	口縁部			隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
609	7 E Ⅱ層下部	深鉢	口縁部			太い隆帯による渦巻文 地文は無帯の燃糸文?	Ⅲ群d類
610	7 Q Ⅱ層中部	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	隆沈線による渦巻文	Ⅲ群d類
611	5 Q Ⅱ層下部	深鉢	口縁部-胴部	R L	縦	隆帯・沈線による渦巻文 沈線文	Ⅲ群d類
612	7 D Ⅱ層下部	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	波状口縁 隆沈線による文様	Ⅲ群d類
613	5 I Ⅱ層上部	深鉢	口縁部-胴部			胴部に渡る2本の隆帯を線状把手がつなが	Ⅲ群d類
614	4 J Ⅱ層上部	深鉢	胴部			胴部に渡る2本の隆帯を線状把手がつなが	Ⅲ群d類
615	8 D Ⅱ層下部	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	円形の刺突文 沈線文	Ⅲ群d類
616	6 N Ⅱ層中部	深鉢	口縁部	L R	縦	円形の刺突が連続する隆帯	Ⅲ群d類
617	5 G Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	L R	縦	刺突を持つ隆帯	Ⅲ群d類
618	6 R Ⅱ層上部	深鉢	口縁部-胴部	L R	縦	円形刺突が連続する隆帯	Ⅲ群d類
619	2 E Ⅱ層下部	深鉢	胴部	L R	縦	沈線文	Ⅲ群d類
620	3 E Ⅱ層中部	深鉢	胴部	R L	縦	キャリバー 隆沈線・沈線文	Ⅲ群d類
621	8 D Ⅱ層中部	深鉢	胴部	L R	縦	沈線文	Ⅲ群d類
622	8 D Ⅱ層中部	深鉢	胴部	R L	縦	沈線による渦巻文	Ⅲ群d類

番号	出土地点	器種	部位	肩作	方向	文様の特徴	分類
623	3 F II層中部	深鉢	胴部	R L R	縦	沈線による渦巻文・條状文	II群d類
624	8 D II層中部	深鉢	胴部	R L	縦	沈線による渦巻文・條状文	II群d類
625	8 D II層中部	深鉢	胴部	R L	縦	沈線文 624と同一個体	II群d類
626	3 E II層下部	深鉢	胴部	R L R	縦	沈線による文様	II群d類
627	2 H II層中部	深鉢	胴部	R L R	縦	沈線による渦巻文	II群d類
628	7 D II層中部	深鉢	胴部	L R	縦	沈線文	II群d類
629	5 F II層中部	深鉢	胴部	R L	縦	隆沈線による渦巻文・條状文	II群d類
630	6 F II層中部	深鉢	胴部	R L	縦	隆沈線による文様 地文は燃糸文(R)も散文される	II群d類
631	1 Z II層中部	深鉢	口縁部~胴部	L R	横	隆帯による文様	II群d類
632	8 G II層中部	深鉢	胴部	L R L	縦	隆沈線による渦巻文・條状文	II群d類
633	5 F II層下部	深鉢	胴部	R L	縦	隆沈線による條状文	II群d類
634	5 P II層上部	深鉢	胴部	L R	縦	隆沈線による渦巻文・條状文	II群d類
635	3 H II層下部	深鉢	胴部	L R	縦	隆沈線による渦巻文・條状文	II群d類
636	4 S II層上部	深鉢	胴部	R L	縦	隆沈線による文様	II群d類
637	3 E II層中部	深鉢	胴部~底部	L	縦	太い隆帯による文様 短帯の燃糸文	II群d類
638	2 E II層上部	深鉢	胴部	r	縦	短帯の燃糸文 隆沈線による渦巻文	II群d類
639	7 D II層下部	深鉢	底部	R L	縦	沈線による條状文	II群d類
640	2 O II層上部	深鉢	底部	R L	縦	隆沈線文	II群d類
641	6 P II層下部	深鉢	胴部~底部	R L R	縦	沈線文	II群d類
642	3 F II層下部	深鉢	底部	R L	縦	隆沈線による渦巻文	II群d類
643	5 S II層中部	深鉢	底部	R L	縦	沈線文	II群d類
644	4 R II層上部	深鉢	底部	L R	縦	沈線文	II群d類
645	6 I II層下部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	隆帯 0 段多糸 不揃な條状文	II群f類
646	2 H II層上部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	口縁部上部に低い隆帯	II群f類
647	3 E II層中部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	円形の剣突が連続する隆帯	II群f類
648	6 P II層下部	深鉢	口縁部~胴部	R L	縦	波状の折返し口縁 隆帯による文様	II群f類
649	2 K II層下部	深鉢	口縁部	L	縦	波状口縁 剣突を持つ太い隆帯	II群f類
650	2 K II層上部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	波状口縁 太い隆帯 地文は燃糸文 649と同一個体	II群f類
651	6 D II層中部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	太い隆帯による文様	II群f類
652	5 F II層中部	深鉢	口縁部	R L	縦	太い隆帯による文様	II群f類
653	5 G II層下部	深鉢	口縁部	R L	縦	隆帯による渦巻文	II群f類
654	4 D II層下部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	口縁部にミガキ	II群f類
655	6 F II層中部	深鉢	口縁部~胴部	L	縦	波状口縁	II群f類
656	7 P II層下部	深鉢	口縁部~底部	L R	縦	波状口縁 地文のみ	II群f類
657	3 E II層下部	深鉢	胴部~底部	L	縦	地文のみ 底面網代文	II群f類
658	4 O II層上部	深鉢	口縁部~胴部	R L	縦	指板近似状の刻みを持つ隆帯	II群f類
659	2 J II層上部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	指板近似状の刻みを持つ隆帯	II群f類
660	5 K II層下部	深鉢	口縁部	L	縦	指板近似状の刻みを持つ隆帯	II群f類
661	4 R II層上部	深鉢	口縁部	L R	横	折返し口縁 地文のみ	II群f類
662	2 V II層上部	深鉢	口縁部~胴部	L R	縦	地文のみ(隆帯文を伴う結節縹文)口縁部内面肥厚	II群f類
663	5 Q II層下部	深鉢	口縁部	R	縦	口縁部肥厚 縹絡文 短帯の燃糸文	II群f類
664	4 E II層中部	深鉢	口縁部	L	縦	地文のみ	II群f類
665	6 E II層中部	深鉢	底部	L R	縦	地文のみ 底面網代文	II群f類
666	6 Q II層中部	深鉢	底部	R	縦	地文のみ 底面網代文 短帯の燃糸文	II群f類
667	6 Q II層上部	深鉢	胴部~底部	R L	縦	地文のみ	II群f類
668	7 O II層中部	深鉢	底部	L R	縦	地文のみ	II群f類
669	1 M II層中部	深鉢	底部	R L	縦	地文のみ	II群f類
670	2 Q II層上部	深鉢	底部	L R	横	地文のみ	II群f類
671	4 E II層中部	深鉢	底部	R L	縦	地文のみ	II群f類
672	6 P II層中部	深鉢	底部	L R	縦	地文のみ	II群f類
673	2 R II層上部	鉢	底部	L R	横	下帯に沈線文	II群f類
674	3 U II層下部	深鉢	胴部~底部	L R	縦	地文のみ	II群f類
675	2 K II層下部	深鉢	底部			右状底帯? 底面網代文	II群f類
676	6 P II層中部	深鉢	底部			無文	II群f類
677	3 X II層下部	深鉢	底部	L R	横	地文のみ 不揃な縹絡文	II群f類
678	7 E II層下部	深鉢	底部	R L	横	無文	II群f類
679	4 U II層上部	深鉢	口縁部			台状口縁 隅文を持つ渦巻文 燃糸縹文 燃糸羽状	II群e類
680	4 U II層上部	深鉢	口縁部	L R	横	突起を持つ波状口縁 隅文を持つ渦巻文・燃糸縹文	II群e類
681	6 R II層下部	深鉢	胴部	R	横	沈線区画の崩り出し隅文 條状	IV群
682	5 X II層	深鉢	口縁部	L R	横	冠帯状の突起 沈線文と剣突文一起飾り出し隅文 條状	IV群
683	5 Q II層上部	鉢	口縁部~胴部	L R	横	波状口縁 沈線区画による渦巻文 内帯にも隅文等	V群a類
684	4 S II層中部	古付鉢	白部			沈線による変形十字文	V群b類

番号	島土地点	基種	部位	原形	方向	文様の特徴	分類
685	7 Q Ⅱ層中部	鉢	口縁部～胴部	L R	横	口縁部B状突起とに刻み 沈線と斜突文	V群b類
686	6 P Ⅱ層中部	鉢	胴部			沈線文と三角形の刺突文 685と同一個体	V群b類
687	7 Q Ⅱ層中部	鉢	口縁部～胴部	L R	横	台状の小突起 沈線文 口縁部内側にも施文	V群b類
688	6 N Ⅱ層中部	鉢	口縁部			口縁部にB状突起 B状突起を持つ沈線文	V群c類
689	2 R Ⅱ層上部	浅鉢	口縁部			沈線文 口縁部内側にも施文	V群c類
690	2 R Ⅱ層上部	深鉢	口縁部			沈線文 B状突起 口唇部にも縄文施文	V群c類
691	5 O Ⅱ層上部	台付鉢	胴部	R L	横	底部内面に内形の沈線文	V群c類
692	2 S Ⅱ層中部	盃	口縁部			B状突起を持つ沈線文	V群c類
693	6 E Ⅱ層上部	盃	口縁部～底部			頸部に凹凸を持つ隆帯	V群c類
694	3 S Ⅱ層中部	甕	口縁部～胴部	L R	横	口唇部に刻み 沈線文	V群c類
695	2 S Ⅱ層中部	深鉢	口縁部			口唇部に指頭状 沈線文	V群c類
696	3 S Ⅱ層中部	鉢	胴部～底部	L R	横	地文のみ	V群c類
697	2 T Ⅱ層上部	鉢	口縁部～胴部	L R	横	地文のみ	V群c類
698	2 S Ⅱ層上部	鉢	胴部～底部	L R	横走	沈線文 底部網代直	V群群
699	2 R Ⅱ層上部	鉢	口縁部～底部	L R	横走	地文のみ 底部網代直	V群群
700	8 G Ⅱ層中部	鉢	口縁部～胴部	L R	横走	B状突起を持つ変形工字文	V群群
701	3 Q Ⅱ層上部	鉢	口縁部			頂部に突起を持つ山形口縁 沈線による変形工字文	V群群
702	5 P Ⅱ層中部	鉢	口縁部			沈線文 口縁部内側にも施文	V群群
703	5 O Ⅱ層上部	鉢	口縁部			沈線文 口縁部内側にも施文	V群群
704	3 Q Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	L R	横	口縁部上端に沈線文 赤色塗彩	V群群
705	4 S Ⅱ層中部	鉢	口縁部	L R	横	小突起 B状突起を持つ沈線文 口唇部にも沈線文	V群群
706	3 Q Ⅱ層上部	鉢	口縁部～胴部	L R	横	口唇部に刻み 沈線による変形工字文 内側にも沈線文	V群群
707	4 S Ⅱ層中部	鉢	口縁部～胴部	L R	横	口縁部に沈線文 突起を持つ? 腹?	V群群
708	3 Q Ⅱ層上部	鉢	胴部	L R	横走	地文のみ	V群群
709	9 F Ⅱ層上部	台付鉢	台部			高环 沈線による変形工字文	V群群
710	5 O Ⅱ層上部	台付鉢	胴部	L R		胴部は地文のみ	V群群
711	8 G Ⅱ層上部	台付鉢	台部			沈線文	V群群
712	4 Q Ⅱ層上部	盃	口縁部	L	横走	沈線文 形状は不明	V群群
713	3 O Ⅱ層下部	鉢	口縁部			頂部に刻みを持つ山形口縁 沈線文	V群群
714	3 Q Ⅱ層上部	盃	口縁部			沈線文 内側にも施文	V群群
715	3 R Ⅱ層上部	盃	口縁部～胴部			沈線による変形工字文 口縁部内側にも沈線文	V群群
716	4 O Ⅱ層中部	盃	口縁部			沈線文 口縁部内側にも施文 変形工字文	V群群
717	3 Q Ⅱ層上部	盃	胴部			頸部上端に沈線文 赤色塗彩	V群群
718	2 R Ⅱ層上部	盃	胴部			頸部上端に沈線文	V群群
719	3 S Ⅱ層中部	盃	胴部			無文	V群群
720	6 N Ⅱ層中部	甕	口縁部～胴部			口縁部内側凹凹 沈線・短沈線による変形工字文	V群群
721	6 N Ⅱ層中部	甕	口縁部			口唇部に刻み 沈線文 720と同一個体	V群群
722	2 S Ⅱ層上部	甕	口縁部			頂部凹凹の突起を持つ湾状口縁 沈線文・B状突起	V群群
723	4 S Ⅱ層中部	鉢	口縁部～胴部	L R	横	台状の突起 口縁部に沈線 口唇部にも施文	V群群
724	2 S Ⅱ層上部	甕	口縁部～胴部	L R	横	小突起 口唇部に刻み	V群群
725	6 D Ⅱ層中部	甕	口縁部～胴部	L R	横走	頂部に刻みを持つ山形口縁	V群群
726	2 S Ⅱ層下部	甕	口縁部～胴部	L R	横	沈線文	V群群
727	2 U Ⅱ層中部	甕	口縁部～胴部	L R	横走	口縁部に沈線	V群群
728	3 O Ⅱ層上部	甕	口縁部	L R	横走	口唇部に沈線	V群群
729	3 O Ⅱ層下部	甕	口縁部			口唇部に指頭状の凹凸	V群群
730	2 Q Ⅱ層上部	甕	口縁部			無文	V群群
731	3 Q Ⅱ層下部	甕	口縁部～胴部	L R	横走	沈線文	V群群
732	3 Q Ⅱ層上部	甕	胴部	L R	横走	胴部上端に沈線	V群群
733	7 R Ⅱ層中部	甕	胴部	L R	横走	口縁部無文	V群群
734	3 Q Ⅱ層下部	甕	胴部	L R	横走	頸部に沈線文	V群群
735	4 S Ⅱ層上部	甕	口縁部～胴部	L R	横	口唇部に凹凹状による刻み	V群群
736	5 S Ⅱ層上部	甕	口縁部～胴部	L R	横走	口縁部は無文	V群群
737	6 P Ⅱ層上部	甕	口縁部～胴部	L R	横走	波状口縁 口縁部無文 胴部は地文のみ	V群群
738	6 N Ⅱ層下部	甕	胴部	L R	横	沈線文	V群群
739	2 S Ⅱ層上部	甕	胴部	L R	横走	地文のみ	V群群
740	3 R Ⅱ層上部	甕	胴部	L R	横走	地文のみ	V群群
741	6 Q Ⅱ層上部	甕	胴部～底部	L R	横走	下地に沈線	V群群
742	2 R Ⅱ層上部	甕	胴部～底部	R L	横走	地文のみ	V群群
743	2 R Ⅱ層上部	甕	口縁部～胴部			2個1対の小孔(焼成前) 口縁部内側凹凹 無文	V群群
744	2 R Ⅱ層上部	甕	口縁部	L R	横走	地文のみ	V群群
745	2 R Ⅱ層上部	甕	口縁部			内外面に炭化物	V群群

第3表 石器・石製品観察表

番号	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	メモ
3	5D-1住床	Rフレ	5.4	3.9	1	14	硬質泥岩	小さな鋸状の刃部
4	5D-1住床	石皿	27.6	23	10.3	9500	花崗閃緑岩	両面使用
26	7D-E-1住	磨製石斧	11.4	4.3	1.4	100	粘板岩	半製品? 敲打痕と擦痕
27	7D-E-1住	Rフレ	3.7	3.7	0.8	5.8	硬質泥岩	ノッチ的
28	7D-E-1住	Rフレ	3.7	4.3	1	10.6	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に微細な加工
29	7D-E-1住	Uフレ	6.2	3.5	0.7	10.1	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に使用痕
30	7D-E-1住	Uフレ	6	3.2	1.1	36.7	流紋岩質細粒凝灰岩	鋭利な2縁辺部に使用痕
31	7D-E-1住	Uフレ	6.1	7.1	1.1	41.7	玉軸	鋭利な縁辺部に使用痕
32	7D-E-1住	磨石	7.2	6	4	270	緑色凝灰岩	両面
33	7D-E-1住	磨石	9.2	5.9	2.5	225	両輝石安山岩	両面
34	7D-E-1住	磨石	10.2	7.1	4.5	490	両輝石安山岩	両面
35	7D-E-1住	磨石	10	7.7	4.8	540	両輝石安山岩	両面
36	7D-E-1住	磨石兼凹石	11.2	7.3	3.2	355	緑色凝灰岩	両面 片面に凹み
37	7D-1住床	石皿	27.5	26	7.1	4900	両輝石安山岩	両面使用 砥研品
38	7E-1住床	石皿	32.6	24.8	6.6	8500	デイスait	両面使用
46	2F-1住埋土	掻器	6.5	7.1	1.4	60	硬質泥岩	両面からの粗い加工
47	4G-1住埋土	ノッチ	6.4	2.7	0.5	3.1	硬質泥岩	縁辺部に粗い加工
50	4G-2住埋土	Rフレ	9.2	10.7	4.2	605	両輝石安山岩	鋭利な縁辺部に粗い加工 割裂的
51	4G-2住埋土	Rフレ	3.9	2.7	0.5	1	硬質泥岩	1縁辺部と尖頭部に微細な加工
52	4G-2住埋土	Uフレ	5.4	3.4	0.6	6.8	流紋岩質細粒凝灰岩	鋭利な縁辺部に使用痕
53	4G-2住埋土	石鏡	11.7	10.7	4.2	650	両輝石安山岩	縦型 磨石からの転用か?
54	4G-2住埋土	磨石兼凹石	13.1	8.5	4	610	両輝石安山岩	両面 片面に凹み
64	2I-1住埋土	Rフレ	4.8	4.3	0.9	7.5	流紋岩質細粒凝灰岩	1縁辺部に微細な加工 割裂的
65	2I-1住床	磨製石斧	13	4.5	2.8	280	ホルンヘルス	方部砥研 加工は難
66	2I-1住床	砥石	7.5	5.2	4.3	180	緑色凝灰岩	4~5面に使用痕
67	2I-1住床	敲打石	7.9	6.4	3.6	245	粘板岩	縁部を細粒状 量行後 チョッパーに転用
79	2L-1住埋土	Uフレ	1.9	3.4	0.6	1	硬質泥岩	尖頭部と周辺部に使用痕
80	2L-1住埋土	特殊磨石	13.6	7	3.9	410	安山輝石安山岩	使用部分に粗い剝離調整
81	2L-1住埋土	磨石	14	9.9	6	1111	両輝石安山岩	両面
96	6L-1住床	石鏡	2.9	1.8	0.4	1.5	珪質極細粒凝灰岩	無基凹基盤
97	6L-1住床	石鏡	3.3	1.2	0.6	1.9	珪質極細粒凝灰岩	両面からの粗い加工 石鏡か?
98	6L-1住床	石鏡	6	2.8	1	22.8	珪質極細粒凝灰岩	両面からの加工 第一次剝離面を残す
99	6L-1住床	Rフレ	6.1	2.4	0.9	18.4	玉軸	1縁辺部に粗い加工 割裂的
100	6L-1住床	Rフレ	6	2.2	0.3	7.5	硬質泥岩	1縁辺部に粗い加工 割裂的
101	6L-1住床	ノッチ	6.1	3	0.7	14.7	硬質泥岩	数回の剝離による小さな刃部
102	6L-1住床	磨製石斧	9.3	3.5	1.3	70	粘板岩	全体に粗い加工
103	6L-1住床	石鏡	6.3	8.2	3	230	輝石安山岩	横型
104	6L-1住床	磨石	7.1	5.4	3.1	170	輝石安山岩	両面と両側面
105	6L-1住床下	砥石	9.7	5	2.2	120	珪質極細粒凝灰岩	浅い溝
148	2M-1住埋土	掻器	3.5	3.3	0.8	5.9	地質泥岩	尖頭部と周辺に加工 急角度の縁辺を利用
149	2M-1住埋土	刮器	5.6	4.6	1.3	28.9	流紋岩質細粒凝灰岩	2側面に加工
150	2M-1住埋土	刮器	7.6	4.9	1.5	65	流紋岩質極細粒凝灰岩	主に片面からの粗い加工
151	2M-1住埋土	Rフレ	5.6	3.5	1.2	8	流紋岩質細粒凝灰岩	尖頭部に剝離加工
152	2M-1住埋土	Rフレ	4.2	3.9	0.9	8.1	流紋岩質極細粒凝灰岩	1縁辺に加工
153	2M-1住埋土	Rフレ	3.3	5.6	1	4.4	地質泥岩	尖頭部と周辺に微細加工 尖頭部は先削り付
154	2M-1住埋土	Rフレ	3.4	2.4	0.7	1	硬質泥岩	尖頭部と周辺に微細な加工
155	2M-1住埋土	Uフレ	4.9	3.7	0.7	6.6	粘板岩	鋭利な2縁辺部に使用痕
156	2M-1住埋土	Uフレ	3.7	4	0.9	4.4	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に使用痕
157	2M-1住埋土	Uフレ	6.8	2.5	0.6	15	硬質泥岩	鋭利な3縁辺部に使用痕 接合剥片
158	2M-1住床	Uフレ	4.6	2.4	0.6	6.7	硬質泥岩	鋭利な2縁辺部に使用痕 接合剥片
159	2M-1住床	Rフレ	6	4.1	2.2	61	硬質泥岩	周辺に粗い加工 接合剥片
160	2M-1住床	磨製石斧	10.4	5.7	2.2	235	ホルンヘルス	基部上平砥研
161	2M-1住床	磨製石斧	8.2	4.8	2.5	175	緑色凝灰岩	基部上平砥研
162	2M-1住床	磨製石斧	14.9	5.1	1.9	215	粘板岩	刃部片面砥研
163	2M-1住埋土	磨製石斧	4.2	2.6	1.2	0.9		砥研品の再利用か? 磨りりによる加工痕

番号	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	メモ
164	2M-1住床	磨製石斧	14.3	5.7	5	620	粘板岩	割傷を残す 石斧の未製品?
165	2M-1住埋土	磨石	20	5.7	5.5	850	緑色凝灰岩	棒状 頂部は不使用
166	2M-1住埋土	特殊磨石	17	6.8	4.1	760	緑色凝灰岩	加工なし
167	2M-1住埋土	特殊磨石	17	8.1	5.5	1140	緑色凝灰岩	加工なし
168	2M-1住埋土	磨石	10	9.7	3.9	485	変質輝石安山岩	片面
169	2M-1住埋土	磨石	10.3	7.1	5.8	570	両輝石安山岩	片面
170	2M-1住埋土	磨石	12.2	8.2	4.3	600	緑色凝灰岩	両面
171	2M-1住埋土	磨石	9.2	8.1	6.1	610	両輝石安山岩	両面
172	2M-1住埋土	磨石	8.3	5.9	4	285	両輝石安山岩	両面 小型
173	2M-1住床	磨石	9.1	5.5	3.5	225	緑色凝灰岩	両面 小型
174	2M-1住埋土	磨石兼凹石	9.5	5.5	3.1	215	緑色凝灰岩	片面
175	2M-1住埋土	凹石	10.8	6.7	4.6	375	両輝石安山岩	片面に緩い凹み
176	2M-1住埋土	磨石兼敲石	8.8	5.4	3.3	215	緑色凝灰岩	両面 両面に敲打痕
177	2M-1住埋土	砥石	5.2	6.2	0.6	95	緑色凝灰岩	両面に浅い溝
178	2M-1住床	石皿	43.6	31	6.2	16500	両輝石安山岩	両面使用
193	2N-1住埋土	削器	11.5	5.7	1.1	47.3	硬質泥岩	両側面に両面からの加工
194	2N-1住埋土	削器	7.1	3.3	1.2	19	流紋岩質細粒凝灰岩	両側面に両面からの加工
195	2N-1住埋土	削器	4.2	2.3	0.45	0.4	硬質泥岩	片面からの加工 弧状の刃部
196	2N-1住埋土	尖頭器	5.7	4.4	1.1	16.3	流紋岩質細粒凝灰岩	尖頭部と縁辺部に両面からの加工 両面か?
197	2N-1住埋土	Rフレ	4.3	4.8	0.5	5.5	硬質泥岩	両面に緩な加工
198	2N-1住埋土	Rフレ	4.1	2.8	0.5	0.8	硬質泥岩	両面に緩な加工
199	2N-1住埋土	Rフレ	4.4	2.3	0.7	2.4	硬質泥岩	1縁辺部に緩な船状の加工
200	2N-1住埋土	Uフレ	6.1	5.3	1.3	42.5	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に使用痕
201	2N-1住埋土	Uフレ	3.8	4.1	0.8	10	珪質泥岩	鋭利な縁辺部に使用痕
202	2N-1住埋土	石鏃	7.4	6.2	1.7	110	緑色凝灰岩	鋭利な縁辺部からの転用か?
203	2N-1住埋土	凹石	7.7	4.1	3.2	105	緑色凝灰岩	両側に敲打痕
204	2N-1住埋土	石皿	21	15.4	9.6	5500	花崗閃緑岩	両面使用 破損品
205	2N-1住埋土	石皿	24.2	19.2	6.4	4000	花崗閃緑岩	両面に使用痕 破損品
209	6M-1住埋土	Rフレ	4.6	5.8	0.9	19.5	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に両面からの加工 割断的
210	6M-1住埋土	Uフレ	2.3	3.8	0.5	3.8	硬質泥岩	角度のある縁辺部に使用痕
226	6N-1住床直	尖頭器	8.5	1.3	0.9	11.8	珪質極細粒凝灰岩	全体に両面からの加工 再利用断片
227	6N-1住床直	Rフレ	3	3.3	0.7	11.5	珪質泥岩	両面に緩な加工
228	6N-1住床直	残核	4.9	6.2	3.1	105	珪質極細粒凝灰岩	一部に自然面を残す
229	6N-1住床直	Uフレ	5.7	4.5	0.7	22.4	珪質泥岩	鋭利な縁辺部に使用痕
230	6N-1住床直	打製石斧	18.7	5.8	3.6	485	粘板岩	両面からの大きな割断加工
231	6N-1住床直	磨石	10.1	5	7.4	520	輝石安山岩	両面と両側面
299	2Q-1住埋土	石鏃	1.6	1.4	0.5	0.3	硬質泥岩	無茎凹部欠
300	2Q-1住埋土	石鏃	2	1.3	0.2	0.5	硬質泥岩	無茎凹部欠?加工は少ない
301	2Q-1住埋土	石鏃	3.7	2.5	0.8	1.1	流紋岩質細粒凝灰岩	両面からの加工 ドリル的?
302	2Q-1住埋土	石鏃	7.4	2.7	1.5	30	流紋岩質細粒凝灰岩	刃部を磨き両面からの大きな加工
303	2Q-1住埋土	石鏃	7.2	3.1	1.2	20.2	粘板岩	全体に両面からの加工
304	2Q-1住埋土	石鏃	6.7	2.6	1.5	3.5	硬質泥岩	刃部を磨き両面からの加工
305	2Q-1住埋土	石鏃	3.3	2.5	0.9	3.8	硬質泥岩	両面からの加工 破損品
306	2Q-1住埋土	削器	7.8	3.2	1.4	29.1	硬質泥岩	1縁辺部に両面からの加工
307	2Q-1住埋土	削器	7	3.8	1	22.3	流紋岩質細粒凝灰岩	尖頭部と縁辺部に両面からの加工
308	2Q-1住埋土	削器	3.3	3.4	0.5	4.3	流紋岩質細粒凝灰岩	両面からの加工 弧状の刃部
309	2Q-1住埋土	Rフレ	5.4	3.2	0.8	7	流紋岩質細粒凝灰岩	1縁辺部に両面からの微細な加工
310	2Q-1住埋土	尖頭器	8.6	2.75	1.8	35.9	流紋岩質細粒凝灰岩	尖頭部に両面からの加工 再利用断片
311	2Q-1住埋土	Uフレ	7.5	3.3	1.3	21	流紋岩質細粒凝灰岩	鋭利な縁辺部に使用痕
312	2Q-1住埋土	磨石	10.3	8.3	6.3	650	デイスイト	片面?
313	2Q-1住埋土	磨石	12.4	8.1	3	500	両輝石安山岩	両面
314	2Q-1住埋土	磨石兼凹石	9.3	6.7	6	425	両輝石安山岩	両面
315	2Q-1住埋土	磨石兼凹石	10.6	5.8	4.6	370	両輝石安山岩	両面に凹み
316	2Q-1住床	石皿	26.7	24	5.3	5000	両輝石安山岩	両面使用
317	2Q-1住埋土	石皿	31.4	30.6	4.2	3600	デイスイト質凝灰岩	顔面部に磨き 両面から的小孔を穿する
318	2Q-1住床	石皿	38.5	36.7	10.2	21000	花崗閃緑岩	両面使用
329	3Q-1住埋土	Rフレ	4.2	3.3	0.9	7.5	硬質泥岩	1縁辺部に微細な加工

番号	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	メモ
330	3 Q-1 住棟土	Uフレ	3.2	4.4	1.2	9	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に使用板
331	3 Q-1 住棟土	砥石	6.6	4.1	0.6	22.1	流紋岩	両面に浅い溝
332	3 Q-1 住炉石	石皿	24.9	17.3	5.8	4100	両輝石安山岩	両面使用 破損品
333	3 Q-1 住炉石	石皿	27.5	20.4	5.8	5000	両輝石安山岩	両面使用
334	3 Q-1 住炉石	石皿	27	22.2	7.3	5500	両輝石安山岩	両面使用
335	3 Q-1 住炉石	石皿	27.8	24	6.8	5500	両輝石安山岩	両面使用
344	1 S-1 住棟	石底	6.9	3.4	1.4	26.5	珪質泥岩	両面からの加工
345	1 S-1 住棟	磨石	12.9	8.9	4.9	820	緑色凝灰岩	両面 火熱板を持つ
351	2 H-1 建物	削器	7.1	7.1	1.1	35.2	硬質泥岩	尖部等と周辺に主に片面からの加工
352	2 H-1 建物	特殊磨石	16.4	7.6	6.3	1400	両輝石安山岩	加工なし 1面も使用
356	6 F-1 P底	磨石	17	4.6	3.6	360	淡緑色凝灰岩	縦長の壁の片端部に敲打板
361	2 H-1 P底	磨石	15.6	7.8	5	915	両輝石安山岩	両面
362	9 H-1 P底面	石皿	0.8	0.9	3.2	2500	珪質石綿混じり質凝灰岩	片面使用
374	7 E-1 T P 礎土	楔形石巻	2.3	3.5	0.5	4.2	硬質泥岩	上下からの加撃?
753	9 H II層下部	石巻	2.9	1.9	0.7	2	珪質極細粒凝灰岩	両基無蓋縁
754	4 N II層下部	石巻	2.7	1.6	0.4	1.6	硬質泥岩	両基無蓋縁
755	5 E II層中部	石巻	2.4	1.8	0.4	1.55	流紋岩質細粒凝灰岩	両基無蓋縁
756	2 E II層中部	石巻	2.2	1.9	0.4	1.3	流紋岩質細粒凝灰岩	両基無蓋縁
757	1 J II層上部	石巻	5.3	2.4	0.8	8.35	流紋岩質細粒凝灰岩	両基 大型
758	4 O O層	石巻	2.7	1.6	0.3	1.7	硬質泥岩	両基無蓋縁
759	5 D II層上部	石巻	4.7	6.6	1.1	34.8	硬質泥岩	横型 刃部は片面からの加工
760	6 O II層中部	石巻	3.2	4.3	0.7	7.5	玉髓	横型 刃部は両面からの加工
761	5 L II層下部	石巻	6.8	2.5	1	16.8	硬質泥岩	縦型 両面からの加工
762	7 I II層中部	石巻	6.9	4.2	0.6	18.5	珪質極細粒凝灰岩	縦型 明確な刃部は見られない
763	4 R II層上部	石巻	5.3	2.9	0.7	12.1	硬質泥岩	横型 1側縁に微細な加工
764	3 I II層下部	石巻	7.5	4.7	1.2	34.9	硬質泥岩	縦型 両側縁に両面からの加工
765	1 H II層上部	石巻	3.3	3.2	0.6	5.4	硬質泥岩	縦型 片面からの加工? 破損品
766	6 F II層中部	石巻	2.3	1.4	0.4	1.2	鉄石英	縦型 刃部は不明
767	2 F II層下部	石巻	3.7	2.4	0.5	3.9	流紋岩質細粒凝灰岩	両面からの加工
768	4 G II層中部	石巻	8.8	3.6	1.3	44.3	硬質泥岩	両面からの加工 刃部と基部に使用による磨滅
769	3 L II層上部	石巻	5.8	2.5	1	15.6	硬質泥岩	両面からの大きな斜削加工
770	4 E II層下部	石巻	7.7	3.2	1.3	30.8	硬質泥岩	両面からの浅い加工 破損した使用による磨滅
771	2 O II層上部	石巻	9.3	3.7	1.3	42.2	珪質泥岩	両面からの加工
772	3 I II層下部	石巻	7.4	3.1	1.5	40.1	硬質泥岩	両面からの加工
773	6 N II層下部	石巻	7.7	2.6	1.5	34.3	珪質極細粒凝灰岩	両面からの加工 刃部には使用による欠けを持つ
774	3 Q II層下部	石巻	4.4	2.7	1	11.5	硬質泥岩	両面からの加工 裏面は浅い 破損品
775	4 S II層上部	石巻	3.5	4.9	1.5	28.6	珪質泥岩	両面からの加工 破損品
776	4 F II層下部	石巻	7.3	3.3	1	31.95	硬質泥岩	両面に両面からの浅い加工
777	2 Q II層上部	石巻	8	2.9	1.3	33.7	流紋岩質細粒凝灰岩	基部に軽い加工 いずれも浅い
778	7 R II層中部	石巻	4.8	3.6	1.9	33.9	珪質極細粒凝灰岩	両面からの加工 破損品
779	5 K II層上部	石巻	1.1	2.2	0.6	1.4	珪質泥岩	刃部のみ残存 両面からの加工 破損品
780	3 W II層中部	石巻	6.5	4.2	1.3	29.2	硬質泥岩	大きな斜削 一部片面からの加工 破損品
781	5 N II層中部	石巻	2.6	3.9	0.9	8.1	硬質泥岩	両面からの浅い加工
782	5 D II層下部	石巻	4.8	3	1.5	19.2	流紋岩	一部片面からの加工 再利用削片か?
783	2 M II層上部	石巻	7.9	4.5	1.6	55.1	流紋岩質細粒凝灰岩	両面からの加工 使用による磨滅
784	7 Q II層上部	石巻	6.2	3.6	1.6	36	珪質極細粒凝灰岩	両面からの加工 磨滅による風化が見られる
785	4 S II層上部	撻器	6	3.9	1.1	25.4	珪質泥岩	刃部を除く両面からの加工 非一次削片か?
786	1 K II層下部	撻器	7.2	3.1	1	23.8	流紋岩質細粒凝灰岩	刃面を除く両面に片面からの加工
787	9 E II層中部	撻器	6.4	2.5	1	11.5	玉髓	主に刃部加工
788	4 P O層	撻器	4.6	3.3	1.1	21.2	玉髓	側面に大きな急角度の刃部
789	5 Q II層下部	削器	7.1	2.5	1.4	24.8	珪質泥岩	再利用削片 片巻 いずれも急角の刃部 使用による磨滅
790	2 J II層中部	削器	6.1	3.1	1.2	10.8	流紋岩質細粒凝灰岩	片巻 直刃
791	6 N II層中部	削器	4.7	3.1	1.5	24.6	玉髓	片巻 はは直刃 一辺に刃部加工
792	4 X II層上部	削器	8.2	4.9	1.5	44	硬質泥岩	片巻 はは直刃
793	5 Q II層下部	削器	6.2	4.1	1.5	30.8	硬質泥岩	片巻 一部両面 いずれも細い(浅い)加工 直刃
794	7 E II層下部	削器	6.6	4.7	0.9	24.9	硬質泥岩	片巻 はは直刃 ノッチ状刃部合せをもつ
795	4 I II層上部	削器	6.4	5.7	1.3	25.5	硬質泥岩	再利用削片 片巻 直刃一部凸刃

番号	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	メモ
796	1 M II層下部	削器	4.7	5	1.2	20.1	硬質泥岩	片歯 直刀とノッチ状の刃部
797	6 Q II層下部	削器	7.3	5.7	1.7	59.8	珪質砂岩粒凝灰岩	刃部に加工 いかれ片歯 刃部が粗い直刀
798	7 E II層中部	削器	5.8	3.5	1.1	23.1	硬質泥岩	片歯 一部両歯 直刀
799	4 K II層中部	削器	4.8	2.4	0.7	8.3	流紋岩質細粒凝灰岩	使用による摩滅 片歯 鋭い直刀と刃部 風化
800	3 Q II層上部	削器	5.3	3.2	1	14.7	硬質泥岩	両歯 鋭い刃部 ほぼ直刀
801	2 H II層中部	削器	5.2	9.7	1.3	46.2	珪質泥岩	両歯 直刀一部凸刀 直刀部が両歯
802	3 M II層下部	削器	10.8	9.8	2.4	190	流紋岩質細粒凝灰岩	片歯 一部両歯 凸刀と鋭い刃部
803	3 P II層上部	削器	8.2	7.3	2	70	流紋岩質細粒凝灰岩	両歯直刀と凸刀
804	5 J II層上部	削器	7.7	3.6	1.5	31.6	流紋岩質細粒凝灰岩	片歯 鋭い凸刀
805	4 N II層上部	削器	10.7	6	2	120	硬質泥岩	両歯 鋭い凸刀 ほぼ直刀
806	5 R II層上部	削器	8.6	4.5	1.2	42.4	流紋岩質細粒凝灰岩	片歯 凸刀 風化
807	6 N II層下部	削器	8.7	6.2	1.6	85	硬質泥岩	片歯 一边に刃部加工 凸刀
808	4 S II層上部	削器	7.3	2.2	4.7	60	流紋岩質細粒凝灰岩	大きな刺歯 鋸歯状の刃部 直刀
809	5 C II層中部	削器	10	9.1	1.9	135	硬質泥岩	尖頭部か？片歯 鋭い凸刀
810	2 K II層上部	削器	4.2	3.2	0.6	6.7	流紋岩質細粒凝灰岩	片歯 鋭い凸刀 破損品
811	4 E II層中部	削器	4.2	3.3	0.5	6.7	硬質泥岩	片歯 鋭い凸刀と凸刀
812	2 J II層	削器	4.5	5.5	0.9	22.1	流紋岩質細粒凝灰岩	両歯 鋭い凸刀
813	3 J II層上部	削器	4.2	5.8	0.9	22.5	流紋岩質細粒凝灰岩	片歯 直刀と刃部 直刀部は鋸歯状
814	4 R II層上部	削器	3.6	5.4	0.7	11.6	珪質泥岩	両歯 鋭い凸刀
815	2 J II層	削器	5.2	5.3	1.4	22.1	硬質泥岩	両歯 凸刀
816	2 H II層上部	削器	4.4	3.5	0.8	12.4	硬質泥岩	片歯 突刃に調整 凸刀
817	7 E II層下部	削器	3.7	2.6	0.6	4.1	硬質泥岩	刃部に加工 一部両面から 凸刀
818	8 G II層上部	削器	3.5	2.3	0.8	5.1	流紋岩質細粒凝灰岩	両歯 直刀 破損品
819	5 I II層上部	削器	3.6	2.6	0.9	7.9	玉髄	一部片歯 一部両歯 凸刀？破損品
820	4 M II層上部	削器	3.6	4.6	1.1	15.7	ホルンヘルス	片歯 凸刀 両側折れる 折衝調整石器
821	2 E II層中部	削器	3.6	0.8	3.6	10.6	流紋岩質細粒凝灰岩	片歯 凸刀 両側折れる 折衝調整石器
822	3 M II層下部	削器	3.1	2.2	0.3	2.4	流紋岩	両歯 凸刀 破損品
823	4 X II層上部	削器	5.4	8.3	1.6	49	流紋岩質細粒凝灰岩	片歯 直刀 鋸歯状の刃部
824	6 O II層下部	削器	5.4	6.5	1.2	50.5	淡緑色顆粒凝灰岩	一边に大きな加工 鋸歯の刃部 片歯 凸刀
825	5 V II層下部	削器	5.3	6.1	1.3	37.9	硬質泥岩	片歯 凸刀 やや鋸歯状
826	4 N II層下部	削器	6	6.7	1.1	41.7	流紋岩質細粒凝灰岩	大きな刺歯 鋸歯状の刃部 片歯 直刀
827	3 M II層上部	削器	4.8	5.3	0.8	26.1	硬質泥岩	片歯 直刀と凸刀 直刀部は、鋸歯状
828	3 G II層下部	削器	4.7	6.8	1.3	40.4	硬質泥岩	太く刺歯の溝 刺歯の刃部が直刀 片歯
829	8 G II層上部	ノッチ	4.2	3.6	0.6	8.9	流紋岩質細粒凝灰岩	鋭い両面部に細い刺歯加工
830	2 J II層下部	ノッチ	3.2	4	1.1	9.6	流紋岩質細粒凝灰岩	尖頭部の片側に刃部加工
831	4 I II層上部	ノッチ	3.7	3.2	0.8	6.6	珪質泥岩	縁辺部に細かい加工
832	6 J II層下部	ノッチ	4.2	2.8	1	10.2	鉄石英	片歯からの大きな加工によって刃部を作り出す
833	6 Q II層上部	ノッチ	4.5	3.5	1	17.6	淡緑色顆粒凝灰岩	単一の加撃により刃部を形成
834	3 Q II層上部	ノッチ	7.3	8.6	2	59.3	硬質泥岩	1縁辺部に2ヶ所の刃部加工
835	3 K II層下部	ノッチ	9.5	3.7	1.2	60	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に加工 刃部ノッチ的
836	6 O II層下部	尖頭器	7.2	4.6	0.9	32	硬質泥岩	3ヶ所の鋭い刃部に両側からの加工 刃部は尖頭
837	7 E II層中部	尖頭器	3.5	3.6	0.8	6.5	硬質泥岩	両面からの鋭い加工による。破損品
838	3 W II層中部	尖頭器	9.6	3.6	1.4	41.7	硬質泥岩	両面からの加工 片歯はやや鋭い 前者同様？
839	3 K II層下部	尖頭器	9.7	2.8	1.6	43.3	ホルンヘルス	両面からの大きな加工
840	4 W II層下部	尖頭器	6.6	2.8	1.3	32.2	硬質泥岩	尖頭部欠損 石質の破損品か？
841	3 H II層中部	尖頭器	5.2	2.9	1.7	29.7	流紋岩質細粒凝灰岩	尖頭部欠損 石質の破損品か？
842	4 L II層上部	機形石器	3.4	3.7	0.8	12.1	硬質泥岩	両面に指状の刺歯
843	2 Q II層上部	Rフレ	3.7	2.3	0.6	6.1	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に加工 直刀前部的 両側削削
844	5 R II層上部	Rフレ	3.7	4.7	1	22.2	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に加工 直刀前部的 鋭利な縁辺部に加工 直刀前部的
845	3 I II層下部	Rフレ	5.1	4.1	0.7	32.5	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に加工 直刀前部的
846	7 E II層下部	Rフレ	5.8	5	1.4	33.1	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に加工 直刀前部的
847	8 G II層上部	Rフレ	6.1	3.2	1.3	26.4	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に加工 直刀前部的
848	3 R II層上部	Rフレ	6.6	5.3	1	34	流紋岩質細粒凝灰岩	鋭利な縁辺部に加工 直刀前部的
849	3 K II層中部	Rフレ	4.9	3.2	0.9	15.9	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に加工 直刀前部的
850	3 I II層下部	Rフレ	4.2	3.1	0.6	8.6	珪質泥岩	鋭利な縁辺部に加工 直刀前部的 一部両面加工
851	7 E II層中部	Rフレ	6.4	5	1.4	50.1	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に加工 直刀前部的 両側削削か？
852	3 H II層中部	Rフレ	4	2.8	0.5	6.2	珪質泥岩	鋭利な縁辺部に加工 直刀前部的

番号	出土地点	容積	長さ	幅	厚さ	重量	石質	メモ
853	3 M II層下部	Rフレ	4.8	2.9	0.6	8.8	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に加工痕 直刀削器的
854	7 E II層下部	Rフレ	3.4	2.4	0.6	5.8	硬質泥岩	鋭利な縁辺部 縁部-面状の凹溝 凸部(断面) 断面
855	5 C II層中部	Rフレ	4.4	2.7	0.9	6.3	球質泥岩	鋭利な縁辺部に加工痕 面にノール付着 直刀削的
856	6 R II層中部	Rフレ	4.6	1.6	0.8	10.6	硬質泥岩	一面に削けられた ノール付着 丸山に面状の加工
857	4 E II層下部	Rフレ	3.2	2.4	0.8	6.8	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に加工痕 直刀の削器的 / ノール付着
858	6 G II層上部	Rフレ	4.9	4.7	0.7	20.2	球質泥岩	片歯 一面に削かれた加工 凸刀削的
859	8 G II層上部	Rフレ	5	5.4	1.8	59.2	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に加工痕 凸刀削的
860	6 B II層中部	Rフレ	5.9	3.9	0.7	17.9	球質岩質細粒凝灰岩	鋭利な縁辺部-面状の加工痕 面状の / ノール付着
861	6 O II層中部	Rフレ	2.3	2	0.5	2.2	球質岩質細粒凝灰岩	鋭利な縁辺部に加工痕 破損品
862	6 V II層下部	Rフレ	5.3	3.7	1.1	30.8	球質泥岩	鋭利な縁辺部-面状の加工痕 一部面 破損品
863	5 N O層	Rフレ	5.3	2.8	1.6	19.7	球質岩質細粒凝灰岩	先端部に加工痕 掘削的?
864	5 N II層上部	Rフレ	7.4	3	1.3	19.3	流紋岩質細粒凝灰岩	鋭利な縁辺部と先端部に加工痕 切痕 削的
865	7 E II層下部	Uフレ	6.8	5.2	1	31.5	球質泥岩	鋭利な縁辺部に使用痕
866	2 H II層下部	Uフレ	4.1	3.6	1	16	球質泥岩	鋭利な縁辺部に使用痕
867	8 G II層中部	Uフレ	5.4	4.8	0.8	22.1	球質泥岩	鋭利な縁辺部に使用痕
868	6 Q II層上部	Uフレ	5	3.8	1.4	17.4	球質泥岩	鋭利な縁辺部に使用痕
869	6 O II層中部	Uフレ	3.7	4	0.8	17.6	球質泥岩	鋭利な縁辺部に不連続な加工
870	3 R II層上部	Uフレ	4.4	2.7	1	6.4	流紋岩質細粒凝灰岩	鋭利な縁辺部に使用痕
871	2 Q II層上部	Uフレ	4.2	6.4	0.9	18.9	流紋岩質細粒凝灰岩	鋭利な縁辺部に使用痕
872	2 N II層上部	Uフレ	3.6	3.9	0.9	8.95	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に使用痕
873	3 H II層中部	Uフレ	4.6	2	0.7	5.6	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に使用痕
874	4 N II層下部	Uフレ	3.9	3.9	0.9	11	球質泥岩	鋭利な縁辺部に使用痕
875	6 F II層下部	Uフレ	3.2	3.3	1	8.4	硬質泥岩	鋭利な縁辺部に使用痕
876	2 H II層上部	Uフレ	4.2	3.3	0.8	12.7	球質泥岩	鋭利な縁辺部に使用痕
877	2 H II層下部	Uフレ	2.9	5	1.2	13.4	球質泥岩	尖端部を使用痕
878	5 M II層下部	Uフレ	4.8	3.4	0.9	13.8	流紋岩質細粒凝灰岩	尖端部を使用による摩擦 石粒か?
879	7 Q II層上部	Uフレ	3.7	2	0.3	2.8	球質泥岩	両側折れる 尖端部に微細な割線痕
880	2 H II層上部	Uフレ	4.4	2	0.5	5.6	硬質泥岩	尖端部を使用痕
881	5 F II層下部	Uフレ	3.5	2.6	0.5	3.3	硬質泥岩	先端部にノール付着 面に磨き使用痕は見られない
882	5 Q II層下部	Uフレ	5.2	1.7	0.6	5.3	球質泥岩	先端部にノール付着 面に磨き使用痕は見られない
883	8 G II層	打製石斧	10.5	5.5	2.2	135	ホルンヘルス	刃部に光沢 使用による摩擦
884	4 N II層下部	打製石斧	7.6	4.1	2.2	100	流紋岩	刃部に自然面 半製品か?
885	3 R II層上部	打製石斧	8	4.9	2.4	80	硬質泥岩	刃部に自然面 半製品か?
886	4 N II層下部	打製石斧	8.5	4	1.8	70	ホルンヘルス	大きな割線加工
887	8 G II層上部	打製石斧	6.6	5	2.3	75	硬質泥岩	片面からの大きな割線加工 半製品か?
888	II層	打製石斧	10.4	4.2	1	70	ホルンヘルス	一部片面からの鈍な加工
889	6 O II層下部	打製石斧	10.2	5.7	2.8	245	粘板岩	両面からの大きな加工 破損品
890	5 I II層上部	石鏃	14.8	8.5	2	315	千枚岩	両面からの大きな加工 一部自然面を残す
891	8 F II層下部	石鏃	13	7.2	2.7	190	流紋岩質細粒凝灰岩	片面からの大きな加工 一部自然面を残す
892	4 H II層下部	磨製石斧	11.4	5.3	2.8	280	緑色凝灰岩	基部に両面からの再加工
893	5 R II層上部	磨製石斧	8.8	5.3	2.9	240	緑色凝灰岩	基部欠損
894	5 K II層下部	磨製石斧	9.5	5.1	2.5	180	緑色凝灰岩	刃部會こぼれ
895	8 G II層上部	磨製石斧	9.7	4.3	1.5	90	粘板岩	基部破損
896	8 F II層中部	磨製石斧	12.4	3.9	1.5	130	粘板岩	両側面に割線と敲打痕 未製品か?
897	3 Q II層下部	磨製石斧	7.6	4.1	1	49.9	砂岩	基部、刃部破損
898	7 E II層下部	礫器	3.9	8	1.4	50	ホルンヘルス	刃部は両面からの割線加工
899	4 F II層下部	礫器	8.8	4.5	3	290	ホルンヘルス	両面からの割線加工
900	6 D II層中部	礫器	9.2	6.6	3.2	260	ホルンヘルス	片面からの割線加工
901	7 E II層下部	礫器	13.3	7.7	3.8	520	緑色凝灰岩	両面からの小さな割線加工
902	1 V II層中部	残核	15.9	13.2	7	1720	硬質泥岩	両面からの割線 礫器か?
903	6 O II層中部	残核	7.5	9.5	5.8	485	粘板岩	両面に沿って割線
904	4 X II層下部	石鏃	4.6	5.9	1.5	50	緑色凝灰岩	横型
905	4 L II層上部	石鏃	6.3	8	1.8	120	緑色凝灰岩	横型
906	3 M II層下部	石鏃	4.8	9.6	1.9	130	両層石安山岩	横型
907	7 Q II層下部	石鏃	5.2	7.8	2.1	125	輝石安山岩	横型
908	4 T II層中部	石鏃	6.5	8.2	2	140	両層石安山岩	横型
909	4 H II層下部	石鏃	7.8	9.8	2.1	260	緑色凝灰岩	横型

番号	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	メモ
910	7 I Ⅱ層下部	石鏃	7.5	6.8	1.7	90	淡緑色凝灰岩	縦型
911	1 M Ⅱ層上部	石鏃	6.5	6.8	1.9	110	泥質細粒凝灰岩	縦型
912	7 I Ⅱ層下部	石鏃	6.6	6.3	2.1	110	淡緑色凝灰岩	縦型
913	2 T Ⅱ層上部	石鏃	8.2	6	1.6	120	両輝石安山岩	縦型
914	9 E Ⅱ層中部	石鏃	8.1	6.2	1.6	130	両輝石安山岩	縦型
915	2 E Ⅱ層下部	石鏃	7.3	6.4	2.2	140	緑色凝灰岩	縦型
916	4 M Ⅱ層上部	石鏃	7.6	6.7	1.8	150	緑色凝灰岩	縦型
917	4 L Ⅱ層上部	石鏃	8.5	7.2	2	150	緑色凝灰岩	縦型
918	5 I Ⅱ層	石鏃	7	6.8	2.8	190	緑色凝灰岩	縦型 磨石からの転用か？
919	7 P Ⅱ層上部	石鏃	8.8	6.3	2.5	165	細粒凝灰岩	縦型 小型の磨石からの転用か？
920	6 R Ⅱ層中部	石鏃	11	8.5	3	360	輝石安山岩	縦型 片面に刻線文？
921	7 R Ⅱ層中部	石鏃	9.5	7.7	2.1	240	淡緑色凝灰岩	縦型
922	4 X Ⅱ層中部	石鏃	10.5	10	2.4	310	緑色凝灰岩	縦型 凹石との併用・転用
923	6 Q Ⅱ層下部	石鏃	9.3	8.6	1.8	160	淡緑色凝灰岩	縦型 4ヶ所に小さな凹り 凹石からの転用？
924	5 X Ⅱ層上部	石鏃	10.5	8.1	3.2	300	緑色凝灰岩	縦型 磨石基凹石に転用・併用か？
925	7 R Ⅱ層中部	石鏃	10.8	8.8	2.8	315	アイサイト質凝灰岩	縦型 凹石からの転用
926	2 W Ⅱ層中部	石鏃	12.2	9.5	1.9	275	緑色凝灰岩	縦型 4ヶ所に挟り 両石転用・併用
927	7 O Ⅱ層下部	磨石	8.7	6.5	5.4	425	輝石安山岩	片面
928	6 I Ⅱ層中部	磨石	8.4	7.6	5.8	490	輝石安山岩	片面
929	6 R Ⅱ層中部	磨石	7.9	5	4.7	280	輝石安山岩	片面
930	6 K Ⅱ層中部	磨石	9.6	5.4	3.7	280	濃緑色凝灰岩	片面
931	6 G Ⅱ層上部	磨石	9	8.6	5.3	550	輝石安山岩	片面
932	4 F Ⅱ層下部	磨石	10.6	7.7	3.5	398	両輝石安山岩	片面
933	2 L Ⅱ層上部	磨石	10.9	8.3	3	394	両輝石安山岩	片面
934	6 J Ⅱ層下部	磨石	10.9	8.4	5.3	575	輝石安山岩	片面
935	6 Q Ⅱ層下部	磨石	9.2	8.4	6	635	アイサイト質凝灰岩	片面
936	9 H Ⅱ層下部	磨石	10.3	7.8	5	555	輝石安山岩	片面
937	7 G Ⅱ層上部	磨石	12.6	8.5	6.5	860	輝石安山岩	片面
938	7 N Ⅱ層下部	磨石	12.3	5	4.1	380	プロブレイト	棒状 片面
939	3 P Ⅱ層下部	磨石	8.8	7.8	7	620	緑色凝灰岩	片面 全面？
940	1 I Ⅱ層中部	磨石	16.8	7.7	4.8	970	両輝石安山岩	片面
941	8 G Ⅱ層中部	磨石	9.4	6.9	4.4	410	花崗閃緑岩	両面
942	5 M Ⅱ層下部	磨石	9.3	9	5.1	605	両輝石安山岩	両面
943	5 E Ⅱ層中部	磨石	11	6.8	5.2	552	両輝石安山岩	両面
944	7 E Ⅱ層下部	磨石	13.4	7.7	3.3	500	緑色凝灰岩	両面
945	1 P Ⅱ層中部	磨石	11.7	10.5	7.1	1241	両輝石安山岩	両面
946	6 N Ⅱ層下部	磨石	12.4	8.9	5.4	890	淡緑色凝灰岩	両面
947	7 J Ⅱ層下部	磨石	15.5	10.6	7.2	1685	両輝石安山岩	両面
948	8 G Ⅱ層上部	磨石	8.4	6.1	3.3	280	花崗閃緑岩	両面
949	6 M Ⅱ層下部	磨石	8.1	6.7	5	400	輝石安山岩	両面
950	6 F Ⅱ層上部	磨石	10.4	7.4	3.8	345	輝石安山岩	両面
951	4 F Ⅱ層下部	磨石	10.7	8	3.5	520	両輝石安山岩	両面
952	7 H Ⅱ層下部	磨石	9.5	8.3	4.5	510	輝石安山岩	両面
953	6 Q Ⅱ層下部	磨石	12.4	9.6	3.9	630	輝石安山岩	両面
954	3 H Ⅱ層下部	磨石	10.8	9.1	4.8	660	両輝石安山岩	両面
955	6 O Ⅱ層下部	磨石	12.2	7.3	3.5	475.5	輝石安山岩	両面
956	7 R Ⅱ層中部	磨石	10.5	9	5.9	870	輝石安山岩	両面
957	7 J Ⅱ層下部	磨石	11.7	10.2	8.2	1420	輝石安山岩	両面
958	6 P Ⅱ層中部	磨石	11	10.5	5.5	830	輝石安山岩	両面
959	5 E Ⅱ層中部	磨石	11.3	8.7	5.8	831	両輝石安山岩	両面
960	2 G Ⅱ層下部	磨石	11.2	10.2	5.4	945	両輝石安山岩	両面
961	5 N Ⅱ層上部	磨石	10.9	9.5	6.2	880	両輝石安山岩	両面 片面は端部を使用
962	7 F Ⅱ層上部	磨石	10.5	9.6	5.4	745	花崗閃緑岩	両面
963	7 M Ⅱ層中部	磨石	14.4	10.5	7.3	1440	輝石安山岩	両面
964	6 O Ⅱ層下部	磨石	12.7	9	6.3	1020	輝石安山岩	両面
965	5 C Ⅱ層中部	磨石	11.2	7.8	5.5	655	両輝石安山岩	両面 両側面
966	6 D Ⅱ層下部	磨石	12	9.1	5.3	885	両輝石安山岩	両面 両端

番号	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	メモ
967	7 Q II層下部	磨石	7.5	4.5	4	195	濃緑色凝灰岩	両側面 小型
968	6 K II層中部	磨石	11.8	6.4	4	430	輝石安山岩	両面 1側面
969	2 H II層上部	磨石兼凹石	12.5	7.4	2.9	390	緑色凝灰岩	両面 両側面 両面に凹み
970	5 C II層中部	磨石兼凹石	13.9	8.1	5.5	900	緑色凝灰岩	両面 両側面 両面に凹み
971	5 F II層中部	磨石兼凹石	12.5	8.1	5.6	980	両輝石安山岩	両面 両側面 両面に凹み
972	8 D II層中部	磨石兼凹石	13.1	9.6	4.8	810	両輝石安山岩	両面 両側面 両面に凹み
973	2 H II層中部	磨石兼凹石	12.3	8	5.2	710	両輝石安山岩	両面 両側面 両面に凹み
974	7 Q II層下部	磨石兼凹石	10.2	6.6	3.8	375	プロピライト	両面 1側面 両面に凹み
975	4 L II層上部	磨石兼凹石	8.7	6.3	2.5	170	緑色凝灰岩	両面 1側面 両面に凹み
976	2 P II層下部	磨石兼凹石	13.3	9.2	5.4	1030	花崗閃緑岩	両面 1側面 両面に凹み
977	II層	磨石兼凹石	12.7	9.6	5.4	1010	両輝石安山岩	両面 1側面 両面に凹み
978	7 R II層中部	磨石兼凹石	9.2	8.6	4.5	510	花崗閃緑岩	片面に凹み 片面
979	7 M II層中部	磨石兼凹石	10	7.3	2.5	260	濃緑色凝灰岩	両面 片面に凹み
980	3 W II層中部	磨石兼凹石	8.1	7.8	5.3	485	両輝石安山岩	両面 両面に凹み
981	9 E II層中部	磨石兼凹石	16	6.5	3.7	590	両輝石安山岩	棒状 両面 両面に凹み
982	9 E II層中部	磨石兼凹石	14	6.2	3.2	430	両輝石安山岩	棒状 両面 片面に凹み
983	8 G II層上部	磨石兼凹石	12.7	7.9	6.3	920	輝石安山岩	両面 片面に凹み
984	3 F II層中部	磨石兼凹石	8.3	8.3	5.3	490	両輝石安山岩	両面 両面に凹み
985	1 M II層上部	磨石兼凹石	10.4	9.1	5.1	690	両輝石安山岩	両面 片面に凹み
986	2 I II層中部	磨石兼凹石	12	10	6.5	1140	花崗閃緑岩	両面 両面に凹み
987	6 R II層中部	磨石兼凹石	12.2	9	5.3	930	輝石安山岩	両面 片面に凹み
988	4 O II層上部	磨石兼凹石	11.7	9.4	6.4	910	緑色凝灰岩	両面 両面に凹み 1側に磨痕 磨石の痕跡
989	7 F II層上部	凹石	5.6	5.4	1.7	60	淡緑色細粒凝灰岩	両面に大きな凹み 破損品
990	4 H II層下部	凹石	9.1	4.5	2.8	100	緑色凝灰岩	両面
991	5 U II層中部	凹石	13.5	4.6	3	260	緑色凝灰岩	両面 棒状
992	7 I II層中部	凹石	8	6.6	2.4	155	淡緑色細粒凝灰岩	両面
993	4 S II層中部	凹石	13.6	6.4	2.8	280	緑色凝灰岩	両面
994	3 J II層上部	凹石	12	7.2	3.2	370	緑色凝灰岩	両面
995	5 K II層下部	凹石	9.8	7.1	4.4	450	流紋岩質凝灰岩	両面
996	6 O II層下部	凹石	12.8	6.8	4.8	635	プロピライト	両面
997	5 P II層上部	凹石	9.2	7.6	4.8	410	両輝石安山岩	両面
998	9 E II層中部	凹石	15.3	7.3	3	490	緑色凝灰岩	両面
999	1 L O層	凹石	10.4	8.9	3.2	290	アイサイト	両面 破損品
1000	9 E O層	凹石	12.7	7.3	3.8	400	淡緑色細粒凝灰岩	両面 片面に刻線 片面に貝歯状痕
1001	3 S II層中部	凹石兼砥石	8.7	7.7	7	671	緑色凝灰岩	両面 1端
1002	4 O II層上部	凹石兼砥石	10.1	4.9	4	250	緑色凝灰岩	両面 1端
1003	5 P II層上部	砥石	9.1	5	3.1	210	ホルンヘルス	1側面 1端 破損品
1004	1 M II層上部	磨石兼砥石	8.8	7	4	320	安賢安山岩	両面 1端
1005	1 O II層上部	砥石	12.3	5.6	3	330	緑色凝灰岩	両面 1端磨着
1006	2 M II層上部	特殊磨石	16.8	6.1	3.8	590	ホルンヘルス	両面に磨痕 磨石と併用 磨石の片か?
1007	6 K II層中部	特殊磨石	15.6	6.7	3.4	645	輝石安山岩	一辺に片側からの加工 使用跡は見られない
1008	5 T II層中部	特殊磨石	13.3	7.9	3.2	540	緑色凝灰岩	端部と側部に粗い加工 破損品
1009	3 I II層下部	特殊磨石	16.3	7.8	5.8	950	アイサイト	使用部分は加工 3面使用
1010	2 G II層下部	特殊磨石	10.1	8.7	3.8	550	両輝石安山岩	端部と側部に加工 破損品
1011	3 U II層中部	特殊磨石	9.6	7.2	4	359	緑色凝灰岩	使用部に加工 破損品
1012	3 H II層下部	特殊磨石	18.4	8.3	3.5	870	緑色凝灰岩	両面からの加工 両面も使用
1013	4 E II層下部	特殊磨石	16.8	8.3	5	940	両輝石安山岩	ほとんど無加工 1面も使用
1014	7 R II層中部	特殊磨石	18.3	8.6	4.5	1070	輝石安山岩	ほとんど無加工
1015	8 F II層下部	特殊磨石	14	9.9	5.3	1020	両輝石安山岩	加工なし
1016	6 U II層下部	特殊磨石	10.6	5.5	5.8	365	輝石安山岩	加工なし 破損品
1017	6 I II層下部	特殊磨石	44.4	11.4	10.6	6800	プロピライト	加工なし 1面も使用痕
1018	2 E II層上部	特殊磨石	17.4	7.4	5	1010	両輝石安山岩	加工なし 両面も使用痕
1019	4 Q II層上部	特殊磨石	13.4	7.5	7.3	1100	アイサイト	加工なし 2端使用
1020	4 G II層中部	特殊磨石	19.4	6.3	4.5	910	緑色凝灰岩	加工なし
1021	9 E II層中部	特殊磨石	17.8	8.4	5.2	1090	両輝石安山岩	2端使用 両面も使用
1022	6 D II層中部	特殊磨石	17.5	6.9	4	720	流紋岩質凝灰岩	加工なし 両面も使用 両面に凹み
1023	4 E II層下部	特殊磨石	15.5	6.4	4.9	760	両輝石安山岩	加工なし 片面に凹み

番号	出土地点	群種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	メモ
1024	2 H II層中部	特殊磨石	16.7	6.9	5.5	910	緑色凝灰岩	両面に洗い込み 片面に溝状 磨石と出石との併用
1025	6 Q II層下部	特殊磨石	8.7	5.6	3.6	310	プロピライト	両面に洗い込み 片面に溝状 磨石と出石との併用
1026	2 Q II層上部	砥石	8.3	6.1	2.2	130	緑色凝灰岩	両面使用 片面は緩く凹む
1027	6 R II層中部	砥石	8.2	8	2.2	170	濃緑色凝灰岩	両面使用 扁平
1028	2 K II層中部	石皿兼砥石	29.9	19.4	3.7	3500	両輝石安山岩	両面使用 溝状の緩い凹み
1029	4 M II層上部	石皿兼砥石	27.3	25.5	6.7	6000	両輝石安山岩	両面使用 片面に溝状の緩い凹み 破損品
1030	4 R II層上部	砥石	15.6	11.2	9	2000	デイスait	3面使用 破損品
1031	3 Q II層上部	砥石	5	2.7	0.8	13.9	流紋岩	両面に洗い溝
1032	7 I II層中部	石皿	32.4	28.2	7.2	10500	輝石安山岩	両面使用
1033	5 E II層中部	石皿	35	29.8	8	12000	両輝石安山岩	両面使用
1034	5 E II層中部	石皿	27.3	25.8	8.6	8000	両輝石安山岩	片面使用
1035	1 K II層下部	石皿	30.6	27	10.2	12500	花園閃綠岩	両面使用
1036	4 H II層中部	石皿	34.3	31.1	8	11000	両輝石安山岩	両面使用
1037	1 H II層中部	石皿	39.2	29	8	13000	花園閃綠岩	片面使用
1038	6 C II層中部	石皿	35.3	31.1	8.7	14500	両輝石安山岩	片面使用
1039	1 P II層中部	石皿	35.4	25	4.7	4500	両輝石安山岩	両面使用
1040	6 N II層中部	石皿	16	12.7	2.5	775	淡緑色凝灰岩	両面使用 片面観察
1041	1 Q II層中部	石皿	32.8	31	12	17500	両輝石安山岩	両面使用
1042	5 H II層中部	石皿	27.5	25.2	4	4000	両輝石安山岩	両面使用
1043	5 J II層中部	石皿兼台石	28.4	26.2	8.8	8000	両輝石安山岩	片面使用 中央部に敲打痕
1044	5 M II層中部	石皿	41.2	37.3	9	26000	両輝石安山岩	両面使用
1045	7 I II層中部	石棒	21.4	9.8	7	3000	デイスait	僅かに挫痕 ほとんど無加工
1046	6 I II層中部	石棒	17.6	7.2	6	1000	デイスait	僅かに挫痕 ほとんど無加工
1047	7 D II層中部	石棒	64	24.1	20.4	44000	両輝石安山岩	僅かに挫痕 ほとんど無加工
1048	6 D II層中部	石刀	9.7	4	1	50	緑色凝灰岩	全体に挫痕 両側面に強い刻線 破損品
1049	6 N II層下部	石刀	9.9	3	2.4	80	珪質細粒凝灰岩	全面に挫痕 破損品
1050	5 K II層下部	石刀	7.6	1.9	1.9	40	ホルンヘルス	全面に挫痕 破損品
1051	3 H II層中部	石刀	8.3	3.4	1.5	60	千枚岩	全面に挫痕 破損品
1052	8 I II層中部	石製品	8.5	8.4	1.9	145	細粒凝灰岩	片面に溝状の痕跡 磨石と石皿に転用 破損品
1053	6 N II層下部	石製品	7.6	7.7	1.3	90	細粒凝灰岩	石製物 両面に製法の特徴 磨跡は磨かれる
1054	2 F II層下部	石製品	4.5	5.6	1.9	21.52	細粒凝灰岩	貫通孔を持つつまみ
1055	3 S II層	石製品	4.1	4	1.2	23.9	砂岩	円盤
1056	2 H II層中部	石製品	6.1	9.4	2.2	85	安山岩質溶岩	中央に貫通孔
1057	8 C II層中部	石製品	8	6.1	2.5	142	緑色凝灰岩	両面に平面磨 石製品の半製品か?

V まとめ

1. 遺構

(1) 竪穴住居跡

<時期・占地>

検出された16棟の住居跡は、いずれも縄文時代の遺構である。出土遺物や他の遺構との重複から時期を推定すると次のようになる。

7D-1・7E-1・2I-1・2L-1・6L-1・2M-1・2N-1・6N-1住居跡は、第Ⅲ群d類土器（大木8b式）を主要な遺物として持つことから中期中葉の遺構と考えられる。

4G-2住居跡は土器埋設石囲炉を持つが、粗製土器のため明確に分類することはできない。地文の特徴から推定して、中期前葉（第Ⅲ群c類?）の遺構であろうか。

1S-1住居跡は、第Ⅴ群c類土器（大洞A'式）を伴い晩期末葉の遺構である。

2Q-1住居跡は、直接時期を推定できる遺物を欠く。埋土からは弥生時代から縄文時代前期までの土器が包含されており、各土器の出土状況から推定すると前期末葉～中期初頭の遺構の可能性はある。

6M-1・3Q-1住居跡も、時期を明確に判断できる遺物を欠く。前者は中期中葉の6L-1住居跡を切ることからこれより新しい遺構、後者は2Q-1住居跡を切ることから中期頃の遺構と考えられる。

2F-1住居跡も遺物は乏しく時期不明であるが、後述する占地等から中期の遺構の可能性はある。

5D-1住居は、出土遺物が少なく詳細は不明である。他の住居跡と比較すると、埋土中に黒色土が堆積しないことや、後述の陥し穴状遺構に切られることから推定して早期末～前期初頭の住居跡の可能性はある。

4G-1住居跡もほとんど遺物を伴わず、詳細は不明である。当住居跡も埋土中に黒色土は認められないことから、中期以前の遺構と考えられる。

これらの住居跡は2Q・3Q-1・1S-1住居跡を除く、13棟が現標高126～127mの高位面に、3棟は斜面部に立地している。

北東側と南側は調査区外となるため全体は明らかではないが、中期中葉の住居跡8棟及び、時期的にこれらと近い可能性をもつ2棟の10棟は、西側が開く弧状に分布し中央に直径約34mの空間を有する。また、分布域内では西側と北側は希薄で、南側と東側に集中している。空間部

分には時期を同じくする住居跡はなく、ほぼ中央部から墓塚と考えられる楕円形の土坑2基が検出されており、「広場」的な機能が想定される。

出土物からは住居跡間には、時間的な差は認められない。重複及び住居跡間の距離から見て、10棟全てが同時に存在したものではないが、各住居跡とも共通の「広場」を意識した配置をとることからも、これらの時期はかなり接近していることが窺われる。

ほぼ同時期の集落跡である石鳥谷町大地渡遺跡でも、無遺構地帯を弧状に取り巻く住居跡の占地が見られ、同心円状に並ぶ2棟1対の配置も予見されている。当遺跡においても遺構が集中する南側と東側では、2棟が1組となる配置も考えられる。

<平面形・規模>

平面形が把握できるもの及び推定可能なものは13棟あり、円形基調のもの10棟と方形基調のもの3棟に分けられる。

方形を基調とするものは7D-1・6M-1・2Q-1住居跡で、7D-1住居跡は隅丸方形、6M-1住居跡は歪んだ長方形、2Q-1住居跡は隅丸長方形を呈する。円形を基調とするものはさらに、円形と楕円形に細分される。しかし円形とした住居跡の内5D-1・1S-1住居跡等は、隅丸方形と見ることもできる。また楕円形としたものでも形の整ったものは6L-1住居跡だけで、2L-1住居跡は不整形、2M-1住居跡は隅丸五角形、2N-1住居跡は卵形（水滴形）を呈する。なお、2M-1住居跡はこの後円形基調に改築されている。

規模は床面積を基とするが、実測図から直接測定できたものは6棟のみで、残存部から推定したものが6棟ある。最小は6M-1住居跡で6.32㎡、最大は2Q-1住居跡で約51㎡である。各住居跡の計測値は、5D-1住居跡15.5㎡、7D-1住居跡約12㎡、2I-1住居跡約22㎡、2L-1住居跡16.6㎡、6L-1住居跡17.5㎡、2M-1a住居跡約28㎡、2M-1b住居跡35.6㎡、2N-1住居跡41㎡、1S-1住居跡約12㎡である。

住居跡数の多い中期中葉の時期に照ると、12～28㎡に納まる住居跡がほとんどで、2M-1b・2L-1住居跡は相対的には大型といえる。しかし、盛岡市大館町遺跡や松尾村長者屋敷遺跡で検出されているほぼ同時期の大型住居跡（規模は当遺跡の2棟より大きい）は、内部に複数の炉を有しているのに対し、当遺跡の2棟の住居跡はいずれも1基の炉しか持たない。また、当遺跡で最大の2Q-1住居跡も炉は1基のみである。これらの現象は、集落自体の大きさと関わるものかもしれない。

<柱穴>

柱穴の位置が推定できる住居跡は9棟である。床面積との関係ではおよそ10㎡前後と考えられる7D-1住居跡は柱穴を持つが、約27㎡の6N-1住居跡からは検出されなかった。

配置では4本が多く5棟、5本と3本が1棟ずつある。規模の大きな3棟は、2M-1b住

居跡が8本、2Q-1住居跡が6本、2L-1住居跡は5～6本柱である。

これらの内6棟では柱穴に傾斜が見られた。2I-1住居跡は2本、2L-1住居跡は4本、6L-1住居跡は1本、2M-1住居跡は7本、2N-1住居跡は5本約10～20°の角度で外傾している。また6M-1住居跡は4本が約20°の角度で内傾している。

<付属施設>

2Q-1住居跡から所謂ベッド状施設検出された。斜面の下方部分が流失しているため全体としては不明であるが、残存部では西～北壁にかけて設置されている。

2I-1住居跡は南壁に内側へ、6M-1住居跡は西壁に外側への不整な張り出しを有する。

その他2M-1では床面のほぼ中央部に1基、2L-1住居跡では中軸線状に2基小土坑が検出されている。これらの形態は柱穴に似るが、他の柱穴より規模が大きいことや埋土の状態が異なること等から、柱穴以外の機能を持つ可能性が強い。大館町遺跡にも同様の施設を伴う住居跡が知られている。

(2)掘立柱建物跡

1棟のみが検出された。出土遺物から中期中葉の遺構と考えられる。柱穴状の小土坑7本で構成される桁行2間、梁行1間の建物跡である。ほぼ同時期で同様の遺構は紫波町西田遺跡、盛岡市大館遺跡で検出されているが、当遺跡のものはこれらと比べて小規模である。また、いずれの土坑からも柱根跡が検出されなかったことや、内部に遺物を伴うものがあること等から建物跡ではない可能性も残す。

(3)土坑

27基を土坑と分類したが、この内4基はその形状から陥し穴状遺構の可能性がある。形態別にはフラスコ形16基、浅皿形3基、舟形2基、その他2基となる。いずれも現標高125～127mの高位面から検出された。

フラスコ形土坑の内、出土遺物から時期が特定できるものは6F-1土坑と2P-1の2基だけで、前者は早期末葉に位置づけられ、県内におけるフラスコ形土坑の最古のものとなる。後者は晩期後葉～末葉に位置づけられる。

他は遺物をほとんど伴わず詳細は不明であるが、重複等により中期中葉前後と考えられるものが11基あり、住居跡群との相関関係が考えられる。しかし、検出遺構数では住居跡に対応する土坑数が少なく、占地域を異にしているものと考えられる。和賀町林崎館遺跡では段丘の縁辺部に土坑群が検出されており、当遺跡においても調査区の北東側に土坑群が存在する可能性がある。

浅皿状を呈するもの内、6L-1土坑は底面に現地性焼土を伴い、他の2基とは性格を異にしている。

2基の舟形土坑は、中期中葉期の住居跡群空白地帯のほぼ中央に位置することや、上部から石棒が出土していることなどから墓墳の可能性が高い。

(4) 陥し穴状遺構

陥し穴状遺構及び、その可能性がある土坑は27基検出されている。これらは次の4タイプに大別される。

タイプI 開口部形が円形または長軸の短い楕円形を呈し、底部形が方形(隅丸)または長方形を呈するもの。全て底面に逆茂木跡と考えられる小土坑を1個持つ。

タイプII 開口部形、底部形とも円形を呈するもの。a 底面に逆茂木跡と考えられる小土坑を1-2個持つ。b 小土坑を持たないもの。

タイプIII 開口部形、底部形とも長軸の短い楕円形(長方形)を呈するもの。

タイプIV 開口部形、底部形とも長軸の長い楕円形(溝形)を呈するもの。

タイプ別の検出数はタイプIが10基、タイプIIが14基、タイプIIIが2基、タイプIVが1基である。タイプIIの内、土坑として分類した4基は全てb類に属する。

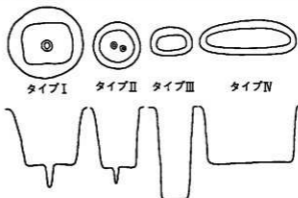
分布を見るとタイプIは高位面に8基、斜面部に2基、タイプIIは高位面に3基、高位面縁辺部から斜面部に11基が検出されている。またタイプIIIは斜面部、タイプIVは高位面に立地する。高位面で検出されたタイプIは、ほぼ南北に4基が並列している例がある。

これらの遺構について時期を推定し得る資料は少ないが、タイプII aに分類される9H-1陥し穴状遺構の埋土下部から出土した炭化物の¹⁴C年代値は6090±130 Y. B. P. で、早期末葉期に位置づけられる。

タイプIIIはタイプIIに切られることから、これより古期の形態と考えられる。同様の形態をもつ陥し穴状遺構は、林崎館遺跡でも8基検出されており(オのタイプ)、これらは南北に並列する。

タイプIVの埋土上部には、晩期末葉に位置づけられる1S-1住居跡に見られる灰白色の粉状火山灰の堆積が認められることから、これに近い時期が想定される。

タイプIの陥し穴状遺構は、県内では検出例が少ない形態であったが、



陥し穴状遺構形態別概略図

近年隣接する本郷遺跡、北上市館IV遺跡、横町遺跡、大迫町上の山遺跡等で検出されている。

これらの遺跡から検出された遺構内には、埋土の中部に明褐色～褐色の粉状の火山灰の堆積が確認されている。本郷遺跡の火山灰は、蛍光X線分析の結果、十和田系火山灰の可能性が高いという鑑定がだされている。十和田湖を噴出源とする縄文時代の広域降下火山灰としては、中瀬火山灰（安家火山灰）が知られており、降下年代は約5400年前（縄文時代前期中葉期）と推定されている。各遺跡で確認されている火山灰が中瀬火山灰だとすれば、タイプIの陥し穴状遺構の時期は縄文時代前期前葉頃の遺構と考えることもできる。なお、3H-1陥し穴状遺構からは縄文時代中期中葉の土器が出土しているが、埋土の上部からの資料であり直接時期を判断でき得るものではないと考えられる。

以上のことから当遺跡の陥し穴状遺構の変遷を推定すると、タイプIII→タイプII→タイプI→タイプIVとなる。しかし、個々の遺構については不確定な要素も多く、今後の資料の増加が望まれる問題である。

2. 遺物

(1)土器

分類は縄文時代早期の土器を第I群とし、以下VI群弥生土器までの時期区分と従来の型式名や土器分類に対応させる小分類群を設定した。ここでは土器集成図（縄文時代早期～中期）を基に若干の説明を行なう。

<第I群土器>

6F-1土坑の底面直上から出土した土器群である。尖底の深鉢で、口径に比べて器高は低い。胎土には砂を含むが、植物繊維は含まない。口縁部には縄文施文された低い隆帯が通る。内面にも外面のものより密ではないが、縄文が施文されている。これらの特徴を有する土器群は、大船渡市関谷洞窟遺跡、大鏡町崎山弁天遺跡等に類例があり、前者では第7層出土の土器群、後者ではA1類土器第IV層出土のものに類似する。早期末葉期に位置づけられる。

<第II群土器>

縄文時代前期の土器群である。a～c類に細分されるが、いずれも出土量は少ない。

a類は前期前葉に位置づけられる大木1式に比定される。6単位の波状口縁を持ち、胎土には植物繊維を多く含む。

b類は中葉期の大木5式に比定される。2Q-1住居跡出土の深鉢は、口縁部に台状と環状の突起が対峙している。他に小突起が施される台状突起や三日月状の貼付を持つ口縁部片がある。

c類は中葉期の大木6式に比定される。半截竹管文や刻みを有する細い粘土紐による文様を持つ土器群である。

〈第Ⅲ群土器〉

縄文時代中期の土器群で、初頭・前葉・中葉のa～c類に細分される。

a類は所謂糠塚式土器に比定されるもので、刻み状の短沈線による幾何学文様や、口縁部を4単位に区画する縦の隆帯等を特徴とする。

b類は大木7a式に比定される土器群だが、c類との明確な区別はなし得なかった。

4単位の大波状口縁を持つ深鉢が出現してくる。文様は隆帯・沈線・連続刺突等により、波状曲線文、渦巻文、交互刺突文等が施文されている。

c類は大木7b式に比定される土器群で、摺糸や原体の圧痕による文様をメルクマールとした。前期同様大波状口縁の深鉢の他に浅鉢も見られる。また、平縁の深鉢は、口縁部に貼付や沈線による文様を持つ。2Q-1住居跡出土の舟形土器の文様は、原体圧痕文が主要な施文法となっており当類の範疇に入る可能性がある。なお、もう一つの主要文様としてあげられる縄文施文の隆帯は、後述のe類からの影響が大きいものと考えられる。

d類は大木8b式に比定される土器群で、出土量は最も多く全体の8割を占める。

大木8b式土器は盛岡市大館町遺跡、柿の木平遺跡、石鳥谷町大地渡遺跡等の資料を基に1～3式に細分されている。以下に各式の特徴を記す。

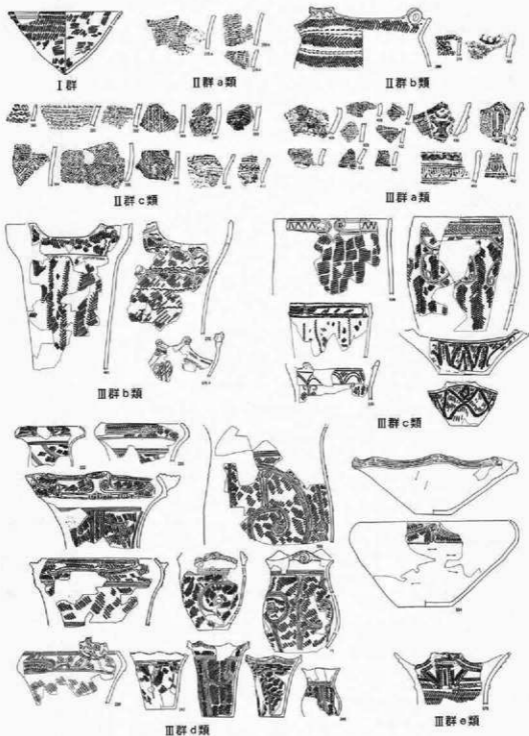
1式で最も多い器形はキャリバー形で、口縁部が外反するものがこれに次ぎ、体部から内湾する樽形は少ない。キャリバー形の土器は、波状口縁のものが多く、文様は横S字文や渦巻文が横方向に展開するものが多く、全体に開放的な文様構成となる。

2式でもキャリバー形が多いが、平縁を呈するものが増加してくる。4単位の渦巻突起や把手状の突起を有するものも現われる。また、樽形の土器も増加してくる。文様は閉じた空間を構成するようになる。

3式はキャリバー形は減少し、口縁が外反するものが最も多くなり、樽形も増加する。キャリバー形では、4単位の立体的な突起を有するものが多く、文様は文様単位どうしが連結し、円形・楕円形文を構成してより区画性を増す。

当遺跡のⅢ群d類は、器形にはキャリバー形と口縁部が外反するものがあり、樽形も存在している。口縁部形態には波状口縁と平縁があり、キャリバー形では後者、口縁部が外反するものには前者が多い。またキャリバー形には、4単位の渦巻突起を持つものも多く、立体的な突起を有するものも見られる。文様は各所に渦巻文を配した曲線文が展開し、いく分区画性も窺えるものもある。

以上の特徴と先の分類を比較すると、当遺跡のd類土器は一部3式の特徴を有するものもあ



第202圖 縄文時代早期～中期土器集成圖

るが、大半は2式に比定されると考えて良いであろう。

e類は円筒上層式b類に比定される。北方系の土器である円筒式土器類の県南部での出土例は、前述の大館町遺跡や紫波町西田遺跡等にある。大館町遺跡では上層d式が大木8a式と、西田遺跡では上層e式が大木8a式と供伴している。今回の調査では当土器と大木式土器との供伴関係は不明であるが、前述の舟形土器に共通する文様要素を見いだすことができる。

<第Ⅳ群土器>

後期の土器で、2点のみの出土である。磨消縄文や刺突文の特徴から、中葉期の加曾利B2式に比定されよう。

<第Ⅴ群土器>

晩期の土器群で、a～c類に細分される。

a類は中葉の大洞C1式に比定される皿1点が出土している。なお、2P-1土坑出土の粗製の鉢と壺も当類としたが、口縁部の形態等から次型式の大洞C2に当たるかもしれない。

b類は後葉の大洞A式に比定される。高坏の脚部と鉢片がある。

c類は末葉の大洞A'式に比定される。頸部に波状の隆帯が巡る無文の壺や1S-1住居跡出土の土器群である。

<第Ⅵ群土器>

弥生土器を一括した。鉢及び高坏の脚部に施される変形工字文等から、前期の谷起鳥式に比定されるものが多い。

(2)石器

遺構内外から出土した石器類は約3,000である。これらの内、使用痕が認められない剥片類及びチップ、破損の著しい礫石器を除く624点を石器として登録した。内訳は剥片石器192点、石斧類22点、礫石器427点である。

剥片石器の内製品で最も多いものは、削器類で49点(25.4%)で、石筥類23点(12%)がこれに次ぐ。また、細部調整痕を有する剥片及び使用痕を有する剥片類では、鋭利な縁辺部に調整痕或使用痕を持つものが多く(65点・86.6%)、これらも削器的な機能が考えられるものが多い。

礫石器では磨石類(磨石・凹石・特殊磨石)が卓越しており、石皿がこれに次ぐ。前者は241点(56.4%)、後者は83点(19.4%)が出土している。

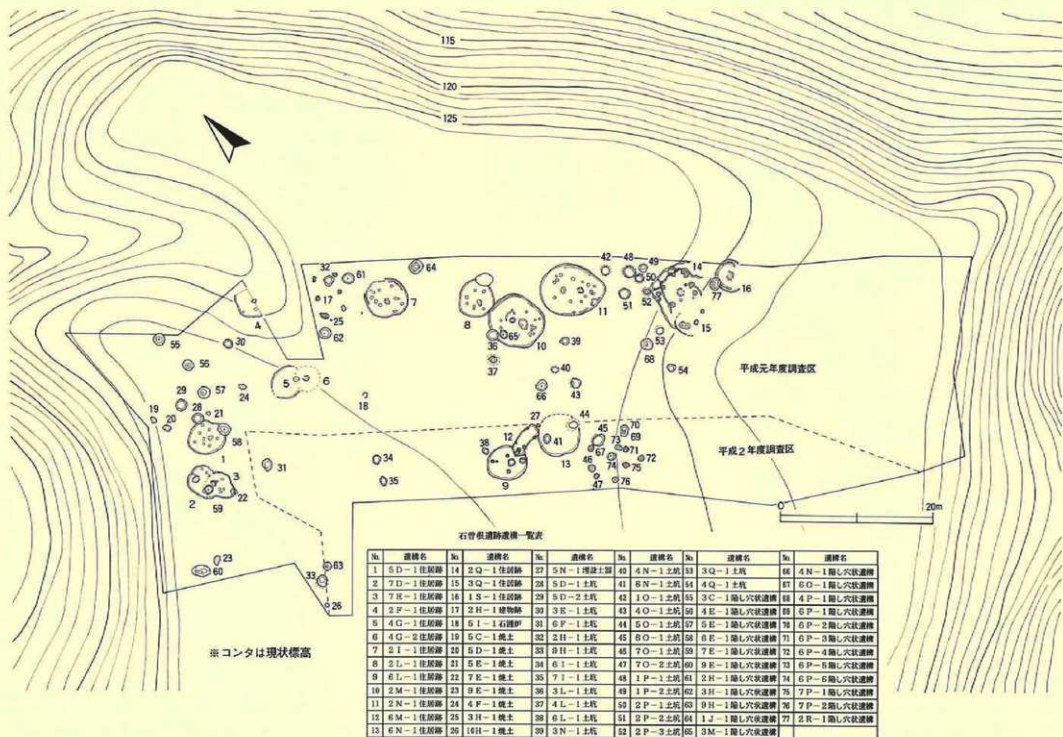
石錘は52点(12.1%)が出土している。形態には縦型と横型があり、出土量は縦型がやや多い。完形品49点の重量を比較すると、最大は650g、最小は14.9gで平均170.7g、標準偏差は104.89gである。

組成面で調理用品と考えられる磨石類や石皿、削器類が多いことは、集落跡という遺跡の性格を反映するものであろう。

<参考文献>

- (1) 相原康二他 (1981)：東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書VII, 岩手県教育委員
- (2) ——— (1982)：東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書XV-1・2, 岩手県教育委員会
- (3) 佐々木勝他 (1980)：東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書VII, 岩手県教育委員会
- (4) 中川重紀他 (1982)：御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書, 岩手県埋文センター
- (5) 高橋文夫他 (1978)：都南村湯沢遺跡, 岩手県埋文センター
- (6) 三浦 謙一 (1983)：湯沢遺跡発掘調査報告書 (遺物編), 岩手県埋文センター
- (7) 船野哲介他 (1983)：滝の沢遺跡, 北上市教育委員会
- (8) 佐々木清文他 (1987)：和光6区遺跡発掘調査報告書, 岩手県埋文センター
- (9) 高橋文夫他 (1980)：松尾村長者屋敷遺跡 (I) (遺構編1), 岩手県埋文センター
- (10) ——— (1981)：松尾村長者屋敷遺跡 (II) (遺構編2), 岩手県埋文センター
- (11) 三浦謙一他 (1984)：長者屋敷遺跡発掘調査報告書 (III) (遺物編), 岩手県埋文センター
- (12) 三浦謙一・佐々木勝 (1985)：縄文時代前・中期の住居址群の変遷, 紀要V, 岩手県埋文センター
- (13) 三浦 謙一 (1990)：住まいの大きさ, 季刊考古学32, 有山閣
- (14) 武田将男他 (1978)：大館町遺跡, 岩手大学考古学研究会編, 盛岡市教育委員会
- (15) 高橋聖人郎他 (1982)：柿の木平遺跡, 盛岡市教育委員会
- (16) 八木光則・千田和文他 (1981)：大館町遺跡群, 昭和55年度発掘調査概報
- (17) ——— (1983)：大館町遺跡群, 昭和57年度発掘調査概報
- (18) ——— (1984)：大館町遺跡群, 昭和58年度発掘調査概報
- (20) ——— (1989)：大館町遺跡群, 昭和63年度発掘調査概報
- (21) ——— (1992)：大館町遺跡, 平成3年度発掘調査概要
- (22) 高橋信雄・小田野哲恵・熊谷常正 (1982)：岩手の土器, 岩手県立博物館
- (23) 小田野哲恵他 (1992)：本郷遺跡発掘調査報告書, 岩手県埋文センター
- (24) ——— (1992)：林崎館遺跡発掘調査報告書, 岩手県埋文センター
- (25) 中村 良幸 (1986)：観音堂遺跡, 大迫町教育委員会
- (26) ——— (1992)：町内遺跡群発掘調査報告書V, 大迫町教育委員会
- (27) ——— (1982)：大形住居址, 縄文文化の研究8, 有山閣
- (28) 草間俊一他 (1974)：崎山弁天遺跡, 大館町教育委員会
- (29) 後藤勝彦他 (1968)：濁谷洞窟, 大船渡市教育委員会

- (30) 宮本長二郎 (1990) : ベッド状遺構と屋内施設, 季刊考古学32, 有山閣
- (31) 鈴木 保彦 (1984) : 集落の構成, 季刊考古学7, 有山閣
- (32) 福田 友之 (1986) : 考古学から見た「中瀬浮石」の降下年代, 弘前大学考古学研究No.3
- (33) 佐瀬 隆他 (1992) : 細野II遺跡発掘調査報告書, 岩手県埋文センター
- (34) 興野 義一 (1969) : 大木式土器理解のために(V), 考古学ジャーナル32, ニューサイエンス社
- (35) ——— (1970) : 大木式土器理解のために(Ⅵ), 考古学ジャーナル48, ニューサイエンス社
- (36) ——— (1981) : 糟塚長塚について, 追町史, 宮城県追町
- (37) 丹羽 茂 (1989) : 中期大木式土器様式, 縄文土器大観1, 小学館

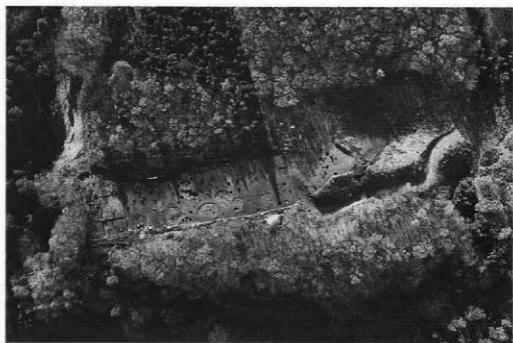


第203回 遺構配置図

写 真 图 版



空中写真1 遺跡通景



空中写真2 調査区全景

写真図版1 空中写真

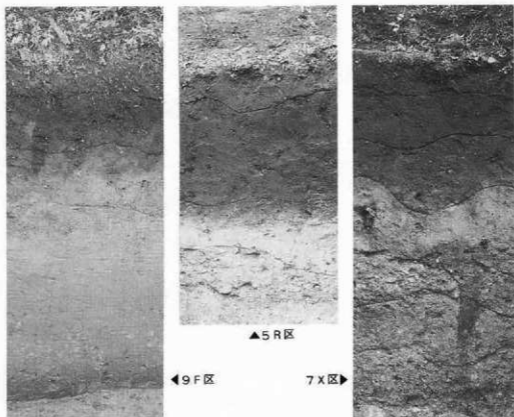


空中写真3 調査区全景 (平成2年度)



調査風景

写真図版2 空中写真3 調査風景



深掘土層断面

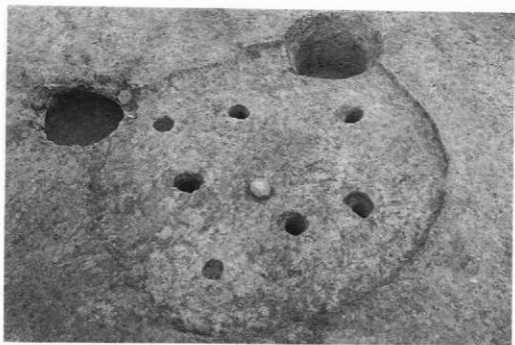


区遺物出土状況



区遺物出土状況

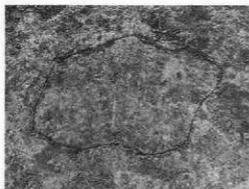
写真図版3 深掘土層断面・遺物出土状況



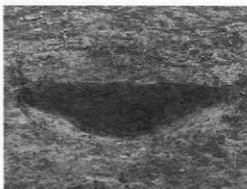
5D-1 住居跡全景



埋土土層断面



炉平面



炉断面

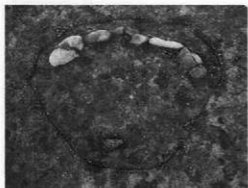
写真図版4 5D-1 住居跡



7D·7E-1 住居跡全景



埋土土層断面



石囲炉平面



石囲炉断面

写真図版5 7D·7E-1 住居跡



7D-1 住居跡全景



埋土土層断面



炉平面

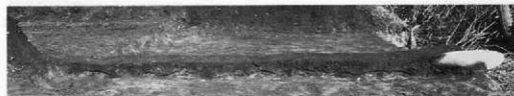


炉断面

写真図版6 7D-1 住居跡



2F-1 住居跡全景



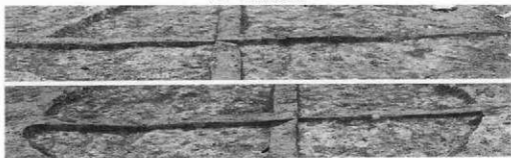
埋土土層断面



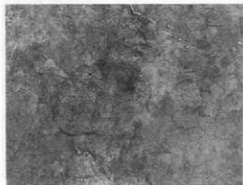
作業風景



4 G-1 住居跡全景



埋土土層断面



烧土平面



烧土断面

写真图版8 4 G-1 住居跡



埋土土層断面



石圈炉検出状況



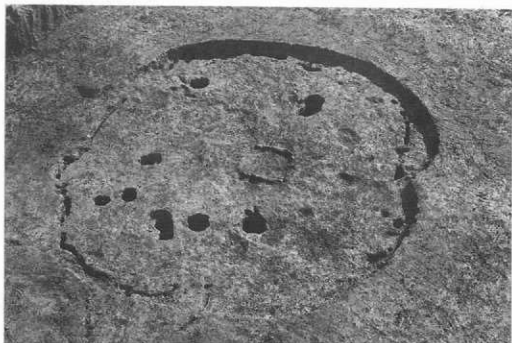
石圈炉完掘状況



石圈炉断面



石圈炉断面



21-1 住居跡全景



埋土土層断面

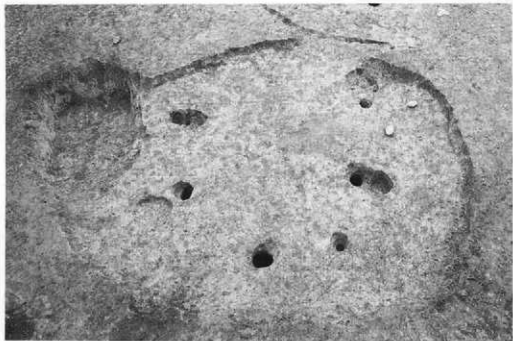


石圈炉平面

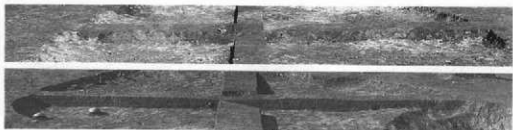


石圈炉断面

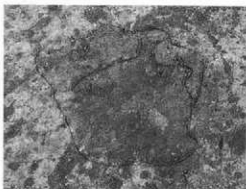
写真図版10 21-1 住居跡



2L-1 住居跡全景



埋土土層断面

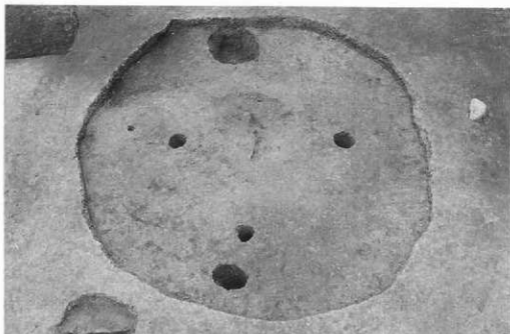


炉平面



炉断面

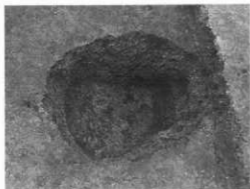
写真図版11 2L-1 住居跡



6L-1 住居跡全景



埋土土層断面

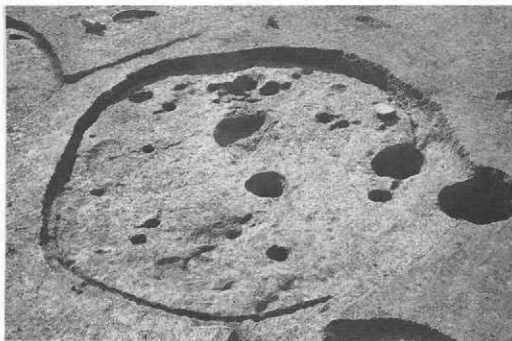


住居内土坑平面



住居内土坑平面

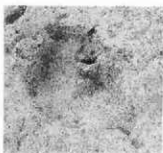
写真図版12 6L-1 住居跡



2M-1 住居跡全景



埋土土層断面



炉穴掘状況



炉断面

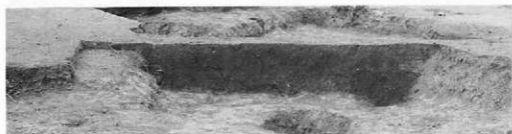


炉断面

写真図版13 2M-1 住居跡



6M-1 住居跡全景

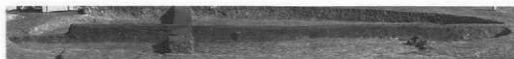


埋土土層断面

写真図版14 6M-1 住居跡



2N-1 住居跡全景



埋土土層断面



石圈炉断面



石圈炉断面

写真図版15 2N-1 住居跡



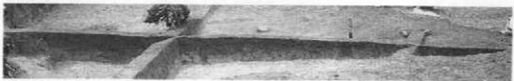
6N-1住居跡全景



埋土土層断面



20-1 住居跡全景



埋土土層断面



炉平面



炉断面



炉断面

写真図版17 20-1 住居跡



3 Q-1 住居跡全景



埋土土層断面



石圈炉平面



石圈炉断面

写真図版18 3 Q-1 住居跡



1 S-1 住居跡全景



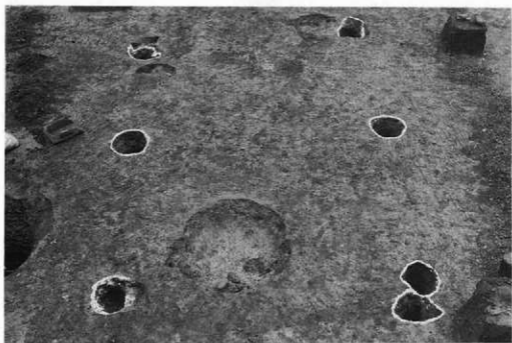
埋土土層断面



石圍炉平面



写真図版19 1 S-1 住居跡



2H-1 建物跡全景

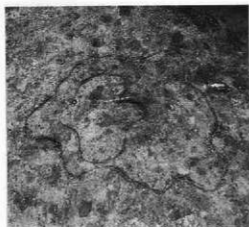


51-1 石囲炉平面



51-1 石囲炉断面

写真図版20 2H-1 建物跡・51-1 石囲炉

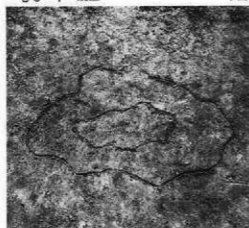


5C-1 焼土

平面



断面



5D-1 焼土

平面



断面



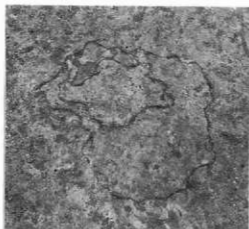
5E-1 焼土

平面



断面

写真図版21 5C-1・5D-1・5E-1 焼土

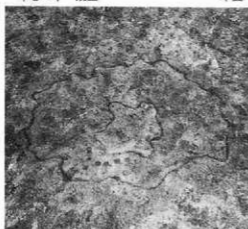


7E-1 烧土

平面



断面

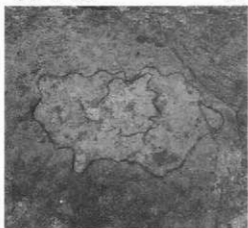


9E-1 烧土

平面



断面



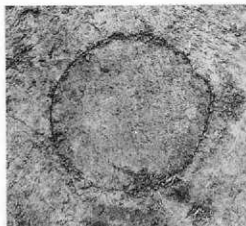
4F-1 烧土

平面



断面

写真图版22 7E-1·9E-1·4F-1 烧土



3H-1 焼土

平面



断面



10H-1 焼土

平面



断面



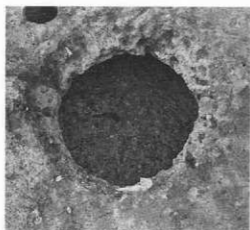
5N-1 埋設土器

平面



断面

写真図版23 3H-1・10H-1 焼土・5N-1 埋設土器



5D-1 土坑

平面

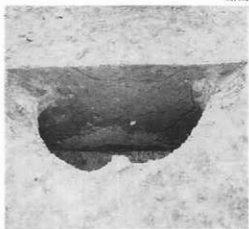


断面



5D-2 土坑

平面



断面



3E-1 土坑

平面



断面

写真図版24 5D-1・5D-2・3E-1 土坑



6F-1 土坑

平面



遺物出土状況



2H-1 土坑

平面



断面

写真図版25 6F-1・2H-1 土坑



9H-1 土坑

平面

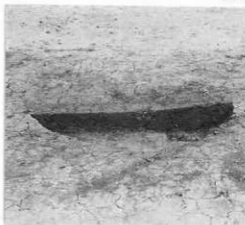


断面



6I-1 土坑

平面



断面



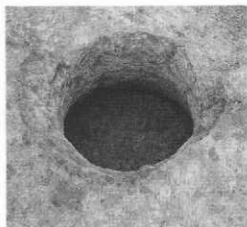
7I-1 土坑

平面



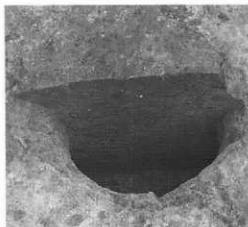
断面

写真图版26 9H-1·6I-1·7I-1 土坑



3L-1 土坑

平面



断面

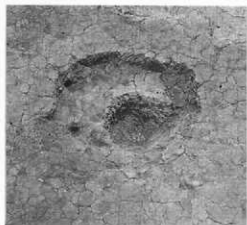


4L-1 土坑

平面



断面



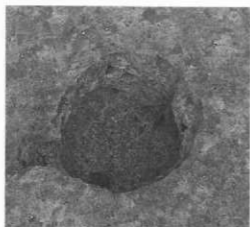
6L-1 土坑

平面



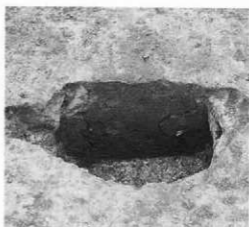
断面

写真図版27 3L-1・4L-1・6L-1 土坑

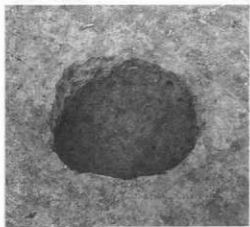


3N-1 土坑

平面

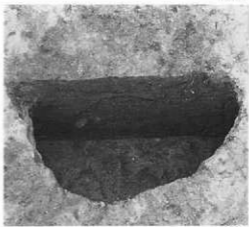


断面

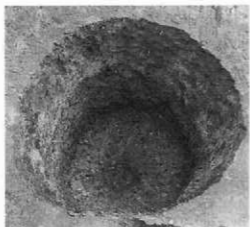


4N-1 土坑

平面

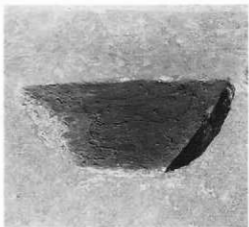


断面



6N-1 土坑

平面



断面

写真図版28 3N-1・4N-1・6N-1 土坑

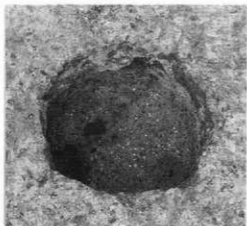


10-1 土坑

平面

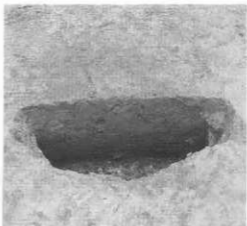


断面



40-1 土坑

平面



断面



50-1 土坑

平面



断面

写真图版29 10-1·40-1·50-1土坑



60-1 土坑

平面

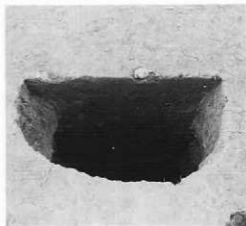


断面



70-1 土坑

平面



断面



70-2 土坑

平面

写真図版30 60-1・70-1・70-2 土坑



1P-1 土坑

平面



断面

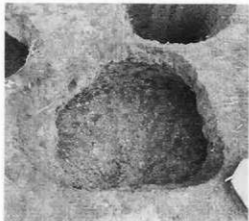


1P-2 土坑

平面



断面



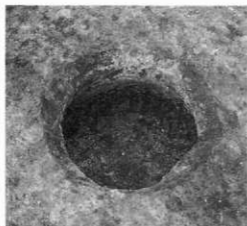
2P-1 土坑

平面



断面

写真图版31 1P-1·1P-2·2P-1 土坑



2P-2土坑

平面



断面

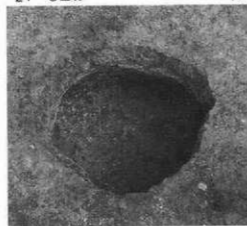


2P-3土坑

平面

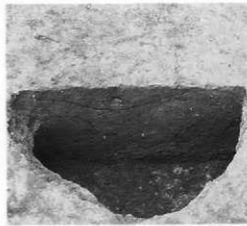


断面



3Q-1土坑

平面



断面

写真図版32 2P-2・2P-3・3Q-1土坑



4Q-1 土坑

平面



断面



3C-1 陥し穴

平面



断面



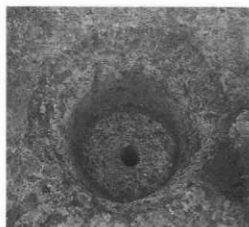
4E-1 陥し穴

平面



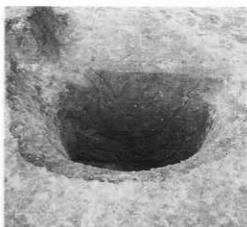
断面

写真図版33 4Q-1 土坑 3C-1・4E-1 陥し穴

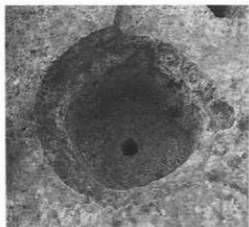


5E-1 陥し穴

平面



断面



6E-1 陥し穴

平面

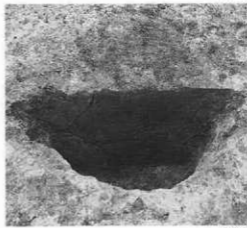


断面



7E-1 陥し穴

平面



断面

写真図版34 5E-1・6E-1・7E-1 陥し穴



9E-1 陥し穴

平面

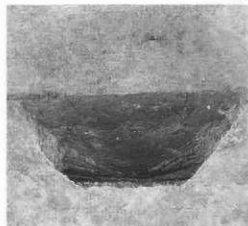


断面

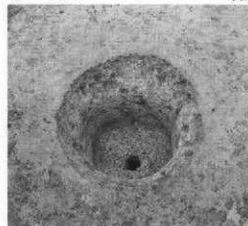


2H-1 陥し穴

平面

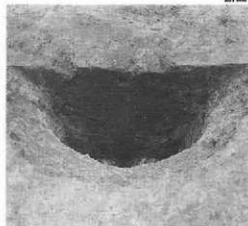


断面



3H-1 陥し穴

平面



断面

写真図版35 9E-1・2H-1・3H-1 陥し穴



9H-1 陥し穴

平面

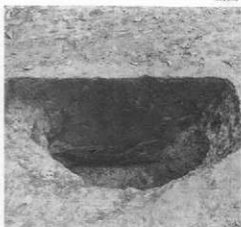


断面

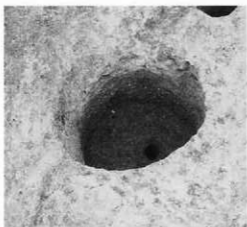


1J-1 陥し穴

平面



断面



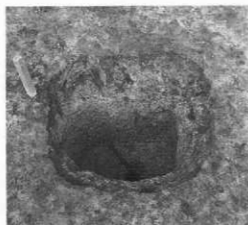
3M-1 陥し穴

平面



断面

写真図版36 9H-1・1J-1・3M-1 陥し穴



4N-1 陥し穴

平面

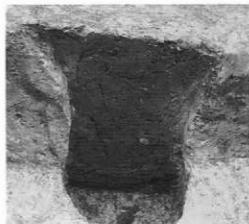


断面



6O-1 陥し穴

平面

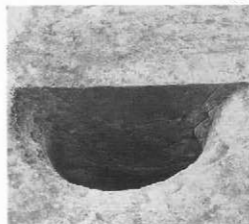


断面



4P-1 陥し穴

平面



断面

写真図版37 4N-1・6O-1・4P-1 陥し穴



6P-1 陥し穴

平面



断面



6P-2 陥し穴

平面



6P-3 陥し穴

平面



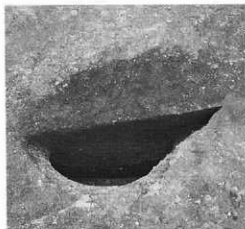
断面

写真図版38 6P-1・6P-2・6P-3 陥し穴



6P-4 陥し穴

平面

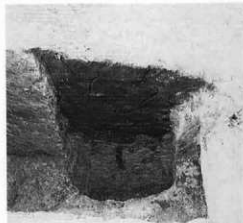


断面



6P-5 陥し穴

平面



断面



6P-6 陥し穴

平面



断面

写真図版39 6P-4・6P-5・6P-6 陥し穴



7P-1 陥し穴

平面



断面

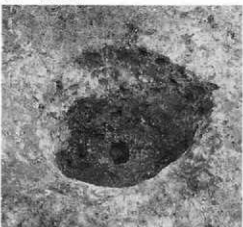


7P-2 陥し穴

平面



断面



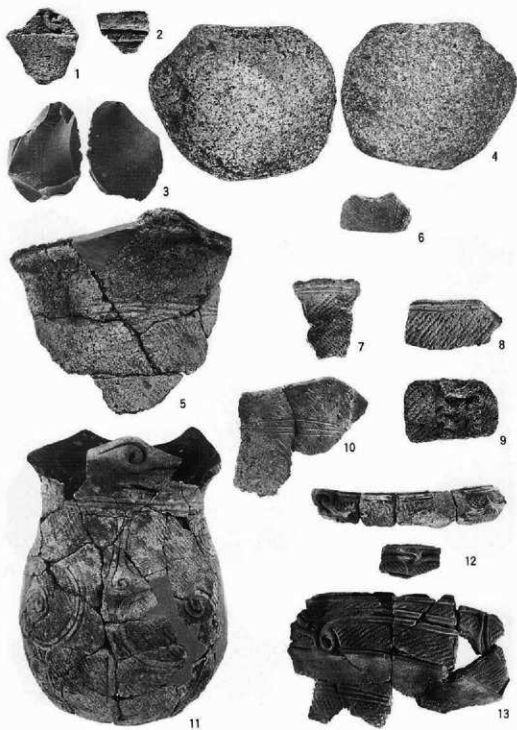
2R-1 陥し穴

平面

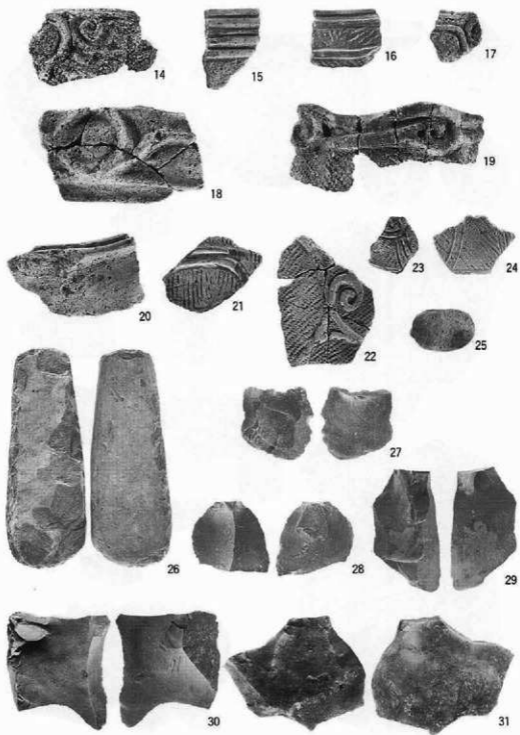


断面

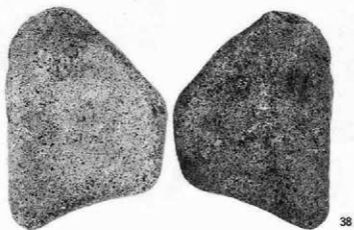
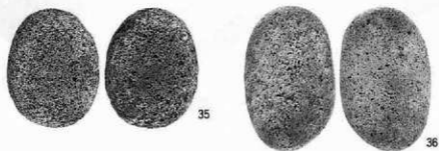
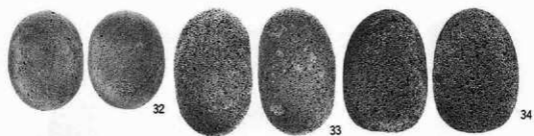
写真図版40 7P-1・7P-2・2R-1 陥し穴



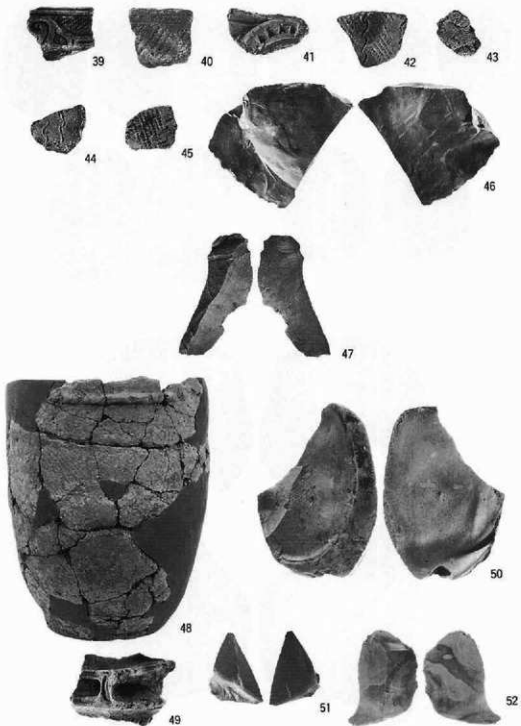
写真図版41 出土遺物 (5D-1・7D-1・7E-1 住居跡)



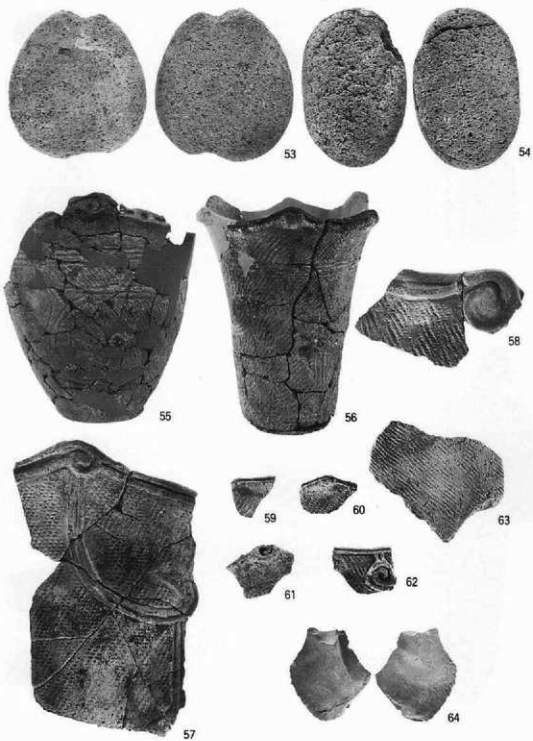
写真図版42 出土遺物 (7D-1・7E-1住居跡)



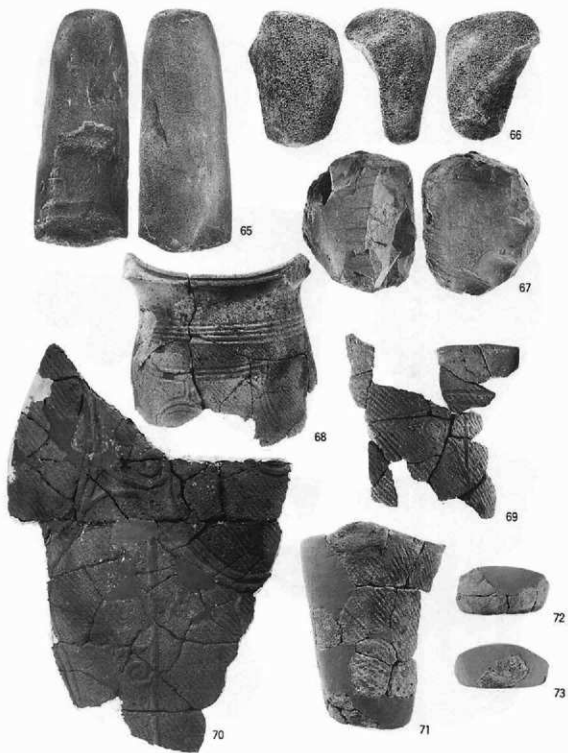
写真図版43 出土遺物 (7D-1・7E-1住居跡)



写真図版44 出土遺物 (2 F-1・4 G-1・2住居跡)



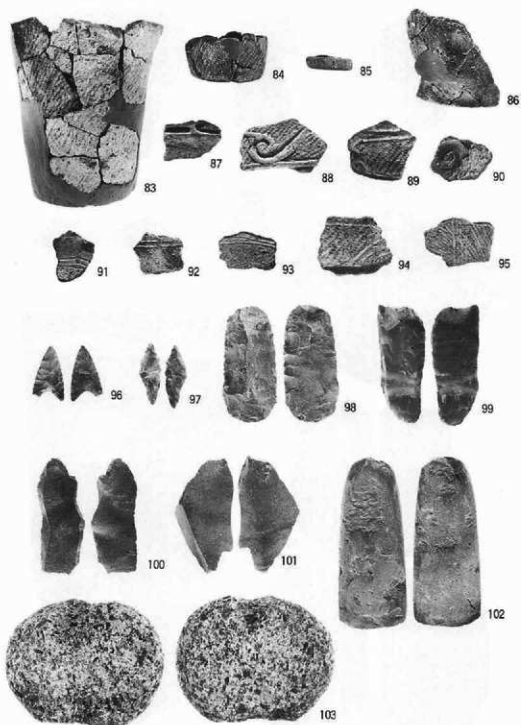
写真図版45 出土遺物 (4 G-2・21-1 住居跡)



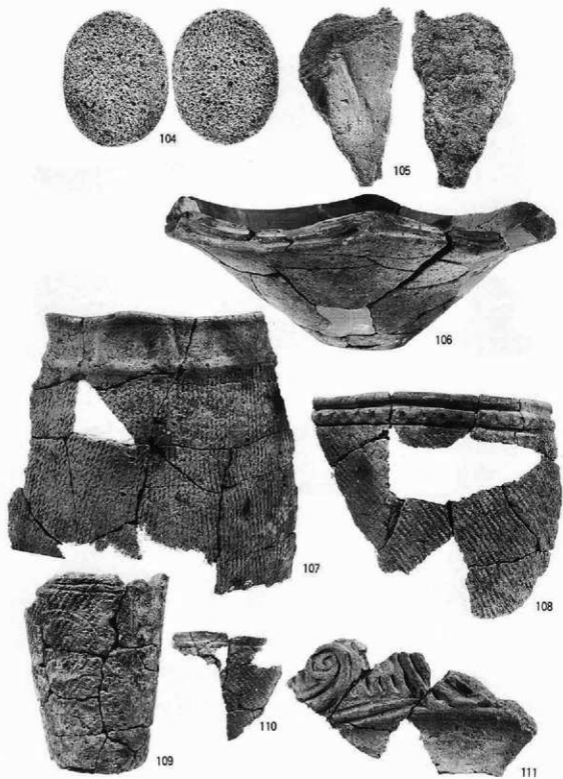
写真図版46 出土遺物 (21-1・2L-1住居跡)



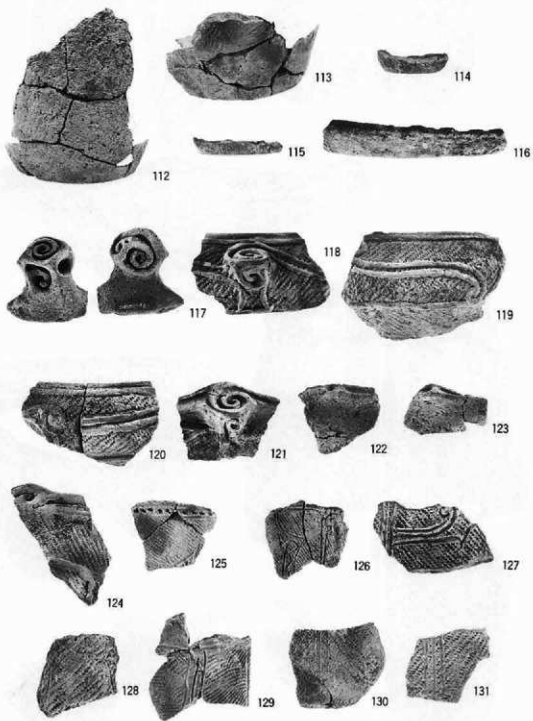
写真図版47 出土遺物 (2L-1 住居跡)



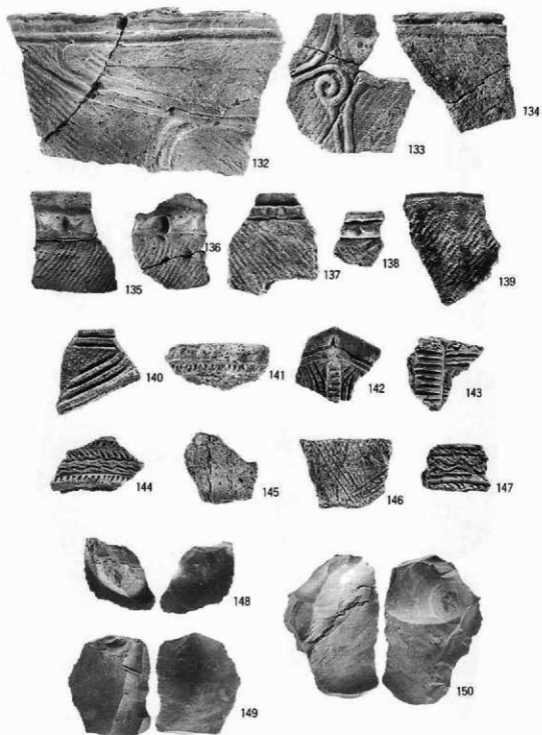
写真図版48 出土遺物 (6L-1 住居跡)



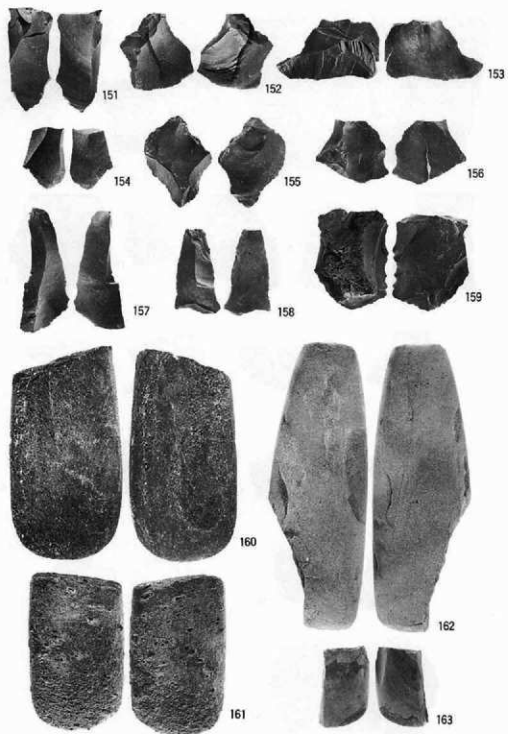
写真図版49 出土遺物 (6L-1・2M-1住居跡)



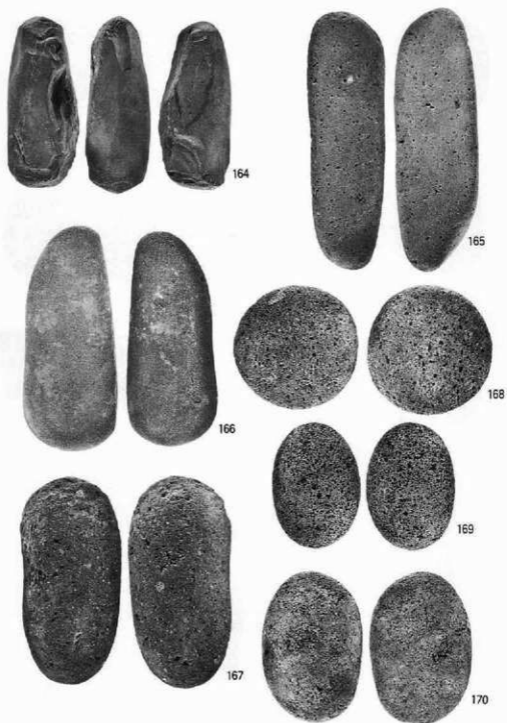
写真図版50 出土遺物（2M-1住居跡）



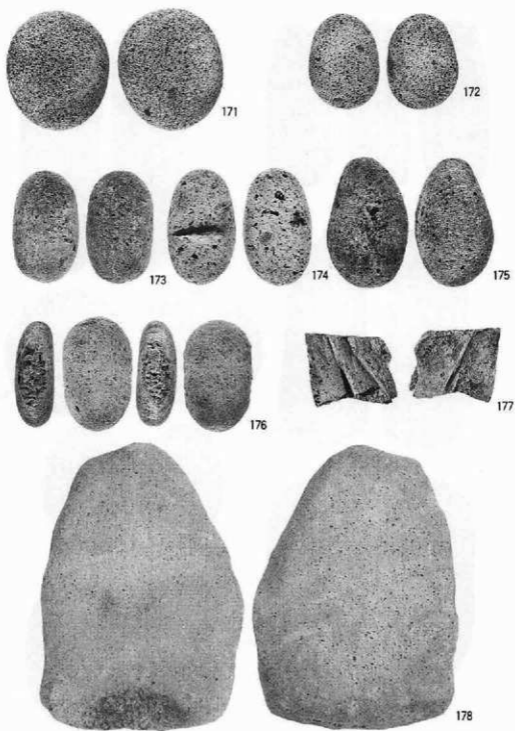
写真図版51 出土遺物 (2M-1 住居跡)



写真図版52 出土遺物（2M-1住居跡）



写真図版53 出土遺物（2M-1住居跡）



写真図版54 出土遺物（2M-1住居跡）



179



180



181



182



183



184



185



186



187



190



188



189

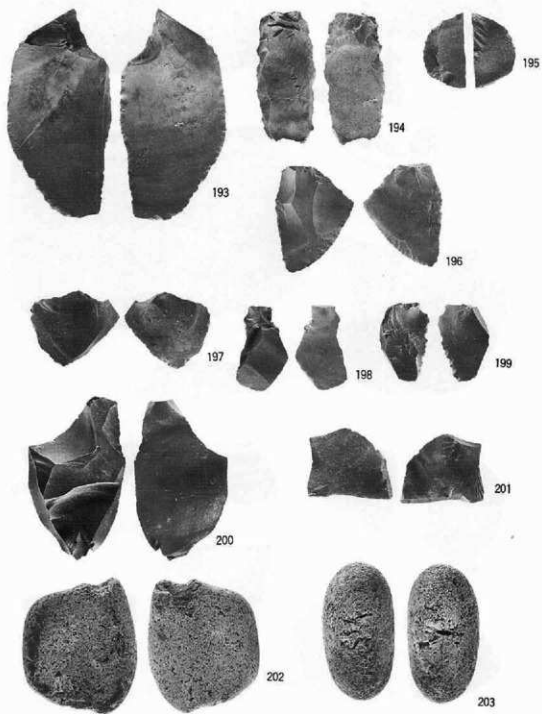


191

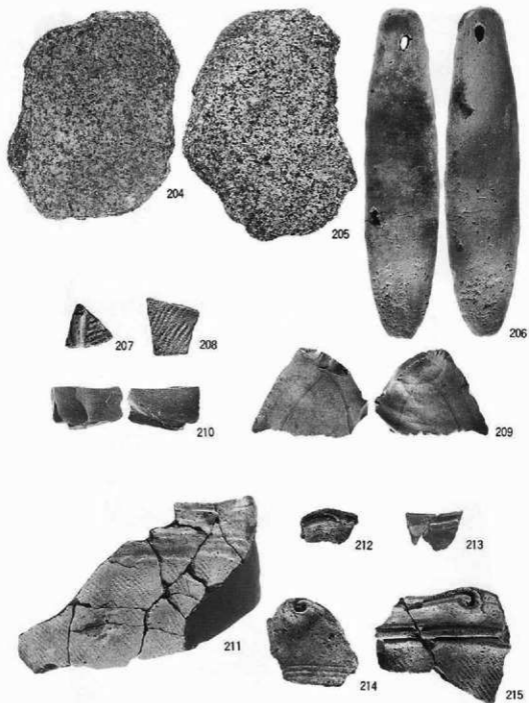


192

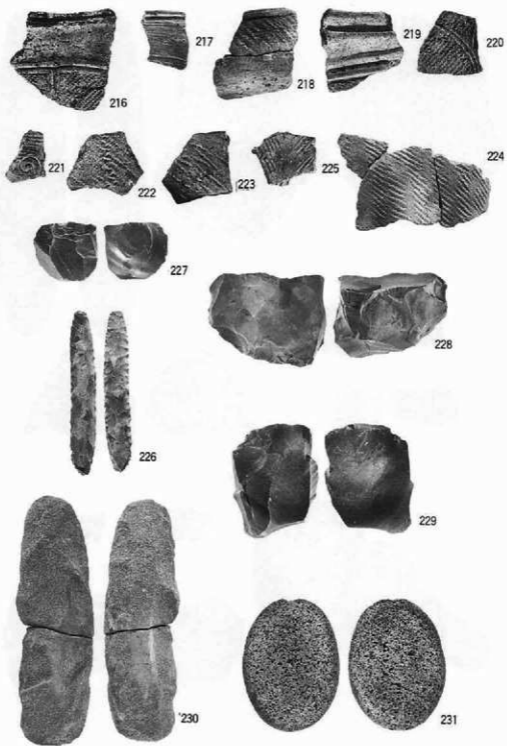
写真図版55 出土遺物 (2N-1住居跡)



写真図版56 出土遺物（2N-1住居跡）



写真図版57 出土遺物 (2N-1・6M-1住居跡)



写真図版58 出土遺物 (6N-1住居跡)



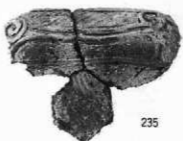
232



233



234



235



236



237



238



239

写真図版59 出土遺物 (20-1住層跡)



240



242



241



243



244



245



246

写真図版60 出土遺物 (20-1 住居跡)



247



248



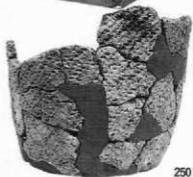
250 a



249



251



250 b

写真図版61 出土遺物 (20-1 住居跡)



253



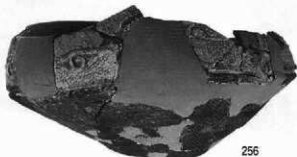
252



254

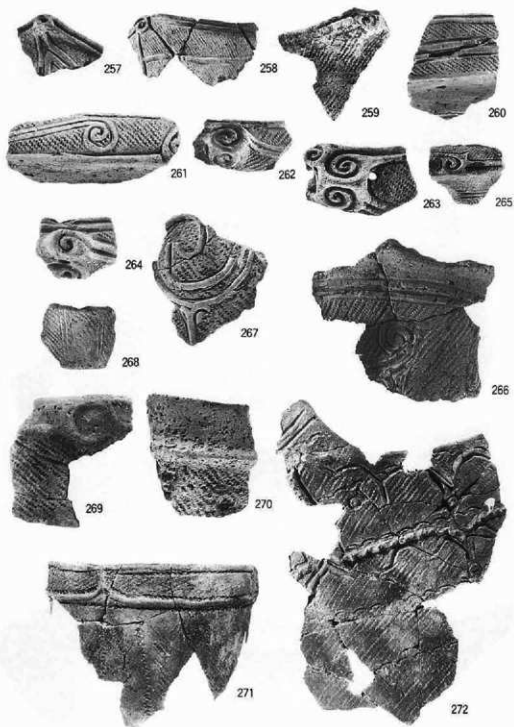


255

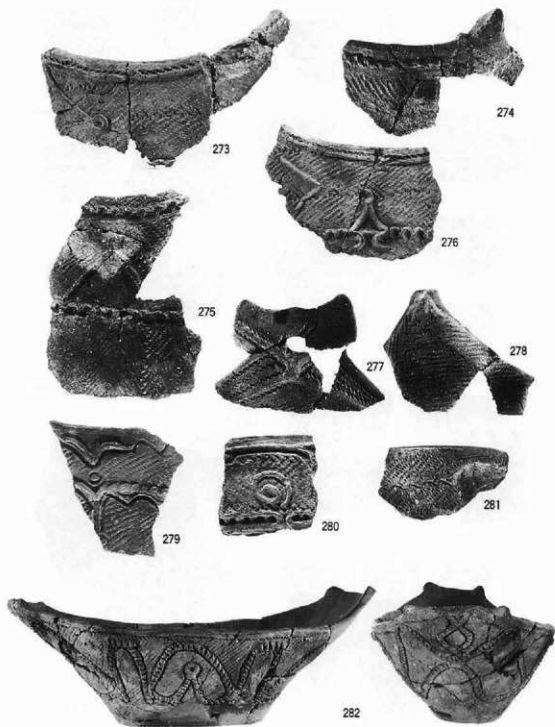


256

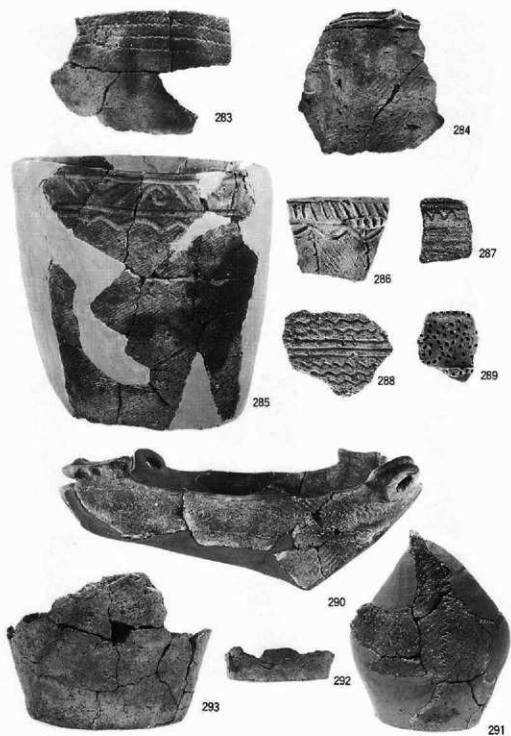
写真図版62 出土遺物 (2Q-1住居跡)



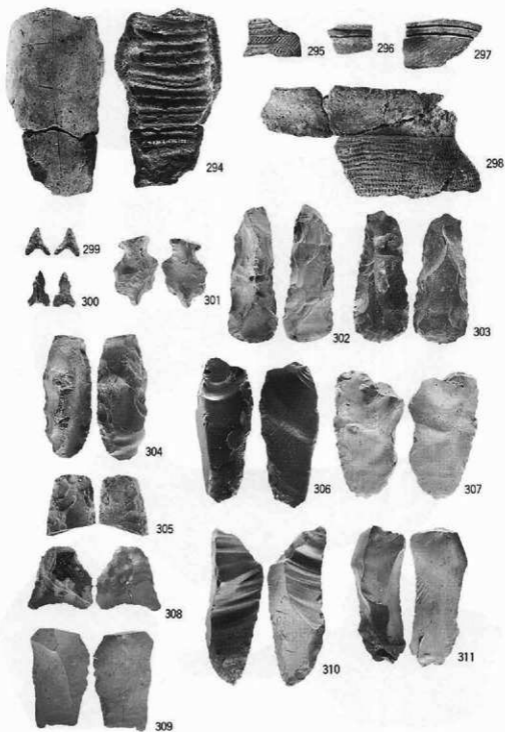
写真図版63 出土遺物 (20-1 住居跡)



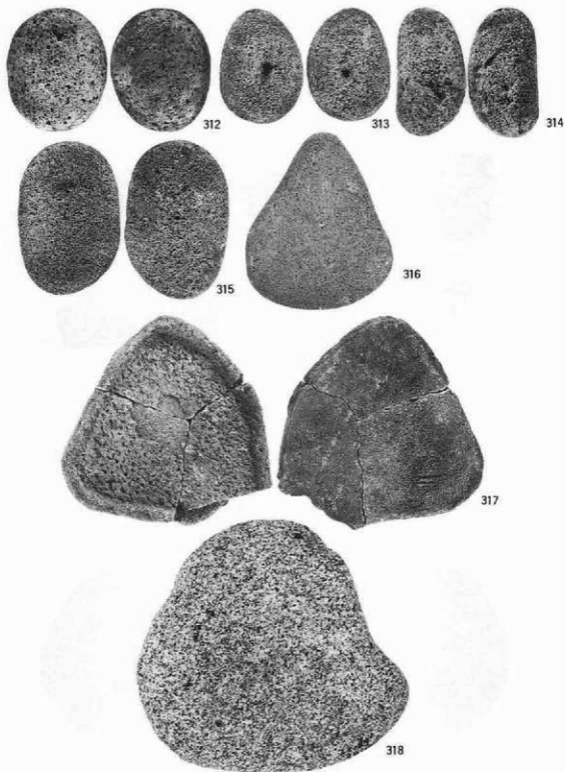
写真図版64 出土遺物 (2Q-1 住居跡)



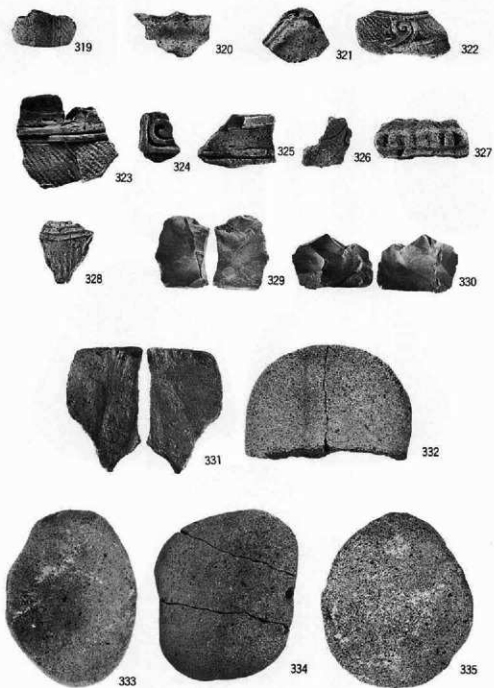
写真図版65 出土遺物 (20-1 住居跡)



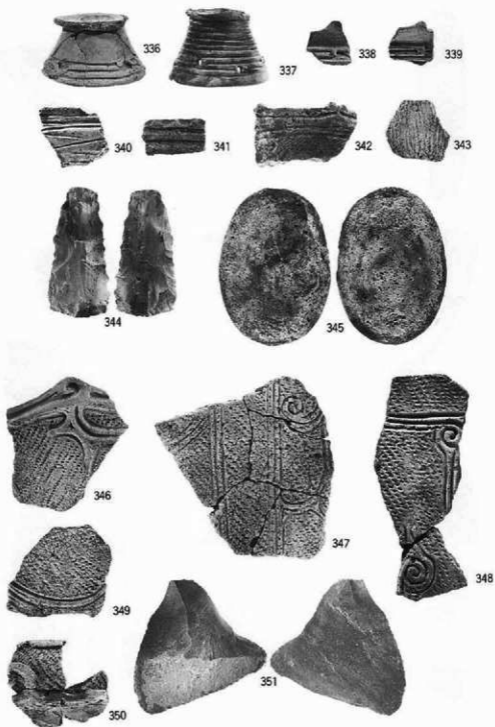
写真図版66 出土遺物 (2Q-1住居跡)



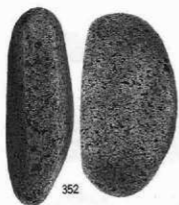
写真図版67 出土遺物 (20-1 住居跡)



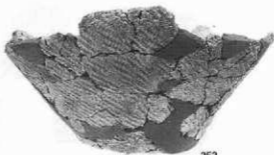
写真図版68 出土遺物 (30-1 住居跡)



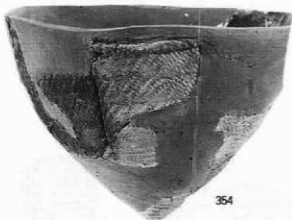
写真図版69 出土遺物 (1S-1住居跡・2H-1建物跡)



352



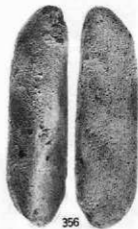
353



354

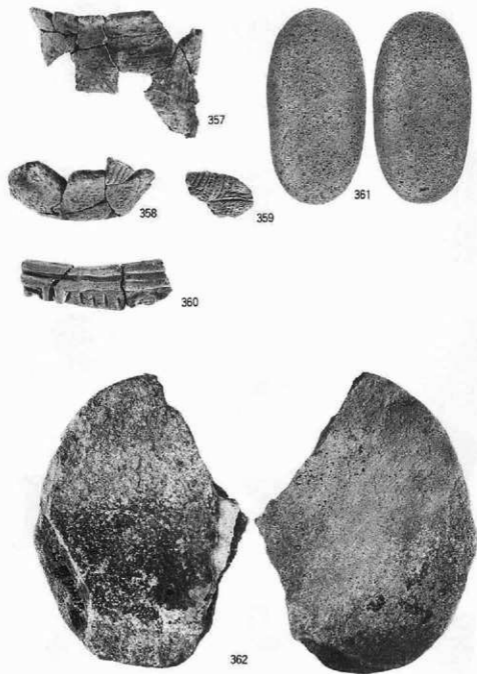


355

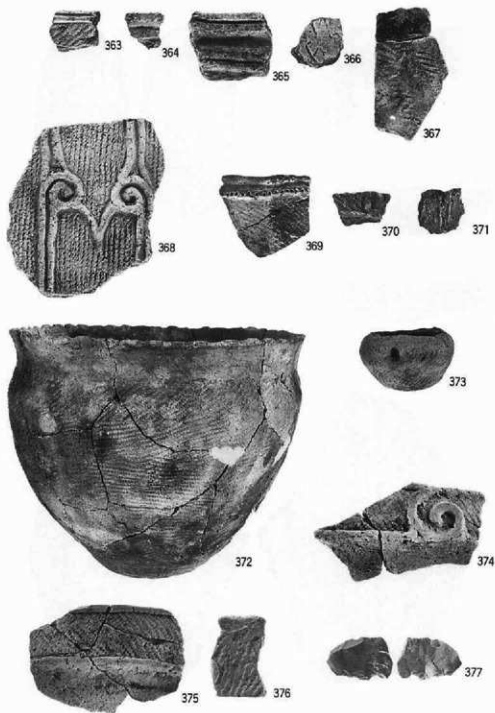


356

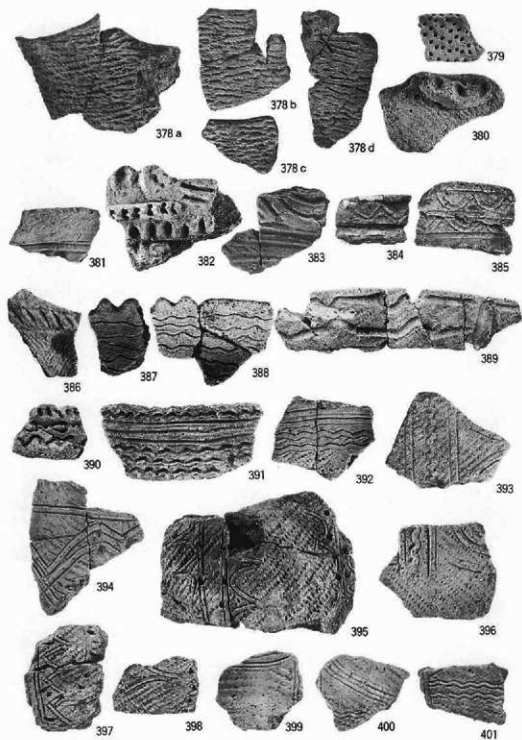
写真図版70 出土遺物 (2H-1 雑物跡・5N-1 埋設土器・6F-1 土坑)



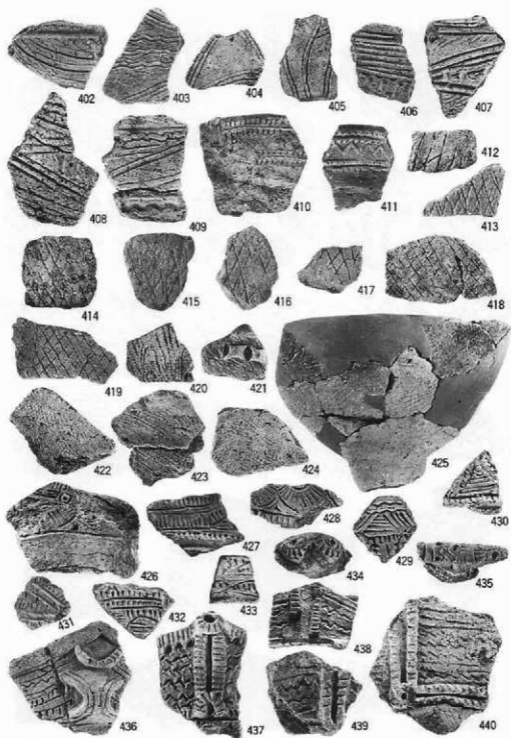
写真図版71 出土遺物 (2H-1・9H-1土坑)



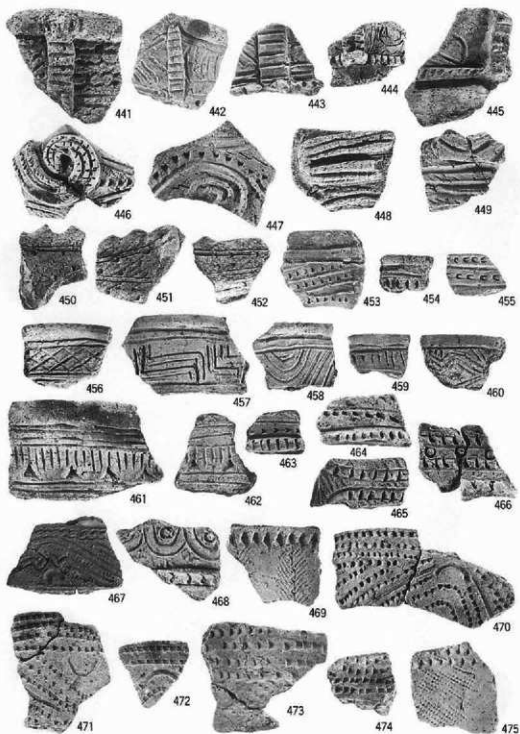
写真図版72 出土遺物 (3L-1・4L-1・50-1・2P-土抗・3H-1・7E-1陥し穴)



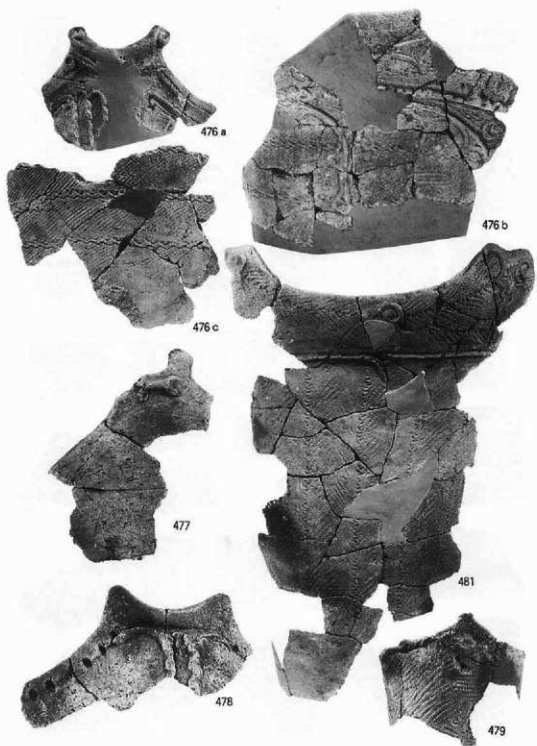
写真图版73 遺構外出土遺物（土器）1



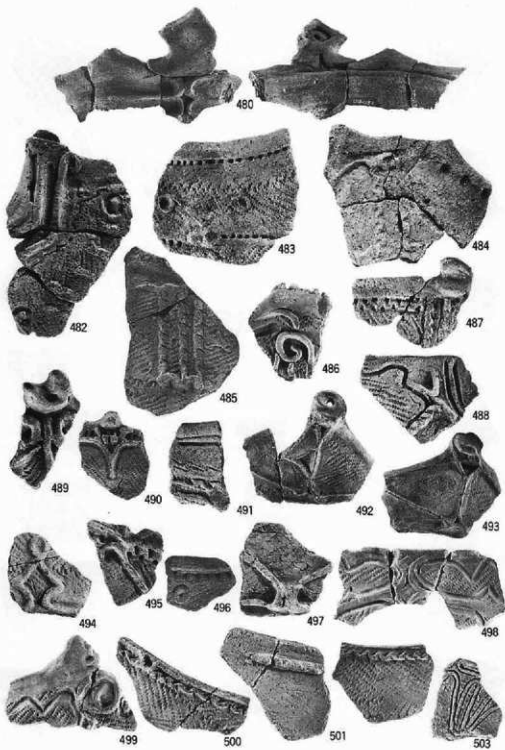
写真図版74 遺構外出土遺物(土器)2



写真图版75 遺構外出土遺物（土器）3



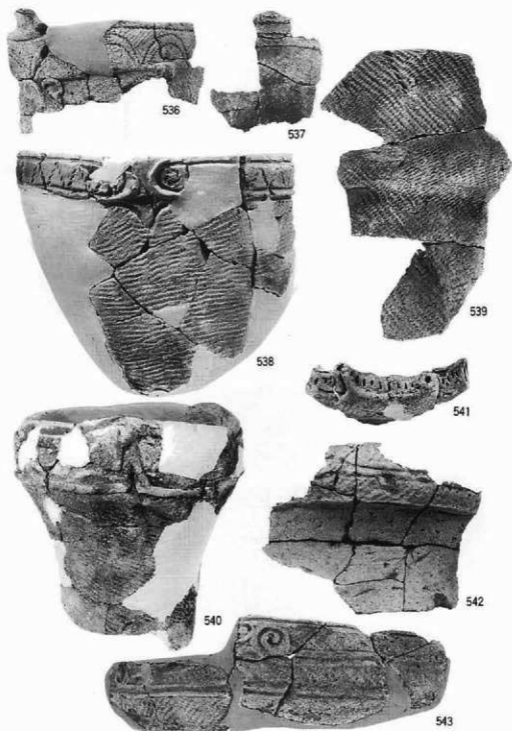
写真図版76 遺構外出土遺物(土器)4



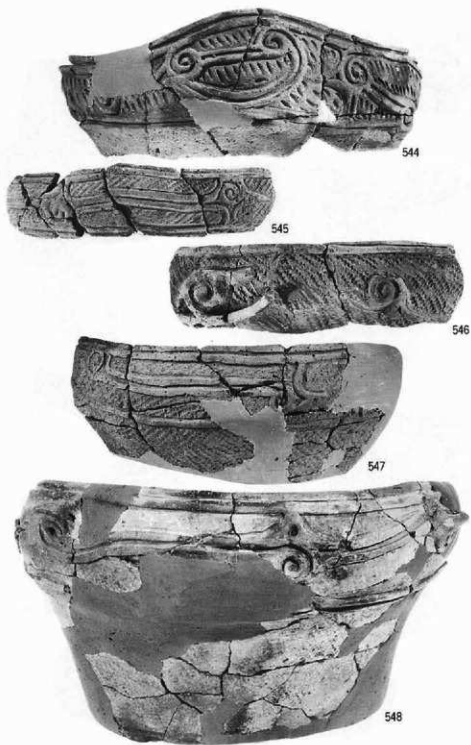
写真図版77 遺構外出土遺物(土器) 5



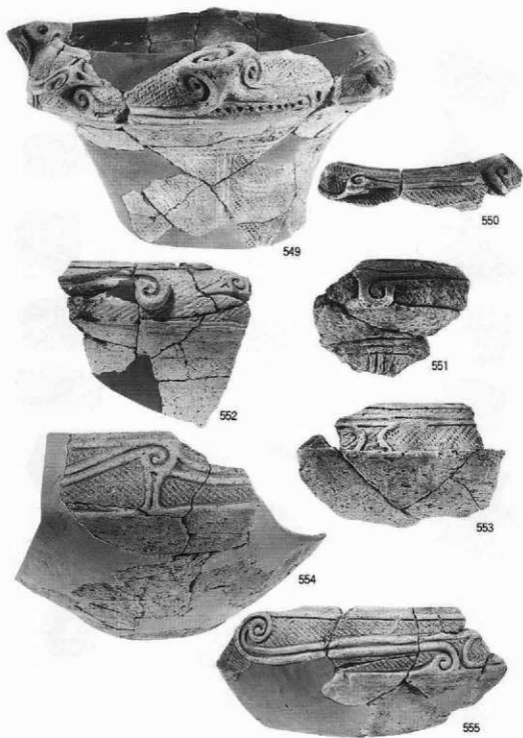
写真图版78 遺構外出土遺物(土器) 6



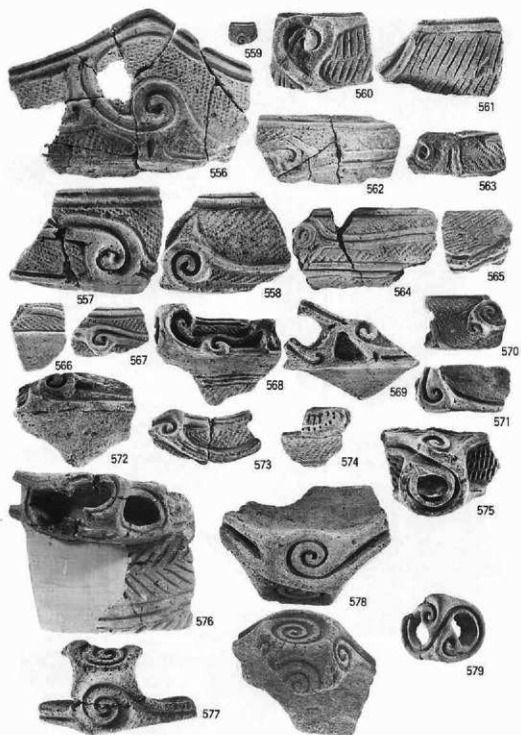
写真図版79 遺構外出土遺物（土器）7



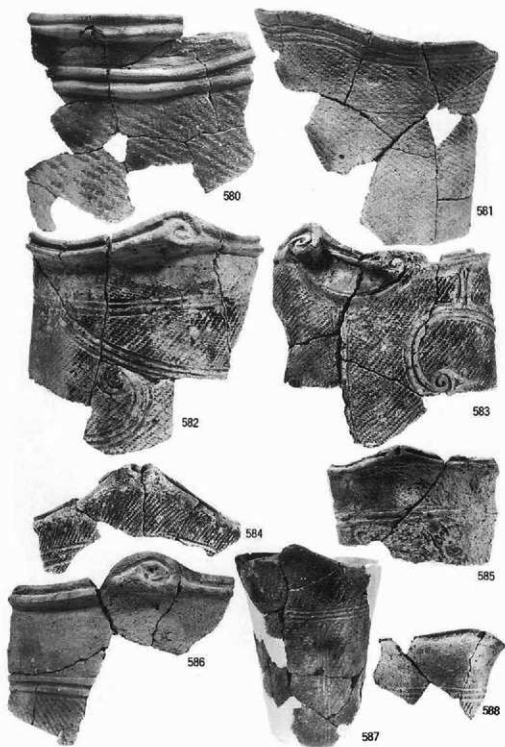
写真図版80 遺構外出土遺物（土器）8



写真図版81 遺構外出土遺物（土器）9



写真図版82 遺構外出土遺物(土器) 10



写真図版83 遺構外出土遺物(土器) 11



589



590



591



592

写真图版84 遺構外出土遺物(土器)12



593



595



597

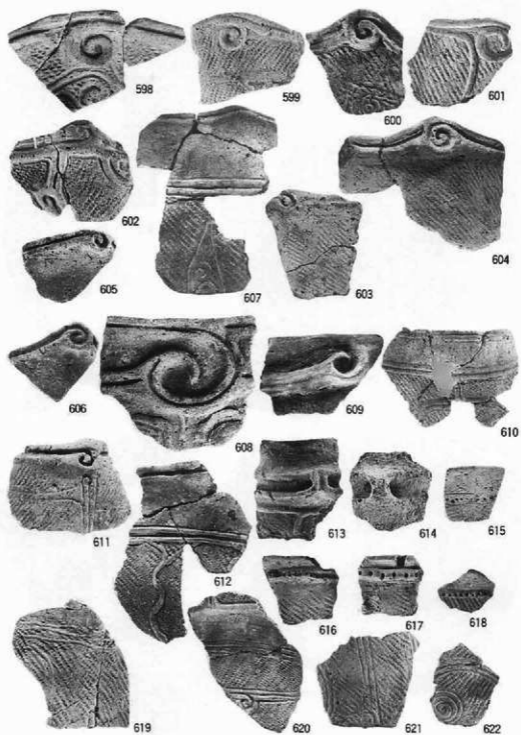


594

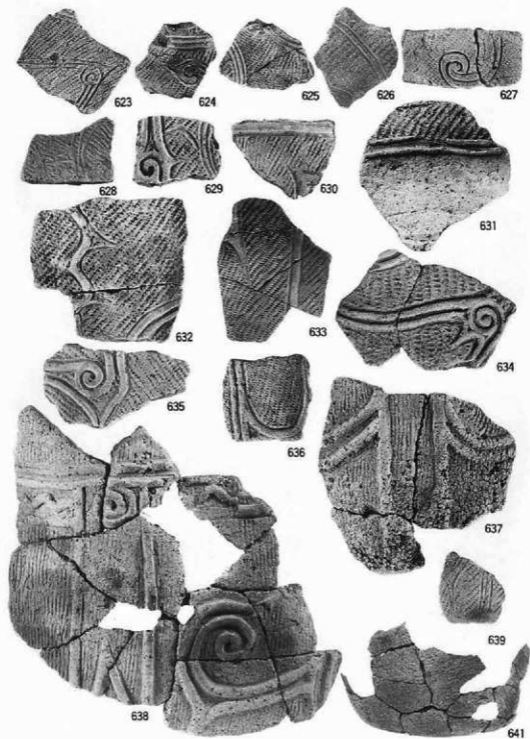


596

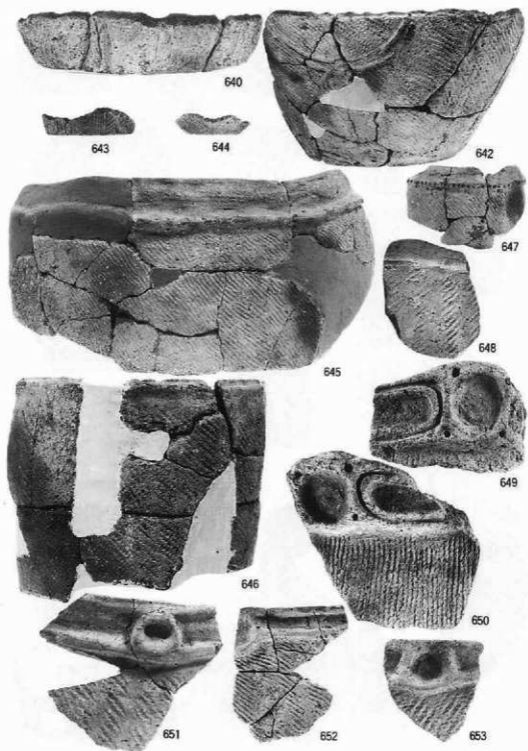
写真図版85 遺構外出土遺物(土器) 13



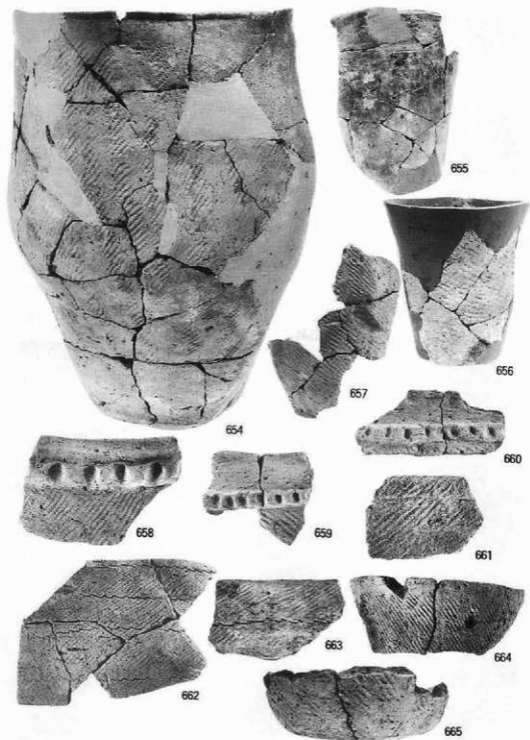
写真図版86 遺構外出土遺物（土器）14



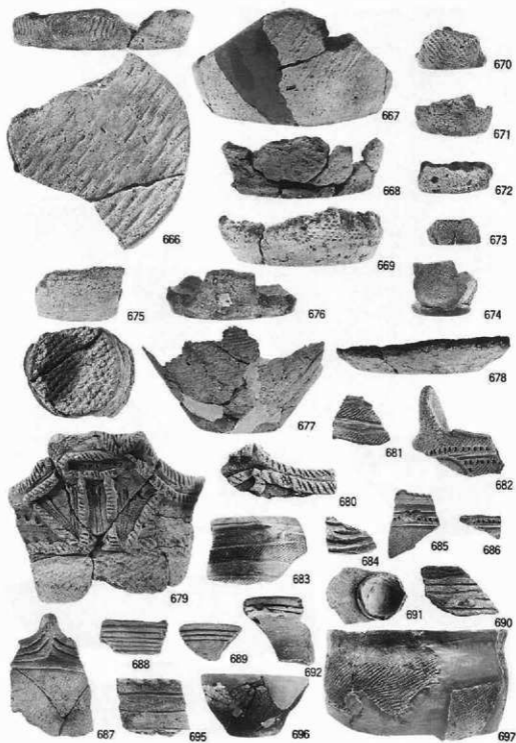
写真図版87 遺構外出土遺物（土器）15



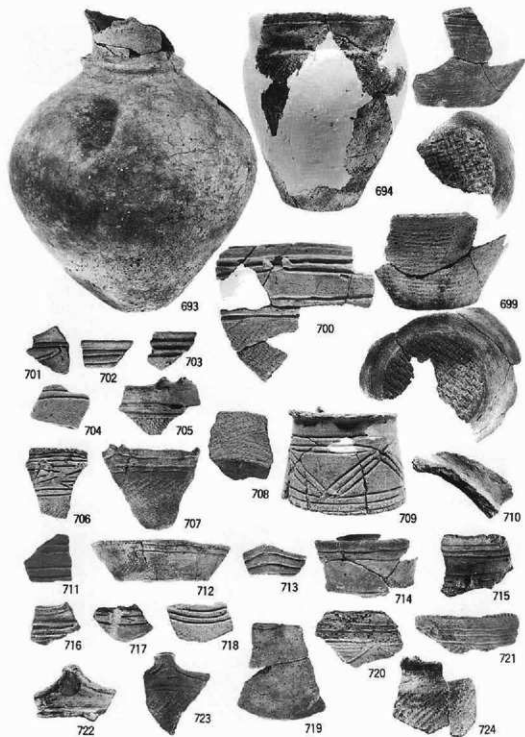
写真图版88 遺構外出土遺物（土器）16



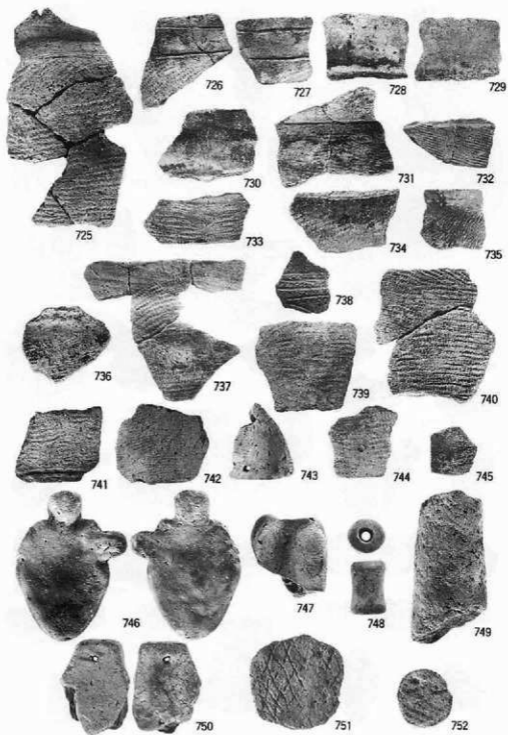
写真図版89 遺構外出土遺物(土器) 17



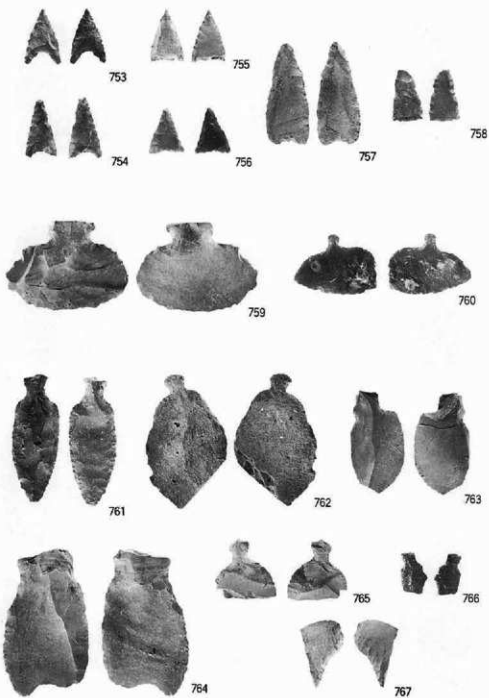
写真図版90 遺構外出土遺物（土器）18



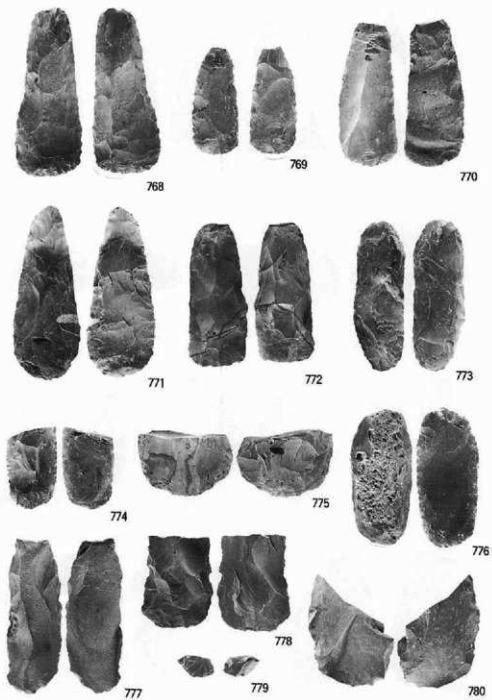
写真図版91 遺構外出土遺物（土器）19



写真図版92 遺構外出土遺物（土器）20



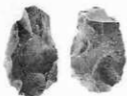
写真図版93 遺構外出土遺物(石器) 1



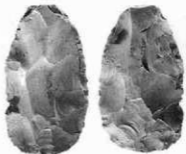
写真図版94 遺構外出土遺物(石器) 2



781



782



783



784



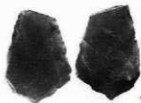
785



786



787



788



789



790



791

写真図版95 遺構外出土遺物（石器）3



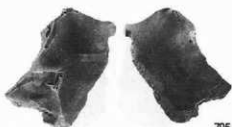
792



793



794



795



796



797



798

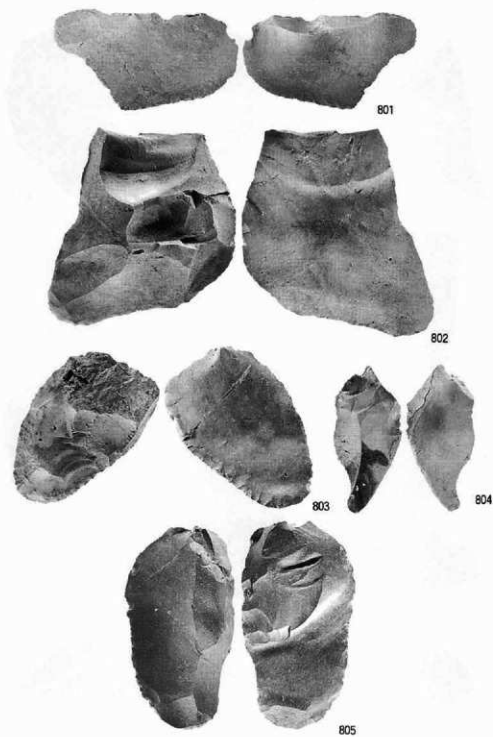


799

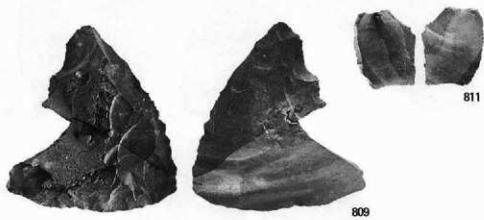
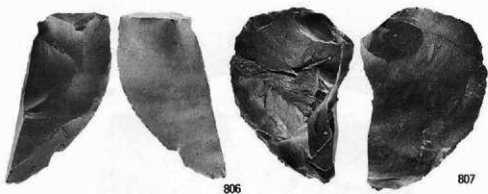


800

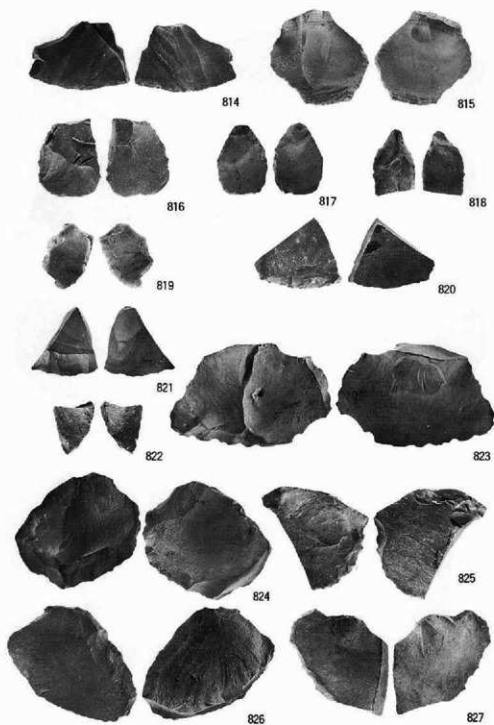
写真図版96 遺構外出土遺物(石器) 4



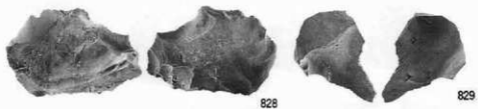
写真図版97 遺構外出土遺物(石器) 5



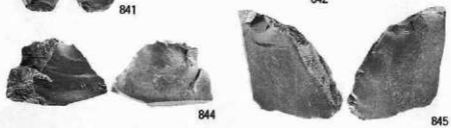
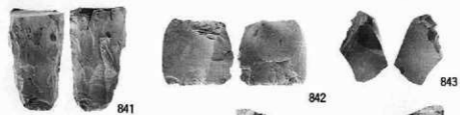
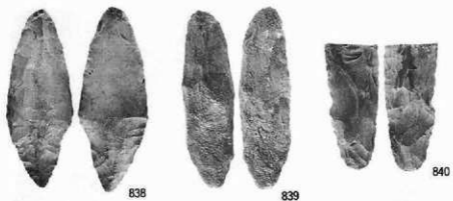
写真図版98 遺構外出土遺物（石器）6



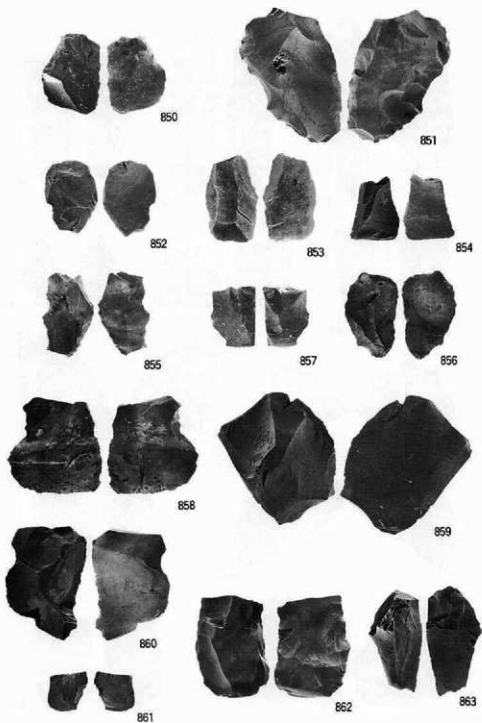
写真図版99 遺構外出土遺物（石器）7



写真図版100 遺構外出土遺物(石器) 8



写真図版101 遺構外出土遺物（石器）9



写真図版102 遺構外出土遺物 (石器) 10



864



865



866



867



868



869



870



871



872



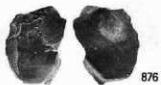
873



874



875



876

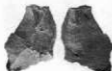
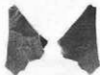
写真图版103 濠洲外出土遺物 (石器) 11



877



878



881



880



882



883



884



885



886

写真図版104 遺構外出土遺物 (石器) 12



887



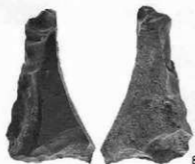
889



888



890



891



892

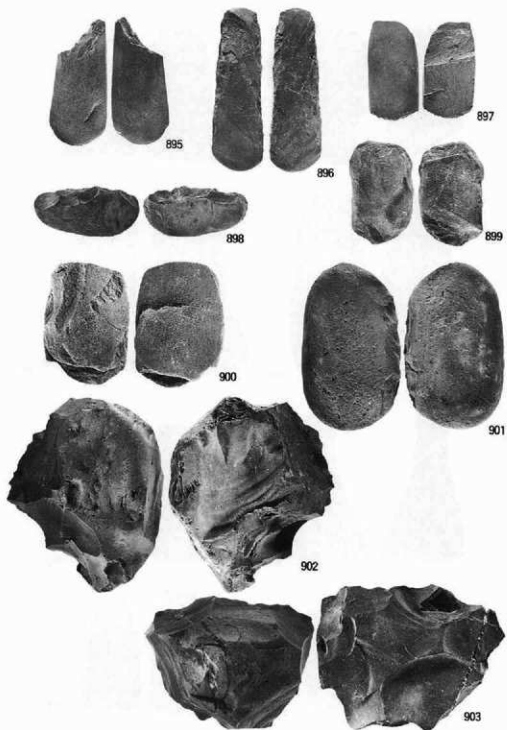


893

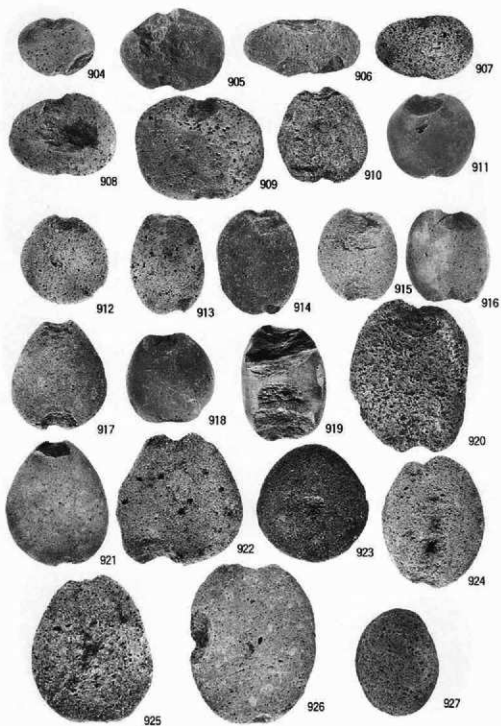


894

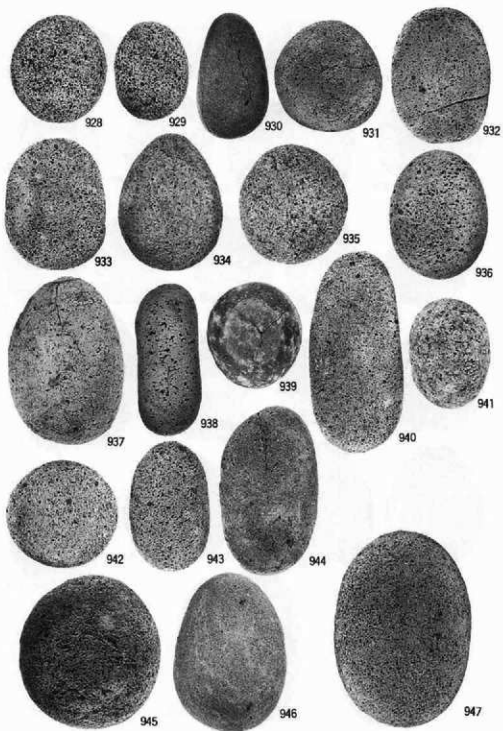
写真図版105 遺構外出土遺物（石器）13



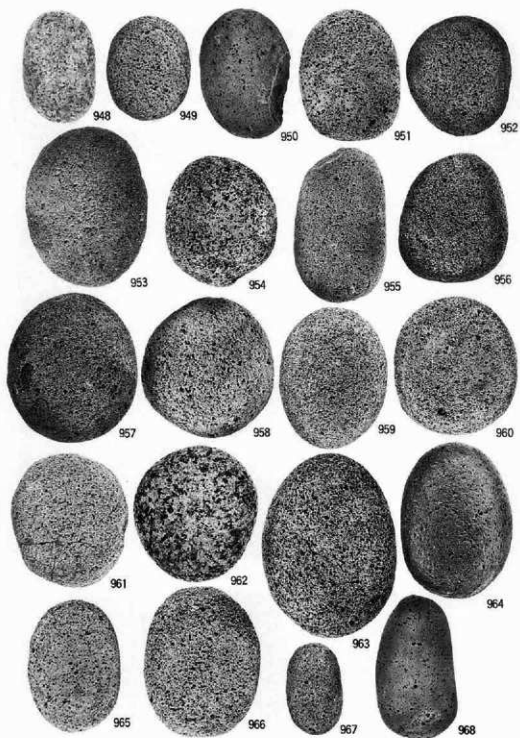
写真図版106 遺構外出土遺物 (石器) 14



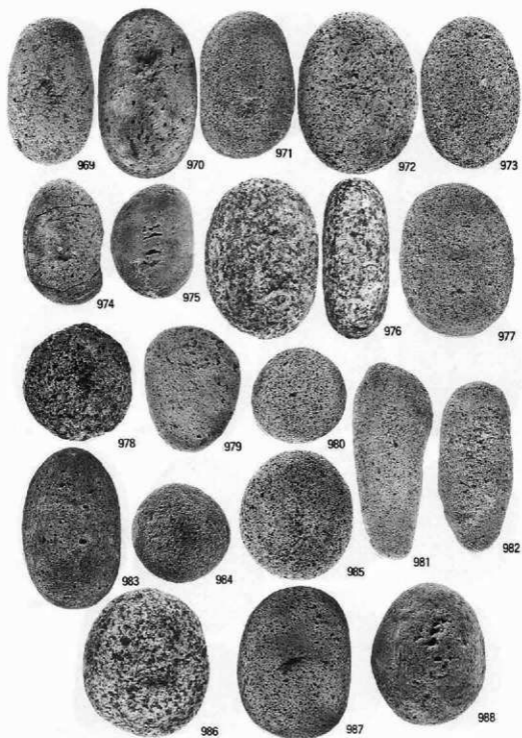
写真図版107 遺構外出土遺物 (石器) 15



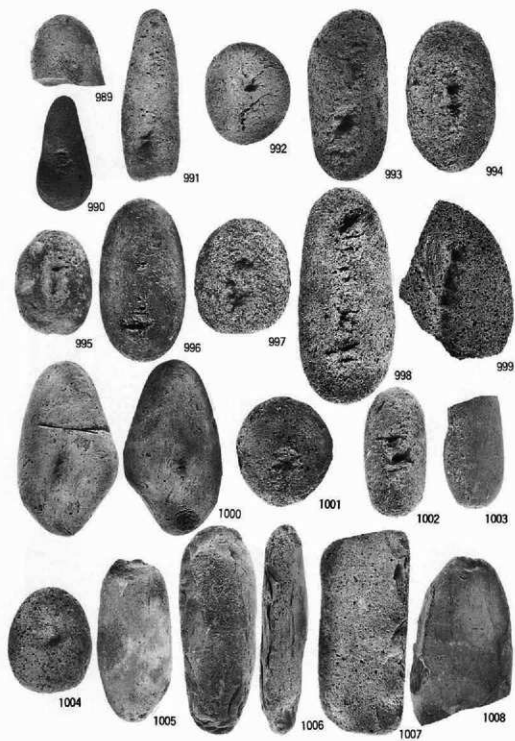
写真図版108 遺構外出土遺物 (石器) 16



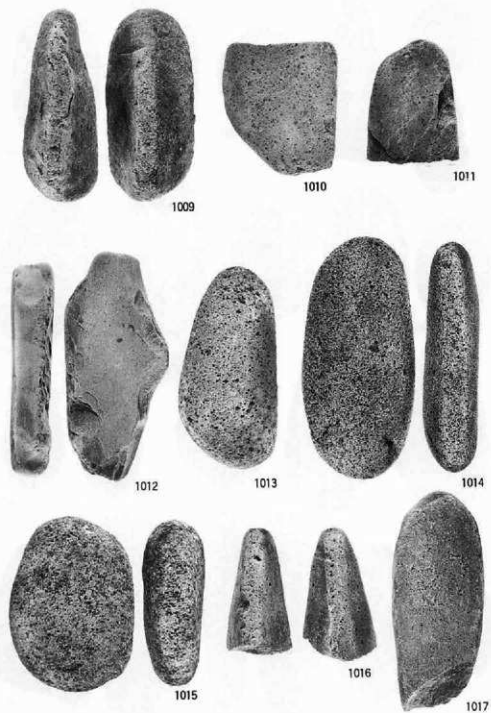
写真图版109 遺構外出土遺物 (石器) 17



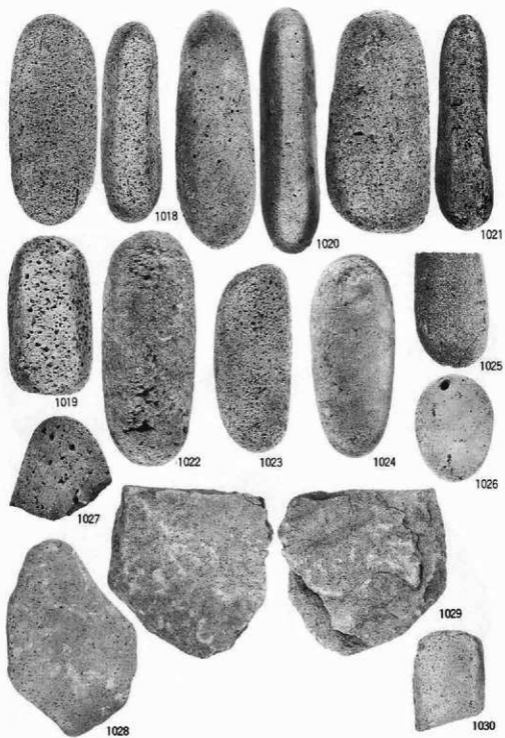
写真図版110 遺構外出土遺物（石器）18



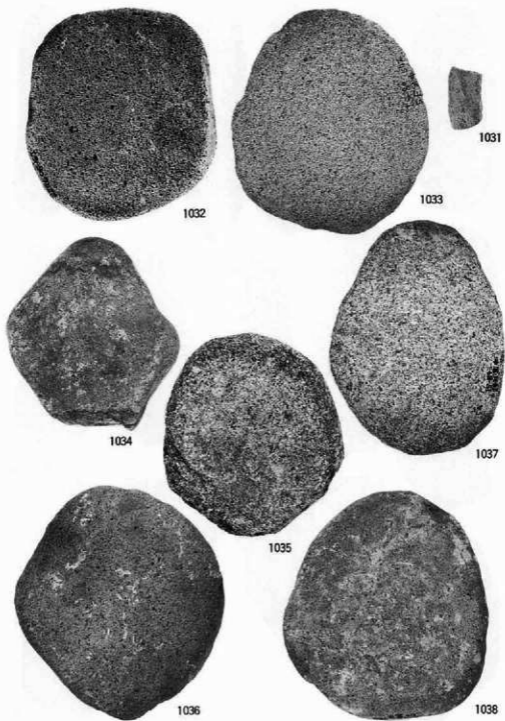
写真図版11 遺構外出土遺物(石器) 19



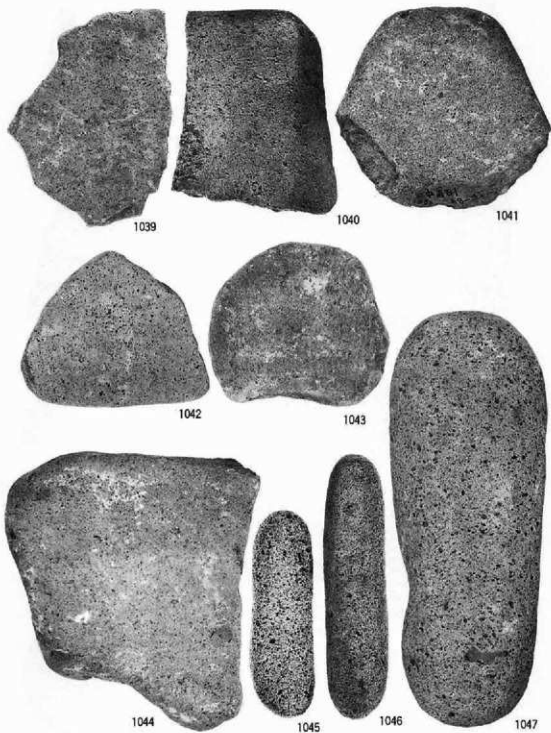
写真図版112 遺構外出土遺物 (石器) 20



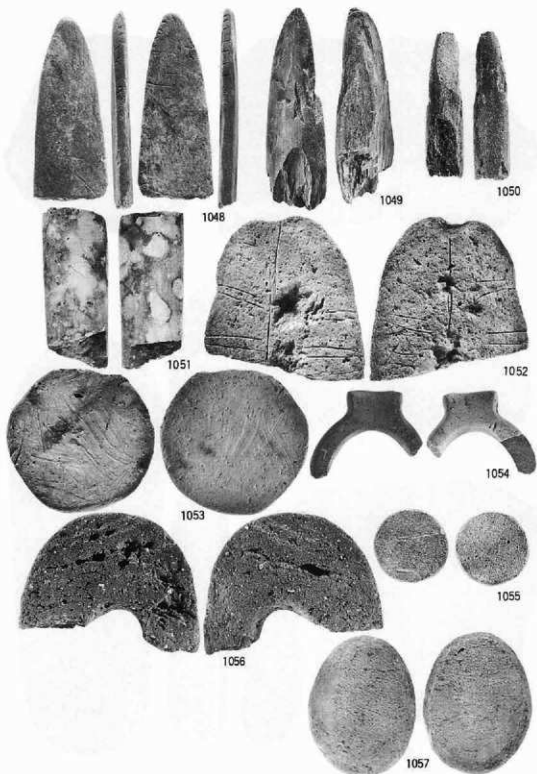
写真図版113 遺構外出土遺物 (石器) 21



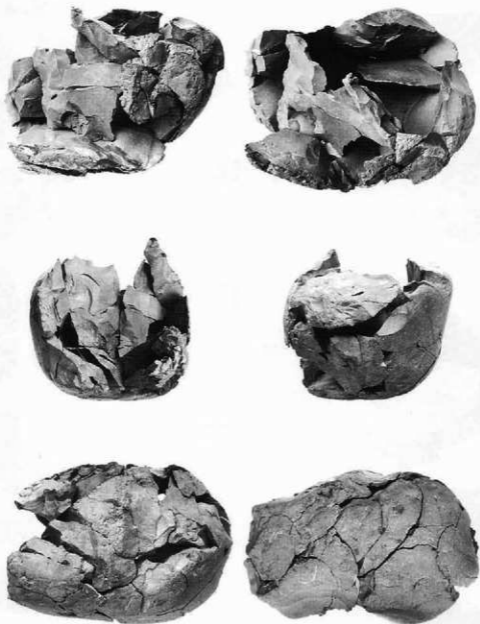
写真図版114 遺構外出土遺物 (石器) 22



写真図版115 遺構外出土遺物 (石器) 23

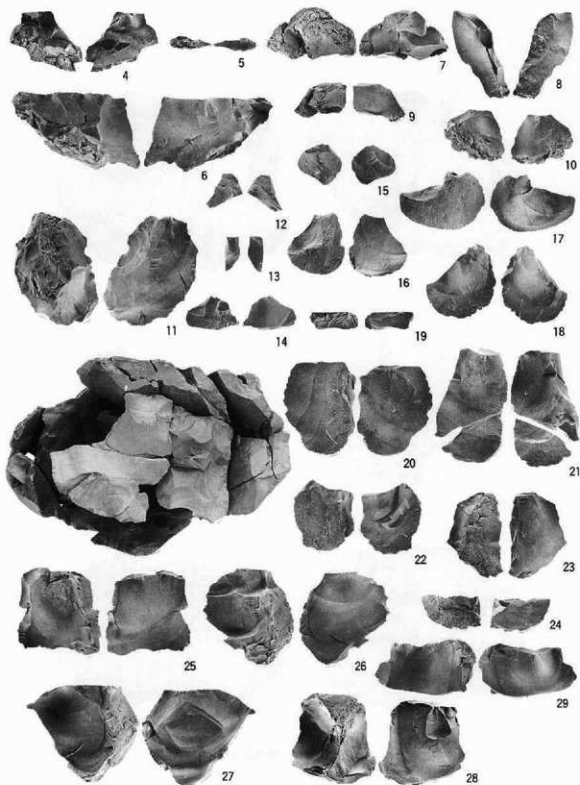


写真図版116 遺構外出土遺物（石器）24

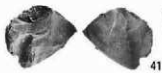
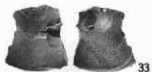


No. 1

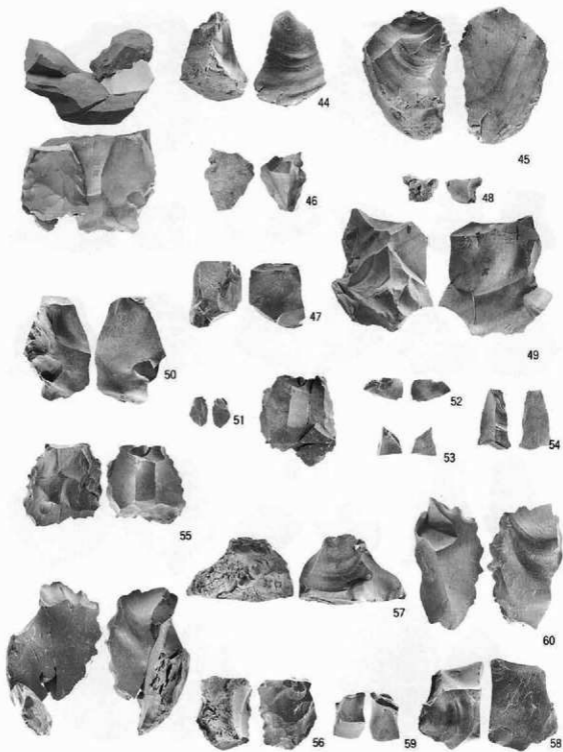
写真图版117 (接合剥片) 1



写真図版118 (接合剥片) 2

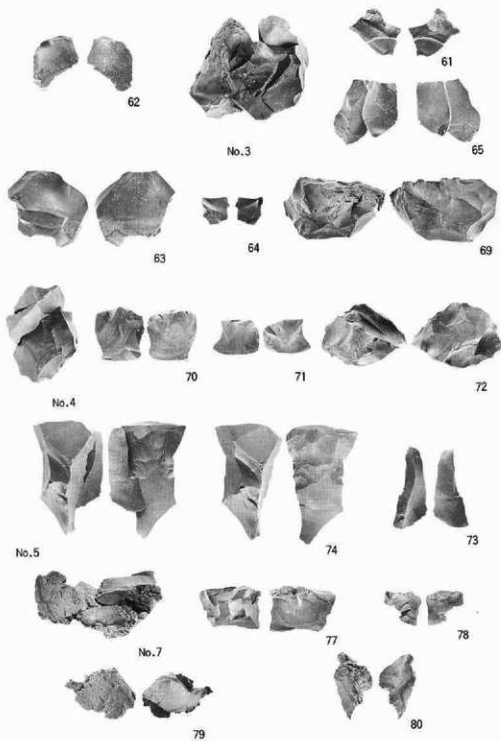


写真図版119 (接合製片) 3



No.2

写真図版120 (接合剥片) 4



写真図版121 (接合制片) 5

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

理事兼 小笠原 喜 一
副所長 高橋 敬 明

[管理課]

管理課長(兼) 高橋 敬 明
課長補佐 森岡 陽 一
主 事 佐 藤 理

[調査課]

調査課長 村上 康 昭
課長補佐(第一班) 佐々木 嘉 直
課長補佐(第二班) 鈴木 恵 治
主任文化財専門調査員 小田野 哲 憲
" 三浦 謙 一
" 工藤 利 幸
" 高橋 典右衛門
" 平井 進
" 中川 重 紀
" 藤村 敏 男
" 高橋 義 介
文化財専門調査員 斎藤 實 隆
" 佐 瀬 隆 雄
" 千葉 孝 博
" 斎藤 博 可
" 東海林 隆 幹
" 佐々木 弘 均
" 川村 貞 行
" 鈴木 東 格
" 伊 藤 修
" 遠藤 邦 雄
" 齋藤 敏 明

[資料課]

資料課長 村松 義 夫
主任文化財専門調査員 田 領 寿 夫

嘱託 吉田 一 男
" 根 橋 文 一
" 佐 藤 春 男
" 技 術 士
" 運 兼

文化財専門調査員 佐々木 信 一
" 小 原 眞 一
" 村 上 修
" 酒 井 宗 孝
" 松 本 建 速
" 笹 平 克 子
" 花 坂 政 博
" 佐々木 務 彦
" 金 子 昭 彦
" 濱 田 宏 造
" 鎌 田 精 則
" 阿 部 勝 邦 彦
" 安 藤 雅 之
" 星 雅 学
" 引屋敷 知 己
" 鈴木 隆 悟
" 藤 村 博 由
" 千葉 谷 信一郎
" 熊 倉 博 英
" 新 山 口 博 聡
" 川 村 聡
" 八重座 のり子

期 限 付
專 門 職 員

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第165集

石曾根遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道関連遺跡発掘調査

印刷 平成4年3月25日

発行 平成4年3月30日

発行 財団法人 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020岩手県柴波郡南村大字飯岡11-185

電話 (0196) 38-9001・9002

印刷 鶴 熊 谷 印 刷

〒020岩手県盛岡市上田一丁目6-49

電話 (0196) 53-4151
